

Japan Foundation for  
Regional Art-Activities

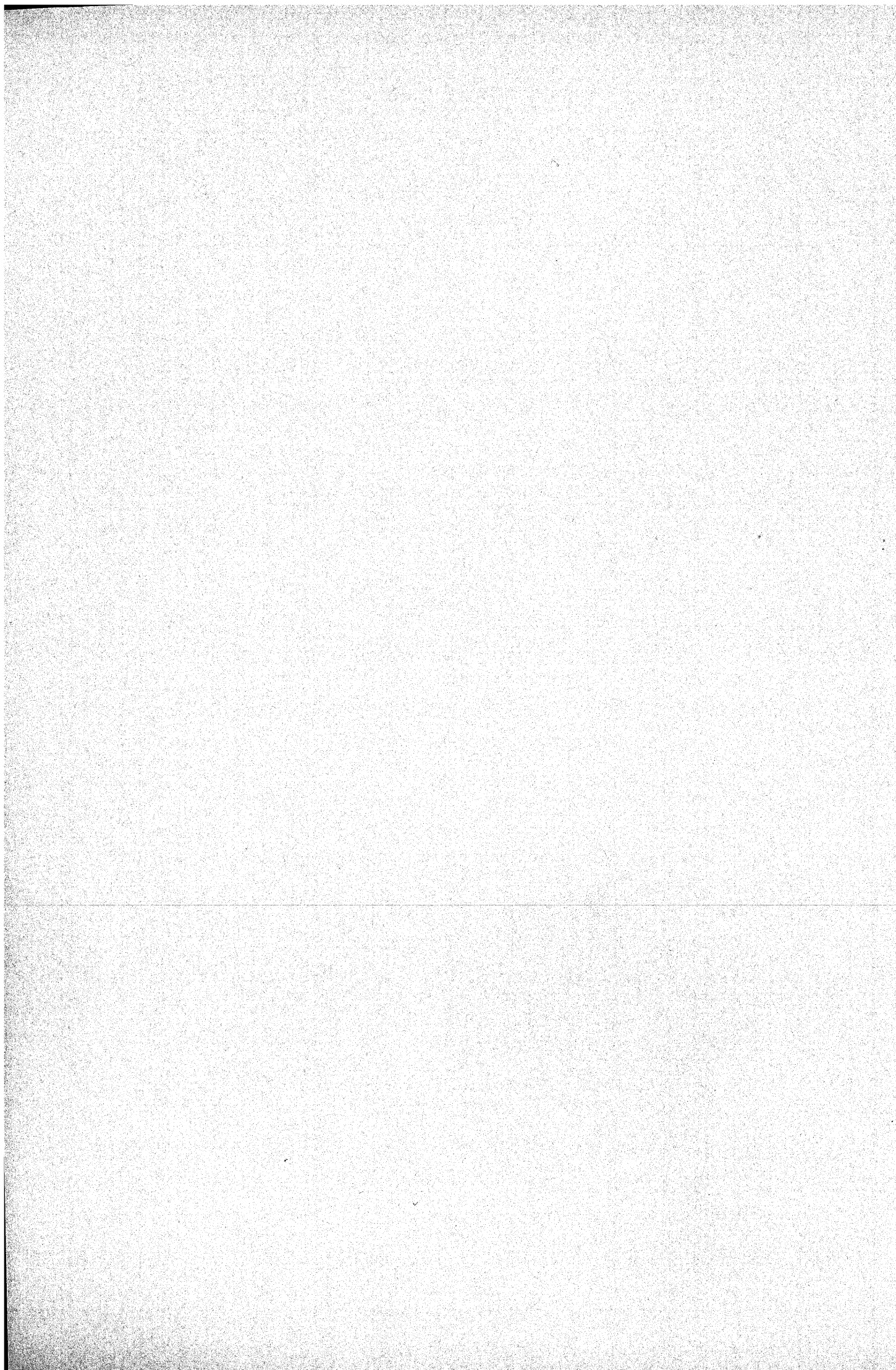
---

# 公共ホール・劇場とボランティアに関する調査 資料編

1997年3月

財団法人地域創造

---





## はじめに

財団法人地域創造は、地域に芸術が根付き発展する環境を形成することを目的として、財政支援、研修・交流、情報提供など様々な事業を展開しています。調査研究事業は、地域で芸術環境づくりに取り組んでいる方々や私どもが進むべき方向を探るために、長期的視点をもって芸術環境の現状や課題、分析の枠組みを把握することを目的に実施しています。

本年度は、「公共ホール・劇場とボランティアに関する調査」「地域の芸術環境づくりのための基礎調査」「美術館系文化施設の情報システムに関する調査」の3つの調査を行いました。

このうち「公共ホール・劇場とボランティアに関する調査」は、近年注目されている公共ホール・劇場のボランティアについて、現状と課題を調査・分析し、望ましい方向性を検討することを目的として行ったものです。調査の過程で、学識経験者、公共ホール・劇場の方々及びボランティア活動に携わられている方々にご協力をいただきました。この場を借りて、深く感謝を申し上げます。

公共ホール・劇場が地域の住民にとって身近なものとなるためには、その運営により一層の創意工夫が求められます。この調査の成果が、現場で取り組む方々の参考となることにより、少しでも公共ホール・劇場の運営に役立てば幸いです。

1997年3月

財団法人地域創造

理事長 森 繁一





## 目次

### 資料編の構成

#### 資料編 1： 国内の公共ホール・劇場におけるボランティアの導入状況

- I. 導入状況一覧……………資1- 1
- II. 各施設の導入状況……………資1- 5

#### 資料編 2： 主要な公共ホール・劇場におけるボランティア活動の実態

- I. 喜多方プラザ文化センター……………資2- 1
- II. 中島町文化センター・能登演劇堂……………資2-13
- III. 武生市文化センター／武生国際音楽祭……………資2-23
- IV. いまだて芸術館……………資2-35
- V. 大阪府立青少年会館／プラネット・ステーション……………資2-43
- VI. たんば田園交響ホール……………資2-53
- VII. 春日市ふれあい文化センター……………資2-65

#### 資料編 3： ボランティア参加者の意識

- I. アンケート調査の概要……………資3- 1
- II. 回答者の属性……………資3- 2
- III. ボランティアの意識……………資3- 5
- IV. アンケート票……………資3-19

#### 資料編 4： 米国パフォーミング・アーツ分野におけるボランティア活動の実態

- I. 米国のボランティアを取り巻く社会構造……………資4- 1
- II. The Symphony Space……………資4-19
- III. Snug Harbor Cultural Center……………資4-31
- IV. The Kennedy Center for the Performing Arts……………資4-45

V. Autumn Stage.....	資4-75
VI. The Public Theater.....	資4-81
VII. Mayor's Voluntary Action Center (MVAC) .....	資4-89

資料編 5 : 公共ホール・劇場とボランティアに関する研究会記録

I. 第1回研究会記録 .....	資5-1
II. 第2回研究会記録 .....	資5-7

資料編 6 : 地域に開かれた公共ホール・劇場－市民ボランティアの可能性をめぐって  
シンポジウム記録



## 資料編の構成

この資料編は、「公共ホール・劇場とボランティアに関する調査」の中で実施したアンケート調査とインタビュー調査の結果、および同調査と並行して開催された研究会、シンポジウム記録などを取りまとめたものである。

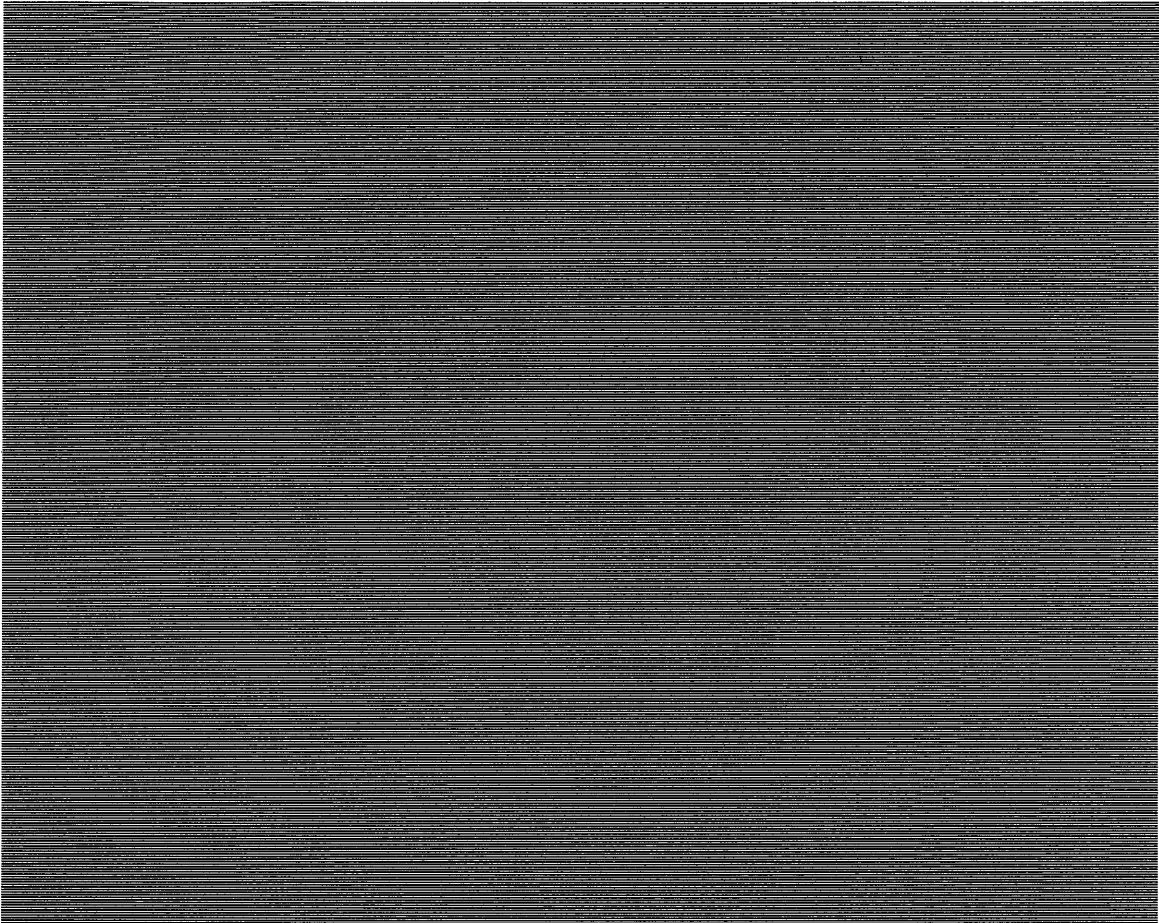
本資料編の具体的な構成は次のとおり。

- 資料編1:国内の公共ホール・劇場におけるボランティアの導入状況(アンケート調査)
- 資料編2:主要な公共ホール・劇場におけるボランティア活動の実態(インタビュー調査)
- 資料編3:ボランティア参加者の意識(アンケート調査)
- 資料編4:米国のパフォーミング・アーツ分野におけるボランティア活動の実態(文献調査、インタビュー調査)
- 資料編5:公共ホール・劇場とボランティアに関する研究会記録
- 資料編6:地域に開かれた公共ホール・劇場ー市民ボランティアの可能性をめぐって(シンポジウム記録)

なお、これら調査結果の総合的な整理・分析、今後の公共ホール・劇場におけるボランティアのあり方や方向性に関する検討結果については、「公共ホール・劇場とボランティアに関する調査」として、別途とりまとめを行ったので、そちらを参照されたい。







資料編 **1** :

国内の公共ホール・劇場におけるボランティアの導入状況  
—ホール・劇場に対するアンケート調査結果—

I. 導入状況一覧.....	資1-1
II. 各施設の導入状況.....	資1-5





# 公共ホール・劇場におけるボランティア導入状況調査 目次

ホール・劇場におけるボランティア導入状況一覧	1
各施設の導入状況	5
01. 音更町文化センター	6
02. 十和田市民文化センター	8
03. 盛岡劇場	10
04. 遠野市民センター	12
05. 七ヶ浜国際村	14
06. 喜多方プラザ文化センター	16
07. 伊達町ふるさと会館	18
08. 玉村町文化センター	20
09. ながめ余興場	22
10. (仮称)文化・生活情報センター	24
11. 横浜市吉野町市民プラザ	26
12. 習志野文化ホール	28
13. アクトシティ浜松	30
14. 増穂町文化会館	32
15. 松本市音楽文化ホール The Harmony Hall	34
16. 関ヶ原ふれあいセンター	36
17. 扶桑文化会館	38
18. 飯南町産業文化センター	40
19. (財)黒部市国際文化センター「コラーレ」	42
20. 中島町文化センター・能登演劇堂	44
21. 小浜市文化会館	46
22. 武生市文化センター	48
23. いまだて芸術館(アートホール31)	50
24. 大阪府立青少年会館	52
25. 岸和田市立文化会館	54
26. 浄るりシアター	56
27. 南山城村文化会館やまなみホール	58
28. 水口町立碧水ホール	60
29. 中町文化会館(ベルディーホール)	62
30. 東条町文化会館(東条コスミックホール)	64
31. たんば田園交響ホール	66
32. 和田山町文化会館(ジュピターホール)	68
33. 広島市安佐北区民文化センター	70
34. 瀬戸田町民会館 ベルカントホール	72
35. サンパルホールぬまくま	74
36. 八雲村林間劇場 しいの実シアター	76
37. 三朝町総合文化ホール	78
38. 生涯学習施設「アクティブライフ井原」	80
39. 津山文化センター	82
40. 丹原町文化会館	84
41. 福岡県春日市ふれあい文化センター	86
42. 飯塚市文化会館(飯塚コスモスコモン)	88
43. 佐敷町文化センター シュガーホール	90
アンケート調査依頼状、アンケート票	92

公共ホール・劇場におけるボランティア導入状況一覧

I. 北海道・東北

施設名称	開館年月	複合形態	施設の特徴	施設規模	自主事業予算規模	立地都市人口	導入時期	名称	登録人数	職員数計	位置づけ	活動内容
01. 音更町文化センター	1986.06	3. 複合館B	1. 音楽	大ホール：1,022席、小ホール：346席	4. 1000万円～3000万円未満	37,465	1984.04	音更町文化事業協会	100	10	1. 年間運営に対するボランティア	1. 企画、2. 広報・宣伝、4. 受付・案内、6. その他
02. 十和田市民文化センター	1986.04	2. 複合館A	4. 多目的	大ホール 固定998・車イス2席、視聴覚ホール バイパス400	4. 1000万円～3000万円未満	62,056	1986.05	十和田ステージクリエート	50	8	3. その他	1. 企画・制作、3. 舞台・音響・照明等
03. 盛岡劇場	1990.07	3. 複合館B	2. 演劇・舞踊	メインホール 511席	2. 500万円未満	281,163	1995	盛岡劇場演劇ボランティア組織 もりげき演劇ファーム(通称演劇ファーム)	70	17	3. その他	1. 企画・製作、3. 舞台・音響・照明等、4. 受付・案内、教育普及活動
04. 遠野市民センター	1971.12	3. 複合館B	4. 多目的	大ホール 974席	3. 500万～1000万円未満	28,719	1988.06	舞台技術集団「ステージスタッフとおの」	23	8	2. 個別事業に対するボランティア	3. 舞台・音響・照明等
05. 七ヶ浜国際村	1993.07	2. 複合館A	4. 多目的	577席	5. 3000万円～5000万円未満	20,844	1993.12	かかわり隊	10	21	2. 個別事業に対するボランティア	1. 企画・制作、2. 広報・宣伝、4. 受付・案内、5. 教育普及活動、6. その他
06. 喜多方プラザ文化センター	1983.11	3. 複合館B	1. 音楽	大ホール・1176席 小ホール・400席(移動席)	3. 500万～1000万円未満	37,227	1983.07	舞台研究会「うらかた」	40	10	1. 年間運営に対するボランティア	3. 舞台・音響・照明等
07. 伊達町ふるさと会館	1992.04	2. 複合館A	4. 多目的	504席	5. 3000万円～5000万円未満	10,859	1992.05	MDDスタッフ	20	22	2. 個別事業に対するボランティア	3. 舞台・音響・照明等、4. 受付・案内

II. 関東

施設名称	開館年月	複合形態	施設の特徴	施設規模	自主事業予算規模	立地都市人口	導入時期	名称	登録人数	職員数計	位置づけ	活動内容
08. 玉村町文化センター	1993.05	3. 複合館B	1. 音楽	大ホール 914席、小ホール 264席	5. 3000万円～5000万円未満	32,919	1996.04	にしきのホールボランティア	95	12	2. 個別事業に対するボランティア	2. 広報・宣伝、3. 舞台・音響・照明等、4. 受付・案内
09. ながめ余興場	1937.05	1. 単独館	2. 演劇・舞踊	1996、97年度に改修予定	1. なし(改修工事のため)	23,576	1997.02	ながめ黒子の会	550		2. 個別事業に対するボランティア	1. 企画・制作、2. 広報・宣伝、3. 舞台・音響・照明等、4. 受付・案内
10. (仮称)文化・生活情報センター	1997.04	3. 複合館B	2. 演劇・舞踊	主劇場 600席程度、小劇場 250席程度	未定	758,267	1994.10	Setagaya Theatre Supporters(そのたびに変わる)	16	20	2. 個別事業に対するボランティア	1. 企画・制作、2. 広報・宣伝、4. 受付・案内、5. 教育普及活動
11. 横浜市吉野町市民プラザ	1988.07	1. 単独館	4. 多目的	ホール 200席、ギャラリー 1、スタジオ 3、会議室 1	2. 500万円未満	3,273,609	1992.04	市民プラザ カルチャースタッフ	12	11	3. その他	4. 受付・案内
12. 習志野文化ホール	1978.12	1. 単独館	1. 音楽	1475席	4. 1000万円～3000万円未満	150,244	1996.04	ボランティア内容により異なる		12	2. 個別事業に対するボランティア	2. 広報・宣伝、3. 舞台・音響・照明等、5. 教育普及活動
13. アクトシティ浜松	1994.10	3. 複合館B	4. 多目的	大ホール 2336席 中ホール 1030席	7. 1億円以上	552,401	1994.10	アクトシティ イベントスタッフ	15	59	2. 個別事業に対するボランティア	6. その他
14. 増穂町文化会館	1992.07	1. 単独館	4. 多目的	538席	5. 3000万円～5000万円未満	13,411	1992.07	増穂町文化会館ホール協力員	25	5	2. 個別事業に対するボランティア	3. 舞台・音響・照明等、4. 受付・案内、6. その他

III. 北陸・中部

施設名称	開館年月	複合形態	施設の特徴	施設規模	自主事業予算規模	立地都市人口	導入時期	名称	登録人数	職員数計	位置づけ	活動内容
15. 松本市音楽文化ホール The Harmony Hall	1985.10	1. 単独館	1. 音楽	中ホール 756席、小ホール 240席	5. 3000万円～5000万円未満	199,881	1993.10	ハーモニーメイトコンサートボランティア	30	11	1. 年間運営、2. 個別事業	2. 広報・宣伝、4. 受付・案内
16. 関ヶ原ふれあいセンター	1994.09	3. 複合館B	4. 多目的	484席	4. 1000万円～3000万円未満	9,485	1994.09	関ヶ原芸術文化協会	10	9	2. 個別事業に対するボランティア	4. 受付・案内
17. 扶桑文化会館	1995.06	1. 単独館	2. 演劇・舞踊	746	5. 3000万円～5000万円未満	30,263	1995.05	文化夢応援団	90	8	1. 年間運営に対するボランティア	1. 企画・制作、2. 広報・宣伝、4. 受付・案内、6. その他
18. 飯南町産業文化センター	1993.05	3. 複合館B	4. 多目的	448席	3. 500万～1000万円未満	6,820	1994.08	飯南町産業文化センター A & L スタッフ (エー・アント・エル)	30	2	1. 年間運営に対するボランティア	1. 企画・制作、2. 広報・宣伝、3. 舞台・音響・照明等、4. 受付・案内
19. (財)黒部市国際文化センター「コラーレ」	1995.11	2. 複合館A	1. 音楽	大ホール 886席、マルチホール 200席、能舞台 250席	6. 5000万円～1億円未満	36,688	1995.11	女性ボランティア、保育ボランティア	8	9	1. 年間運営に対するボランティア	4. 受付・案内、6. その他
20. 中島町文化センター・能登演劇堂	1995.05	3. 複合館B	2. 演劇・舞踊	651席	5. 3000万円～5000万円未満	8,541	1995.05		15	8	1. 年間運営に対するボランティア	3. 舞台・音響・照明等、4. 受付・案内
21. 小浜市文化会館	1971.10	1. 単独館	4. 多目的	936席	4. 1000万円～3000万円未満	33,904	1995.04	小浜市文化会館オペレータークラブ	50	5	2. 個別事業に対するボランティア	3. 舞台・音響・照明等、4. 受付・案内
22. 武生市文化センター	1980.12	3. 複合館B	4. 多目的	大ホール 1192席、中ホール 726席、小ホール 220席	4. 1000万円～3000万円未満	70,161		武生国際音楽祭推進会議(毎年6月に組織)	60	9	2. 個別事業に対するボランティア	1. 企画・制作、2. 広報・宣伝、4. 受付・案内、5. 教育普及活動
23. いまだて芸術館(アートホール31)	1991.11	1. 単独館	1. 音楽	600席		14,859		企画プロデューサー委嘱システム、AEスタッフ委嘱システム	30	7	1. 年間運営に対するボランティア	1. 企画・制作、2. 広報・宣伝、3. 舞台・音響・照明等、4. 受付・案内

公共ホール・劇場におけるボランティア導入状況一覧

IV. 近畿

施設名称	開館年月	複合形態	施設の特徴	施設規模	自主事業予算規模	立地都市人口	導入時期	名称	登録人数	職員数計	位置づけ	活動内容
24. 大阪府立青少年会館	1965.04	2. 複合館A	4. 多目的	大ホール 1220席、小ホール(プラネットホール) 140席	4. 1000万円～3000万円未満	2,478,628	1994.12	プラネット・ステーション イベントすたっふ	100	29	2. 個別事業に対するボランティア	1. 企画・制作、2. 広報・宣伝、3. 舞台・音響・照明、4. 受付・案内
25. 岸和田市立文化会館	1984.05	2. 複合館A	4. 多目的	501席	5. 3000万円～5000万円未満	193,511		岸和田市市民文化事業協会		13	1. 年間運営に対するボランティア	1. 企画・制作
26. 浄るりシアター	1993.06	3. 複合館B	4. 多目的	505席(車いす席3席含)	2. 500万円未満	14,112	1993.11	ステージオペレータークラブ 夢舞(ムーブ)	24	8	1. 年間運営に対するボランティア	3. 舞台・音響・照明等
27. 南山城村文化会館やまなみホール	1991.10	1. 単独館	4. 多目的	387席	4. 1000万円～3000万円未満	4,074	1993.07		250		2. 個別事業に対するボランティア	4. 受付・案内、6. その他
28. 水口町立碧水ホール	1988.07	1. 単独館	4. 多目的	336席(+96で432席)	3. 500万～1000万円未満	33,634	1994.05	碧水ホール・ボランティア・スタッフ(H.V.S)	12	7	1. 年間運営に対するボランティア	1. 企画・制作、2. 広報・宣伝、4. 受付・案内
29. 中町文化会館(ベルディーホール)	1990.07	1. 単独館	4. 多目的	616席	5. 3000万円～5000万円未満	11,880	1990.11	ベルディーホールボランティアオペレータークラブ	60	8		3. 舞台・音響・照明等、4. 受付・案内、6. その他
30. 東条町文化会館(東条コスミックホール)	1990.04	3. 複合館B	1. 音楽	570席(身障者席4席除)	4. 1000万円～3000万円未満	7,702	1990.06	コスミックホールオペレータークラブ、育てる会	43	8	2. 個別事業に対するボランティア	3. 舞台・音響・照明等、4. 受付・案内
31. たんば田園交響ホール	1988.04	1. 単独館	1. 音楽	800席	5. 3000万円～5000万円未満	22,590	1987.10	たんば田園交響ホール ステージ・オペレータークラブ、レディーズ(LA)、レディーズ21	100	7	1. 年間運営に対するボランティア	1. 企画・制作、3. 舞台・音響・照明等、4. 受付・案内
32. 和田山町文化会館(ジュピターホール)	1992.04	1. 単独館	1. 音楽	大ホール 800席、小ホール 150～200席	2. 500万円未満	17,160	1992.04	ジュピターホール・スタッフ・クラブ(J.S.C)	91	9	2. 個別事業に対するボランティア	3. 舞台・音響・照明等、4. 受付・案内

V. 中国・四国

施設名称	開館年月	複合形態	施設の特徴	施設規模	自主事業予算規模	立地都市人口	導入時期	名称	登録人数	職員数計	位置づけ	活動内容
33. 広島市安佐北区民文化センター	1983.05	3. 複合館B	4. 多目的	705席(車椅子席7席含)	3. 500万～1000万円未満	1,082,222	1995	あさきた市民ミュージカル			2. 個別事業に対するボランティア	1. 企画・制作、2. 広報・宣伝、3. 舞台・音響・照明等、4. 受付・案内
34. 瀬戸田町民会館 ベルカントホール	1986.02	3. 複合館B	1. 音楽	646席	3. 500万～1000万円未満	10,586	1987.04	ベルカントホール公演実行委員会	12	3	1. 年間運営に対するボランティア	1. 企画・制作、4. 受付・案内
35. サンパルホールぬまくま	1989.04	3. 複合館B	1. 音楽	500席	3. 500万～1000万円未満	13,630	1989.04	サンパルコンサート実行委員会	15	1	1. 年間運営に対するボランティア	1. 企画・制作、2. 広報・宣伝、3. 舞台・音響・照明等、4. 受付・案内
36. 八雲村林間劇場 しいの実シアター	1995.08	1. 単独館	2. 演劇・舞踊	108席(車いす4席含)	1. なし	6,868	1995.10	劇団あしづえの登録団員	12	7	3. その他	2. 広報・宣伝、3. 舞台・音響・照明等
37. 三朝町総合文化ホール	1995.05	3. 複合館B	4. 多目的	404席	3. 500万～1000万円未満	8,430	1995.04	三朝町オペレーター倶楽部[MOC]	30	2	2. 個別事業に対するボランティア	3. 舞台・音響・照明等
38. 生涯学習施設「アクティブライフ井原」	1994.06	3. 複合館B	4. 多目的	401席	2. 500万円未満	36,282	1995.09	アクティブライフ井原「まなびめいと」	75	12	2. 個別事業に対するボランティア	1. 企画・制作、2. 広報・宣伝、3. 舞台・照明・音響、4. 受付・案内
39. 津山文化センター	1966.01		4. 多目的	1084席	4. 1000万円～3000万円未満	88,822	1992.04		25	14	1. 年間運営に対するボランティア	1. 企画・制作、2. 広報・宣伝、4. 受付・案内
40. 丹原町文化会館	1993.05	1. 単独館	4. 多目的	大ホール・892席(身障者・母子席含) 小ホール・200人程度	4. 1000万円～3000万円未満	14,614	1993.05	丹原町文化会館ボランティアスタッフ会	50	7	1. 年間運営に対するボランティア	2. 広報・宣伝、3. 舞台・音響・照明等、4. 受付・案内

VI. 九州・沖縄

施設名称	開館年月	複合形態	施設の特徴	施設規模	自主事業予算規模	立地都市人口	導入時期	名称	登録人数	職員数計	位置づけ	活動内容
41. 福岡県春日市ふれあい文化センター	1995.04	3. 複合館B	1. 音楽	中ホール 600席、小ホール 302席	7. 1億円以上	14,614	1995.03	K'S-CREW(ケイズクルー)	35	19	1. 年間運営に対するボランティア	1. 企画・制作、2. 広報・宣伝、3. 舞台・音響・照明等、4. 受付・案内
42. 飯塚市文化会館(飯塚コスモスコモン)	1992.01	1. 単独館	1. 音楽	大ホール/1504席/音楽、中ホール/582席/演・舞、展示ホール/312席	6. 5000万円～1億円未満	82,772	1993.04	飯塚コスモス芸術祭実行委員会	9	22	2. 個別事業に対するボランティア	1. 企画・制作、2. 広報・宣伝、3. 舞台・音響・照明等、4. 受付・案内
43. 佐敷町文化センター シュガーホール	1994.06	3. 複合館B	1. 音楽	525席	4. 1000万円～3000万円未満	11,137	1994.06		30	7	2. 個別事業に対するボランティア	4. 受付・案内



## 各施設の導入状況

## 01. 音更町文化センター

運営母体 | 音更町

所在地 | 〒080-01 北海道河東郡音更町木野西通15丁目8番地

電話 | 0155-31-5215

ファクス | 0155-31-5229

開館年月 | 1986.06

複合形態 | ホール・劇場の特性 | 立地都市の人口 | 37,465 人

- 1. 単独館
- 2. 複合館A
- 3. 複合館B
- 4. その他

- 1. 音楽
- 2. 演劇・舞踊
- 3. 映像
- 4. 多目的

自主事業予算規模 |

4. 1000万円～3000万円未満

施設規模 |

大ホール：1,022席、小ホール：346席

運営組織体制 |

	スタッフ数	うち自治体派遣職員数	うち外部委託職員数
総務系（総務・人事・経理等）	1	1	0
企画系（企画・制作・広報等）	2	2	0
技術系（舞台・照明・音響等）	5	3	2
その他：臨時職員	4	4	0
合計	10	10	2
備考：			

名称 | 音更町文化事業協会

導入時期 | 1984.04

登録人数 | 100 人

導入の経緯・目的等 |

文化センターの建設に際し、地域文化の振興を町民の手で進めようと、町民有志によって協会が設立された。文化事業協会の目的は、町の文化を創造し、その普及と奨励を図ること。

活動内容 |

1. 企画、2. 広報・宣伝、4. 受付・案内、6. その他 )

その他（チケット・セールス

ホール・劇場運営におけるボランティアの位置づけ |

1. 年間運営に対するボランティア

その他（ ) )

募集方法 |

1. 公募 その他（

任期 |

任期（年） 継続

研修 |

1. あり 研修内容 先進地視察研修

実費支給 |

2. なし

運営担当者 |

2. 他業務と兼務→

友の会制度 |

2. なし ボランティアとの関連性 |

具体的なボランティアの活動・業務内容について

文化事業協会の活動は、①教育関係の連携交流を図り、地域に根ざした文化の創造。②鑑賞の場の充実を目指した文化事業（催しもの）の企画、実施。④会員相互の親睦交流会の開催。

⑤文化活動のPRと町の表情を大切にしたミニコミ誌「おとふけカルチャー」を年三回発行して、全戸に配布。⑥未組織サークルの育成。

音楽の鑑賞や振興を担当する「音楽部門」、舞台芸能等の鑑賞や振興を担当する「舞台部門」、美術活動の育成と奨励及び鑑賞と振興を担当する「美術展示部門」の部門委員会を設置。

文化事業協会の活動費は、町からの助成金及び会費（年会費・賛助会費）と催しもの入場収入によって賄われている。

ボランティアの運営方法・課題について

課題①：組織の財政が町からの補助金中心なので、賛助会費等、自主財源の割合を高める必要がある。

課題②：会員確保の問題では、成立当初からの人員が中心で、新規、特に若者の加入がない。

課題③：現状では事業の企画・運営・鑑賞が中心で、地域文化の創造の段階には至っていない。

## 02. 十和田市民文化センター

運営母体 | 十和田市

所在地 | 〒034 青森県十和田市西三番町2-1

電話 | 0176-22-5200

アクセス | 0176-22-5098

開館年月 | 1986.04

複合形態 | ホール・劇場の特性 | 立地都市の人口 | 62,056 人

- 1. 単独館
- 2. 複合館A
- 3. 複合館B
- 4. その他

- 1. 音楽
- 2. 演劇・舞踊
- 3. 映像
- 4. 多目的

自主事業予算規模 |

4. 1000万円～3000万円未満

施設規模 |

大ホール 固定998・車イス2席、視聴覚ホール ハイイス400

運営組織体制 |

	スタッフ数	うち自治体派遣職員数	うち外部委託職員数
総務系（総務・人事・経理等）	3	3	0
企画系（企画・制作・広報等）	1	1	0
技術系（舞台・照明・音響等）	2	2	0
その他：施設管理	2	2	0
合計	8	8	0
備考：			

名称 | 十和田ステージクリエート

導入時期 | 1986.05

登録人数 | 50 人

導入の経緯・目的等 | 市民の手による舞台運営をめざし、舞台技術部門のボランティア団体の結成を支援した。

活動内容 | 1. 企画・制作、3. 舞台・音響・照明等

その他（

ホール・劇場運営におけるボランティアの位置づけ |

3. その他

その他（主催者より依頼のあった催物に対する技術提供

募集方法 |

2. 口コミ

その他（

任期 |

任期（年）

継続

研修 |

1. あり

研修内容

年1～2回舞台技術研修を実施

実費支給 |

1. あり

運営担当者 |

運営は独立している

友の会制度 |

2. なし

ボランティアとの関連性 |



02. 十和田市民文化センター

具体的なボランティアの活動・業務内容について

1. 企画・制作：会（十和田ステージクリエート）で決定をみた企画を実施。（例：プレ10周年記念事業として市内の幼稚園・保育園約50ヶ所に人形劇をプレゼントした。H6年度実施）
3. 舞台・音響・照明等：当館を会場として行われる催し物のうち、主催者よりスタッフ要請のあったものに対し、技術スタッフを派遣する。（H7年度実績－68公演に対し、延べ193人のスタッフを派遣）

ボランティアの運営方法・課題について

十和田ステージクリエートの運営形態：十和田市民文化センターの援助団体の一つとして位置づけられており、運営は独立している。主催者からスタッフの要請があった場合には、当館の担当者から会に対して手配する。技術料として一人一時間当たり1500円が支払われる。

問題点：技術水準の向上。事務部門の自主運営が困難であることから、会館との関係において、完全な独立運営ができない。主催者と対等の交渉テーブルにつきにくい。金銭の扱い。

### 03. 盛岡劇場

運営母体 | 盛岡市

所在地 | 〒020 岩手県盛岡市松尾町3-1

電話 | 0196-22-2258

ファックス | 0196-22-1910

開館年月 | 1990.07

複合形態 | ホール・劇場の特性 | 立地都市の人口 | 281,163 人

- 1. 単独館
- 2. 複合館A
- 3. 複合館B
- 4. その他

- 1. 音楽
- 2. 演劇・舞踊
- 3. 映像
- 4. 多目的

自主事業予算規模 |

2,500万円未満

施設規模 |

メインホール 511席

運営組織体制 |

	スタッフ数	うち自治体派遣職員数	うち外部委託職員数
総務系（総務・人事・経理等）	5	5	
企画系（企画・制作・広報等）	3	3	
技術系（舞台・照明・音響等）	2		2
その他：非常勤職員	7		7
合計	17	8	9
備考： 非常勤職員は、受付:4、事業:1、公民館:2			

名称 | 盛岡劇場演劇ボランティア組織 もりげき演劇ファーム(通称演劇ファーム)

導入時期 | 1995

登録人数 | 70 人

導入の経緯・目的等 | 地域の演劇振興をめざし、演技・演出・スタッフ活動等の基礎力向上と演劇が市民生活に溶け込むような演劇によるボランティア活動の展開及びボランティア組織としての諸活動(実験的舞台の試み、自主的プロデュース公演等)を通じて地域の演劇人を養成。

活動内容 | 1. 企画・製作、3. 舞台・音響・照明等、4. 受付・案内、教育普及活動 )

その他 (

ホール・劇場運営におけるボランティアの位置づけ |

3. その他

その他 (

募集方法 | 3. その他 その他 (盛岡劇場で開設する演劇に関する講座(演劇アカデミー)等を終了した人のうちでボランティア活動の主旨に賛同する人 )

任期 | 任期(年) 継続

研修 | 1. あり 研修内容

実費支給 | 2. なし

運営担当者 | 2. 他業務と兼務→ 劇場・公民館事業企画運営

友の会制度 | 2. なし ボランティアとの関連性 |

### 具体的なボランティアの活動・業務内容について

「演劇ファーム」は昨年発足したばかりで、組織として実際に活動するのは今年度以降となり、現在は活動内容の計画段階。以下の①～③の事業内容の検討(①の継続学習のメニュー・期間の設定、②の公共演劇の範囲等の検討、③の公演内容)もメンバーにより行い、主体性を持って運営する。

①継続学習：ファーム会員は盛岡劇場で開設する演劇に関する講座(ストレートプレイ、ミュージカル等)の終了者であるが、演劇関係の学習(ストレートプレイ、ミュージカル、舞台技術、プロデュース...)を演劇ファームとして会員が継続的に学習し、レベルの向上を図る。

②公共としての演劇：①の継続学習を基盤として、(1)盛岡劇場等公共ホールの主催する演劇関係講座・舞台への講師・演出・スタッフ等としての派遣・参加 (2)テレビ・ラジオドラマ、公共的広告ドラマ・映画、声の点字図書等への出演、企画

③演劇ファームとしての公演...①の継続学習を基盤として、組織としての自主公演・プロデュース公演を行い、将来的には劇場付属のボランティア劇団(レジデンス・カンパニー)を目指す。

### ボランティアの運営方法・課題について

(1)「演劇ファーム」はあくまでもボランティア活動としていることから、上記②等、一定の日時に一定の会員を確保できるとは限らない。→このため、一定レベルの会員確保のためにも、①の継続学習を効果的な方法で充実させる必要がある。

(2)レジデンス・カンパニー化する場合の経済的基盤→ボランティア活動とはいえ、演劇活動に専念できる経済的基盤を保障したスタイルとするか、または全く経済的保証のないボランティアとするのかどうか、性急な結論を導く必要はないが、常に念頭に置いておく必要はある。

## 04. 遠野市民センター

運営母体 | 遠野市

所在地 | 〒028-05 岩手県遠野市新町1-10

電話 | 0198-62-4411

ファックス | 0198-62-3302

開館年月 | 1971.12

複合形態 | ホール・劇場の特性 | 立地都市の人口 | 28,719 人

- 1. 単独館
- 2. 複合館A
- 3. 複合館B
- 4. その他

- 1. 音楽
- 2. 演劇・舞踊
- 3. 映像
- 4. 多目的

自主事業予算規模 |  
3. 500万～1000万円未満

施設規模 |  
大ホール 974席

運営組織体制 |

	スタッフ数	うち自治体派遣職員数	うち外部委託職員数
総務系（総務・人事・経理等）	5	5	0
企画系（企画・制作・広報等）	0	0	0
技術系（舞台・照明・音響等）	3	2	1
その他：	0	0	0
合計	8	7	1
備考：			

名称 | 舞台技術集団「ステージスタッフとおの」

導入時期 | 1988.06

登録人数 | 23 人

導入の経緯・目的等 | 大ホールの円滑な運営に協力し、よりすぐれた舞台技術の向上を図るため。

活動内容 | 3. 舞台・音響・照明等

その他（

ホール・劇場運営におけるボランティアの位置づけ | 2. 個別事業に対するボランティア

その他（

募集方法 | 2. 口コミ その他（

任期 | 任期（年） 継続

研修 | 1. あり 研修内容 プロ公演の鑑賞

実費支給 | 1. あり

運営担当者 | 1. 専従者→ 市民生活課

友の会制度 | 2. なし ボランティアとの関連性 |

04. 遠野市民センター

具体的なボランティアの活動・業務内容について

3. 舞台・音響・照明等：①舞台の補助者として吊物、バトン等の操作を行う（舞台転換）  
②音響の補助者としてマイクのセッティング、ミキサー等の操作を行う ③照明の補助者として器具の吊込み、調整、ピンポロを行う。  
④地元アマへの指導や援助を行う ⑤舞台技術の向上のため、研修や研究を行う ⑥大ホールのみにとどまらず、市内で行うイベントに協力をする。

ボランティアの運営方法・課題について

- ①後継者の育成が急務である ②舞台技術研修の場と機会が必要とされている ③舞台に興味と関心を持つ企画が必要とされている ④舞台技術を生かした企画・制作を実現したい ⑤スタッフに技術の差がでてきているので、この差をなくす方策が必要とされている

## 05. 七ヶ浜国際村

運営母体 | 七ヶ浜町

所在地 | 〒 985 宮城県宮城郡七ヶ浜町花淵浜字大山1-1

電話 | 022-357-5931

ファックス | 022-357-5932

開館年月 | 1993.07

複合形態 | ホール・劇場の特性 | 立地都市の人口 | 20,844 人

- 1. 単独館
- 2. 複合館A
- 3. 複合館B
- 4. その他

- 1. 音楽
- 2. 演劇・舞踊
- 3. 映像
- 4. 多目的

自主事業予算規模 |

5. 3000万円～5000万円未満

施設規模 |

577席

運営組織体制 |

	スタッフ数	うち自治体派遣職員数	うち外部委託職員数
総務系（総務・人事・経理等）	9	4	5
企画系（企画・制作・広報等）	6	4	2
技術系（舞台・照明・音響等）	3	2	1
その他・設備保守・清掃	3	0	3
合計	21	10	11
備考： 総務系外部委託の内1名は嘱託			

名称 | かかわり隊

導入時期 | 1993.12

登録人数 | 10 人

導入の経緯・目的等 | 3項目の1. 企画・制作と同じ

活動内容 | 1. 企画・制作、2. 広報・宣伝、4. 受付・案内、5. 教育普及活動、6. その他

その他（モニター )

ホール・劇場運営におけるボランティアの位置づけ | 2. 個別事業に対するボランティア

その他 ( ) )

募集方法 | 2. 口コミ その他 (当初は公募

任期 | 任期(年) 継続

研修 | 2. なし 研修内容

実費支給 | 1. あり

運営担当者 | 2. 他業務と兼務→ 催しの企画担当他

友の会制度 | 1. あり ボランティアとの関連性 | なし

具体的なボランティアの活動・業務内容について

1. 企画・制作：企画が決まった段階で、企画を側面からさらに充実させるためのアイデアを出してもらい、もしくは加えて制作もして頂く。（例：演劇の際にロビーにおいて演劇の内容に沿った演出（来場者への占いやくじを引いてもらう等）をして二重に楽しんでもらう。）
2. 広報・宣伝：スタッフ同様国際村のPRマンとして活動してもらい、会報への体験レポートなどを寄稿してもらい。
4. 受付・案内：表方のサポート。アーティストへのケータリング。
5. 教育普及活動：インターナショナルウィークのワークショップ等のサポート。（1.も含む。）

ボランティアの運営方法・課題について

普段仕事を持っている方々なので参加は全く自由。強制はしない。かかわり方がマンネリ化しないように、年々いかに活動範囲を広げてより楽しくするかが課題。問題点としては、アルバイトを使った場合の仕事分担の区別がつけにくい場合があること。

## 06. 喜多方プラザ文化センター

運営母体 | 喜多方地方広域市町村圏組合

所在地 | 〒966 福島県喜多方市字押切川向5364-1

電話 | 0241-24-4611

ファックス | 0241-24-4611

開館年月 | 1983.11

複合形態 | ホール・劇場の特性 | 立地都市の人口 | 37,227 人

- 1. 単独館
- 2. 複合館A
- 3. 複合館B
- 4. その他

- 1. 音楽
- 2. 演劇・舞踊
- 3. 映像
- 4. 多目的

自主事業予算規模 |  
3,500万～1000万円未満

施設規模 |  
大ホール・1176席 小ホール・400席(移動席)

運営組織体制 |

	スタッフ数	うち自治体派遣職員数	うち外部委託職員数
総務系（総務・人事・経理等）			1
企画系（企画・制作・広報等）			0
技術系（舞台・照明・音響等）			0
その他：空調			2
合 計	10	7	3
備考： スタッフごとの役割分担はなく、各業務を兼務。中央公民館と兼務者あり。			

名 称 | 舞台研究会「うらかた」

導入時期 | 1983.07

登録人数 | 40 人

導入の経緯・目的等 | 舞台芸術に関する技術の研修を行い、喜多方プラザ等における公演に伴う技術協力を積極的にはかることによって、喜多方地方広域市町村圏内における文化活動発展に寄与することを目的とする。

活動内容 | 3. 舞台・音響・照明等

その他 ( )

ホール・劇場運営におけるボランティアの位置づけ | 1. 年間運営に対するボランティア

その他 ( )

募集方法 | 1. 公募      その他 ( )

任 期 |      任期(年)      継続

研 修 | 1. あり      研修内容      技術職員による研修、他ホール等旅行研修

実費支給 | 1. あり

運営担当者 | 2. 他業務と兼務→      管理係 担当：鈴木芳明

友の会制度 | 2. なし      ボランティアとの関連性 |



### 具体的なボランティアの活動・業務内容について

1. 企画・制作：地元制作の舞台（各種発表会、演劇等）の技術提供、2. 広報・宣伝：自主事業等の技術提供、3. 舞台・音響・照明等：他ホール事業への参画（主催者から3名のホール職員で対応しきれない要請があった場合に対応）、技術研修や研修旅行も実施。

主催者から謝礼を受け取り、5%を会の運営費にあて、残りは個人に還元。「日本部内研究者連絡会（仮称）」事務局

（企画関連の市民団体：きたかた音を楽しむ会、あぐだもぐだ、演劇鑑賞会）

### ボランティアの運営方法・課題について

問題点：・舞台技術が交代のきかないものであるにもかかわらず、打ち合わせ・リハーサル本番で人員交代が出てしまい、職員がカバーすることになる。・発足当時の第一世代がなかなか世代交代できない。・技術レベル格差がますます広がっている。・実働人員が少ない。

対応策：・完全なボランティアにしないである程度の賃金を設けた。・ホール外での活動を増やして客観的な立場を認識させる。・技術以外の企画制作の分野にもワクを拡大する。

## 07. 伊達町ふるさと会館

運営母体 | 伊達町

所在地 | 〒960-04 福島県伊達郡伊達町字前川原63

電話 | 0245-83-3244

ファックス | 0245-83-5966

開館年月 | 1992.04

複合形態 | ホール・劇場の特性 | 立地都市の人口 | 10,859 人

- 1. 単独館
- 2. 複合館 A
- 3. 複合館 B
- 4. その他

- 1. 音楽
- 2. 演劇・舞踊
- 3. 映像
- 4. 多目的

自主事業予算規模 |

5,300万円～5000万円未満

施設規模 |

504席

運営組織体制 |

	スタッフ数	うち自治体派遣職員数	うち外部委託職員数
総務系（総務・人事・経理等）	5	2	3
企画系（企画・制作・広報等）			
技術系（舞台・照明・音響等）	17		
その他：			
合 計	22	2	3
備考： 企画系は兼務			

名 称 | MDDスタッフ

導入時期 | 1992.05

登録人数 | 20 人

導入の経緯・目的等 | 会館に技術職員がいないため、会館の催しに対する技術協力を積極的に図ることによって、地域の文化活動の振興にかかわる。

活動内容 | 3. 舞台・音響・照明等、4. 受付・案内 )

その他 (

ホール・劇場運営におけるボランティアの位置づけ |

2. 個別事業に対するボランティア

その他 ( ) )

募集方法 | 1. 公募      その他 (口コミもあり)

任 期 |      任期 (年)      継続

研 修 | 1. あり      研修内容      年2回技術研修会

実費支給 | 1. あり

運営担当者 | 1. 専従者→

友の会制度 | 1. あり      ボランティアとの関連性 | なし

具体的なボランティアの活動・業務内容について

3. 舞台・音響・照明等：主に貸ホール時の音響・照明のオペレートの裏方業務
4. 受付・案内：自主事業におけるもぎり、ケータリングなどの表方業務

ボランティアの運営方法・課題について

舞台機構に関することは、技術的なことや人的なこと（例えば事故の補償）の問題を抱えているため、専門業者とのバランスを考えると、維持していくためには困難である。

表方のサポートについては、通常業務を含めて、拡大・充実させる課題として工夫されると思う。

## 08. 玉村町文化センター

運営母体 | (財)玉村町文化振興財団

所在地 | 〒370-11 群馬県佐波郡玉村町大字福島325

電話 | 0270-65-0600

ファックス | 0270-65-5200

開館年月 | 1993.05

複合形態 | ホール・劇場の特性 | 立地都市の人口 | 32,919 人

- 1. 単独館
- 2. 複合館 A
- 3. 複合館 B
- 4. その他

- 1. 音楽
- 2. 演劇・舞踊
- 3. 映像
- 4. 多目的

自主事業予算規模 |

5. 3000万円～5000万円未満

施設規模 |

大ホール 914席、小ホール 264席

運営組織体制 |

	スタッフ数	うち自治体派遣職員数	うち外部委託職員数
総務系（総務・人事・経理等）	2	1	0
企画系（企画・制作・広報等）	5	0	0
技術系（舞台・照明・音響等）	4	0	1
その他：全体	1	1	0
合 計	12	2	1
備考：			

名 称 | にしきのホールボランティア

導入時期 | 1996.04

登録人数 | 95 人

導入の経緯・目的等 |

「買い物文化」から「参加型文化」への移行が模索される中で、当ホールの本年度からスタートしたレジデント・アンサンブル設立の主旨内容に沿って、ボランティア、アーティスト、職員の三者一体の運営を目的とする。

活動内容 |

2. 広報・宣伝、3. 舞台・音響・照明等、4. 受付・案内

その他（

ホール・劇場運営におけるボランティアの位置づけ |

2. 個別事業に対するボランティア

その他（

募集方法 |

1. 公募                      その他（

任 期 |

任期（年）                      継続

研 修 |

1. あり                      研修内容      接客マナー、館内ウォッチング

実費支給 |

2. なし

運営担当者 |

2. 他業務と兼務→                      事業係

友の会制度 |

1. あり                      ボランティアとの関連性 |      あり

具体的なボランティアの活動・業務内容について

1. 受付・会場スタッフ（入場前、入場後の観客対応）、2. 記録スタッフ（写真・ビデオ撮影）、3. 楽屋接待スタッフ（出演者のお世話係、楽屋花、お茶）、4. 託児室スタッフ（3歳以上の子ども対象）
  5. 広報・宣伝担当補助スタッフ（チラシの作成、折り込み、DM、置きチラシ・ポスター掲示）、6. 資料収集スタッフ（事業立案の参考資料収集）、7. インフォメーション・カウンター・スタッフ（チケット、観客問い合わせ対応）
  8. 交流会スタッフ（演奏家との交流会）、9. 制作・演出スタッフ（演出プラン、集客）、10. ピアノ譜面めぐり（当日本番含め3日対応）
- 上記部門別運営マニュアルを作成

ボランティアの運営方法・課題について

交通費が出せないなので、・ボランティアが聴きたいクラシックコンサート（年5本のうち1本）に招待する、・交流会への無料参加、・食事の用意、・保険への加入、・協力者へ事業終了後礼状を出す、等を実施している。

年間クラシックに限られているボランティア活動事業の中で、95名のボランティアの方々を希望部署へバランスよく配置すること。また、部門別リーダーを育てたい。

楽しく参加して頂き、ともに事業をつくり出す喜びを感じてもらえる対応を職員一同心がける。

## 09. ながめ余興場

運営母体 | 大間々町

所在地 | 〒 376-01 群馬県山田郡大間々町大字大間々1635

電話 | 0277-73-2111

ファックス | 0277-72-2226

開館年月 | 1937.05

複合形態 | ホール・劇場の特性 | 立地都市の人口 | 23,576 人

- 1. 単独館
- 2. 複合館A
- 3. 複合館B
- 4. その他

- 1. 音楽
- 2. 演劇・舞踊
- 3. 映像
- 4. 多目的

自主事業予算規模 |

- 1. なし (改修工事のため)

施設規模 |

1996、97年度に改修予定

運営組織体制 |

	スタッフ数	うち自治体派遣職員数	うち外部委託職員数
総務系 (総務・人事・経理等)			
企画系 (企画・制作・広報等)			
技術系 (舞台・照明・音響等)			
その他:			
合 計			
備考: 1996、97年で改修中			

名 称 | ながめ黒子の会

導入時期 | 1997.02

登録人数 | 550 人

導入の経緯・目的等 |

ふるさと創世1億円事業の中で、この地域に存在する芝居小屋「ながめ余興場」を保存、利活用することが提案され、それがきっかけとなり、民間有志によって「ながめ黒子の会」が発足した。

活動内容 |

- 1. 企画・制作、2. 広報・宣伝、3. 舞台・音響・照明等、4. 受付・案内

その他 ( )

ホール・劇場運営におけるボランティアの位置づけ |

- 2. 個別事業に対するボランティア

その他 ( )

募集方法 |

- 2. 口コミ
- その他 ( )

任 期 |

任期 (年) 継続

研 修 |

- 2. なし
- 研修内容

実費支給 |

- 2. なし

運営担当者 |

友の会制度 |

- 2. なし
- ボランティアとの関連性 |

具体的なボランティアの活動・業務内容について

「余興場の保存利活用を提案した者の責任として、みんなが余興場を支える黒子となってい支援しよう。余興場を核としてまちづくりを進めよう。」と住民に広く呼びかけ、設立時には390人の会員で発足、現在は約600人。

「企て衆（企画委員会）」：事業の企画や実施運営計画の立案、「ながめお庭番（施設委員会）」：ながめ余興場の清掃や管理を担当、「お知らせ衆（広報委員会）」：会の機関誌「はなみち」の発行。

会の運営は、年会費と町補助金などを財源として会員に機関誌やイベント案内の送付などを行っており、イベント経費は、基本的にチケット販売収入で賄っている。

梅沢富美男特別公演、欽ちゃんのトークショー、銀幕ライブショー、全国芝居小屋会議への参加など

ボランティアの運営方法・課題について

「ながめ黒子の会」は、町が実施する余興場を使ったイベントの企画運営を委託し、会は文化ボランティアとして活躍するなど、幅広い視野を持ったまつづくり団体として様々な面でまちづくりを支える活動に参加している。

## 10. (仮称) 文化・生活情報センター

運営母体 | 財団法人 (予定)

所在地 | 〒154 東京都世田谷区三軒茶屋2-14-9 (現在準備室)

電話 | 03-5481-0261

ファクス | 03-5481-0265

開館年月 | 1997.04

複合形態 | ホール・劇場の特性 | 立地都市の人口 | 758,267 人

- 1. 単独館
- 2. 複合館 A
- 3. 複合館 B
- 4. その他

- 1. 音楽
- 2. 演劇・舞踊
- 3. 映像
- 4. 多目的

自主事業予算規模 |

未定

施設規模 |

主劇場 600席程度、小劇場 250席程度

運営組織体制 |

	スタッフ数	うち自治体派遣職員数	うち外部委託職員数
総務系 (総務・人事・経理等)	0	0	0
企画系 (企画・制作・広報等)	2	2	0
技術系 (舞台・照明・音響等)	6	6	0
その他: 開設準備全般	12	10	2
合計	20	18	2
備考: センター開設準備のための現在のスタッフ数、非常勤含む			

名称 | Setagaya Theatre Supporters (そのたびに変わる)

導入時期 | 1994.10

登録人数 | 16 人

導入の経緯・目的等 |

劇場開館前から予備活動として年に1回程度、演劇ワークショップを開催している。そのワークショップの制作・企画・広報などに応援グループを募集、全面的な協力を得た。このような活動は開館後も実現したいと考えている

活動内容 |

1. 企画・制作、2. 広報・宣伝、4. 受付・案内、5. 教育普及活動

その他 ( )

ホール・劇場運営におけるボランティアの位置づけ |

2. 個別事業に対するボランティア

その他 (将来的には年間運営にも思っている )

募集方法 |

1. 公募      その他 (口コミもあり)

任期 |

任期 (年)      半年      継続

研修 |

2. なし      研修内容

実費支給 |

2. なし

運営担当者 |

2. 他業務と兼務 →      もろもろ

友の会制度 |

2. なし      ボランティアとの関連性 |



10. (仮称) 文化・生活情報センター

具体的なボランティアの活動・業務内容について

世田谷演劇工作房第5幕「作業場のワークショップ」を成立させるためのありとあらゆる仕事（いわゆる事務局の役割）を手伝ってもらった（参考資料あり）。記録誌「文生かわら版」はほぼ完全に彼らの仕事です。

ボランティアの運営方法・課題について

現在のところ、まだ準備室の段階であり、事業自体期間を区切って実施しているに過ぎないので、本格的には来年4月の開館以降のことになる。

「地域の劇場としてパブリックな活動をしていきたいと考えているので、恒常的な運営にもできる限り区民のみなさんに参加してもらいたいと思っている（多分それを「ボランティア」と呼ぶのだろうと思うが、今のところ残念ながらそう思っているという状態にとどまっている）。

## 11. 横浜市吉野町市民プラザ

運営母体 | (財)横浜市文化振興財団

所在地 | 〒232 神奈川県横浜市南区吉野町5-26

電話 | 045-243-9261

ファックス | 045-243-9263

開館年月 | 1988.07

複合形態 | ホール・劇場の特性 | 立地都市の人口 | 3,273,609 人

- 1. 単独館
- 2. 複合館A
- 3. 複合館B
- 4. その他

- 1. 音楽
- 2. 演劇・舞踊
- 3. 映像
- 4. 多目的

自主事業予算規模 |

2,500万円未満

施設規模 |

ホール 200席、ギャラリー 1、スタジオ 3、会議室 1

運営組織体制 |

	スタッフ数	うち自治体派遣職員数	うち外部委託職員数
総務系（総務・人事・経理等）	7	7	0
企画系（企画・制作・広報等）	2	2	0
技術系（舞台・照明・音響等）	2	0	2
その他：	0	0	0
合 計	11	9	2
備考：			

名 称 | 市民プラザ カルチャースタッフ

導入時期 | 1992.04

登録人数 | 12 人

導入の経緯・目的等 | プラザの運営に当たり、近隣の方たちに参加して頂き、地域で文化活動を進める個人や団体と交流を深める。

活動内容 | 4. 受付・案内 )

その他 (

ホール・劇場運営におけるボランティアの位置づけ | 3. その他

その他 ( ) )

募集方法 | 1. 公募 その他 (

任 期 | 任期(年) 1年 継続 継続あり

研 修 | 1. あり 研修内容

実費支給 | 1. あり

運営担当者 | 2. 他業務と兼務→

友の会制度 | 2. なし ボランティアとの関連性 |

11. 横浜市吉野町市民プラザ

具体的なボランティアの活動・業務内容について

4. 受付・案内：利用申込受付、館内案内及びそれらに付随した業務補助

ボランティアの運営方法・課題について

業務時間に応じた謝礼を支払っている。（1日4時間 3400円～3600円程度）

## 12. 習志野文化ホール

運営母体 | (財)習志野文化ホール

所在地 | 〒275 千葉県習志野市谷津1-16-1

電話 | 0474-79-1212

ファクス | 0474-76-0941

開館年月 | 1978.12

複合形態 | ホール・劇場の特性 | 立地都市の人口 | 150,244 人

- ◆ 1. 単独館
- ◆ 2. 複合館A
- ◆ 3. 複合館B
- ◆ 4. その他

- ◆ 1. 音楽
- ◆ 2. 演劇・舞踊
- ◆ 3. 映像
- ◆ 4. 多目的

自主事業予算規模 |  
4. 1000万円～3000万円未満

施設規模 |  
1475席

運営組織体制 |

	スタッフ数	うち自治体派遣職員数	うち外部委託職員数
総務系（総務・人事・経理等）	3	2	1
企画系（企画・制作・広報等）	3	1	
技術系（舞台・照明・音響等）	5	1	3
その他：館長	1	1	
合 計	12	6	4
備考： 総務外部委託はパート			

名 称 | ボランティア内容により異なる

導入時期 | 1996.04 登録人数 | 人

導入の経緯・目的等 | 創作ミュージカルを軸にボランティアを導入

活動内容 | 2. 広報・宣伝、3. 舞台・音響・照明等、5. 教育普及活動

その他（

ホール・劇場運営におけるボランティアの位置づけ | 2. 個別事業に対するボランティア

その他（その他もあり

募集方法 | 1. 公募 その他（口コミ、チラシ折り込み

任 期 | 任期（年） 1年 継続 継続あり

研 修 | 1. あり 研修内容 何回かレクチャーを行う

実費支給 | 2. なし

運営担当者 | 2. 他業務と兼務→ 受付業務担当、自主事業担当

友の会制度 | 2. なし ボランティアとの関連性 |

### 具体的なボランティアの活動・業務内容について

広報・宣伝：創作ミュージカルを基本(60%)に、ホール全般の啓蒙的なもの(40%)、新聞形式(A4表裏1枚で3,000部、年4回発行)、習志野文化ホールアーツ新聞としての継続が目標。メディアスタッフ：「制作だより」等の編集発行と写真・ビデオによる記録及び整理。

裏方サポート：次年度から自主事業創作部門の企画の中で活動する。

教育普及活動：夏休み企画「バックステージツアー&パイプオルガンコンサート」のインストラクター(約10名、中年男性4人、学生5~6人)、イラストマップ制作(1名、女子学生)、将来習志野文化ホールアーツボランティアの核とする。

### ボランティアの運営方法・課題について

運営方法：この1年間はテスト期間とし、行政には依存せず自立を目指す。自由な発想で地域文化について関りながら活動し、ホールに新鮮な空気を送り込むアイデア集団としたい。そのため、ホールと市民の接続点としてのボランティアであることを自覚し、市民の声をホールに伝える。

課題：ボランティアのための部屋がないので、自発的に集まるのが難しい。ボランティアルームを持たないと活動が継続しづらいので、現在検討中。ボランティアに関する予算化が難しいので、次年度も引き続き事業にからませていかざるを得ない。

### 13. アクトシティ浜松

運営母体 | (財)アクトシティ浜松運営財団

所在地 | 〒430 静岡県浜松市板屋町111-1

電話 | 053-451-1114

ファクス | 053-451-1123

開館年月 | 1994.10

複合形態 | ホール・劇場の特性 | 立地都市の人口 | 552,401 人

- 1. 単独館
- 2. 複合館A
- 3. 複合館B
- 4. その他

- 1. 音楽
- 2. 演劇・舞踊
- 3. 映像
- 4. 多目的

自主事業予算規模 |

7.1億円以上

施設規模 |

大ホール 2336席 中ホール 1030席

運営組織体制 |

	スタッフ数	うち自治体派遣職員数	うち外部委託職員数
総務系（総務・人事・経理等）	18	6	0
企画系（企画・制作・広報等）	11	6	0
技術系（舞台・照明・音響等）	30	0	30
その他：	0	0	0
合 計	59	12	30
備考：			

名 称 | アクトシティ イベントスタッフ

導入時期 | 1994.10

登録人数 | 15 人

導入の経緯・目的等 | 地域音楽文化の向上と市民交流の促進を図る。

活動内容 |

6. その他

その他（企画・運営

ホール・劇場運営におけるボランティアの位置づけ |

2. 個別事業に対するボランティア

その他（

募集方法 |

1. 公募

その他（

任 期 |

任期（年）

継続

研 修 |

研修内容

実費支給 |

1. あり

運営担当者 |

事業部

友の会制度 |

1. あり

ボランティアとの関連性 | あり

具体的なボランティアの活動・業務内容について

屋外の舞台を使って月1回の市民参加コンサートを企画・運営（雨天中止）

ボランティアの運営方法・課題について

公募時は100人を上回る応募者があり、裏方サポート等の仕事もしてもらったが、労務問題等があり、今のようになった。

## 14. 増穂町文化会館

運営母体 | 増穂町

所在地 | 〒400-05 山梨県南巨摩郡増穂町天神中条820-1

電話 | 0556-22-8811

ファクス | 0556-22-8815

開館年月 | 1992.07

複合形態 | ホール・劇場の特性 | 立地都市の人口 | 13,411 人

- 1. 単独館
- 2. 複合館 A
- 3. 複合館 B
- 4. その他

- 1. 音楽
- 2. 演劇・舞踊
- 3. 映像
- 4. 多目的

自主事業予算規模 |

5. 3000万円～5000万円未満

施設規模 |

538席

運営組織体制 |

	スタッフ数	うち自治体派遣職員数	うち外部委託職員数
総務系（総務・人事・経理等）	2	2	0
企画系（企画・制作・広報等）	1	1	0
技術系（舞台・照明・音響等）	2	2	0
その他：	0	0	0
合 計	5	5	0
備考：			

名 称 | 増穂町文化会館ホール協力員

導入時期 | 1992.07

登録人数 | 25 人

導入の経緯・目的等 |

「地域に向かって開かれたホールづくり」の一環として、自主公演に関わるバックステージ業務への住民参加を広く呼びかけ、以って地域文化の向上に寄与する。

活動内容 |

3. 舞台・音響・照明等、4. 受付・案内、6. その他 )

その他（託児

ホール・劇場運営におけるボランティアの位置づけ |

2. 個別事業に対するボランティア

その他 ( ) )

募集方法 |

1. 公募 その他 (

任 期 |

任期(年) 1年 継続 継続あり

研 修 |

2. なし 研修内容

実費支給 |

1. あり

運営担当者 |

2. 他業務と兼務→ 庶務

友の会制度 |

1. あり ボランティアとの関連性 | なし



具体的なボランティアの活動・業務内容について

3. 舞台・音響・照明等：搬入・搬出業務、舞台セット等の設営・撤去業務のサポート
4. 受付・案内：チケットのもぎり、座席案内等のサポート等

ボランティアの運営方法・課題について

場内員の募集方法（PR等）の方策を種々検討中。  
協力員の活用方策の確立を目指し、研究中（応募の動機・関心・技術力等が様々であるため）。

## 15. 松本市音楽文化ホール The Harmony Hall

運営母体 | (財)松本市教育文化振興財団

所在地 | 〒390 長野県松本市島内4351

電話 | 0263-47-2004

ファクス | 0263-47-2383

開館年月 | 1985.10

複合形態 | ホール・劇場の特性 | 立地都市の人口 | 199,881 人

- 1. 単独館
- 2. 複合館A
- 3. 複合館B
- 4. その他

- 1. 音楽
- 2. 演劇・舞踊
- 3. 映像
- 4. 多目的

自主事業予算規模 |

5. 3000万円～5000万円未満

施設規模 |

中ホール 756席、小ホール 240席

運営組織体制 |

	スタッフ数	うち自治体派遣職員数	うち外部委託職員数
総務系（総務・人事・経理等）	6	2	0
企画系（企画・制作・広報等）			
技術系（舞台・照明・音響等）	4	0	4
その他：レジデントオルガニスト	1	0	1
合計	11	2	9
備考： 企画系スタッフは総務系と兼務、技術スタッフは1名常駐、3名随時派遣			

名称 | ハーモニーメイトコンサートボランティア

導入時期 | 1993.10

登録人数 | 30 人

導入の経緯・目的等 |

友の会（ハーモニーメイト）の会員により音楽活動を支援する。市民の市民によるホールづくり。S61より音楽情報誌「ハーモニー」取材・編集・発送開始。

活動内容 |

2. 広報・宣伝、4. 受付・案内

その他（

ホール・劇場運営におけるボランティアの位置づけ |

1. 年間運営、2. 個別事業

その他（

募集方法 |

3. その他      その他      (友の会D.M.

任期 |

任期(年)

継続

研修 |

2. なし

研修内容

実費支給 |

2. なし

運営担当者 |

2. 他業務と兼務→

管理・事業

友の会制度 |

1. あり

ボランティアとの関連性 | あり

15. 松本市音楽文化ホール The Harmony Hall

具体的なボランティアの活動・業務内容について

ハーモニーメイトは、チケットの割引購入ができる友の会組織であるが、①メイト自主コンサートの主催、②全国優良ホールへのコンサート鑑賞バスツアー、③ザ・ハーモニーホールの主催コンサートの運営ボランティア、④音楽情報誌ハーモニーの編集・発行などの活動を展開

組織委員会：コンサート・ボランティアの募集・召集・業務指示。事業委員会：自主コンサート及びバスツアーの企画・運営。編集委員会：情報誌ハーモニーの企画、取材、編集。コンサート・ボランティア委員会：チケットもぎり、売店での販売、会場案内

ボランティアの運営方法・課題について

## 16. 関ヶ原ふれあいセンター

運営母体 | 関ヶ原町

所在地 | 〒503-15 岐阜県不破郡関ヶ原町大字関ヶ原894-29

電話 | 0584-43-2233

ファックス | 0584-43-2233

開館年月 | 1994.09

複合形態 | ホール・劇場の特性 | 立地都市の人口 | 9,485 人

- 1. 単独館
- 2. 複合館A
- 3. 複合館B
- 4. その他

- 1. 音楽
- 2. 演劇・舞踊
- 3. 映像
- 4. 多目的

自主事業予算規模 |

4. 1000万円～3000万円未満

施設規模 |

484席

運営組織体制 |

	スタッフ数	うち自治体派遣職員数	うち外部委託職員数
総務系（総務・人事・経理等）	3	3	0
企画系（企画・制作・広報等）	2	2	0
技術系（舞台・照明・音響等）	2	0	2
その他：施設管理係（用務員、管理人）	2	2	0
合 計	9	7	2
備考：			

名 称 | 関ヶ原芸術文化協会

導入時期 | 1994.09

登録人数 | 10 人

導入の経緯・目的等 | 開館と同時に、町芸術文化振興協会を設立。協会事業の中にボランティア協力事業として取り組んでいる。

活動内容 | 4. 受付・案内 )

その他 (

ホール・劇場運営におけるボランティアの位置づけ | 2. 個別事業に対するボランティア

その他 ( ) )

募集方法 | 3. その他 その他 (団体会員

任 期 | 任期 (年) 継続

研 修 | 2. なし 研修内容

実費支給 | 2. なし

運営担当者 | 2. 他業務と兼務→ 文化事業係

友の会制度 | 2. なし ボランティアとの関連性 |

16. 関ヶ原ふれあいセンター

具体的なボランティアの活動・業務内容について

4. 受付・案内：ホール自主事業に対しての協力として、受付・案内をボランティアとして依頼している。（年2回程度、数名）

ボランティアの運営方法・課題について

特になし

## 17. 扶桑文化会館

運営母体 | 扶桑町

所在地 | 〒480-01 愛知県丹羽郡扶桑町大字高雄字福塚200

電話 | 0587-93-9000

ファクス | 0587-93-4500

開館年月 | 1995.06

複合形態 | ホール・劇場の特性 | 立地都市の人口 | 30,263 人

- 1. 単独館
- 2. 複合館 A
- 3. 複合館 B
- 4. その他

- 1. 音楽
- 2. 演劇・舞踊
- 3. 映像
- 4. 多目的

自主事業予算規模 |

5,300万円～5000万円未満

施設規模 |

746

運営組織体制 |

	スタッフ数	うち自治体派遣職員数	うち外部委託職員数
総務系（総務・人事・経理等）	3	3	0
企画系（企画・制作・広報等）	2	0	0
技術系（舞台・照明・音響等）	2	0	2
その他：兼務館長	1	1	0
合 計	8	4	2
備考：			

名 称 | 文化夢応援団

導入時期 | 1995.05

登録人数 | 90 人

導入の経緯・目的等 |

町民の一人ひとりが創っていくホールとして、建設時より募集を始め、ホールを核として、町づくり、人づくりも含め、多くの人に親しまれ、育てていくことを目的とする。

活動内容 |

1. 企画・制作、2. 広報・宣伝、4. 受付・案内、6. その他 )

その他（飲物サービス、名産品販売

ホール・劇場運営におけるボランティアの位置づけ |

1. 年間運営に対するボランティア

その他 ( ) )

募集方法 |

1. 公募 その他 ( )

任 期 |

任期（年） 継続

研 修 |

1. あり 研修内容 視察研修、講座

実費支給 |

2. なし

運営担当者 |

2. 他業務と兼務→

友の会制度 |

1. あり ボランティアとの関連性 | あり

具体的なボランティアの活動・業務内容について

1. 企画・制作：応援団主催事業の実行委員会ができ、研究会が始まったばかり。
2. 広報・宣伝：友の会発足も応援団リーダーが中心となり、チラシづくり、会報づくりを行っている。
4. 受付・案内：当初の目的は、お客様を温かく迎えようということで始まっている。駐車場整理、会場入り口までの誘導、当日券窓口、もぎり、ドア係、会場案内。
6. その他：コーヒー、ワイン、サンドウィッチ等のサービス、名産品の販売。

ボランティアの運営方法・課題について

90名を9班に分け、毎回5班が受け持ち、常時回して全員が交流、各持ち場を経験する。  
今後の課題：研修会を開催して、マンネリにならないようにすること。受付・案内以外の専門分野に取り組んだとき、全員の共通理解を得て、基本を忘れないこと。  
1994年11月～95年3月：文化夢応援団養成講座を開催、周辺市からも参加。

## 18. 飯南町産業文化センター

運営母体 | 飯南町

所在地 | 〒515-13 三重県飯南郡飯南町大字横野848番地

電話 | 059832-2004

ファクス | 059832-2559

開館年月 | 1993.05

複合形態 | ホール・劇場の特性 | 立地都市の人口 | 6,820 人

- 1. 単独館
- 2. 複合館A
- 3. 複合館B
- 4. その他

- 1. 音楽
- 2. 演劇・舞踊
- 3. 映像
- 4. 多目的

自主事業予算規模 | 3,500万～1000万円未満

施設規模 | 448席

運営組織体制 |

	スタッフ数	うち自治体派遣職員数	うち外部委託職員数
総務系（総務・人事・経理等）	1	1	0
企画系（企画・制作・広報等）	1	1	0
技術系（舞台・照明・音響等）			0
その他：	0	0	0
合 計	2	2	0
備考： 技術系スタッフは企画系スタッフが兼務			

名 称 | 飯南町産業文化センター A & L スタッフ（エー・アンド・エル）

導入時期 | 1994.08

登録人数 | 30 人

導入の経緯・目的等 | 産業文化センターで実施するイベントの企画、運営に参加して協力いただくスタッフを公募したところ、25名が応募された。その後6ヶ月にわたり研修を積み、各部署で活動をしている。

活動内容 | 1. 企画・制作、2. 広報・宣伝、3. 舞台・音響・照明等、4. 受付・案内  
その他（ )

ホール・劇場運営におけるボランティアの位置づけ | 1. 年間運営に対するボランティア  
その他（ )

募集方法 | 1. 公募      その他（ )  
任 期 |      任期（年） 1年      継続 継続あり

研 修 | 1. あり      研修内容 他館の視察、技術研修

実費支給 | 1. あり

運営担当者 | 1. 専従者→      中央公民館

友の会制度 |      ボランティアとの関連性 |



18. 飯南町産業文化センター

具体的なボランティアの活動・業務内容について

①文化センターイベントの企画運営に参加、②文化センターイベントスタッフとしての援助協力、③スタッフとしての技術の向上を目指し研修会の実施および参加、④その他文化活動推進のため必要な事業の実施（スタッフ規約：事業より）

飯南町中央公民館「舞台音響、照明スタッフ講座」受講者で教育長の承認をされた者、およびその他本会の目的に賛同し入会を希望する者のうち本会の総会によって承認され、かつ教育長の承認をされた者（同：組織）

音響班、照明班を設置

会員の会費およびイベントの謝礼金（原則となる時間単価を設定）によって運営。謝礼金は会の運営に充てる。

ボランティアの運営方法・課題について

技術研修の継続

班別制の導入

技術系スタッフの不足（女性4人と少ない）

## 19. (財)黒部市国際文化センター「コラーレ」

運営母体 | (財)黒部市国際文化センター

所在地 | 〒938 富山県黒部市三日市20

電話 | 0765-57-1201

ファクス | 0765-57-1207

開館年月 | 1995.11

複合形態 | ホール・劇場の特性 | 立地都市の人口 | 36,688 人

- 1. 単独館
- 2. 複合館A
- 3. 複合館B
- 4. その他

- 1. 音楽
- 2. 演劇・舞踊
- 3. 映像
- 4. 多目的

自主事業予算規模 |  
6. 5000万円～1億円未満

施設規模 |  
大ホール 886席、マルチホール 200席、能舞台 250席

運営組織体制 |

	スタッフ数	うち自治体派遣職員数	うち外部委託職員数
総務系（総務・人事・経理等）	3	1	0
企画系（企画・制作・広報等）	2	1	0
技術系（舞台・照明・音響等）	4	0	0
その他：	0	0	0
合 計	9	2	0
備考：			

名 称 | 女性ボランティア、保育ボランティア

導入時期 | 1995.11

登録人数 | 8 人

導入の経緯・目的等 |

ホール案内ボランティア：客席への案内がないと出入口等がわかりにくい。保育ボランティア：乳幼児連れのお客様が安心して鑑賞でき、他のお客様に迷惑をかけるようにするため。

活動内容 |

- 4. 受付・案内、6. その他
- その他（乳幼児の一時預かり

ホール・劇場運営におけるボランティアの位置づけ |

- 1. 年間運営に対するボランティア
- その他（

募集方法 |

- 3. その他
- その他（女性ボランティア団体や保育所へ直接お願いした

任 期 |

任期（年） 1年 継続 継続あり

研 修 |

- 1. あり
- 研修内容 ボランティア研修・ボランティアスタッフ養成研修

実費支給 |

- 2. なし

運営担当者 |

- 2. 他業務と兼務→ 経理

友の会制度 |

- 2. なし
- ボランティアとの関連性 |

19. (財)黒部市国際文化センター「コラーレ」

具体的なボランティアの活動・業務内容について

4. 受付・案内：受付はチラシ等の折り込みを含めアルバイトでまかなっている（登録制）。案内は受付場所からホール、ホワイエから客席、開演中の客席までの誘導、トイレへの案内等。

その他：乳幼児一時預かりは、絵本等のある児童コーナーで保母さんが子どもを預かる。

ボランティアの運営方法・課題について

乳幼児一時預かりは、最寄りの保育所に毎月の事業案内を渡し、保育所内で保母さんを確保してもらっている。大変協力的で助かっている。問題点は当日にならないと何人の乳幼児が来るのか予想できないこと。（事前に電話をもらうようにはしているが。）

裏方等のボランティアスタッフについてはこれから。とりあえずマルチホールでビアパーティーを企画し、生演奏を聴きながら楽しもうかと考え中。企画から運営まですべてコラーレ倶楽部の会員でやってみようと考えている。

コラーレ倶楽部：運営に参加したい市民のための組織として設立。開館までに11回のワークショップを行い、利用者やボランティアの核となる人材を育成してきた。

## 20. 中島町文化センター・能登演劇堂

運営母体 | 能登演劇堂振興協会

所在地 | 〒 929-22 石川県鹿島郡中島町字中島甲部130

電話 | 0767-66-2323

ファックス | 0767-66-2326

開館年月 | 1995.05

複合形態 | ホール・劇場の特性 | 立地都市の人口 | 8,541 人

- 1. 単独館
- 2. 複合館A
- 3. 複合館B
- 4. その他

- 1. 音楽
- 2. 演劇・舞踊
- 3. 映像
- 4. 多目的

自主事業予算規模 |  
5. 3000万円～5000万円未満

施設規模 |  
651席

運営組織体制 |

	スタッフ数	うち自治体派遣職員数	うち外部委託職員数
総務系（総務・人事・経理等）	2	2	
企画系（企画・制作・広報等）	4	4	
技術系（舞台・照明・音響等）	2	2	
その他：	0	0	
合 計	8	8	
備考：			

名 称 |

導入時期 | 1995.05

登録人数 | 15 人

導入の経緯・目的等 |

ロータリークラブなど町内の27団体の代表で構成される住民参加の組織。能登演劇堂の活用を促進し、地域の芸術文化の高揚に寄与するとともに、裏方養成を目的として、各種講座を開設し、本舞台でのサポート役を担っている。

活動内容 |

3. 舞台・音響・照明等、4. 受付・案内

その他（

ホール・劇場運営におけるボランティアの位置づけ |

1. 年間運営に対するボランティア

その他（

募集方法 |

1. 公募                      その他（

任 期 |

任期（年）                      継続

研 修 |

1. あり                      研修内容      舞台芸術アカデミー

実費支給 |

1. あり

運営担当者 |

1. 専従者→                      文化振興課

友の会制度 |

1. あり                      ボランティアとの関連性 |      なし

具体的なボランティアの活動・業務内容について

3. 舞台・音響・照明等：アカデミー受講生による舞台仕込みの補助
4. 受付・案内：もぎり、会場案内、整理

ボランティアの運営方法・課題について

10年間、この町で合宿稽古を続けてきた「無名塾」の仲代達矢がホールを監修。「能登演劇堂振興協会」内に「能登演劇堂友の会」を設置し、演劇愛好家の拡充と入場者の安定確保を目指している。



具体的なボランティアの活動・業務内容について

3. 舞台・音響・照明等：市民文化祭など住民が出演するような催し、あるいは自主事業でも素人の手に負える規模のものについて、照明の仕込み・操作・撤去、音響の仕込み・操作・撤去、舞台監督まで行う。
4. 受付・案内：当日券売り、もぎり、案内、場内整理、カゲアナ等。

ボランティアの運営方法・課題について

まず、住民の人生における楽しみで行われた結果がボランティアであるという発想が基本なので、強制はしない。最悪の場合は自分ですべてやる覚悟は常に持っている。

発想が「生涯学習ボランティア」から出ているので、学習活動がまず必要である。これによって、楽しみのレベルもあげていくことができると思う。そのプログラム作りがまだこれからである。

## 22. 武生市文化センター

運営母体 | (財)武生市文化振興財団・施設管理事業団

所在地 | 〒915 福井県武生市高瀬2-3-3

電話 | 0778-23-5057

ファックス | 0778-21-1975

開館年月 | 1980.12

複合形態 | ホール・劇場の特性 | 立地都市の人口 | 70,161 人

- 1. 単独館
- 2. 複合館A
- 3. 複合館B
- 4. その他

- 1. 音楽
- 2. 演劇・舞踊
- 3. 映像
- 4. 多目的

自主事業予算規模 |

4. 1000万円～3000万円未満

施設規模 |

大ホール 1192席、中ホール 726席、小ホール 220席

運営組織体制 |

	スタッフ数	うち自治体派遣職員数	うち外部委託職員数
総務系（総務・人事・経理等）	3	0	0
企画系（企画・制作・広報等）	2	0	0
技術系（舞台・照明・音響等）	3	0	0
その他：夜間管理人	1	0	0
合 計	9	0	0
備考：			

名 称 | 武生国際音楽祭推進会議（毎年6月に組織）

導入時期 | 登録人数 | 60 人

導入の経緯・目的等 | 国際音楽祭開催のための実行委員会を組織。その委員会に個人ボランティアが参画。次年度以降の音楽祭継続に向けて、ボランティアのみの実行委員会を組織。実質的な音楽祭の実施・推進・主催団体となる。

活動内容 | 1. 企画・制作、2. 広報・宣伝、4. 受付・案内、5. 教育普及活動 )  
その他 (

ホール・劇場運営におけるボランティアの位置づけ | 2. 個別事業に対するボランティア )  
その他 ( )

募集方法 | 1. 公募 2. その他 (口コミもあり)

任 期 | 任期 (年) 継続

研 修 | 2. なし 研修内容

実費支給 | 2. なし

運営担当者 | 2. 他業務と兼務→ 自主事業等

友の会制度 | 2. なし ボランティアとの関連性 |



### 具体的なボランティアの活動・業務内容について

アンケート制作班、アンケート回収・分析班、収支決算書作成班、反省会、Indoor & Outdoor デザイン班、ホームステイスタッフ、バックステージスタッフ、ロードスタッフ  
宣伝班、情報収集発信班、テレマーケティング班、プログラム制作班、ポスター・チケット制作班、記録スタッフ、記録収集班、報告書作成班

接客スタッフ、通訳スタッフ、ウェルカムスタッフ、託児所スタッフ、アッシャースタッフ、ロビースタッフ、アウトサイドスタッフ、ウェルカムスタッフ班、フェスショップ班、マップ班、ホームステイ班

事務局の中にボランティア担当を設置、ボランティアコーディネーターが統括。①音楽祭前、②音楽祭中、③音楽祭後の3段階に分けて体制・業務内容を整理

### ボランティアの運営方法・課題について

ボランティアの自主的意志決定組織の武生国際音楽祭推進会議が音楽祭開催の意志決定機関でもあるから、すべてを委ねている。

ボランティア個人個人の意識の差があること。・単なる手伝いと考えている人、・自分のできることで参加している人（通訳等）、・音楽祭そのものを支えている人等々。

会員制の任意的な団体からの脱皮。財団化、社団化等、法人化の可能性。

## 23. いまだて芸術館（アートホール31）

運営母体 | 今立町

所在地 | 〒 915-02 福井県今立郡今立町栗田部11-1-1

電話 | 0778-42-2700

ファックス | 0778-42-2828

開館年月 | 1991.11

複合形態 | ホール・劇場の特性 | 立地都市の人口 | 14,859 人

1. 単独館

1. 音楽

自主事業予算規模 |

2. 複合館A

2. 演劇・舞踊

3. 複合館B

3. 映像

施設規模 |

4. その他

600席

4. 多目的

運営組織体制 |

	スタッフ数	うち自治体派遣職員数	うち外部委託職員数
総務系（総務・人事・経理等）			
企画系（企画・制作・広報等）			
技術系（舞台・照明・音響等）			
その他：			
合 計	7		
備考： 名誉館長含む			

名 称 | 企画プロデューサー委嘱システム、AEスタッフ委嘱システム

導入時期 | 登録人数 | 30 人

導入の経緯・目的等 | 館の方針として住民主体の企画運営を進めることとなった。

活動内容 | 1. 企画・制作、2. 広報・宣伝、3. 舞台・音響・照明等、4. 受付・案内  
その他（ ）

ホール・劇場運営におけるボランティアの位置づけ | 1. 年間運営に対するボランティア  
その他（ ）

募集方法 | 3. その他 その他（企画提出

任 期 | 任期（年） 継続

研 修 | 1. あり 研修内容 技術研修

実費支給 |

運営担当者 |

友の会制度 | ボランティアとの関連性 |

23. いまだて芸術館（アートホール31）

具体的なボランティアの活動・業務内容について

企画プロデューサー委嘱システム：企画立案、実行委員会の組織、調査・事前視察、広報、会場設定、当日の進行、決算までを行う。資格は内外を問わない。

技術（AE：アシスタント・エンジニア）スタッフ委嘱システム。一事業あたり3000円支給。

住民が企画プロデュースした事業については、広報・宣伝も併せて担当。当日の受付・案内も住民主体で行う。

ボランティアの運営方法・課題について

自主企画のプロジェクトには、職員1名がコーディネーターとして参加。200名余りの地域住民が日常的に出入りし、年間30近い自主企画事業、20近い共催事業を展開。AEスタッフは20名程度の応募者から数名が選ばれ技術研修を受講後、町の非常勤公務員として委嘱されている。

## 24. 大阪府立青少年会館

運営母体 | (財)大阪府青少年活動財団

所在地 | 〒540 大阪府中央区森の宮中央2-13-33

電話 | 06-942-5146

ファクス | 06-942-2448

開館年月 | 1965.04

複合形態 | ホール・劇場の特性 | 立地都市の人口 | 2,478,628 人

- 1. 単独館
- 2. 複合館A
- 3. 複合館B
- 4. その他

- 1. 音楽
- 2. 演劇・舞踊
- 3. 映像
- 4. 多目的

自主事業予算規模 |

4. 1000万円～3000万円未満

施設規模 |

大ホール 1220席、小ホール(プラネットホール) 140席

運営組織体制 |

	スタッフ数	うち自治体派遣職員数	うち外部委託職員数
総務系(総務・人事・経理等)	11	0	0
企画系(企画・制作・広報等)	4	3	0
技術系(舞台・照明・音響等)	14	0	5
その他:	0	0	0
合計	29	3	5
備考:			

名称 | プラネット・ステーション イベントすたっふ

導入時期 | 1994.12

登録人数 | 100 人

導入の経緯・目的等 | ぷらねっと・ステーション開設時(平成2年2月)に青少年育成事業の一環として導入

活動内容 | 1. 企画・制作、2. 広報・宣伝、3. 舞台・音響・照明、4. 受付・案内 )

その他 (

ホール・劇場運営におけるボランティアの位置づけ | 2. 個別事業に対するボランティア

その他 ( ) )

募集方法 | 1. 公募 その他 (

任期 | 任期(年) 1年 継続 継続あり

研修 | 1. あり 研修内容 技術講座、サロン等

実費支給 | 1. あり

運営担当者 | 1. 専従者→ 文化課

友の会制度 | 2. なし ボランティアとの関連性 |

24. 大阪府立青少年会館

具体的なボランティアの活動・業務内容について

大阪府が(財)大阪府青少年活動財団に事業委託を、総合プロデューサーに業務委託をし、制作チームが中心となって企画案・予算案を作成、ボランティアのイベントすたっふによってプロジェクトチームが編成され、事業が実施される。

イベントすたっふの業務内容は、「企画提案」、「主催事業の受付等イベントの表方」、「場内整理、観客誘導、照明・音響・舞台の補助等裏方」。プロデューサー役と登録イベントすたっふが主催事業の企画・運営に参画している。

ボランティアの運営方法・課題について

現在「イベントすたっふ」として100名が登録しているが、各人それぞれ活動のジャンルが異なるため、全員の交流が困難な状況にある。そのため、毎年夏休み期間中に「プラネット・フェスティバル」と題する複合イベントを実施している。

今後は、この種のフェスティバルのみならず、例えば演劇の中に映像を取り込む等、クロスオーバーするイベント企画が出てくることを期待している。

## 25. 岸和田市立文化会館

運営母体 | 岸和田市教育委員会

所在地 | 〒596 大阪府岸和田市荒木町1-17-1

電話 | 0724-43-3800

アクセス | 0724-43-4627

開館年月 | 1984.05

複合形態 | ホール・劇場の特性 | 立地都市の人口 | 193,511 人

- 1. 単独館
- 2. 複合館 A
- 3. 複合館 B
- 4. その他

- 1. 音楽
- 2. 演劇・舞踊
- 3. 映像
- 4. 多目的

自主事業予算規模 |

5,300万円～5000万円未満

施設規模 |

501席

運営組織体制 |

	スタッフ数	うち自治体派遣職員数	うち外部委託職員数
総務系（総務・人事・経理等）	4	4	0
企画系（企画・制作・広報等）	3	3	0
技術系（舞台・照明・音響等）	2	0	2
その他：文化財担当	4	4	0
合計	13	11	2
備考：			

名称 | 岸和田市市民文化事業協会

導入時期 | 登録人数 | 人

導入の経緯・目的等 | 岸和田市の文化団体の連合会とマドカホールの建設を契機に生まれた文化ホールの運営を考  
える会が前身。市民自らが事業を興しその経営に参加すること、自立した文化活動の展開に  
よって市域文化を発展させること、行政による側面からの支援参加を目指す。

活動内容 | 1. 企画・制作 )  
その他 (

ホール・劇場運営におけるボランティアの位置づけ | 1. 年間運営に対するボランティア )  
その他 ( )

募集方法 | その他 (

任期 | 任期（年） 継続

研修 | 2. なし 研修内容

実費支給 | 2. なし

運営担当者 | 2. 他業務と兼務→

友の会制度 | 2. なし ボランティアとの関連性 |

具体的なボランティアの活動・業務内容について

1. 岸和田市市民文化事業協会（他館の友の会に類するもの）の活動の中で事業企画・制作・運営等にかかわってもらっている。
2. 上記とは別にポスター等の掲示いただける方を公募し、事業毎にポスターを送付し、自宅や事務所・店舗に掲示頂いている。

ボランティアの運営方法・課題について

表方及び裏方のサポーターを養成したい。

## 26. 浄るりシアター

運営母体 | 能勢町教育委員会

所在地 | 〒563-03 大阪府豊能郡能勢町宿野30

電話 | 0727-34-3241

ファクス | 0727-34-3241

開館年月 | 1993.06

複合形態 | ホール・劇場の特性 | 立地都市の人口 | 14,112 人

- 1. 単独館
- 2. 複合館A
- 3. 複合館B
- 4. その他

- 1. 音楽
- 2. 演劇・舞踊
- 3. 映像
- 4. 多目的

自主事業予算規模 |

2. 500万円未満

施設規模 |

505席（車いす席3席含）

運営組織体制 |

	スタッフ数	うち自治体派遣職員数	うち外部委託職員数
総務系（総務・人事・経理等）	2	2	0
企画系（企画・制作・広報等）	3	3	0
技術系（舞台・照明・音響等）	3	0	3
その他：	0	0	0
合 計	8	5	3
備考：			

名 称 | ステージオペレータークラブ 夢舞（ムーブ）

導入時期 | 1993.11

登録人数 | 24 人

導入の経緯・目的等 | ステージオペレーター（鑑賞だけでなく、舞台のいろいろな角度から舞台人を創造するため）

活動内容 | 3. 舞台・音響・照明等 )

その他 (

ホール・劇場運営におけるボランティアの位置づけ |

1. 年間運営に対するボランティア

その他 ( ) )

募集方法 | 1. 公募 その他 (

任 期 | 任期(年) 継続

研 修 | 1. あり 研修内容 定期的研修

実費支給 | 1. あり

運営担当者 | 1. 専従者

友の会制度 | 2. なし ボランティアとの関連性 |



具体的なボランティアの活動・業務内容について

浄るりシアターワークショップの一環として、ステージオペレーターの講座を約3ヶ月間、計12回で過去2回行った。

第1期生により、ステージオペレータークラブ「夢舞」が結成されて、貸館・自主事業ともに仕込・バラシ・そして本番と実践している。各セクションでプランが立てられるよう会員はがんばっている。

ボランティアの運営方法・課題について

プロとアマチュアの物理的問題がある。たとえば、クラブ自体、職を持った人があくまでもボランティアとしての活動であるため、毎回出席できるわけではないので、プロは困っている。工夫としては、ホール自体の「便利屋」になることなく、クラブの自主性に重きをおいている。

## 27. 南山城村文化会館やまなみホール

運営母体 | (財)南山城村文化財団

所在地 | 〒619-14 京都府相楽郡南山城村大字北大河原小字久保8

電話 | 07439-3-0560

ファクス | 07439-3-0596

開館年月 | 1991.10

複合形態 | ホール・劇場の特性 | 立地都市の人口 | 4,074 人

- 1. 単独館
- 2. 複合館A
- 3. 複合館B
- 4. その他

- 1. 音楽
- 2. 演劇・舞踊
- 3. 映像
- 4. 多目的

自主事業予算規模 |

4. 1000万円～3000万円未満

施設規模 |

387席

運営組織体制 |

	スタッフ数	うち自治体派遣職員数	うち外部委託職員数
総務系（総務・人事・経理等）			
企画系（企画・制作・広報等）			
技術系（舞台・照明・音響等）			
その他：			
合 計			
備考：			

名 称 |

導入時期 | 1993.07

登録人数 | 250 人

導入の経緯・目的等 |

やまなみ国際音楽祭を成功させるために、表方・裏方のサポートを運営委員会、各種サークルの人々にお願いする。

活動内容 |

4. 受付・案内、6. その他 )

その他 (

ホール・劇場運営におけるボランティアの位置づけ |

2. 個別事業に対するボランティア

その他 ( ) )

募集方法 |

3. その他

その他 (運営委員会、各種サークル

任 期 |

任期 (年)

継続

研 修 |

2. なし

研修内容

実費支給 |

2. なし

運営担当者 |

友の会制度 |

1. あり

ボランティアとの関連性 | なし

27. 南山城村文化会館やまなみホール

具体的なボランティアの活動・業務内容について

6. その他：①受付 ②案内（アーティスト・観客） ③ケータリング ④当ホールには食堂が設置されておらず、また山村で近くに食堂等がない為、アーティスト及びスタッフへの食事の用意（朝食・昼食・夕食・夜食等）ができないので、各種団体をお願いしている。

ボランティアの運営方法・課題について

地域の人たちが音楽を楽しむために、舞台を通じて感じるよりも、直にアーティスト達と肌の付き合いを感じる方が、はるかに大きいと思われるのでこの方法をとっている。

企画・制作・広報・宣伝についても、運営委員会が年間自主事業のうち一つだけ取り上げて、予算内で自主運営を行ってもらっている。今後は年間を通して運営に関わってもらうようにするのが課題。

## 28. 水口町立碧水ホール

運営母体 | 水口町

所在地 | 〒528 滋賀県甲賀郡水口町水口5671

電話 | 0748-63-2006

ファックス | 0748-63-0752

開館年月 | 1988.07

複合形態 | ホール・劇場の特性 | 立地都市の人口 | 33,634 人

- 1. 単独館
- 2. 複合館A
- 3. 複合館B
- 4. その他

- 1. 音楽
- 2. 演劇・舞踊
- 3. 映像
- 4. 多目的

自主事業予算規模 |  
3,500万～1000万円未満

施設規模 |  
336席 (+96で432席)

運営組織体制 |

	スタッフ数	うち自治体派遣職員数	うち外部委託職員数
総務系（総務・人事・経理等）	3	3	0
企画系（企画・制作・広報等）			0
技術系（舞台・照明・音響等）	2		2
その他：夜間管理業務	2	0	2
合計	7	3	4
備考： 総務系の自治体派遣スタッフ3名が全ての業務に対応。			

名称 | 碧水ホール・ボランティア・スタッフ (H.V.S)

導入時期 | 1994.05

登録人数 | 12 人

導入の経緯・目的等 | ホールおよびイベントを観客の立場からだけでなく裏側からも楽しんでもらう。

活動内容 | 1. 企画・制作、2. 広報・宣伝、4. 受付・案内

その他 ( )

ホール・劇場運営におけるボランティアの位置づけ |

1. 年間運営に対するボランティア

その他 ( )

募集方法 |

1. 公募                      その他 ( )

任期 |

任期(年) 1年                      継続 継続あり

研修 |

2. なし                      研修内容

実費支給 |

2. なし

運営担当者 |

ホール職員・上村秀裕

友の会制度 |

ボランティアとの関連性 |

### 具体的なボランティアの活動・業務内容について

1. 企画・制作：企画書づくりを勧めている。シミュレーションとしてでもかまわないし、イベントの企画だけでなくホールをリメイクするどんな小さなことでもかまわない。またホールとして自主企画にこだわらず、例えば自分で実行委員会を組むことを想定したことでもかまわない。(最低2年先を念頭に)
2. 広報・宣伝：お客様開拓やチラシ布置の開拓の他、地元住民以外のスタッフには各エリアでの情報を収集してくる特派員のような活動を理想としている。 3. 舞台等各パートの助手としての範囲内で。 4. 受付・案内：H7年度よりカフェではなくお客様の前に出た形で場内案内を始めた。
6. その他：①ミニコミ(ボランティア独自の月刊通信誌HVS)の編集・発行(H7.08開始)ーホールが発送するDMにあわせて制作 ②オリジナルグッズの作成(H7.8開始)ー手作りのフリップ・ブック(ハラハラアム)などがあり、商品として出回るグレードのものではない。
- ③インターネットホームページの開設(H7.10)ーミニコミで収まりきらなかった拡張版が掲載されている。
6. その他に関する活動はホール自体からの注文は極力さけている。ホールからのお膳立てが不要な活動がなかなかないからである。

### ボランティアの運営方法・課題について

ボランティアスタッフ制度も、ホールの自主企画のひとつとしてとらえており、そのことは各メンバーにも伝えてある。ホールやイベントを観客だけでなくスタッフとしても楽しみ、こうした業務にかかわることが趣味のひとつに成りうると考えている。まずスタッフに楽しんでもらうことが第一。特に工夫はない。

フットワークの軽さからして5、6名が理想と考え、制度を導入したH6年度から2年目まではメンバー6名。毎年1名ずつOBとなり、ほとんどが継続して参加し、本年度は倍の12名と大所帯になった。

もっとまとめあげていけばホールとしても運営しやすいのかもしれない。例えばミニコミなどは「公立らしくない」と賛否両論、また、もっとホールのことをアピールしてほしいところなのだが、とりあえず20月号ではこのままスタッフ活動とともに黙って見ていこうと考えている。

## 29. 中町文化会館（ベルディーホール）

運営母体 | 中町

所在地 | 〒679-11 兵庫県多可郡中町中村町135

電話 | 0795-32-1300

ファクス | 0795-32-4060

開館年月 | 1990.07

複合形態 | ホール・劇場の特性 | 立地都市の人口 | 11,880 人

- ◆ 1. 単独館
- 2. 複合館A
- 3. 複合館B
- 4. その他

- 1. 音楽
- 2. 演劇・舞踊
- 3. 映像
- ◆ 4. 多目的

自主事業予算規模 |

5. 3000万円～5000万円未満

施設規模 |

616席

運営組織体制 |

	スタッフ数	うち自治体派遣職員数	うち外部委託職員数
総務系（総務・人事・経理等）	6	6	0
企画系（企画・制作・広報等）			0
技術系（舞台・照明・音響等）	2		2
その他：			0
合計	8	6	2
備考： 6名が兼務。6名には非常勤館長、嘱託2名を含む			

名称 | ベルディーホールボランティアオペレータークラブ

導入時期 | 1990.11

登録人数 | 60 人

導入の経緯・目的等 |

基本的にプロに委託すべきであろうが、経費・業者の派遣人員の関係で十分充足させることは困難である。従って、それらを補完する組織化も不可欠であるため。

活動内容 |

3. 舞台・音響・照明等、4. 受付・案内、6. その他 )

その他（自主事業の搬入・搬出等

ホール・劇場運営における  
ボランティアの位置づけ |

その他（ ) )

募集方法 |

1. 公募 その他（口コミもあり

任期 |

任期（年） 継続

研修 |

1. あり 研修内容 音響・照明等各部門研修、新入職員研修

実費支給 |

1. あり

運営担当者 |

友の会制度 |

1. あり ボランティアとの関連性 | なし

29. 中町文化会館（ベルディーホール）

具体的なボランティアの活動・業務内容について

3. 舞台・音響・照明等：芸能祭や音楽祭等の事業に関して、舞台・音響・照明等の操作をしている。

4. 受付・案内：自主事業等の時に、チケットのもぎり、パンフレットやアンケートの配布、お客さんへの座席案内等をしている。 6. その他：自主事業の時に、荷物等の搬入、搬出等をしている。

ボランティアの他にも、ホール運営を支える市民組織として、①文化会館運営連絡協議会（各種団体長21名）、②文化会館運営評議員会（自主事業の企画・プロモート）、③文化連盟（ホールが自主事業を委託、自主事業事務局）

④ベルディーホール友の会（約1,000名、観客誘致）、ベルディーホール応援団フルハウス616（寄付支援団体、H7年度30万円）が、関連機関として、中町生活創造大学情報文化科（運営委員と講座生によりホール文化を研鑽する25名の組織）がある。

ボランティアの運営方法・課題について

現在、ボランティアの人数は多くいるが、来てもらえる人が特定されてきている。

### 30. 東条町文化会館(東条コスミックホール)

運営母体 | 東条町

所在地 | 〒643-13 兵庫県加東郡東条町天神66

電話 | 0795-47-1500

ファクス | 0795-47-1617

開館年月 | 1990.04

複合形態 | ホール・劇場の特性 | 立地都市の人口 | 7,702 人

- 1. 単独館
- 2. 複合館A
- 3. 複合館B
- 4. その他

- 1. 音楽
- 2. 演劇・舞踊
- 3. 映像
- 4. 多目的

自主事業予算規模 | 4. 1000万円～3000万円未満

施設規模 | 570席(身障者席4席除)

運営組織体制 |

	スタッフ数	うち自治体派遣職員数	うち外部委託職員数
総務系(総務・人事・経理等)	6	6	0
企画系(企画・制作・広報等)			0
技術系(舞台・照明・音響等)	1	1	0
その他:館清掃	1	0	1
合計	8	7	1
備考: 総務系スタッフは企画系スタッフを兼務			

名称 | コスミックホールオペレータークラブ、育てる会

導入時期 | 1990.06

登録人数 | 43 人

導入の経緯・目的等 | ホールの運営に参加することで、住民のホールの位置づけを行う。

活動内容 | 3. 舞台・音響・照明等、4. 受付・案内

その他 ( )

ホール・劇場運営におけるボランティアの位置づけ | 2. 個別事業に対するボランティア

その他 ( )

募集方法 | 2. 口コミ その他 ( )

任期 | 任期(年) 継続

研修 | 1. あり 研修内容 年1回他館へ視察研修

実費支給 | 2. なし

運営担当者 | 2. 他業務と兼務 → 館運営

友の会制度 | 1. あり ボランティアとの関連性 | なし



30. 東条町文化会館(東条コスミックホール)

具体的なボランティアの活動・業務内容について

3. 舞台・音響・照明等：パック事業は別とし、ほとんどの自主事業及び貸館オペレーションを行っている。
4. 受付・案内：自主事業における受付・案内

ボランティアの運営方法・課題について

3. 舞台・音響・照明等：若手の参加者が少なく、メンバーが固定しつつある。新たなスタッフを募集する必要あり。
4. 受付・案内：受付・案内の方法を研修する必要がある。

### 31. たんば田園交響ホール

運営母体 | 篠山町

所在地 | 〒669-23 兵庫県多紀郡篠山町北新町41

電話 | 0795-52-3600

ファクス | 0795-52-3646

開館年月 | 1988.04

複合形態 | ホール・劇場の特性 | 立地都市の人口 | 22,590 人

- ◆ 1. 単独館
- 2. 複合館A
- 3. 複合館B
- 4. その他

- ◆ 1. 音楽
- 2. 演劇・舞踊
- 3. 映像
- 4. 多目的

自主事業予算規模 |

5. 3000万円～5000万円未満

施設規模 |

800席

運営組織体制 |

	スタッフ数	うち自治体派遣職員数	うち外部委託職員数
総務系（総務・人事・経理等）	2	2	0
企画系（企画・制作・広報等）	1	1	0
技術系（舞台・照明・音響等）	3	3	0
その他：臨時友の会	1	1	0
合計	7	7	0
備考：			

名称 | たんば田園交響ホール ステージ・オペレータークラブ、レディーズi(アイ)、レディーズ21

導入時期 | 1987.10

登録人数 | 100 人

導入の経緯・目的等 | 利用者の負担軽減と文化団体・地域住民に、舞台技術に対する知識とノウハウを理解してもらうことによって、文化の発表の機会を増し、演出内容を向上する目的で、開館の1年前より養成講座を実施した。

活動内容 | 1. 企画・制作、3. 舞台・音響・照明等、4. 受付・案内 )  
その他 (

ホール・劇場運営におけるボランティアの位置づけ | 1. 年間運営に対するボランティア )  
その他 ( 2. 個別事業に対するボランティアもあり )

募集方法 | 1. 公募 その他 ( )

任期 | 任期(年) 2年(レディーズ21のみ) 継続 継続あり

研修 | 1. あり 研修内容 養成講座、表方研修会

実費支給 | 1. あり

運営担当者 | 2. 他業務と兼務→ 技術職・照明担当

友の会制度 | 1. あり ボランティアとの関連性 | なし

31. たんば田園交響ホール

具体的なボランティアの活動・業務内容について

舞台、照明、音響の他、搬入、搬出などの面で、ホールの運営をサポート。平成7年度、出役行事日数：113日、出役延べ人数：712人、出役延べ区分数：1,346区分、年間一人当たり平均出役日数：約8日

費用弁償（舞台増員費） 9:00～12:00：1,500円、13:00～17:00：1,500円、18:00～22:00：1,500円、全日：4,500円など

ステージオペレータクラブ総会の開催（自主的運営）、会報誌（アウトステージ）の発行、オペレータ養成講座・技能認定講座・劇団視察研修などの開催、技能認定試験への参加、設備品点検・整備

レディース21委員会：女性に期待される企画と観客動員を安定させる方策を諮問、21人の女性委員で構成。レディースi：公募された36人の女性が、もぎり、客席案内、パンフレット配布などを実施。

ボランティアの運営方法・課題について

9年前に全国で初めての取り組みとして、暗中模索をしてきたが、ボランティア・スタッフの熱心な協力で、先が見えてきた。全国各地からの視察も多く、各地のホールでこの運営が取り上げられ、「丹波方式」と言われている。

人口23,000人の小さな町（周辺地域：5万人弱）で、80%とという高い利用率を支えているのが、ステージ・オペレータ・スタッフであり、住民と身近なスタッフ（150人ぐらいが日常ホールに出入り）がホールとの橋渡し役になっていることが大きい。

文化団体の発表内容も年々向上しており、演出のアドバイスにステージオペレータのメンバーが隣人の関係で協力している。舞台の道具、技術を熟知しないと良い演出はできないが、プロのオペレータは時間をかけてボランティアで協力することはしない。

### 32. 和田山町文化会館（ジュピターホール）

運営母体 | 和田山町

所在地 | 〒669-52 兵庫県朝来郡和田山町玉置877-1

電話 | 0796-72-1000

ファクス | 0796-72-0500

開館年月 | 1992.04

複合形態 | ホール・劇場の特性 | 立地都市の人口 | 17,160 人

- 1. 単独館
- 2. 複合館A
- 3. 複合館B
- 4. その他

- 1. 音楽
- 2. 演劇・舞踊
- 3. 映像
- 4. 多目的

自主事業予算規模 |

2,500万円未満

施設規模 |

大ホール 800席、小ホール 150～200席

運営組織体制 |

	スタッフ数	うち自治体派遣職員数	うち外部委託職員数
総務系（総務・人事・経理等）	6	6	0
企画系（企画・制作・広報等）			0
技術系（舞台・照明・音響等）	3	3	0
その他：	0	0	0
合計	9	9	0
備考： 総務系スタッフが企画系業務も兼務、9名のうち5名は町臨時職員			

名称 | ジュピターホール・スタッフ・クラブ（J.S.C）

導入時期 | 1992.04

登録人数 | 91 人

導入の経緯・目的等 |

ホール利用者の経費負担軽減を図る。また、一般の人の参加によりホールを身近なものとする。これらのことにより、地域の芸術文化に対する意識を高め、文化振興に寄与するため開館当初から導入している。

活動内容 |

3. 舞台・音響・照明等、4. 受付・案内

その他（

ホール・劇場運営におけるボランティアの位置づけ |

2. 個別事業に対するボランティア

その他（

募集方法 |

1. 公募          その他（

任期 |

任期（年）          継続

研修 |

1. あり          研修内容          他館への視察外

実費支給 |

1. あり

運営担当者 |

2. 他業務と兼務 →          事務、技術

友の会制度 |

1. あり          ボランティアとの関連性 | なし

32. 和田山町文化会館（ジュピターホール）

具体的なボランティアの活動・業務内容について

以下の部門に分けて活動。①舞台部---舞台大道具等の設営・転換等、大道具の制作  
②音響部---舞台音響の設営、録音・編集 ③照明部---舞台照明の設営、センタースポット等の操作 ④アナウンス---催し物時のアナウンス（影アナも含む）、催し物広報アナウンス  
⑤コア部---もぎり、客席案内、楽屋接待、客席・楽屋清掃 他に搬入・搬出等も行う。

ボランティアの運営方法・課題について

運営方法：・ジュピターホールスタッフクラブ（J.S.C.）を結成し、三役の設置、各部に部長、副部長を設置し、自主的に活動するよう組織作りをしている。

各部月1回部会を開催し、出役調整を実施している。技術研修等を各部で実施している（視察研修含む）。懇親会の開催等。

課題：参加者が年がたつと固定してくるのが問題。

### 33. 広島市安佐北区民文化センター

運営母体 | (財)広島市文化振興事業団

所在地 | 〒731-02 広島県広島市安佐北区可部7-28-25

電話 | 082-814-0370

ファクス | 082-814-0770

開館年月 | 1983.05

複合形態 | ホール・劇場の特性 | 立地都市の人口 | 1,082,222 人

- 1. 単独館
- 2. 複合館A
- 3. 複合館B
- 4. その他

- 1. 音楽
- 2. 演劇・舞踊
- 3. 映像
- 4. 多目的

自主事業予算規模 | 3,500万～1000万円未満

施設規模 | 705席（車椅子席7席含）

運営組織体制 |

	スタッフ数	うち自治体派遣職員数	うち外部委託職員数
総務系（総務・人事・経理等）			
企画系（企画・制作・広報等）			
技術系（舞台・照明・音響等）			
その他：			
合 計			
備考：			

名 称 | あさきた市民ミュージカル

導入時期 | 1995 登録人数 | 人

導入の経緯・目的等 | 地域での事業の主体を地域住民に持って頂き、地域で育てていく事業との位置づけを明確にする事を目的とする。

活動内容 | 1. 企画・制作、2. 広報・宣伝、3. 舞台・音響・照明等、4. 受付・案内  
その他（ ）

ホール・劇場運営におけるボランティアの位置づけ | 2. 個別事業に対するボランティア  
その他（ ）

募集方法 | 2. 口コミ その他（ ）

任 期 | 任期（年） 継続

研 修 | 1. あり 研修内容 舞台・音響・照明等講座

実費支給 | 2. なし

運営担当者 | 2. 他業務と兼務→ ホール操作・事業

友の会制度 | 2. なし ボランティアとの関連性 |

具体的なボランティアの活動・業務内容について

「あさきた市民ミュージカル」という事業を基礎に、1.企画・制作を行う実行委員会を設置。  
実行委員会のメンバーから広がってゆく 2.広報・宣伝、4.受付・案内要員としてのボランティア。

ボランティアの運営方法・課題について

経費面で予算化していないため、交通費・食事を支給していない。  
ボランティアという認識でなく、事業を実施するスタッフの一人としての認識と、事業目的での意識の統一を図っている。

### 34. 瀬戸田町民会館 ベルカントホール

運営母体 | 瀬戸田町教育委員会

所在地 | 〒722-24 広島県豊田郡瀬戸田町大字瀬戸田535-1

電話 | 08452-7-3848

ファクス | 08452-7-2273

開館年月 | 1986.02

複合形態 | ホール・劇場の特性 | 立地都市の人口 | 10,586 人

- 1. 単独館
- 2. 複合館A
- 3. 複合館B
- 4. その他

- 1. 音楽
- 2. 演劇・舞踊
- 3. 映像
- 4. 多目的

自主事業予算規模 | 3,500万～1000万円未満

施設規模 | 646席

運営組織体制 |

	スタッフ数	うち自治体派遣職員数	うち外部委託職員数
総務系（総務・人事・経理等）	0	0	0
企画系（企画・制作・広報等）	3	3	0
技術系（舞台・照明・音響等）	0	0	0
その他：	0	0	0
合 計	3	3	0
備考：			

名 称 | ベルカントホール公演実行委員会

導入時期 | 1987.04

登録人数 | 12 人

導入の経緯・目的等 | 地域住民の為のホールであり、広く地域の声を聞くため。

活動内容 | 1. 企画・制作、4. 受付・案内

その他（

ホール・劇場運営におけるボランティアの位置づけ |

1. 年間運営に対するボランティア

その他（

募集方法 |

2. 口コミ その他（

任 期 |

任期（年）

継続

研 修 |

2. なし

研修内容

実費支給 |

2. なし

運営担当者 |

1. 専従者→

町民会館

友の会制度 |

2. なし

ボランティアとの関連性 |



34. 瀬戸田町民会館 ベルカントホール

具体的なボランティアの活動・業務内容について

1. 企画・制作：事務局が演奏会の情報を求め、次年度の演奏会の企画を協議してもらう。
4. 受付・案内：受付関係の表方をサポートしてもらう。

ボランティアの運営方法・課題について

小さな町で青年層の人口が少なく、ボランティアの新人が集まらない。若い層の意思がくみ取れない。

### 35. サンプルホールぬまくま

運営母体 | 沼隈町

所在地 | 〒720-03 広島県沼隈郡沼隈町大字草深1890-4

電話 | 0849-87-1313

ファクス | 0849-87-2382

開館年月 | 1988.04

複合形態 | ホール・劇場の特性 | 立地都市の人口 | 13,630 人

- 1. 単独館
- 2. 複合館A
- 3. 複合館B
- 4. その他

- 1. 音楽
- 2. 演劇・舞踊
- 3. 映像
- 4. 多目的

自主事業予算規模 |  
3,500万～1000万円未満

施設規模 |  
500席

運営組織体制 |

	スタッフ数	うち自治体派遣職員数	うち外部委託職員数
総務系（総務・人事・経理等）	1	1	0
企画系（企画・制作・広報等）	0	0	0
技術系（舞台・照明・音響等）	0	0	0
その他：	0	0	0
合 計	1	0	0
備考： 兼務			

名 称 | サンプルコンサート実行委員会

導入時期 | 1989.04

登録人数 | 15 人

導入の経緯・目的等 |

「コンサート等の公演を通し、沼隈町の文化振興に寄与するとともに、伝統文化の継承活動等を通じて、文化の香り高いまちづくりを推進し、沼隈町発展の一翼を担う」ことを目的とし、ホールの開館と同時に結成。

活動内容 |

1. 企画・制作、2. 広報・宣伝、3. 舞台・音響・照明等、4. 受付・案内

その他（ ）

ホール・劇場運営におけるボランティアの位置づけ |

1. 年間運営に対するボランティア

その他（ ）

募集方法 |

2. 口コミ その他（当初は町が主導

任 期 |

任期（年） 2年 継続 継続あり

研 修 |

1. あり 研修内容 同和問題学習等

実費支給 |

2. なし

運営担当者 |

2. 他業務と兼務→ 文化産業係

友の会制度 |

1. あり ボランティアとの関連性 | なし

具体的なボランティアの活動・業務内容について

1. 企画・制作：実行委員会で検討、2. 広報・宣伝：ポスターの掲示、チラシ配布、3. 舞台・音響・照明等：場内アナウンス、4. 受付・案内：当日の受付・案内、6. その他：出演者に対するケータリング

ボランティアの運営方法・課題について

定例会（月1回）を開催し、コンサート等の計画・準備、当日の役割、チケットの販売状況等の情報交換をし、事務局との連携を密にするよう心がけている。

### 36. 八雲村林間劇場 しいの実シアター

運営母体 | 八雲村（管理は劇団あしぶえ）

所在地 | 〒690-21 島根県八雲郡八雲村平原481-1

電話 | 0852-54-2400

ファックス | 0852-54-2411

開館年月 | 1995.08

複合形態 | ホール・劇場の特性 | 立地都市の人口 | 6,868 人

- 1. 単独館
- 2. 複合館A
- 3. 複合館B
- 4. その他

- 1. 音楽
- 2. 演劇・舞踊
- 3. 映像
- 4. 多目的

自主事業予算規模 |

1. なし

施設規模 |

108席(車イス4席含)

運営組織体制 |

	スタッフ数	うち自治体派遣職員数	うち外部委託職員数
総務系（総務・人事・経理等）	2	1	1
企画系（企画・制作・広報等）	2	1	1
技術系（舞台・照明・音響等）	3	0	3
その他：	0	0	0
合計	7	2	5
備考： 劇団「あしぶえ」による運営(外部委託に記載)			

名称 | 劇団あしぶえの登録団員

導入時期 | 1995.10

登録人数 | 12 人

導入の経緯・目的等 | 劇団に入団はできないが、「できる形で応援したい」という人を中心に「登録団員制度」を始めたのがきっかけ

活動内容 | 2. 広報・宣伝、3. 舞台・音響・照明等、 )

その他 (

ホール・劇場運営におけるボランティアの位置づけ |

3. その他

その他 ( 運営すべてに関わるボランティア ) )

募集方法 | その他 (

任期 | 任期(年) 継続

研修 | 研修内容

実費支給 |

運営担当者 |

友の会制度 | ボランティアとの関連性 |

36. 八雲村林間劇場 しいの実シアター

具体的なボランティアの活動・業務内容について

2. ポスター貼り、口コミ宣伝、ニュースのワープロ打ち、ダイレクトメール表書き
3. 表方（チケットもぎり、駐車場誘導、ティーサービス、グッズ販売、会場整理）
6. 劇団員稽古と来客者のための食事づくり（近くで食事ができないため）

工夫：人間関係を大切にしている（劇団員と登録団員、登録団員同志）。 具体策：・挨拶をかわすこと、・交流会を持つこと、・劇団員から登録団員に声かけ、・お互いの情報交換

ボランティアの運営方法・課題について

課題：①「登録団員」という名前では内容が見えにくいので、次回から現代感覚の「アート・ボランティア」という名称で呼びたいと思っている。②「劇団あしぶえのアート・ボランティア」ではなく「しいの実シアターのアートボランティア」としての位置付けに発展させたい。

### 37. 三朝町総合文化ホール

運営母体 | (財)三朝町ふるさと振興財団

所在地 | 〒682-01 鳥取県東伯郡三朝町大瀬999-2

電話 | 0858-43-3512

ファクス | 0858-43-0647

開館年月 | 1995.05

複合形態 | ホール・劇場の特性 | 立地都市の人口 | 8,430 人

- 1. 単独館
- 2. 複合館A
- 3. 複合館B
- 4. その他

- 1. 音楽
- 2. 演劇・舞踊
- 3. 映像
- 4. 多目的

自主事業予算規模 | 3. 500万～1000万円未満

施設規模 | 404席

運営組織体制 |

	スタッフ数	うち自治体派遣職員数	うち外部委託職員数
総務系（総務・人事・経理等）	1	0	0
企画系（企画・制作・広報等）	0	0	0
技術系（舞台・照明・音響等）	0	0	0
その他：館の管理業務	1	0	0
合 計	2	0	0
備考：			

名 称 | 三朝町オペレーター倶楽部[MOC]

導入時期 | 1995.04

登録人数 | 30 人

導入の経緯・目的等 | 総合文化ホールで実施される事業に対しての参加・協力・オペレーション活動を通じて、地域文化の発展に寄与する、また会員相互の親睦と交流を図ることを目的とする。

活動内容 | 3. 舞台・音響・照明等 )

その他 (

ホール・劇場運営におけるボランティアの位置づけ |

2. 個別事業に対するボランティア

その他 ( ) )

募集方法 | 1. 公募 その他 (

任 期 | 任期(年) 1年 継続 継続あり

研 修 | 1. あり 研修内容 他ホールへの派遣、定期的研修会

実費支給 | 1. あり

運営担当者 | 2. 他業務と兼務→ 一般事務

友の会制度 | 2. なし ボランティアとの関連性 |

具体的なボランティアの活動・業務内容について

3. 舞台・音響・照明等に関する活動内容：①町の事業・行事への参加協力、②貸館事業への協力、③館の主催事業への参加協力、④全体及び各部門毎の研修会の実施

ボランティアの運営方法・課題について

①技術の専門研修機会（場所・指導者）が少ない、②2年目になるが新しく入会した人との技術の差がつき、全体のレベルアップが難しい、③部門ごとの連絡網をつくって館及び勉強会等の連絡は全体に行き渡るよう工夫している。

### 38. 生涯学習施設「アクティブライフ井原」

運営母体 | 井原市

所在地 | 〒715 岡山県井原市七日市町12-1

電話 | 0866-63-3347

ファクス | 0866-63-3348

開館年月 | 1994.06

複合形態 | ホール・劇場の特性 | 立地都市の人口 | 36,282 人

- 1. 単独館
- 2. 複合館A
- 3. 複合館B
- 4. その他

- 1. 音楽
- 2. 演劇・舞踊
- 3. 映像
- 4. 多目的

自主事業予算規模 |

2,500万円未満

施設規模 |

401席

運営組織体制 |

	スタッフ数	うち自治体派遣職員数	うち外部委託職員数
総務系（総務・人事・経理等）	12	10	0
企画系（企画・制作・広報等）	0	0	2
技術系（舞台・照明・音響等）	0	0	0
その他：	0	0	0
合 計	12	8	2
備考：			

名 称 | アクティブライフ井原「まなびめいと」

導入時期 | 1995.09

登録人数 | 75 人

導入の経緯・目的等 | 市民主体の生涯学習推進組織の中に学習を支援するボランティア部会を設置している。

活動内容 | 1. 企画・制作、2. 広報・宣伝、3. 舞台・照明・音響、4. 受付・案内

その他（

ホール・劇場運営におけるボランティアの位置づけ | 2. 個別事業に対するボランティア

その他（

募集方法 | 1. 公募                      その他（

任 期 |                                      任期（年）                                      継続

研 修 | 1. あり                                      研修内容

実費支給 | 1. あり

運営担当者 | 2. 他業務と兼務→

友の会制度 | 1. あり                                      ボランティアとの関連性 | あり



38. 生涯学習施設「アクティブライフ井原」

具体的なボランティアの活動・業務内容について

現段階では、施設運営上の行政が行わなければならないものとは切り放して、市民が要求する課題を「まなびめいと」が企画・立案・実施するものとしている。

生涯学習的なボランティア（①市民主体の生涯学習の推進体制、②生涯学習ボランティアの活動と生涯学習の推進、③生涯学習の支援）

ボランティアの運営方法・課題について

昨年9月8日に発会をした「まなびめいと」のボランティア部会は、日が浅く、会員ひとり一人の意識の確立が急務で、これから研修会を充実させて、一人立ちできるようにしていきたいと考えている。

「ボランティア部会」、「学習部会」の設置、「まなびめいと規約」の設置

### 39. 津山文化センター

運営母体 | (財)津山文化振興財団

所在地 | 〒708 岡山県津山市山下68

電話 | 0868-24-0201

ファックス | 0868-24-1199

開館年月 | 1966.01

複合形態 | ホール・劇場の特性 | 立地都市の人口 | 88,822 人

- 1. 単独館
- 2. 複合館A
- 3. 複合館B
- 4. その他

- 1. 音楽
- 2. 演劇・舞踊
- 3. 映像
- 4. 多目的

自主事業予算規模 | 4. 1000万円～3000万円未満

施設規模 | 1084席

運営組織体制 |

	スタッフ数	うち自治体派遣職員数	うち外部委託職員数
総務系（総務・人事・経理等）	4	1	
企画系（企画・制作・広報等）	4	2	
技術系（舞台・照明・音響等）	6	0	
その他：	0	0	
合 計	14	3	
備考：			

名 称 |

導入時期 | 1992.04

登録人数 | 25 人

導入の経緯・目的等 |

当財団には「市民芸術劇場」という鑑賞団体があり、このメンバーがボランティアとして企画、例会の当日もぎりに協力、また財団情報誌の編集に参加している。現在はステージラボという講習会を開催し交流を育成中である。

活動内容 |

1. 企画・制作、2. 広報・宣伝、4. 受付・案内

その他（

ホール・劇場運営におけるボランティアの位置づけ |

1. 年間運営に対するボランティア

その他（

募集方法 |

3. その他      その他      (鑑賞団体のメンバーより選出)

任 期 |

任期(年)      継続

研 修 |

2. なし      研修内容

実費支給 |

2. なし

運営担当者 |

2. 他業務と兼務→      事業係

友の会制度 |

2. なし      ボランティアとの関連性 |

具体的なボランティアの活動・業務内容について

1. 市民芸術劇場の年間6回の例会の公演選定の企画委員会に参加する。
2. ポスター等を市内へ掲示することへの協力と財団情報誌の編集に参加して記事を書く。
4. 例会当日、受付・もぎり等への協力などを行っている。

ボランティアの運営方法・課題について

財団としては、より施設に係わる人を多く育てたいと「ステージラボ」という講習会を開催している。大道具・小道具・メイクの講習からステージの音響・照明・演奏会の企画から開催までなどの講座を開き、育成に努めている。

問題点としては、毎回参加者が変わってヘルプにつながらない点と、財団主催なので利用しているイメージがある。

現在はより多くの人に参加できるように分野を広くしているので、より専門的な高度な研修が出来ない。また、高度なステージスタッフの研修となると、講師の選定費用を伴うものとなる。人材育成の中でボランティアとしてどう扱うかまだ未定でもある。

## 40. 丹原町文化会館

運営母体 | 丹原町

所在地 | 〒791-05 愛媛県周桑郡丹原町大字田野上方2131-1

電話 | 0898-68-3555

ファクス | 0898-68-3571

開館年月 | 1993.05

複合形態 | ホール・劇場の特性 | 立地都市の人口 | 14,614 人

- 1. 単独館
- 2. 複合館A
- 3. 複合館B
- 4. その他

- 1. 音楽
- 2. 演劇・舞踊
- 3. 映像
- 4. 多目的

自主事業予算規模 |

4. 1000万円～3000万円未満

施設規模 |

大ホール・892席（身障者・母子席含） 小ホール・200人程度

運営組織体制 |

	スタッフ数	うち自治体派遣職員数	うち外部委託職員数
総務系（総務・人事・経理等）	3	3	0
企画系（企画・制作・広報等）	2	2	0
技術系（舞台・照明・音響等）		0	0
その他：清掃委託、管理委託	2	0	2
合 計	7	0	2
備考： 技術系スタッフは、総務系・企画系スタッフが兼務			

名 称 | 丹原町文化会館ボランティアスタッフ会

導入時期 | 1993.05

登録人数 | 50 人

導入の経緯・目的等 | 会館のオープンにあわせて住民の文化の創造と生涯教育の場として、より一層の有効活用をするための運営の協力を目的とする。

活動内容 | 2. 広報・宣伝、3. 舞台・音響・照明等、4. 受付・案内 )

その他 (

ホール・劇場運営におけるボランティアの位置づけ | 1. 年間運営に対するボランティア

その他 ( ) )

募集方法 | 1. 公募 その他 (

任 期 | 任期(年) 継続

研 修 | 1. あり 研修内容 技術研修(音響・照明)

実費支給 | 2. なし

運営担当者 |

友の会制度 | 2. なし ボランティアとの関連性 |

具体的なボランティアの活動・業務内容について

2. 広報・宣伝：自主事業時のポスター掲示等の手伝い。
3. 舞台・音響・照明等：会館からの要請により手伝う。
4. 受付・案内：自主事業に際し、機材の搬入・搬出、仕込みの手伝い、駐車場・場内整理、もぎり等を実施している。

ボランティアの運営方法・課題について

各種事業への参加者の少数固定化

会員の一事業、一参加を呼びかけている。

スタッフ会主催の自主事業を実施しているが、資金不足のため企画・運営等に支障をきたしている。（低価格で中味の濃い事業実施を心がけている。）

## 41. 福岡県春日市ふれあい文化センター

運営母体 | (財)春日市文化スポーツ振興公社

所在地 | 〒816 福岡県春日市大谷6-24

電話 | 092-584-3366

ファクス | 092-501-1669

開館年月 | 1995.04

複合形態 | ホール・劇場の特性 | 立地都市の人口 | 97,939 人

- 1. 単独館
- 2. 複合館A
- 3. 複合館B
- 4. その他

- 1. 音楽
- 2. 演劇・舞踊
- 3. 映像
- 4. 多目的

自主事業予算規模 |

7.1億円以上

施設規模 |

中ホール 600席、小ホール 302席

運営組織体制 |

	スタッフ数	うち自治体派遣職員数	うち外部委託職員数
総務系（総務・人事・経理等）	6	6	0
企画系（企画・制作・広報等）	11	8	3
技術系（舞台・照明・音響等）	2	0	2
その他：	0	0	0
合計	19	14	5
備考：			

名称 | K'S-CREW（ケイズクルー）

導入時期 | 1995.03

登録人数 | 35 人

導入の経緯・目的等 |

地域に密着した施設、市民の姿が見える企画を提供していくことを目的とし、オープン1ヶ月前に発足。

活動内容 |

1. 企画・制作、2. 広報・宣伝、3. 舞台・音響・照明等、4. 受付・案内

その他（ ）

ホール・劇場運営におけるボランティアの位置づけ |

1. 年間運営に対するボランティア

その他（ ）

募集方法 |

1. 公募                      その他（ ）

任期 |

任期（年）                      継続

研修 |

2. なし                      研修内容

実費支給 |

1. あり

運営担当者 |

2. 他業務と兼務 →                      企画・広報

友の会制度 |

1. あり                      ボランティアとの関連性 | なし

41. 福岡県春日市ふれあい文化センター

具体的なボランティアの活動・業務内容について

- ①アコースティックトークライブ（毎月1回）及びサンホールライブ（3～4月に1回）の企画・運営。11月実施の文化祭におけるリレートークライブ（年1回）及び同時進行のイベント（本年はフリーマーケット）の企画・運営。
- ②上記の広報活動（チラシ配布・ポスター貼りなど）。
- ③アコースティックトークライブにおける音響・照明（極めて簡易なもの）を担当。
- ④センター自主事業全般にわたるチケットもぎり等のサポート

ボランティアの運営方法・課題について

- ①工夫している点：・有償ボランティアとし、サポートメンバーに対する実費支給している。この中からグループの活動資金もプールされている。・30歳未満の未婚の男女を対象とし、近い将来公募する「おばちゃんボランティア」と年代区別する。
- ②課題：・強力なコアスタッフが機能するためにあと一步のところ。・仕事を持っているメンバーが主の為、希望通りのサポートメンバーが集まらない場合がある。・自主運営組織として自立させたい。

## 42. 飯塚市文化会館（飯塚コスモスコモン）

運営母体 | (財)飯塚市教育文化振興事業団

所在地 | 〒820 福岡県飯塚市飯塚14-66

電話 | 0948-21-0505

ファックス | 09448-21-0606

開館年月 | 1992.01

複合形態 | ホール・劇場の特性 | 立地都市の人口 | 82,772 人

- ◆ 1. 単独館
- ◆ 2. 複合館A
- ◆ 3. 複合館B
- ◆ 4. その他

- ◆ 1. 音楽
- ◆ 2. 演劇・舞踊
- ◆ 3. 映像
- ◆ 4. 多目的

自主事業予算規模 |

6,500万円～1億円未満

施設規模 |

大ホール/1504席/音楽、中ホール/582席/演・舞、展示ホール/312席

運営組織体制 |

	スタッフ数	うち自治体派遣職員数	うち外部委託職員数
総務系（総務・人事・経理等）	6	4	0
企画系（企画・制作・広報等）	4	2	0
技術系（舞台・照明・音響等）	6	2	4
その他：施設管理・駐車場担当	6	0	0
合計	22	8	4
備考：			

名称 | 飯塚コスモス芸術祭実行委員会

導入時期 | 1993.04

登録人数 | 9 人

導入の経緯・目的等 |

地域で活動している文化団体をはじめ、地域に残る伝統芸能等を発掘し、広く市民に対して発表活動を企画するなど、市民の新たな文化活動参加への意欲の促進ならびに団体相互の連携を図る。

活動内容 |

1. 企画・制作、2. 広報・宣伝、3. 舞台・音響・照明等、4. 受付・案内

その他（ )

ホール・劇場運営におけるボランティアの位置づけ |

2. 個別事業に対するボランティア

その他（ )

募集方法 |

3. その他 その他 (依頼

任期 |

任期(年) 2年

継続 継続あり

研修 |

2. なし

研修内容

実費支給 |

2. なし

運営担当者 |

2. 他業務と兼務→

自主事業

友の会制度 |

1. あり

ボランティアとの関連性 | なし



42. 飯塚市文化会館（飯塚コスモスコモン）

具体的なボランティアの活動・業務内容について

1. 企画・制作：プログラムの通り、全体の構成を考えてプログラムを決定・制作を行う。
2. 広報・宣伝：口コミ、ポスター、チラシの配布。
3. 舞台・音響・照明等：舞台制作ワークショップの生徒による大道具・小道具の制作舞台進行。
4. 受付・案内：もぎり、場内整理等。

ボランティアの運営方法・課題について

実行委員の年齢が高くなっているため、今後この人たちの後をつぐ人たちを育てていくシステムを考えている。

スタッフ制度の実施。

### 43. 佐敷町文化センター シュガーホール

運営母体 | 佐敷町教育委員会

所在地 | 〒901-14 沖縄県島尻郡佐敷町字佐敷307

電話 | 098-947-1100

ファックス | 098-947-0099

開館年月 | 1994.06

複合形態 | ホール・劇場の特性 | 立地都市の人口 | 11,137 人

- 1. 単独館
- 2. 複合館A
- 3. 複合館B
- 4. その他

- 1. 音楽
- 2. 演劇・舞踊
- 3. 映像
- 4. 多目的

自主事業予算規模 |

4. 1000万円～3000万円未満

施設規模 |

525席

運営組織体制 |

	スタッフ数	うち自治体派遣職員数	うち外部委託職員数
総務系（総務・人事・経理等）	1	1	0
企画系（企画・制作・広報等）	3	1	2
技術系（舞台・照明・音響等）	3	2	1
その他：	0	0	0
合計	7	4	3
備考： 外部委託には嘱託含む			

名称 |

導入時期 | 1994.06

登録人数 | 30 人

導入の経緯・目的等 | 自主事業などの開催時、職員だけでは対応ができず、補助してもらうため。

活動内容 | 4. 受付・案内

その他（

ホール・劇場運営におけるボランティアの位置づけ | 2. 個別事業に対するボランティア

その他（

募集方法 | 1. 公募      その他（

任期 |      任期（年）      継続

研修 | 2. なし      研修内容

実費支給 | 1. あり

運営担当者 | 2. 他業務と兼務→      事業係

友の会制度 | 2. なし      ボランティアとの関連性 |

43. 佐敷町文化センター シュガーホール

具体的なボランティアの活動・業務内容について

普段は受付と会場係だけで足りることが多いが、出演者が多い場合、アナウンスが必要な場合、舞台裏方が必要な場合等、その催しに応じて係りを分担。アナウンサーに関しては、フリーのアナウンサーがボランティアとして登録されているので助かっている。

構成メンバーは、高校生～一般・主婦となっている。

ボランティアの運営方法・課題について

現在は受付・案内が主なので、それ以外の業務へも拡大したい。主催事業の開催の都度に、ホール職員が直接電話で確認の上、人数を確保している状況なので、ボランティア同志の連絡網や年間計画(係り分担を含めた)を作りたい。

3. 舞台・音響・照明等に関する研修も行っていきたい。

FAX:「ファックス番号」

1996年6月19日

「施設名」

「部署・役職」

「氏名」

(株)ニッセイ基礎研究所  
芸術文化研究担当

「公共ホール・劇場とボランティアに関する調査」ご協力をお願い

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、この度、私どもニッセイ基礎研究所では、財団法人地域創造より委託を受けて、標記の調査を実施することとなりました。

この調査は、最近、公共のホールや劇場の運営において関心の高まっているボランティアに関して、国内外の事例を調査し、今後の公共ホール・劇場における望ましいボランティアのあり方を検討しようというものです。

つきましては、国内の事例調査の一環として、皆様方のホールや劇場におけるボランティア制度の概要について、情報・資料提供のご協力を賜りたくお願い申し上げます。ご回答は、別紙質問票に該当事項をご記入の上、下記要領に沿ってファックスにてご返送ください。

お忙しいところ誠に恐縮に存じますが、本調査の趣旨をご理解の上、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

敬 具

記

1. 質問票：空欄に該当事項をご記入の上、ファックスにてご返送ください（選択肢のあるものは該当項目の口をチェックしてください）。
2. 関係資料：貴ホール・劇場のボランティア制度に関する資料（館側の運営資料、募集要項・チラシ、雑誌・新聞紹介記事等）がございましたら、上記質問票と一緒にお送りください（資料枚数が多い場合は、下記担当者にご相談ください）。
3. 締め切り：6月26日（水）
4. 連絡先・担当者：〒100 東京都千代田区有楽町 1-1-1

ニッセイ基礎研究所 担当：吉本、片岡、柄田

TEL:03-3597-8436, FAX:03-5512-7161

[財団法人地域創造 担当者：加川／TEL:03-5573-4066]



FAX:03-5512-7161

ニッセイ基礎研究所 芸術文化研究担当 吉本・片岡 行

1. 施設の特性

- 施設名称 : \_\_\_\_\_
- 運営母体 : \_\_\_\_\_
- 所在地 : 〒 \_\_\_\_\_
- 連絡先 : TEL: \_\_\_\_\_ FAX: \_\_\_\_\_
- 開館年月 : \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月
- 複合形態 : 1. 単独館 (ホール・劇場だけを持つ施設)  
2. 複合館 A (美術館・ギャラリーなどと併設)  
3. 複合館 B (図書館、福祉センターや公民館などと併設)
- ホール・劇場の特性 (最も主要な用途を選択ください) :  
1. 音楽      2. 演劇・舞踊      3. 映像      4. 多目的
- 施設規模 (座席数/複数のホールがある場合は大、中、小などの別に記入ください) :  
 \_\_\_\_\_
- 自主事業予算規模 :  
1. なし      2. 500 万円未満      3. 500 万～1,000 万円未満  
4. 1,000 万～3,000 万円未満      5. 3,000 万～5,000 万円未満  
6. 5,000 万～1 億円未満      7. 1 億円以上
- 組織構成 :

	スタッフ数	内自治体(派遣)職員数	内外部委託職員数
総務系 (総務・人事・経理等)			
企画系 (企画・制作・広報等)			
技術系 (舞台・照明・音響等)			
その他 ( _____ )			
計			

\*スタッフ数はボランティア以外の常駐スタッフについて全てカウントしてご記入ください (外部委託業者からの派遣スタッフも含む)。  
 \*外部委託職員数については、該当する場合のみご記入ください。  
 \*上記内容を整理した組織表もしくは組織図がございましたら、施設名を記入の上、ファックスにてご返送ください (その場合上記の表へのご記入、返送は不要です)。

2. 導入しているボランティア制度の概要

- 導入の経緯・目的 : \_\_\_\_\_  
 \_\_\_\_\_
- 導入時期 : \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月      • 人数 : \_\_\_\_\_ 人
- 名 称 : \_\_\_\_\_
- ホール・劇場運営におけるボランティアの位置づけ :  
1. 年間運営に対するボランティア      2. 個別事業に対するボランティア  
3. その他 (具体的に \_\_\_\_\_)

2.導入しているボランティア制度の概要（続き）

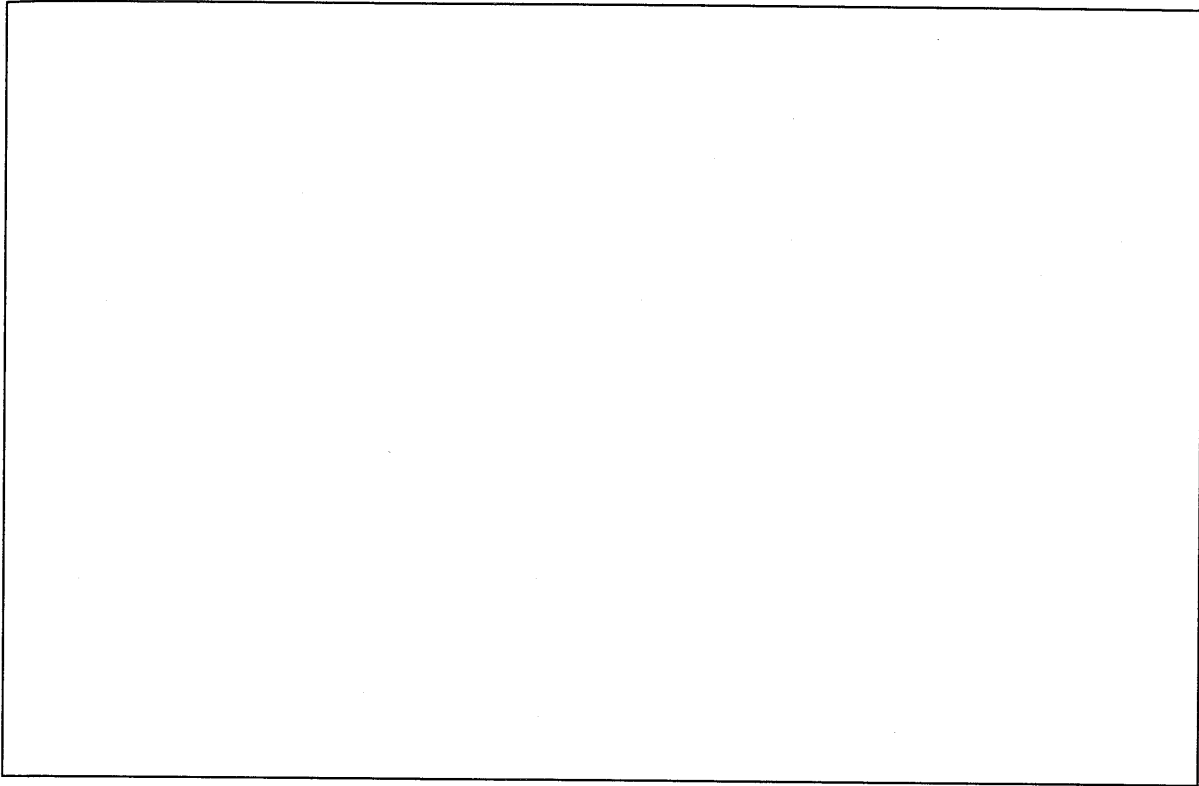
- ボランティアの活動内容（該当項目をすべてチェックください）：
  - 1. 企画・制作
  - 2. 広報・宣伝
  - 3. 舞台・音響・照明等（裏方サポート）
  - 4. 受付・案内（表方サポート）
  - 5. 教育普及活動（シアターガイド、ワークショップ等のサポート）
  - 6. その他（具体的に\_\_\_\_\_）
- ボランティアの募集方法：
  - 1. 公募
  - 2. 口コミ
  - 3. その他（具体的に\_\_\_\_\_）
- ボランティアの任期：
  - 1. あり⇒（\_\_\_\_\_年、 継続あり  継続なし）
  - 2. なし
- ボランティアに対する研修：
  - 1. あり（具体的に\_\_\_\_\_）
  - 2. なし
- 実費支給（交通費等）：1. あり 2. なし
- ボランティア運営担当者：
  - 1. 専従者（所属部署\_\_\_\_\_）
  - 2. 他業務と兼務（他業務\_\_\_\_\_）
- 友の会制度：
  - 1. あり⇒（ボランティアとの関連性： あり  なし）
  - 2. なし

3.具体的なボランティアの活動・業務内容について

前記「1.企画・制作、2.広報・宣伝、3.舞台・音響・照明等、4.受付・案内、5.教育普及活動、6.その他」の該当番号を記入の上、具体的な活動・業務の内容を記述ください（ボランティアの活動内容を整理した参考資料をお送りいただける場合は、ご記入いただかなくても結構です）。

#### 4. ボランティアの運営方法・課題について

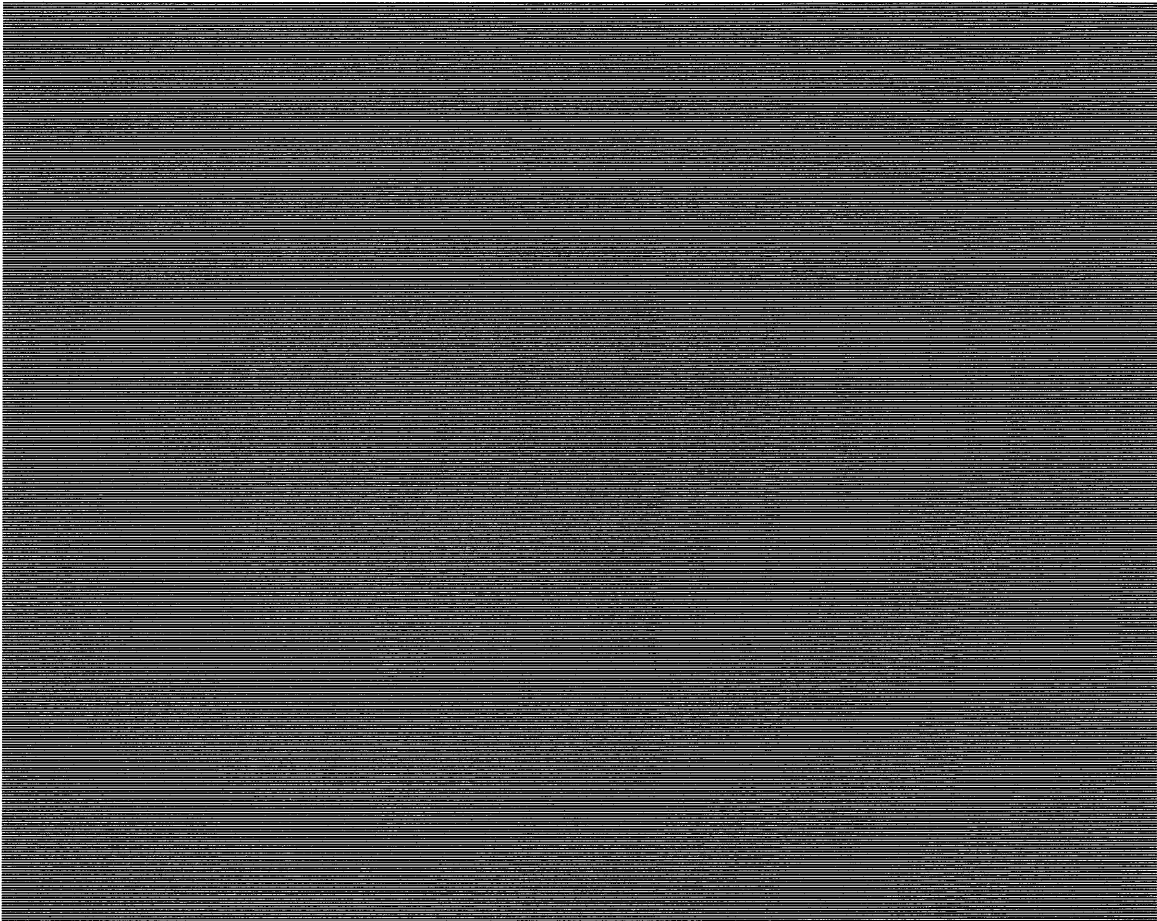
ボランティアの運営で工夫している点、現在の問題点・課題等をご記入ください。



ご協力どうもありがとうございました。







## 資料編 **2** :

### 主要な公共ホール・劇場におけるボランティア活動の実態 —館側及びボランティア従事者へのインタビュー調査結果—

I. 喜多方プラザ文化センター	資2- 1
II. 中島町文化センター・能登演劇堂	資2-13
III. 武生市文化センター／武生国際音楽祭	資2-23
IV. いまだて芸術館	資2-35
V. 大阪府立青少年会館／プラネット・ステーション	資2-43
VI. たんば田園交響ホール	資2-53
VII. 春日市ふれあい文化センター	資2-65

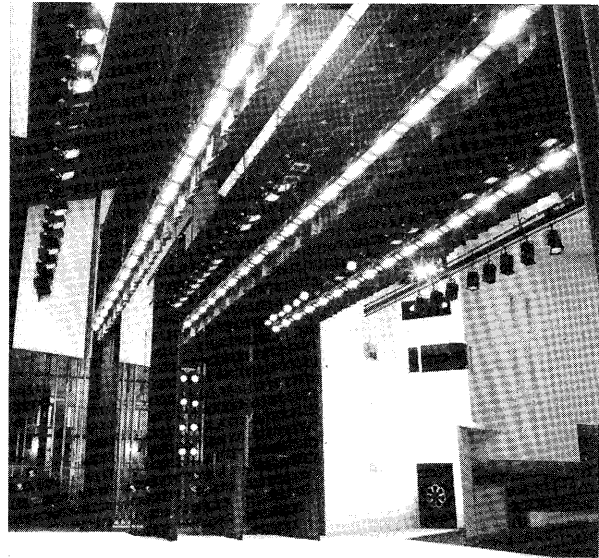


## I. 喜多方プラザ文化センター

公共ホール・劇場の舞台・音響・照明など「うらかた」に特化したボランティアとして全国的にも早い時期に導入され、1983年以來10年以上の活動歴がある。「日本舞台研究者連絡会」事務局。「うらかた」以外にも市民による複数の企画・鑑賞団体が組織されている。

### 施設・運営の概要

運営母体	喜多方地方広域市町村圏組合
所在地	福島県喜多方市字押切川向 5364-1
TEL	0241-24-4611
FAX	0241-24-4611
開館年月	1983年11月
複合形態	複合施設
施設特性	音楽ホール
座席数	大ホール1176席、小ホール400席
自主事業予算	年間2,500万～3,600万円
自主事業数	年間20本（平成6年度）
立地都市人口	37,227人
組織体制	8名（プラザ運営専任スタッフ4名、兼務者4名の計8名が通常の運営スタッフ。中央公民館を併設しており、自主事業等の大きな催しは公民館専任職員を含む14名で対応する。）



### ☺ ボランティア制度の概要

名称	・舞台研究会「うらかた」
導入時期	・1983年7月
登録人数	・約40名（うち女性5名。年齢層は30～40代、三分の一は設立当初からのメンバー）
導入の経緯	・もともとは、裏方の技術スタッフがいなかったことがきっかけ。舞台芸術に関する技術の研修を行い、技術協力を積極的に行って、喜多方地方広域市町村圏内における文化活動発展に寄与することを目的に設立された。
活動内容	・舞台・音響・照明等
募集方法	・公募、口コミ
研修	・喜多方プラザの技術職員による研修、他ホール等への研修旅行など
実費支給	・あり。半日、昼間、全日 各5,000円、7,000円、10,000円。報酬の5%は舞台研究会「うらかた」の事務局に戻入。
その他	・「うらかた」が実際にオペレーションを行うのは地元の出演者による催しがほとんど。プロの公演の時には通常主催者側でオペレーターを連れてくる。 ・年間の公演回数は50～60回。各回ごとに仕込み、リハーサル、本番や打ち合わせがある。

## 施設側インタビュー記録

### 1. ボランティア制度導入の経緯

#### (1) 開館準備からボランティア導入まで

- 施設の開館は1983年11月1日で、その約3ヶ月前の7月29日にボランティアの設立総会を開催した。
- 施設建設中の1983年4月にセンターの準備室ができ、当時の企画担当者が建設中の施設を見て、それまで喜多方にあった厚生会館（集会場的な施設）と違って、本格的な技術スタッフがいないと対応できないと考えていた。
- そこで当時、東京で PA などの音響オペレーション関係の仕事をしていた現在の音響担当のスタッフ（喜多方出身）を迎えることとした（4/25日付け）。その後、現在の舞台担当のスタッフが8月1日に、照明担当のスタッフが10月1日に加わった。
- 4月末に、オープニング事業として決まっていた新日本フィルの演奏会とNHK のど自慢を実施するためには、ホール側としてどのような技術スタッフが必要か調査した結果、照明、音響、舞台の3名の技術スタッフだけでは対応できないことが判明した。
- そこで、不足スタッフを補うという観点と、劇場の技術スタッフの仕事に興味のある人をネットワークしようということで、4月の市の広報紙に募集を掲載した。
- 行政的には経費の節減というねらいもあったが、むしろ地元の催しには地元の間で対応したいという考えもあった。

#### (2) ボランティアの募集と研修

- 市の広報紙だけではなかなか集まらなかったが、工業高校の先生が教え子を集めるなど、口コミで30名がとりあえず集まった。
- その後5月末に企画調整課長の召集により関係者が集められ、何度か会合を重ねて11月3日のオープニングセレモニーの運営はすべてアマチュアの手で、役所っぽくならないように行おうという方針が固まった。
- 「うらかた」という名称もボランティアのメンバーが考え出したもの。
- 8月に入ってメンバーは研修会を開いたり、舞台公演のビデオを見たり、工事中の現場視察などを行って準備を始めた。センターの舞台担当者と照明担当者は、中野サンプラザホールで行われる一ヶ月間の技術研修に参加。
- 10月になってからは、毎週2回夜にメンバーが集まり、購入した備品類の梱包を解いたりする作業も行った。備品購入に際しても、メンバーに様々な職業の人がいたため、ほとんどその関係で調達することができた。このように開館前から関わることで、ボランティアメンバーには、自分たちの劇場だという思い入れも大きい。
- 建物の引き渡しと同時にボランティアの仲間のバンドをよんで、コーラス

も交え、一通りのシミュレーションを行ったりした。

- 研修は、基本的にセンター内で行ったが、オープンの数日前にはオープニングセレモニーのリハーサルも兼ねて、プレス関係者へのレビューを実施した。

## 2. ボランティア制度の内容

### (1) メンバー構成等

- 現在のメンバーは約40名で、そのうち5人が女性。現在の年齢は35～40才ぐらい。3分の1から半分程度は設立当初からのメンバー。
- 設立後10年以上を経過しているが、新人は毎年2～3名程度。市の広報紙による公募も行っているが、ほとんどは口コミ。入会してもしばらくすると出てこなくなるような人もいる。
- 参加の動機としては、それまでバンドや演劇をやっていた人や電気関係に興味があった人などもいた反面、まったくの素人もいた。応募に際しては一応「成人」という枠だけ設けた。
- 組織的には、一応「舞台部会」、「照明部会」、「音響部会」に分かれており、それぞれ部長が1名いる。
- 居住地はほとんどが喜多方市内だが、車で40～50分程度かかる人もいる。施設の運営主体が喜多方広域市町村圏組合(1市3町3村)であることもあり、特に居住地の制限は設けていない。

### (2) ボランティアの業務内容

- 「うらかた」のメンバーが実際にオペレーションを行うのは、地元の出演者による催し物がほとんど。プロの公演の時には主催者がオペレータを連れてくるケースが多い。
- 「JIMOTO PLAZA」という催しも地元のオペラや演劇を長期的に援助する企画で、「うらかた」のメンバーが手伝っている。
- 「うらかた」の仕事は、基本的にこうした地元団体の出演するセンターの自主事業の舞台・音響・照明のオペレーションであるが、人手が足りないときは、オモテの業務を手伝うこともある。
- 最近では、「うらかた」の存在が知られるようになって、他のホールや野外イベントのお手伝いをすることもあるようだ。
- 伊達町のふるさと会館にも同様のボランティア組織があるが、その担当職員研修やメンバーとの合同研修は喜多方プラザで行われた。
- 年間の公演回数は50～60回。一番一般的なケースでは、金曜の夜仕込みを行い、土曜日リハーサル、日曜日本番ということで、打ち合わせ等も含めると、ボランティアの活動日数としては公演回数の3倍ぐらいになるだろう。1回あたりのボランティアの数は1名の時もあれば、多いときは10名になるケースもある。
- 現在広域市町村圏でNLCフェスティバル(NLCはNew, Life, Circleの頭文字)というのを実施している。これは地元アマチュア団体によるフェステ

■ 喜多方プラザ文化センター

● 平成8年度舞台研究会「うらかた」年間活動予定表

月 日	活 動 計 画	備 考
5・25～26	珠 美 会	20人
6・ 20	ザ・蔵シック (プラザ自主事業)	5人
6・22～23	劇 団 雄 国 峠	20人
7・5～7	福井県福野町 研修会	10人
7・12～14	大正琴発表会	20人
8・1～3	いわさきちひろ展仕込み	20人
9・15～16	あやめ舞踊会	20人
9・22	劇団 四季	20人
10・5～6	舞踊 美喜和会	20人
10・12～13	民謡と仕舞	20人
10・19～20	ジャズダンス発表会	20人
11・ 2～3	あいづ現代舞踊団	20人
11・ 9～10	民謡民舞の祭典	20人
11・30～12・1	題名のない発表会	20人
11・7～8	ロックデー	10人
9・1月～2月	JIMOTO PLAZA	20人
9・1月～3月	NLCフェスティバル(演劇、音楽、美術等の発表)	20人
年 間	結婚式、ダンスパーティー、研修会等	人
合 計		

イバルで、企画を一般公募し自主企画・自主運営によって開催するもの。「うらかた」のメンバーは企画段階から参加し、相談相手になっている。

- 企画ということでは、一時期、うらかた映画祭というのを企画して実施したこともあるが、最近はやっていない。その代わりになるものとしては、NLCフェスティバルに企画から参加している。

(3) ボランティアの運営

- 喜多方プラザと「舞台研究会うらかた」は委託契約を交わしている。
- 館側で負担している費用は保険の掛け金分の補助(24万円/年)のみ。保険は20人以下、年間20回以内の業務が対象範囲になっている。
- 10年前には、こうしたボランティアを対象とした保険がなかったので、民間の保険会社に相談して商品を作ってもらった。
- ボランティアには報償費を払っているが、それは主催者の負担で、プラザ

● 舞台研究会「うらかた」規約（抜粋）

（名称と事務局）

第一条 本会は舞台研究会「うらかた」と称し、事務局を喜多方プラザ内におく。

（目的）

第二条 本会は舞台芸術に関する技術の研修を行い、喜多方プラザ等における公演に伴う技術協力を積極的にはかることによって、喜多方地方広域市町村圏内における文化活動発展に寄与することを目的とする。

（事業）

第三条 本会は前条の目的を達成するため、次の事業をおこなう。

- 一 舞台芸術一般に関する研修会。
- 二 喜多方プラザの舞台機構の技術研修会
- 三 喜多方プラザの公演に対する技術要員の派遣に関すること。
- 四 その他本会目的達成に必要な事項。

—以下省略—

は施設使用料に含めて請求している。報償費は半日5,000円、昼間7,000円、9:00～22:00で10,000円。当初はもう少し低い水準だったが、伊達町のふるさと会館の水準にあわせて最近引き上げた。交通費はその中に含まれているという考え方で、別途支給はしていない。

- ボランティア組織の定例的な会議としては、毎月役員会と定例会を1回ずつ開いている。
- 当日のメンバー手配については、基本的に各部の部長からの連絡で行われる。
- 講習会では、最初に禁止事項を教えるようにしている。
- 会の主催で、照明機器メーカーの新商品の説明会への参加や新しいホールの見学、TBSの緑山スタジオ、金井大道具の見学といった研修会や懇親会も実施している。
- 「うらかた」のメンバーは、職員と同様いつでも出入りできるし、機材についても、職員や外部のプロと同様に自由に使ってもいいことになっている。

### 3. 自主事業の運営方法とその他の市民組織

#### (1) 自主事業の運営方法

- 喜多方プラザは広域市町村圏組合が運営主体になっていることも柔軟な運営ができる要因。運営スタッフは7名で技術職の3名はこれまで異動がない。また市からの派遣職員も一度広域市町村圏組合に出向してからプラザの運営スタッフとなっている。
- 従って、予算などについても喜多方市の決裁をいちいち仰ぐ必要がなく、館長に一任されている。教育委員会とも切り離されている点も柔軟な運営には有利。
- 自主事業のしくみも、28人の審議員からなる「喜多方プラザ自主文化事業

## ■ 喜多方プラザ文化センター

推進協議会」という任意団体が主催する形をとっており、喜多方プラザはこの団体に事業費を補助金として支出しているだけ。従って、入場料収入が予想を上回り、その予算を繰り越しても、また逆に赤字になっても、喜多方プラザには直接関係ないしくみになっている。

### (2) Concert Planner あぐだもぐだ

- ・ニューミュージック系のコンサートを企画・運営する市民団体。多いときは年間4～5回のコンサートを企画・運営している。
- ・公民館で青年教室のひとつとして講演会などの制作をしていた市民グループが、プラザができたときに自分たちの好きなコンサートがやりたいということで設立された。メンバーは20～30人で、機材の搬出入からチケットの一般売りまでやっている。
- ・オープニングで南こうせつを呼んだことがきっかけで、その後南こうせつのコンサートは10年間で5回開催している。
- ・基本的にはボランティアサークルであるが、喜多方市の規模であれば民間のイベント会社は成立しにくいのも事実。

### (3) きたかた音を楽しむ会

- ・喜多方プラザの最初の自主事業は、ピアノの先生を中心にした実行委員会形式で行った。チケットの販売手数料を実行委員会に還元したところ、予想以上に客が入り、その手数料収入が残ったことから、継続してクラシック音楽のコンサートを企画することとなった。
- ・「ザ・蔵シク」という室内楽のコンサートを年1～2回開催している。
- ・開館時の新日本フィルの演奏会が縁になって、“室内楽の楽しみ”という演奏会を開催していたこともあり、出演者は新日フィルのメンバーが多い。
- ・現在70名が登録。プラザのクラシックコンサートの自主事業にも、チケットの販売や当日運営など様々な形で協力している。

### (4) 喜多方演劇鑑賞会

- ・全国的に見て、一番小さな都市にある演劇鑑賞会。
- ・いわゆる労演の活動は会津若松に吸収されていたが、会津若松で2回公演していたものをプラザができた時に1回喜多方に持ってきたらどうだろうかという話がきっかけになって、会津若松から分派・独立してこの演劇鑑賞会になった。
- ・現在会員は約700名、隔月で演劇公演を開催している。喜多方の世帯数は現在約1万、自主事業として演劇をやることは観客層を考えると難しい。1万世帯の中の700名ということで、演劇に興味のある人はほとんど加入しているような感じである。

### (5) 喜多方こども劇場

- ・いわゆる「こども劇場」の喜多方組織。全国ベースでは組織率が下がっているらしいが、喜多方では増加傾向にあり、現在の会員数は約1,000人。
- ・年間6回程度の公演を実施。



(6) 劇団「風の子」との関係

- 3年前から劇団「風の子」の東北班（3名）とある種のフランチャイズ契約を結んでいる。営業の窓口は会津若松に置いているが、この劇団の制作現場は喜多方プラザに置き、リハーサル室は自由に使えるようになっている。
- 喜多方制作の一作目「たぬきはつらいよ」は3年の間に児童対象の演劇公演では国内劇団中最大公演数を記録し、現在は2作目「かえるの一步」で全国を公演中。
- 広域で公演活動を行うため、喜多方プラザの宣伝媒体にもなるし、劇団のメンバーは「うらかた」にも登録している。
- 自主事業の広報対象エリアも最近は広げている。積雪の多い冬でも通れるトンネルの開通によって山形県米沢からも40分になった。近頃では100km圏内から観客が来るようになっている。

4. 現在の課題と今後の方向性

- 新人があまり入ってこない。メンバーは40名いるが、実際のボランティア活動に出る人と出ない人が偏って、その結果メンバーの技術水準にも差がついてしまった。
- プロなのかアマなのか意識が必ずしも明確ではないが、報償費をもらっているということもあり、主催者からはプロとして見られる。
- 事務所に職員じゃない市民がいる、ということは、市民にとって喜多方プラザを親しみのある存在にし、館と市民の間のクッション役としても機能している。メンバーの中には、アマチュアの文化団体に所属している人もおり、「うらかた」が市民をプラザの運営に巻き込む原動力になっている。

—以上—

■ 喜多方プラザ文化センター

● 参考：日本舞台研究者連絡会名簿

	会館名及び団体名	所在地	電話番号
青森	十和田市民文化センター 十和田ステージクリエイト	〒034 青森県十和田市西三番2-1	(0176)22-5200
	遠野市民センター 舞台技術集団ステージスタッフとおの	〒028-05 岩手県遠野市新町1-10	(01986)2-4411
岩手	胆沢町文化創造センター IBU(イブ)	〒023-04 岩手県胆沢郡胆沢町南都田字加賀谷地1-1	(0197)46-2133
	伊達町ふるさと会館 MDDスタッフ	〒960-04 福島県伊達郡伊達町字前川原63	(0245)83-3244
福島	喜多方プラザ文化センター 舞台研究会うらかた	〒966 福島県喜多方市押切川向5364-1	(0241)24-4611
	會津風雅堂 ふうがくらぶ	〒965 福島県会津若松市城東町12-1	(0242)27-0900
山梨	増穂町文化会館	〒400-05 山梨県南巨摩郡増穂町天神中条820-1	(0556)22-8811
新潟	小出郷文化会館	〒946 新潟県北魚沼郡小出町大字千屋溝1848-1	
	コミュニティーホールさわらび さわらび操作師会	〒949-23 新潟県南魚沼郡大和町大字浦佐5175-1	(0257)77-4671
新潟	六日町文化会館 六日町文化会館技術スタッフ	〒949-66 新潟県南魚沼郡六日町大字六日町865	(0257)73-5500
	小杉町文化ホール ラポール ラポール ステージクルー	〒939-03 富山県射水郡小杉町戸破1500	(0766)56-1515
富山	福野文化創造センター ヘリオス ステージクルー	〒939-15 富山県東砺波郡福野町やかた100	(0763)22-1125
	能登演劇堂	〒929-22 石川県鹿島郡中島町中島甲部130	
福井	いまだて芸術館 A.E.スタッフ	〒915-02 福井県今立郡今立町粟田部11-1-1	(0778)42-2700
	越前陶芸村文化交流会館	〒916-02 福井県丹生郡宮崎村小曾原7-8	(0778)32-3200
井	南条文化会館	〒919-02 福井県南条郡南条町牧谷29-15-1	(0778)47-3810
岐阜	郡上八幡総合文化センター サクラプロダクション	〒501-42 岐阜県郡上郡八幡町島谷207-1	(05756)7-1555
奈良	新庄町文化会館 マルベリーホール ステージオペレータークラブ	〒639-21 奈良県北葛城郡新庄町大字南藤井70-1	(0745)69-4600
	浄るりシアター J.スタッフ夢舞(ムーブ)	〒563-03 大阪府豊能郡能勢町宿野30	(0727)34-3241
兵庫	淡路アソンプレホール ACT(アソンプレ・クリエイティブ・チーム)	〒656-24 兵庫県津名郡淡路町岩屋2942-17	(0799)72-5321
	出石町文化会館 ひぼこホールスタッフクラブ	〒668-02 兵庫県出石郡出石町水上318	(0796)52-6222
兵庫	稲美町文化会館 コスモホール コスモオペレータークラブ	〒675-11 兵庫県加古郡稲美町国安1286-1	(0794)92-7700
	山南やまなみホール 山南ステージスタッフ	〒669-31 兵庫県水上郡山南町谷川1110	(0795)77-3290
兵庫	たんば田園交響ホール たんば田園交響ホールステージオペレータークラブ	〒669-23 兵庫県多紀郡篠山町北新町41	(0795)52-3600
	四季の森会館 四季の森アートプロモーション	〒669-22 兵庫県多紀郡丹南町網掛429	(0795)94-1174
兵庫	おおやホール おおやホール オペレータースタッフクラブ	〒667-03 兵庫県養父郡大屋町山路7	(0796)69-0488
	関宮町中央公民館 ノビアホール ステージオペレータークラブ	〒667-03 兵庫県養父郡関宮町関宮637	(0796)67-3266
兵庫	ビバホール ビバホール ステージオペレータークラブ	〒667-01 兵庫県養父郡養父町広谷250	(0796)64-2028
	太子町立文化会館 あすかホールサポート倶楽部	〒671-15 兵庫県揖保郡太子町鶴1310-1	(0792)76-2111
兵庫	東条コスミックホール コスミックホール オペレータークラブ	〒673-13 兵庫県加東郡東条町天神66	(0795)47-1500
	中町文化会館 ベルディホールボランティアオペレータークラブ	〒679-11 兵庫県多可郡中町中村町135	(0795)32-1300
兵庫	山崎文化会館 サンホールやまさき HSS(ホールサポートスタッフ)	〒671-25 兵庫県宍粟郡山崎町奥沢88-1	(0790)62-5300
	和田山町文化会館 ジュピターホールスタッフクラブ	〒669-52 兵庫県朝来郡和田山町玉置877-1	(0796)72-1000

## ☺ ボランティア・インタビュー記録 ☺

- Aさん（ボランティア監査、創設以来のメンバー）  
 Bさん（婦人服会社勤務）  
 Cさん（ボランティア副会長、舞台担当、創設以来のメンバー、弱電会社勤務）  
 Dさん（ボランティア事務局長、照明担当、郵便局勤務）  
 Eさん（ボランティア副会長、損保会社勤務、メンバー8年目）  
 Fさん（ボランティア会長、三代目・三期目、自営業、準備段階から参加）  
 Gさん（喜多方プラザ職員）  
 Hさん（喜多方プラザ職員、小ホール担当）

### 1. 参加の動機・きっかけ

- Aさん | 青年会や労音は「うらかた」参加当時からやっていた。青年会では照明、労音では音響の補助をしていて、自分でもPAを購入したりしていた。「うらかた」には当時の喜多方プラザ準備室長から誘われた。
- ・「うらかた」は基本的には音響・照明などの部門別に活動しているが、人数に限られてきたこともあって、最近はオールマイティな人が求められている。
- Bさん | 喜多方音楽協議会でバンド活動を行っており、そのロックデーという催しで喜多方プラザを使っていた。A氏の紹介で「うらかた」に入会。現在は音響中心の活動をしているが、PAの使い方や操作方法を収得できる点に興味を持った。
- Cさん | 現在のボランティア会長と一緒に町の青年会で演劇をやっていた。当時の喜多方プラザ準備室長から誘われて入会。
- Dさん | 開館後2年ほど経てからコンサートなどの公演を鑑賞に行くようになり、照明の操作などに興味を持って「うらかた」に参加した。
- Eさん | 西会津町でアマチュア・バンドの音響を担当していたが、技術的なレベルとしては専門的なものではなかった。友人が「うらかた」をやっていて勧誘された。喜多方市の住民ではないため、ここで得たものを将来的には地元に戻元し、人づくりをしたい。

#### 活動の頻度

- ・頻繁に活動している人は全体の3割から四分の一程度。
- ・プラザで結婚式もやっていた時は年間50組程度をこなしていた。活動としては大変だったが、コンサートや芝居よりも高度な技術を要求されないのが、初歩的な技術を習得する良い機会だったとも言える。現在では市内の各地に結婚式場ができたこともあり、結婚式の対応はしていない。
- ・「うらかた」メンバー同士でこれまで3組ほど結婚した。結婚すると特に奥さんはなかなかそれまでと同じようには活動できなくなる。
- ・市の文化祭行事が始まると毎週の活動になる。8月は比較的少ない。

### 2. 満足度

- Cさん | 「ご苦労さまでした。」という声がうれしい。

## ■ 喜多方プラザ文化センター

**Eさん** | 実際に裏方の活動をしてみて、観客や出演者が喜んでくれることに満足感を感じる。このような活動を継続していくことで、地域住民のレベル向上に繋がればと思う。日本は地方から変わるべきだ。

- 生活するために収入を得るのが仕事だと思っている。それ以外に何らかの形で社会貢献をする部分は必要。

**Fさん** | 「うらかた」の会長としては、メンバーの減少と高齢化が気になっている。若い人の層が参加してくれないと、将来に対する不安がある。たんば田園交響ホールのように、定期的の開講する技術研修講座などがあれば若い人も入って来るかもしれない。創設当初は喜多方の“青年”だった「うらかた」メンバーが、今では社会的にも“働き盛り”といわれる年齢になり本来の仕事でも一番忙しい時期で、なかなか「うらかた」の活動ばかりに関わっているわけにも行かない。また年齢を経て、第一線を退く時期が来れば再び活発に活動できるかもしれないが…。

**Eさん** | ボランティアをやっていることに対する職場の反応もまちまち。

**Cさん** | 会社に対しては「うらかた」の活動を特に隠していることはない。他に町の消防団などにも参加している。

**Bさん** | ボランティアという認識よりもアルバイトをしていると思われる場合もある。逆に公演チケットを頼まれることもある。

- \* 「うらかた」の存在はプラザの広報にはなっていると思う。興味のある公演の情報が入っても、実際にチケットを買いに行く行動に出るのはそこに人がいるから。最初のオープニングセレモニーの際には、通常以上に時間を割いてもらう必要があったので、メンバーの勤務先に市長名でその旨連絡を入れてもらった。自営業の人は「うらかた」のための時間を自分自身でやりくりしなければならないため、難しい部分もある。

### 報酬について

- 「うらかた」の活動は基本的に、やりたいからやる、というスタンス。
- 但し、活動内容は専門的であり、公演内容によっては要求されるレベルも高度になる。一度高度な技術を披露すると、結婚式をする人でも制作会社でも要求が高くなる。
- 多少の報酬がでると、それだけ責任感を感じる部分も否定できない。
- 研修旅行に行ったり、裏方に関する専門誌を購入したりすると結局「うらかた」の活動のために使ってしまう。但し、研修には補助も出る。
- 報酬のうち5%は「うらかた」に戻入する。

### プラザの波及効果について

- 喜多方プラザができてから、街自体は活性化されていると思う。波及効果はある。人の流れも変わり、近隣の市町村だけでなく、山形県などからも喜多方に人が来るようになった。
- 一方で、喜多方プラザは広域の建物であるが、広域の住民全体がプラザを自分の施設と思うまでには浸透していないと思う。
- アマチュアで芸術活動をしている人たちにとって、発表する機会が増えた。公共ホールは本来住民が使うものだと思う。

### 「うらかたの」の技術について

- ・裏方技術を向上させるための研修として、定期的なプログラムを組んでいる。照明操作の有資格者もいる。専門的な資格取得の費用は補助がでる。
- ・技術については、喜多方プラザの担当者が一級舞台機構調整技能士の資格を持っている専門家としてだけでなく、ホールの運営まで幅広い知識を持っているので、彼の技術を伝授されている。日本P A技術者協議会の副理事長を務めていることもあって、全国のニュースもリアルタイムに入ってくる。プラザの担当者は市の職員でありながら専門性をもっていてなかなか代わりがないので、異動がしにくい。公務員感覚ではない彼のようなスタッフが館側にいてくれることで、ボランティアは非常にラッキーだったと思う。

### 3. 施設側に対する要望・課題など

- ・プラザの中では特に問題はない。
- ・プラザに新しく来た市の職員は、人間を作り変えられる。
- ・他の自治体と比較すれば、館長にも理解があると思う。プラザのスタッフも決してお役所的に働いていない。「プラザは良いところだ」と皆言っている。異動して1週間もすれば普通の市役所のセクションとは雰囲気が違うことがわかる。出向すると出世コースからはずれるという認識が他の施設では聞かれるが、喜多方プラザは出世コース。
- ・「うらかた」の三分の一は市役所の職員。プラザのスタッフから異動しても「うらかた」には戻ってくる。
- ・若い人から年輩の人までさまざまな年齢や分野の人が、用事がなくてもプラザに来られるようでありたい。

### 4. 今後の展望

- Eさん | 喜多方は過疎地。喜多方広域にとどまらず、他の地方のホールにも「うらかた」として出向いて行きたい。他にも新しいホールを建てたがその施設を使いきれないという話も耳にする。広い意味で“広域”を考えたい。
- Aさん | 我々の活動を若い人に伝えて行ければと思う。この組織の雰囲気が実践的で、ある意味では昔風なのかもしれない。つまり、現場の経験で仕事を覚えていくタイプのもので、覚えられない人は続けられなくなる。
- Cさん | 若い新しい人を誘って来ても、実際の現場ではなかなか教えている余裕がないのも事実。本番などでは特に、知っている人がやるのが効率的になってしまうので、固定メンバーで用が足せてしまう。
- Gさん | わかっている人、呼吸の会う人のほうがやりやすいのは事実。
- Eさん | 若い人の行動パターンも変わってきているのでは。
- Gさん | 「うらかた」のような仕事に楽しみを見いだすまでには、ある程度の時間が必要。若い人は目に見えてすぐに楽しいことに行ってしまう。

—以上—

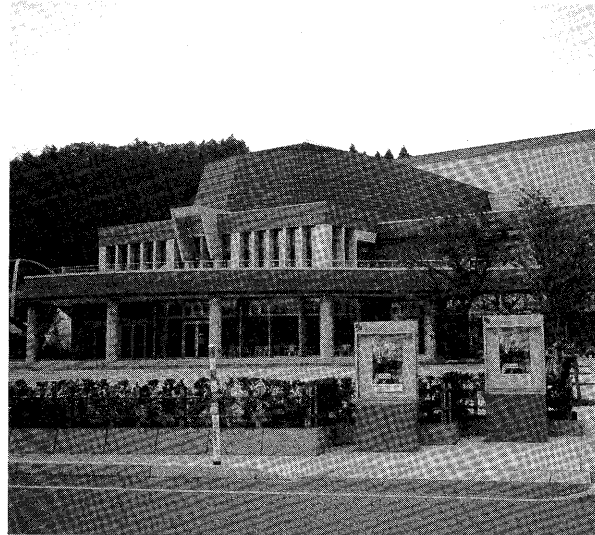


## Ⅱ. 中島町文化センター・能登演劇堂

能登中島町は、仲代達矢氏の「無名塾」との密接な関係がきっかけとなって、能登演劇堂を設立。舞台芸術アカデミーという舞台技術講習受講者が、裏方のボランティアを務めているが、それ以上に自主事業の企画からチケット販売、運営までを手がける「能登演劇堂振興協会」という市民組織の存在が特徴的。ホールの運営そのものに深く踏み込んだ市民組織としてのボランティアの可能性を示唆している。

### 📄 施設・運営の概要

運営母体	中島町・能登演劇堂振興協会
所在地	石川県鹿島郡中島町字中島甲部 130
TEL	0767-66-2323
FAX	0760-66-2326
開館年月	1995年5月
複合形態	複合館（図書館、公民館と併設）
施設特性	演劇劇場
座席数	651
自主事業予算	年間 3,000～5,000 万円
自主事業数	年間 11 本 21 公演（平成八年度）
立地都市人口	8,541 人
組織体制	総務系:2、企画系:4、技術系:2／計 8 （全て自治体職員）



### 😊 ボランティア制度の概要

名 称	<ul style="list-style-type: none"> <li>①：舞台芸術アカデミー（舞台の裏方業務に関する講座名、ボランティアとしての名称は特になし）</li> <li>②：能登演劇堂振興協会（自主事業の実施・運営主体）</li> </ul>
導入時期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開館当初から（講座は開館前から実施）</li> </ul>
登録人数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・①（アカデミー受講者）：15名（半数は町の職員）。</li> <li>・②：協会委員約30名、役員12名。</li> </ul>
導入の経緯	<ul style="list-style-type: none"> <li>・①：施設オープン前から鹿島町と共同で「舞台芸術アカデミー」を開講。町民参加による劇場運営のため受講生のボランティアで裏方業務に対応。</li> <li>・②：能登演劇堂の活用を促進し、企画面やチケット販売面で民間の知恵や力を借りるために設立。</li> </ul>
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・①：照明・舞台・音響（現在3期目のアカデミーの受講と自主事業での研修・補助が主）</li> <li>・②：自主事業の演目の検討、広報・宣伝、チケット販売、友の会会員勧誘、協賛金集め等</li> </ul>
募集方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・①：公募。</li> <li>・②：委員は町内の各種団体の代表者。</li> </ul>
研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・①：舞台芸術アカデミーの受講。</li> </ul>
実費支給	<ul style="list-style-type: none"> <li>・①：なし。*もぎり会場整理は別に有償ボランティア（女性10名、時給1,000円）を導入</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10年間で中島町で稽古を続けてきた「無名塾」の活動の延長線上で劇場が設立された（仲代達矢氏が監修）。</li> <li>・能登演劇振興協会が能登演劇堂友の会を設立し、演劇愛好家の拡充と入場者の安定を図るとともに、演劇を核としたまちづくりを推進している。</li> </ul>

## 📖 インタビュー記録 📖

\*インタビューでは、劇場側の担当者と振興協会の会長にお話をうかがった（舞台芸術アカデミーのボランティアメンバーへのインタビューは行っていない）。

### 1. 無名塾と能登演劇堂（振興協会会長の話を中心に）

#### (1) 無名塾との関わり

##### ① きっかけ

- 無名塾の演出家の兄と知り合いだったこともあって、昭和56,7年頃から、自分の経営する町内の会社で塾生をアルバイトとして受け入れていた。
- 昭和59年12月に商工会の青年部の主催で「まちづくりシンポジウム」という催し物が開催されたが、話し合うことも大切だが行動を起こすことの方が大切だということを実感し、それがきっかけで自分が中島町のまちづくりに対して何ができるか考えるようになった。
- そんな折、塾生をアルバイトとして受け入れていたという経緯もあって、無名塾の公演を東京のパルコ劇場に見に来ないかと誘われ、芝居を見終わった後で制作スタッフに「中島町で合宿をしませんか」と持ちかけてみた。
- 当時、無名塾は箱根に合宿所を持っていたが、塾結成10周年に当たる年で、何か新しいことを始めたいと、前向きな感触を得ることができた。
- 昭和58年に仲代さんが能登を訪れたことがあり、その際にいい印象を持っていたことも幸いした。風土・気候がいいこと、文化的な香りがすること、住民の顔つきや表情が豊かなことなど、ここの土地や人に興味を持たれたようだ。
- 昭和60年の1月になって、合宿の話を前向きに進めるべく、行政への働きかけを行った。当時は、仲代達矢さんの名前は知っていても無名塾のことは知らない人が多く（議員の中には、無名塾を学習塾と思った人もいるぐらい）、反応は賛成・反対が半々ぐらいだった。
- 中島町以外の周辺の町にも話を持ちかけたところ、2~3の町も熱心で、是非自分の町で取り組みたいというような反応だった。

##### ② 夏合宿

- その後、3月末までの間に、中島町内の意見調整を行い、7月に無名塾の合宿を行うことになった。
- 30人弱の塾生が民泊し、町の武道館を会場に夏合宿を行った。
- 当初合宿は非公開で、見るなら公演を見て欲しいというのが無名塾側の要望だった。商店振興会などからは、町民との触れ合いの機会を作って欲しいという要望が強く、中日に公開練習の日を1日だけ設けてもらったところ、300人以上の町民が集まった。
- 2年目の合宿が終わる頃には、塾生も町に打ちとけ、私たち町民のことを信頼してくれるようになり、3年目からは全ての合宿が公開となった。
- なお、無名塾の塾生は4回生まで（4年で卒業）。



### ③ 現在の関係

- 仲代氏は現在名誉町民で、能登演劇堂の名誉館長でもある。
- 現在は、能登演劇堂の催し物の内容を相談したり、仲代さんにロゴを書いてもらったり、無名焼きという焼き物を作ってもらったりする間柄になっている。将来的には、能登演劇堂グッズのようなものも開発したい。
- 去年から、無名塾の地方公演は、ここから他の地方へ出るということで、能登演劇堂からスタートするようになった。能登演劇堂は、舞台後壁の大扉が開いて屋外の自然空間と一体的な演出が可能な構造となっており、ここではその特性を活かした「中島町バージョン」が上演されている。
- 以前は、最後の1ヶ月間は東京で稽古をして作品を仕上げている、中島町の合宿の内容も立ち稽古が始まった段階のものだったが、去年からは仕上げ段階のものになった。
- 合宿の場所は能登演劇堂で、舞台装置をセットし、地方公演を回るための解体手順のチェックなどもここで行っている。舞台の仕込みは夜中までかかったり、舞台のセットが直前に変わって大工や電気工事の技術者を至急手配しなければならないようなこともあるが、演劇堂のスタッフは柔軟に対応している。
- これまで公演をやらない年も何回かあったが、その年も中島町の合宿だけは行っていた。そういう時には、中島町の伝統太鼓を塾生に教え、「無名塾能登中島太鼓」と名付けた太鼓や法被を寄付した。
- 無名塾と中島町の関係は、徐々に成熟して、互いに支え合うような関係になりつつある。来年は1ヶ月のロングラン公演を行う予定。

### (2) 能登演劇堂の建設の経緯

- 当初、無名塾が合宿を始めた頃は非公開で、町民の中に完成された公演を見たいという声が出てきたため、30人程度のバスツアーを企画し、東京まで公演を見に行っていた。
- 懇親会も兼ねたもので、実際の動機は芝居が見たいというのが半分、東京に行きたいというのが半分だったと思う。
- そのうち、中島町出身の東京在住者が、せっかくだからということで、一緒に芝居を見るようになり、東京では無名塾の評価が高いことがわかって、それが町にも伝わるようになった。
- そのうち、無名塾の中島町での活動が定着するようになって、ある新聞社の文芸部が平成3年に催した座談会の中で、仲代さんが「能登に無名塾の拠点があるといいなあ」というような発言をされ、それを石川県の関係者も見ていた。
- そうしたことから、能登演劇堂の建設構想が持ち上がり、自治省の「若者定住緊急プロジェクト」に認定され、建設予算の目処が立って実現した。結局、無名塾の10年間の活動が認められ、自治省のプロジェクトに認定されたのだと思う。

## 2. 能登演劇堂振興協会と演劇堂の運営

### (1) 能登演劇堂振興協会

#### ① 設立の趣旨

- 能登演劇堂振興協会は町内の約30の各種団体代表者が集まった任意団体で、能登演劇堂の活用を促進し、地域の芸術文化の高揚に寄与することを目的に設立されている。
- 実際の活動内容としては、自主事業の演目の検討、広報・宣伝、チケットの販売、友の会の会員勧誘、地元企業等からの協賛金集めなどを行っている。企画面やチケット販売面で民間の知恵や力を借りるのがその趣旨。
- 演劇堂の管理・運営は町の直営で、自主事業は協会が中心になって運営している。

#### ② 協会の運営と業務の内容

- 総会は年2回開催しており、1回が自主事業の演目決定のため、もう1回は決算報告のため。
- この他に会長、副会長、理事数名からなる役員会も設けられており、こちらはもっと頻繁に会合を開いて、演劇堂の運営をさまざまな形でサポートしている。役員メンバーは自由業の方が中心で、日中に会合を開くことも多い。
- 事務局は町の文化振興課のスタッフが担当。
- この協会の委員や役員は、無報酬で、そういう意味では能登演劇堂の運営を支える一番のボランティアといえる。
- 協会の運営財源としては、自主事業のチケット販売による手数料収入と協賛金収入で、年間の総予算は500万円程度。その内の約半分ぐらいが、自主事業の広告や宣伝費に使われている。
- 催し物の宣伝や広告、協賛金の募集といった業務を、町という行政体が直

#### ● 能登演劇堂振興協会規約（抜粋）

(名称)

第一条 この協会は、能登演劇堂振興協会（以下「協会」という。）という。

(事務所)

第二条 協会の事務所は、石川県鹿島郡中島町甲部 130 番地の中島町文化センター内に置く。

(目的)

第三条 協会は、能登演劇堂（以下「演劇堂」という。）の活用を促進し、地域の芸術文化の高揚に寄与することを目的とする。

(事業および活動)

第四条 協会は、前条の目的を達成するため次の各号に掲げる事業及び活動を行う。

- (1) 自主事業の企画や運営にあたり、その振興を図ること。
- (2) 地域芸術活動の支援に関すること。
- (3) その他目的を達成するために必要な事業及び活動。

—以下省略—

接行うことは難しい面があるため、協会組織を介して実施している。チラシの印刷も協会が実施しており、新聞やテレビ、屋外広告なども必要に応じて使うことがある。

- 協賛金については、法人3万円、個人1万円ということで協力をお願いし、今年度は約90の会社や個人から約250万円が集まった。半分が町内の方で、企業が支出する場合は広告宣伝費として必要経費扱いになっている。

## (2) 能登演劇堂友の会

- 友の会は、基本的に能登演劇堂振興協会の下にある組織で、いい芝居をひとりでも多くの人に見てもらうのが目的。
- 毎月1,500円（年間1万8千円）の会費を納めると、年に4回の定期公演を見られるしくみ。現在の会員数は1,814名。劇場の座席数は651席なので、3公演分の会員が加入している計算になる。
- 企画の内容も、隣町や金沢市ではやらないもので、直接中央の劇団を招くことを基本にしている。
- 中島町の周辺人口は20～30万人で、金沢からも遠いし、日中はほとんどの人が働いていて、チケットをどうやって売るのがかということが大きな課題になっていた。

### ● 能登演劇堂友の会運営要項（抜粋）

能登演劇堂友の会会員を次により募集する。

#### 1. 目的

「能登演劇堂」において、すぐれた現代演劇を鑑賞しようとする者の会（「能登演劇堂友の会」という。）を組織し、演劇愛好家の拡充と入場者の安定確保を図ることを目的とする。

—途中省略—

#### 3. 会員の特典

会員は次の特典をうけることができる。

- (1) 会員名簿へ登録し会員証を発行する。
- (2) 最新の演劇情報誌等の郵送
- (3) 年間4回の現代演劇を座席指定で鑑賞

(4) 座席指定の公演には、会員に限り一般前売り前に優先予約ができる。

#### 4. 会員の資格

- (1) 毎月の会費を納入している者。
- (2) 会員期間は、毎年4月1日から翌年3月31日までとし、従前の会員は退会の申出がない限り継続するものとする。
- (3) 年度途中の入会は、その月以降の会費に1ヶ月分を加算する。（ただし、4月入会の場合は加算しない）
- (4) 会費の納入が3ヶ月以上滞った場合、会員資格を失う。

—途中省略—

#### 6. 会費

- (1) 会費は月額1,500円とする。
- (2) 毎年4月分から納入するものとする。
- (3) 納入は、毎月納、前納（一括、分納）のいずれでもよい。

—以下省略—

## ■ 中島町文化センター／能登演劇堂

- ・そこで、会費をもらって現代演劇を中心に鑑賞してもらう友の会を設置することとした。いわゆる鑑賞団体に近い形だが、これまでの鑑賞団体の制約（会員は通信効率の観点から複数で加入しなければならないとか、会の運営に対してボランティアをしなければならないなど）は排除し、会員に公演の案内を送って、鑑賞することだけに特化したしくみとした。
- ・募集したところ1ヶ月で650人が、2ヶ月で1,300人の会員が集まった。劇場のキャパは650席なので、昨年5月の柿落としては2回公演を行うことができた。その後、昨年12月から3ステージ分を目標に再度募集を始めたところ、約1割の人が退会し、7月末現在で新たに650人が入会している。
- ・演目によって入会状況が異なるのが実状。平均年齢は49才で、それに見合った内容の公演を考えていく必要がある。正直なところ、現代演劇は1～2割の人が賛同してくれる程度で、多種多様な要求にどう対応していくのが今後の課題。
- ・会員を継続するためには、最後にわかりやすいものを持ってくるなど、4回の演目の順序も重要だと思う。
- ・会員の募集は、2市10町（人口約16万人）を対象にしたが、現在の会員の約8割はそのエリア（車で30分前後の圏内）の人。中島町内の会員は750名で全体の45%。町の人口は現在約8,000人だが、有権者（成人）の数は6,500人であることを考えると1割以上の組織率ということになる。
- ・会員数は、3公演分の2,000人程度が限界だと考えている。2,000を越えると郵送などの事務作業が膨大になるし、演目のメニューを今以上に増やすことも必要になると思う。

### (3) 能登演劇堂振興協会と無名塾能登後援会

- ・能登演劇堂振興協会とは別に、無名塾能登後援会という組織があって、10年間活動を展開している。活動の一環として演劇を見に行ったり、Tシャツやテレフォンカードを作って売ったりしている。
- ・能登演劇堂振興協会の構成メンバーは各会の代表者で、必ずしも30名全員がこの演劇堂の活動に興味があるとは限らない。官の要請でできたような側面もあり、会員の所属団体にチケットを売れるという読みもあった。
- ・能登演劇堂振興協会とメンバーは若干重複しているが、こちらは、各界の実務者（若い人）が集まって実質的な活動ができるようなしくみになっている。

## 3. 舞台芸術アカデミー（裏方ボランティア）とオモテ方ボランティア

### (1) 導入の経緯（舞台芸術アカデミー）

- ・舞台芸術アカデミーという照明・音響・舞台に関する研修事業を、施設がオープンする前の平成6年から隣町の鹿島町と共同で実施していた。会場は中島町役場の会議室や「ラピア鹿島（鹿島町の多目的ホール）」。
- ・その背景には、裏方業務を外部委託するとお金がかかるということで、何とかこのアカデミー受講生によって、ボランティアで対応できないだろう

か、という目論見があった。

- これは、七尾・鹿島広域圏のソフト面の補助事業として実施しているもので、当初40名ぐらいが集まったが、最初の何回かが実技を伴わない講義だけの研修であったこともあり、少し人数が減って30名前後になった。
- その後、能登演劇堂ができて、平成8年からは中島町と鹿島町がそれぞれの施設で開催するようになった。能登演劇堂が演劇専用劇場であるのに対し、ラピア鹿島は多目的ホールであるため、双方の劇場に必要とされる技術が異なるということもその理由のひとつ。

## (2) ボランティアの概要（舞台芸術アカデミー）

- 中島町で現在そのアカデミーを受講している人は約15名で、基本的には全員に裏方を手伝ってもらっている。15名のうち半数は町の職員、一般の人は30代の人を中心に、女性も3名含まれている。
- 弁当代を劇場が負担することはあるが、基本的には無償ボランティア。ほとんどの人が町内在住なので交通費も支給していない。
- アカデミーの受講料は無料。

## (3) ボランティアの業務内容（舞台芸術アカデミー）

- プロの公演の場合、照明・音響・舞台等のスタッフは同行してくるため、実際の業務としては、専門家の技術操作を見て学んでいる状態。「無名塾」の公演の際も、横について見学しながら学習できるようにしている。
- ただ、今年の公演のうち、7月の「方の会」公演「しんしゃく源氏物語」では、ボランティアが舞台制作・音響・照明のサブスタッフを務め、また、9月の永六輔のバラエティショーでは、舞台監督だけが派遣された専門家で照明・音響のオペレーションはボランティアが担当した。
- 自主事業の公演の際には、都合の悪い人を除いて必ず劇場に来てもらうようにしている。年間25日ぐらいで、1日の平均業務時間は、搬出や後片づけを含めて18:00頃から22:30ぐらいまで。ボランティアのうち町の職員については、残業がない限り基本的に手伝ってもらっている。
- 舞台芸術アカデミーは、年間約10回の研修会で、講師は能登演劇堂の舞台設備を納入した専門家をお願いしている。舞台の設備のことを熟知しており、また、講師謝礼等についても柔軟に対応してくれるため。
- 舞台芸術アカデミーの受講者は、基本的に初年度からの継続者で、講義内容等も年々実践に即したものになっている。劇場の運営は町の直営で、町の職員は異動することがあっても、ボランティアは継続してやってもらえるため、ボランティアの中にノウハウが蓄積されていけばいいと思う。
- アカデミー受講の動機としては、舞台音響に興味があった、昔バンドで音響を担当していたなど。金沢で舞台関係の仕事をしている人もいる。劇場職員の知り合いを經由して口コミで集まった人がほとんど。
- 劇場付きの技術スタッフは2名で、日中の事業は職員が対応している。ただ、日中の事業は講演会のようなものが中心で、舞台芸術の公演のように複雑なオペレーションは少ない。

## ■ 中島町文化センター／能登演劇堂

- ・昨年度の実績では、年間の劇場使用日数は約35日で、そのうちの半分が貸し館。
- ・搬出入は、職員が研修を兼ねて対応している。

### (4) オモテ方ボランティア（もぎり・会場整理）

- ・もぎり・会場整理については、有償ボランティア(時給1,000円)ということで、開館時から町内の女性10名にお願いしている。
- ・少ない職員ではオモテ方に対応できないため、スタッフをどう集めるかが、当初から課題になっていた。婦人会にお願いすることも検討したが、年輩の女性は夜間の対応が難しく、未婚の女性に声をかけてお願いした。
- ・通常の業務時間は3～4時間程度。

## 4. 今後の展望

### (1) ボランティアについて

- ・ボランティアの基本は、参加できる喜びだと思う。
- ・最近では、官がボランティアの導入を促進しようとしているが、それを官自体が阻害しているような面があるのではないかと。民間の場合、残業をしたり休日出勤しても報酬を払うことはできないが、官の場合は、残業代が支給される。
- ・ボランティアの問題点としては、責任の所在がどこにあるのかが不明確になる点。会合に出席したときだけボランティアをしているというようなことになりかねない。能登演劇振興協会の場合も、事務局は演劇堂を運営する町の文化振興課が担当している。
- ・ただ、演劇堂を円滑に運営するため、官がやるべきこと、できることと、民がやるべきこと、できることははっきりと区別して使い分けている。

### (2) 能登演劇堂と地域づくり

- ・商業演劇が来て公演するだけでは、ただの消費の場になってしまう。この能登演劇堂とこれまでに蓄積してきた活動を使って、町民が何をやるかという発想が重要。

#### ① 戯曲募集と演劇人材の育成

- ・そのひとつのきっかけとして、昨年12月末に全国の高校生を対象にした戯曲の募集を行った。文部省の関連組織である全国高等学校文化部連盟（高文連）を経由して各県に募集要項を配布したところ、すでに何件か問い合わせがある。
- ・中島高校には以前演劇コースがあった。現在の学校教育は文化よりスポーツが中心になっているが、特色ある高校を作るということで、この演劇コースを演劇科として再度設置したいと考えている。
- ・高等学校で正式な演劇科を置いているところは現在国内で僅かに3ヶ所。今後、若者人口の減少とともに、高等学校もこの近辺では10校中3校が閉鎖されるような時代になると思う。

#### ■ 中島町文化センター／能登演劇堂

- 演劇科を卒業したからといって、必ずしも演劇人になる必要はないし、多様な価値観を持った若者を育てるためにも、演劇科の設置は有効だと思う。
- 将来的には、町民劇団のようなものを作ってはどうだろうかということも検討中。

#### ② 演劇を核にしたまちづくり

- これらのことをとおして、演劇を介したまちづくりのようなことができばと思う。演劇によって人々が町を訪れ、情報が行き交い、ひいては経済的な波及効果も生まれる、といったことも考えたい。
- 言い換えれば、文化もカネもやってくるということで、アメリカのオレゴン州では、シェイクスピア劇場によって、交流人口も定住人口も増加し、まちづくりに成功した例があると聞いたことがある。
- 能登に新しい飛行場が建設される計画があるが、能登の地域ひとつひとつが特色を持ったパビリオンとして、能登地域全体がひとつのテーマパークのようになればいいと思う。その時、中島町はどこにもない演劇のパビリオンとして特色を打ち出していきたい。

—以上—

● 参考：平成8年度の自主事業のチラシ（賛助会員のリストが右端に掲載されている）

## 平成8年度

### ◆定期公演(友の会) ★一般用として当り券多少あり

**「叔母との旅」** 演劇集団「円」公演  
出演 松本城 有川博 藤田進之 志見一 ほか  
7日のみ、午後1時と午後6時

**「蓮如」** 「前進座」公演 出演 塚手甲信  
★7日午後1時公演は一歳対象 入場料6,000円

**「リチャード三世」** 「無名塾」公演 出演 中代達矢 ほか  
★各日とも一般席あり ★入場料15,500円

**「守銭奴」** 「俳優座劇場」公演  
出演 鈴木邦雄、野村礼子、高橋裕恵 ほか

### ◆一般公演

**小原佳 歌謡の会** ★入場料4,000円

**しんしゃく源氏物語** 出演 市川夏江 狭間鉄ほか  
★入場料15,000円

フルーツファクトリー 読者口直葉によるウイーンの歌コンサート  
出演 大島清子、大田茂、ハラルド・クルンベック、  
ベニターニ・ザガインエック、ニコラウス・シュトラカ、  
ヘルマンルト・ヒペラウアー ★入場料2,000円

**8月11日(日) 開演 午後2時**  
**「ショート新喜劇と漫才」** 「吉本興業」公演  
★入場料5,000円

**9月22日(日) 開演 午後6時30分**  
バラエティショー  
**「六輔、その世界」** 出演 永六輔、田辺靖雄、九重佑三子 ほか  
★入場料4,000円

**11月15日(金) 開演 午後7時**  
**「松竹大歌舞伎」** 出演 松竹園 ほか  
★入場料16,500円

**線は生きている** 仲間 公演 出演 石川真知子、須見共雄  
★入場料3,500円

**予告 平成9年10月9日(木)～11月10日(月) 能登中島演劇祭** ※30ステージを予定しています。  
**第1回 ロングラン公演 無名塾「いのち棒にふるう物語」** 原作 山本高五郎  
主演 年代達矢、渡辺祥

★公演日程は変更の可能性があります。

お問い合わせ、お求めは  
**能登演劇堂振興協会**  
〒925-22 石川県能登町中島町字中島甲部132  
能登演劇堂  
TEL:0767-66-2323 FAX:0767-66-2326

#### 平成8年賛助会員

- 福井商店
- 能登分子工業(株)
- 神田通運(株)
- (有)北国太陽テント
- (株)福井建設
- (株)山崎建設
- 三浦水産(有)
- (有)山口水産
- (株)長尾一
- 井田産業(株)
- (有)中島フラスチック
- (有)養井自動車商会
- (有)村田電気商会
- 今村石油(株)
- 能州運輸(株)
- 潮建設(株)
- 3番ラーメン
- 半田商店
- 家具センター福井
- 小林工務店
- 寿の家具
- 奥能信用金庫
- 中島建設運送(株)
- べりかん
- 能登信用金庫
- 昭和建設(株)
- 山下建設工業(株)
- 中島通運(株)
- 関の鼻パークハウス
- (有)だけ造園
- 木村水産
- えじり食品
- (有)森村自動車商会
- ホーセン(有)
- (有)中島木材工業
- 岩城農機店
- (有)サンワ工業
- (株)丸田組
- (株)谷野商事
- (株)浜田マーケット
- リカーショップスカンダ
- 勝豊鮮魚店
- 大野木印刷
- (有)坂口総合建材
- (有)ながたに
- エステファッションわかこ
- 谷口製材(株)
- 北國銀行
- フナケン
- 宮本水産
- (有)ファミリー電機商会
- (株)山田建設
- (株)新盛運輸
- (有)中島電気工事
- (株)豊蔵組
- 日本海建設(株)
- (株)東出組
- (株)福岡建設
- (株)表組
- (株)北都組
- 南建設(株)
- 石田工業(株)
- 東急建設(株)金沢(営)
- (株)青木建設金沢(営)
- 日本国土開発(株)金沢(営)
- (株)栗田測量
- 丸屋建設(株)
- (株)宇野建設(株)
- (株)アルファシステム(株)
- 沢田工業(株)
- (株)福木組
- (株)加納建設(株)七尾(株)
- (株)和倉ダスキン
- (株)洋建設(株)北陸支店
- 東海建設(株)七尾支店
- (株)三井(有)
- (株)大橋組
- (株)地域みらい
- 飛鳥建設(株)北陸支店
- (株)北陸スタッフ
- 佐藤工業(株)北陸支店
- (株)宮地組
- (株)ホクコク地水
- 北川ヒューテック(株)
- 吉田通運(株)
- (株)国土開発センター
- 北陸電気工事(株)七尾支店
- 能登通運(株)
- (有)アト商会
- (有)寛地園
- 関下建設(株)
- 昭和通運(有)
- 第一興産興業(株)

**能登演劇堂振興協会**  
中島町商工会  
平成8年4月現在(順不同)

- (有)ながたに  
TEL (0767) 66-1226
- アステイ池田書店  
TEL (0767) 52-7300
- ファミィ(輪島)  
TEL (0768) 22-8181
- うねだや(輪島)  
TEL (0768) 22-4661
- レディースファッションわかこ  
TEL (0767) 66-0558
- アルプラザ函島  
TEL (0767) 76-2211
- サンボア(輪島)  
TEL (0768) 22-7711
- 北市(有)(志賀町)  
TEL (0767) 32-0138
- バトリアサービスカウンター  
TEL (0767) 54-0777
- 菊澤書店本府中店  
TEL (0767) 52-0350
- 菊澤書店穴水店  
TEL (0768) 52-2410
- (有)サカイ事務機(高津町)  
TEL (0767) 42-2255



### Ⅲ. 武生市文化センター／武生国際音楽祭

武生市文化センターを中心に開催される「武生国際音楽祭」は、民間ボランティアによる実行委員会によって運営されている。各実行委員の役割など文化施設主導型のボランティア活動とは運営のしくみが異なるだけでなく、フェスティバルという年間のある一定期間に集中した事業に対するボランティアである点にも注目したい。

#### 📄 施設・運営の概要

運営母体	(財)武生市文化振興財団・施設管理事業団
所在地	福井県武生市高瀬 2-3-3
TEL	0778-23-5057
FAX	0778-21-1975
開館年月	1980年9月
複合形態	複合館
施設特性	多目的ホール
座席数	大ホール 1196席、中ホール 726席 小ホール 220席
自主事業予算	年間1,000万円（国際音楽祭は除く）
自主事業数	年間約10本（ 〃 ）
立地都市人口	70,161人
組織体制	9名（総務3、企画2、技術3、その他1）



#### 😊 ボランティア制度の概要

名 称	・武生国際音楽祭推進会議（毎年9月に組織）
導入時期	・1990年
登録人数	・60名
導入の経緯	・第1回武生国際音楽祭開催のための実行委員会（武生市主導）が組織され、その委員会に市民がボランティアとして参画していた。その後次年度以降の音楽祭継続に向けて、ボランティアのみの実行委員会を組織。実質的な音楽祭の実施・推進・主催団体となる。
活動内容	・企画・制作、広報・宣伝、受付・案内、教育普及活動
募集方法	・公募（音楽祭開催中のチラシ、市の広報等）、口コミ
研修	・特になし
実費支給	・なし
その他	・武生市文化センター内に推進会議の事務局を設置。ボランティアコーディネーターが総括。 ・①音楽祭開催前、②音楽祭中、③音楽祭後の3段階に分けて体制・業務内容を整理。 ・国際音楽祭の予算は4,500万～5,000万円。財政的な責任まで全て推進会議で負う。 ・会員制の任意団体から、財団化・社団化などの法人化の可能性を模索している。

施設側インタビュー記録

1. 武生国際音楽祭の開催までの経緯等

(1) 第1回音楽祭開催のきっかけ

- この音楽祭は1990年に「フィンランド音楽祭'90 in 武生」として開催されたのが最初。フィンランド在住のピアニスト舘野泉氏が東京で1989年に開始したもので、90年に地方展開の一環として武生で開催されることになった。
- 文化センターでコンサートなどを開催していた「音楽研究会」というピアノの先生の市民グループがあって、最初はそこに話があった。そのグループが市長と文化センターに話を持ち込んだのがきっかけ。
- 文化センターはちょうど10周年を迎えており、クラシックに力を入れていたが、聴衆の広がりという点で課題があった。音楽フェスティバルを開催すれば、市民と親密な関係の事業ができ、武生にもいい刺激になってプラスになるだろうということで、実施することとした。
- 市長も新任で、新しいことをやりたいと考えており、市の補助金300万円も付いて、フィンランドのアーティストを招聘した。市をあげての事業として、市の関係機関の商工会議所や青年団、婦人会にも声をかけ、音楽研究会のメンバーとともに30名の実行委員会を組織した。
- 実行委員長は、音楽研究会の代表でシンセサイザー音楽の作曲なども手がける高木芳盛氏が就任。ただ、実行委員会が組織されたのは前年の12月で、開催まで半年しか残されていなかった。
- 来日アーティストについてはフィンランドの方で決まっていたが、その他の準備事項はよくわからなかったというのが実状。実行委員会は、それぞれの組織の代表者とボランティアベースで参加している個人とがいて、会合ではなかなか内容が固まらないまま音楽祭に突入していった。結局、音楽祭はばたばたと始まることになったが、終わってみるとそれなりにうまくいった。
- 運営費としては、市の予算300万円と市内企業からの寄付金500万円（1社50～100万円）の800万円があてられた。
- 森と湖の国というフィンランドのイメージが良かったこと、前夜祭（2,000人が参加）などで事前に浸透を図ったこともプラスに働き、予想以上の成果があった。マスコミも応援してくれ、入場料収入もかなりの額になった。

(2) 第2回音楽祭

- 現在のボランティア組織が生まれたのは2回目のフェスティバルになってから。議会や市内企業には1回限りということで協力を要請したため、2回目以降の開催についてはあまり協力的ではなかった。
- まず、第1回の音楽祭に個人の立場で参加していた実行委員12～3名が集まり、何度となく検討した。その中で、音楽研究会メンバーの友人として参

加した人たちから、既存の市の祭やイベントは必ずしもうまくいっておらず、音楽フェスティバルのようなものが武生にあることはいいことだという意見が出た。

- また、その時に集まったメンバーは、街としての活力不足などにも強い危機感を持っており、万が一うまくいかなくても一人50万円ぐらい覚悟すれば10人で500万ぐらいなら何とかなるだろう、ということで、10月から翌年の準備を開始した。
- その時に集まったメンバーと、文化センターのメンバーが声をかけて50人の実行委員会を組織。第1回目の実行委員会と異なり、既存組織の代表者のような人はいなかった。男性は30～40歳代が中心で、武生の街づくりに危機感を持っている層が、女性は20～30歳代が中心でピアノの先生などが集まった。
- フェスティバルの事務局は第1回目と同様、文化センターが務めたが、同時に文化センターの職員は全員が個人として実行委員会のメンバーに参加。
- 第2回目のフェスティバルは、館野泉氏を芸術監督に「フィンランド音楽祭 '91 in 武生」として開催された。

### (3) 第3回目以降

- 3回目から名称を「武生国際音楽祭 '92」とし、主催が実行委員会から現在の「武生国際音楽祭推進会議」に変わった。
- 実行委員会では音楽祭が終わると組織が解散し、半年間活動が途切れていたが、音楽祭を準備するには1年ぐらいかかり、組織としてきちりとしたものにする必要があったため。
- また、音楽祭を支える傘のような組織として理事会を作り、市民の有力者に理事になってもらった。理事長は病院院長で音楽祭にも来ていた笠原氏に依頼、その他会社社長や実行委員会の元委員など、20名以内のメンバーで理事会を構成。
- 音楽祭の内容に関しては、館野氏の要請によって東京で開催されるフィンランド音楽祭を支える形で、フィンランドだけをテーマにしたものではやっていけないという意見が出された。
- そこで、第2回目の音楽祭に出演し、海外にもネットワークのあったピアニストの高橋アキさんに協力をお願いし、オランダとデンマークの演奏家を招聘することとした。
- オランダ、デンマークに焦点を当てたのは、あまり大国にしたくなかったため。高橋アキさんのネットワークということで、自然と現代音楽のウエイトが大きくなった。
- 3年目、4年目は音楽監督は置かず、高橋アキさんにアドバイザーをお願いし、フィンランド関係半分、現代音楽半分という音楽祭となった。現代音楽を取り上げたことで情報発信という点ではたいへん成功したが、逆に観客は減少した。
- そうしたこともあって、音楽祭は1994年の5回目に大きな方向転換を行っ

● 武生国際音楽祭'96 スケジュール

TAKEFU INTERNATIONAL MUSIC FESTIVAL '96 SCHEDULE

	武生市文化センター大ホールコンサート Takefu Bunka Center Main Hall Concerts	周辺市町村コンサート Run-out Concerts	ティータイムコンサート Tea-Time Concerts	スクールコンサート School Concerts	寺社コンサート Temple & Shrine Concerts	講習会、レクチャー等 Master Classes, Lectures and etc.
<b>6/1</b> [Sat]	6:00 p.m. オープニング ガラ&ウインド オーケストラコンサート Opening Gala Concert & Band Concert					
<b>6/2</b> [Sun]	7:00 p.m. リー・ジャン ピアノ リサイタル Li Jian Piano Recital 10:30 a.m. 子供のためのコンサート I ホワイエ Concert for Children I Lobby		2:00 p.m. レストラン 夢屋 チェロと アコーディオン		7:00 p.m. 大堰八幡宮 二胡	1:00 p.m. 武生市文化センター小ホール ピアノマスタークラス
<b>6/3</b> [Mon]	7:00 p.m. 許可(シュユ・クウ) 二胡 リサイタル Xu Ku Erhu Recital 1:00 p.m. プラハ放送交響楽団 オープン リハーサル Open Rehearsal of Prague Radio Symphony Orchestra	2:00 p.m. 能楽の里文化交流会館 (池田町) チェロ、アコーディオン、 サクソフォーン&ピアノ		2:00 p.m. 武生第一中学校 ボリシヨイ劇場 六重奏団		
<b>6/4</b> [Tue]	7:00 p.m. プラハ放送交響楽団スペシャルコンサート Prague Radio Symphony Orchestra Special Concert	2:00 p.m. 河野中学校 ボリシヨイ劇場 六重奏団		2:00 p.m. 武生第六中学校 チェロ、アコーディオン & ピアノ	10:00 a.m. 引接寺 チェロと アコーディオン	
<b>6/5</b> [Wed]	7:00 p.m. アコーディオンとチェロによるコンサート Accordion and Cello Concert	7:00 p.m. いまだて芸術館 ボリシヨイ劇場 六重奏団		11:30 a.m. 武生万葉中学校 カナダ室内アンサンブル (休養、打楽器) 2:00 p.m. 武生西小学校 カナダ室内アンサンブル(鐘)		
<b>6/6</b> [Thu]	7:00 p.m. タケフインターナショナルトリオ コン서트 Takefu International Trio Concert	7:00 p.m. 南条文化会館 カナダ室内 アンサンブル	2:00 p.m. ボナ・パティート アコーディオン	2:00 p.m. 武生第五中学校 ボリシヨイ劇場 六重奏団		
<b>6/7</b> [Fri]	7:00 p.m. カナダ室内アンサンブル コン서트 Canadian Chamber Ensemble Concert	7:00 p.m. 織田町中央公民館 ボリシヨイ劇場 六重奏団		1:30 p.m. 武生第三中学校 チェロ、アコーディオン & ピアノ		1:30 p.m. 武生市文化センター小ホール 声乐講習会
<b>6/8</b> [Sat]	7:00 p.m. ボリシヨイ劇場六重奏団コンサート Bolshoi Theatre Sextet Concert 11:00 a.m. 子供のためのコンサート II ホワイエ Concert for Children II Lobby		3:00 p.m. レストラン ピエトロ ヴァイオリン、チェロ & アコーディオン			1:00 p.m. 武生市文化センター 楽屋裏練習室 フルート、オーボエ講習会 2:00 p.m. 武生市文化センター 小ホール 音楽祭アカデミー
<b>6/9</b> [Sun]	3:00 p.m. ファイナル スペシャルコンサート Final Special Concert				10:00 a.m. 毫福寺 ヴァイオリン、チェロ & アコーディオン	1:00 p.m. 武生市文化センター小ホール 音楽祭フォーラム & トーク

た。具体的には、以前武生でのコンサートに出演したこともある福井県出身の指揮者、小松長生氏に音楽監督をお願いし、現代音楽の継続性を維持しながら市民に受け入れられやすい企画も取り入れるようになった。

## 2. ボランティアによる音楽祭の運営方法

### (1) 武生国際音楽祭推進会議について

#### ① 推進会議の位置づけ

- 音楽祭はこの推進会議が主体的に行っており、企画内容から財政的な面まで責任を持っている。従って、音楽祭は厳密に言うと武生市文化センターの自主事業ではない。
- (財)武生市文化振興・施設管理事業団は、武生市文化センターの運営を市から委託されているが、時として推進会議と市の板挟みになることもある。
- センターは音楽祭とは別に、市から1,000万円の補助金を得て年間約10本の自主事業を実施している。

#### ② 会員の構成

- 会員数としては当初100名をめざしたが、現在のメンバーは約50人。会員は、女性が若干多い。男性は30～40歳代が、女性は20～30歳代が中心。
- 年によって若干の入れ替わりがある。最初の音楽祭の時に高校生で演奏会を聞き、その音楽祭のボランティアをやってみたいということで、最近加入したメンバーもいる。
- 武生東高校には国際科という学科があつて、そこの留学経験のある女子学生も語学能力を活かしたボランティアとして参加している。
- 会員50名のうち、常時音楽祭の活動に積極的に参加しているのは約30名。残りの20名は、期間中に応援をお願いすると手伝ってくれるメンバー。
- ただ、7年間やってきて最初からやっているメンバーの中には疲れてきている人がいるのも事実。また中には、例えば外国人との交流やプログラムデザインなど、やりたいことはやっても、チケットを売るのは苦手やらないといったメンバーもいるようだ。
- 現在の事務局長は歯科医の山本有一郎氏。2年目から参加した方で、青年会議所の副理事長を務めたこともあり、組織の中でリーダーシップを発揮してくれている。
- 山本氏の参加の動機は、1回目の音楽祭の時に、館野泉氏に音楽祭の方向性を質問したところ、館野氏の「“黄金の中道”を行く」という答えに賛同して参加するようになったとのこと。

### (2) ボランティアの業務内容

- ボランティアの業務内容は次のとおり。ボランティアの運営システムということでいろいろとシステムチックに考えたこともあるが（役割分担、業務の流れ etc.）、必ずしもそのとおりうまくいくとは限らない。

## ■ 武生市文化センター／武生国際音楽祭

### ① 音楽祭準備期間

- ・宣伝班
- ・ウエルカムスタッフ班：交流会、おみやげ物の手配
- ・デザイン班：文化センター内、屋外の演出デザイン検討
- ・Festival Shop 班：グッズ探し、購入
- ・マップ班：イラスト入り武生市内マップの制作（日本語＋英語）
- ・テレ・マーケティング班：電話によるチケット・セールス
- ・情報収集・発信班：国内外のフェスティバルの情報収集
- ・プログラム製作班：プログラムデザイン、原稿依頼、プロフィール作成、曲目解説、広告依頼など
- ・ポスター・チケット・チラシ・のぼり班：デザイン・制作等
- ・アンケート製作班：アンケート用紙の作成
- ・ホームステイ班：演奏家の希望確認、ホストファミリー探し

### ② 音楽祭期間中

- ・接客スタッフ：来賓、マスコミ、大使館関係者対応など
- ・通訳スタッフ
- ・ウエルカム・スタッフ：交流会、さよならパーティの運営、進行
- ・託児所スタッフ：保育資格保持者を常時配置
- ・記録スタッフ：写真・ビデオ撮影、録音、プレス記事切り抜き
- ・ホームステイ・スタッフ
- ・バックステージ・スタッフ：楽屋係、影アナ
- ・アッシャー・スタッフ：ホール内の観客誘導
- ・アウトサイド・スタッフ：駐車場係
- ・ロード・スタッフ：演奏家の送迎

### ③ 音楽祭後

- ・アンケート回収・分析班
- ・記録収集班：写真アルバム整理、ビデオ編集
- ・報告書作成班
- ・収支決算書作成班：文化センター職員が担当
- ・反省会：ボランティア全員

## (2) 運営方法

### ① 運営体制

- ・財政的な面については、最終的に推進会議の理事会が、事務処理は文化センターの事務局が責任を持つことになっている。
- ・文化センターの館長は、推進会議の理事を兼ねており、対外的にはアーティストック・アドミニストレーター（Artistic Administrator）として芸術監督とともに企画とりまとめの中心的役割を果たしている。ただし、あくまでも推進会議の合意が前提。
- ・文化センターの職員はすべて財団のプロパー職員で、全員が推進会議の会員になっている。事業団の部課長クラスは市からの派遣職員。
- ・3年目からボランティア・コーディネーターを中心に音楽祭運営の体制を統括している。

② 募集方法

- 音楽祭のアンケートにボランティアとして参加してもいいかどうかという設問を設けておき、参加してもいいと答えた人に積極的にアプローチ。
- 新聞での広報、市の広報誌にも掲載。口コミでの勧誘も行っている。

③ 会費

- 現在は、組織としてきっちりとしておきたいということで、5,000円の年会費を集めている。最初は1万円だったが、若い人にも入ってもらおうという趣旨から最近5,000円という金額になった。
- また、当初は実行委員は一般の観客と同じように入場券を購入するのが原則だったが、現在は入会すれば演奏会が見られるようになっている。
- 会費については、音楽祭の会計とは分けて一般会計として経理処理。

④ 保険

- 音楽祭期間中のみボランティア保険をかけている。

⑤ 経費

- ボランティアは基本的に無償ということで、当初は演奏家の送迎に関する東京や大阪までの交通費も自己負担していたが、現在は、こうした経費については推進会議が実費を支給。
- 事務局は文化センター内に置かれているため、いわゆるオフィス代や通信費などはセンターが負担しているが、国際電話・ファックス、コピー用紙の費用については、推進会議が負担。
- 文化センターは、弁当や交通費などを支給することはない。

⑥ 友の会組織

- センターとして友の会組織はないが、DM 発送用として2,000名のメーリングリストがある。

(3) 音楽祭の運営予算

- 音楽祭の総事業費は4,500～5,000万円。
- 今年度の収入の内訳は次のとおり
  - 市助成金 : 400万円
  - 文化庁及び福井県助成金 : 1,080万円
  - 入場料 : 1,500万円
  - 周辺市町村負担金 : 500万円
  - メセナ(民間助成) : 200万円 (三菱信託芸術文化財団、花王芸術文化財団)
  - 地元企業の協賛 : 700万円
  - 雑収入 : 50万円 (グッズ売り上げ等)
- 文化庁からの助成金は、この音楽祭が、今立町の“紙展”と池田町の“田楽の里づくり”とあわせて「文化のまちづくり事業」に認定されたため。丹南地域まちづくり事業として県の助成金を含め、3つの事業に、2,000万円が5年間継続して助成されることになっている。

## ■ 武生市文化センター／武生国際音楽祭

- 文化庁の助成金は事業が終わってから、つまり1年遅れで入金されるため、その間借金する必要があるなど、実際の資金繰りでは苦勞することも多い。市の助成金は5月に支給される。
- 周辺市町村の負担金というのは、音楽祭にあわせて周辺市町村へ演奏家を派遣し演奏会を開催する事業を実施しており（6回のスクールコンサートも含む）、その費用として市町村に負担していただいているもの。
- 支出としては、交通・宿泊を含めた出演料が約3,000万円。残りがその他の運営費用。推進会議は、武生市文化センターの使用料（80～90万円程度）を払っている。
- 会計処理は、事業団に準じた形で行われており、市の監査もある。

### 3. 課題・今後の方向性

#### (1) 音楽祭の今後の方向性

- 小松長生氏には3年間音楽監督を務めていただいたが、音楽監督制に関しては、メリットとデメリットがあり推進会議でも意見が分かれている。ただし、来年度は継続していただくことが決まっている。
- 5年目に方向転換してから、一般の市民にはわかりやすくなったが、クラシックファンにとっては少しものたりないといったような声もある。ただし、長い目で見ると、地元出身の小松氏にもこの音楽祭と関わるることによって成長してもらえればと考えている。
- 現時点では10回までは続けたいと考えている。長い目で見ると、2回目の方向転換は正解だったと思う。方向転換したことで、音楽祭設立当初のメンバーで推進会議を離れ、別の事業を企画して実施しているグループもある。
- 館野氏は引き続き県内のコンサートに出演しているし、推進会議を離れたメンバーの中には「越前冬のコレクション」という別の企画を実施している人もおり、結果的に音楽祭がきっかけとなって幅広い音楽活動につながっていると思う。

#### (2) 推進会議としての課題、方向性

- 現在の推進会議は組織的には任意団体。企業寄付に対応したりするためには、できれば基金のようなものを持って、例えば財団や社団のような組織化を図りたい。
- 現在は出演者等との契約は推進会議の理事長名で、入国ビザの申請は公的機関の方が望ましいため、事業団の理事長名で行っている。
- 理事長、事務局長クラスの人には後任がない。文字どおりボランティア精神に頼ってきたため、“気持ちの上での切れ”のようなものがコワイ。
- 理事会の役員についても、組織的な引き継ぎが難しい。また、役員人事は本来なら会員からの推薦によって選出されるべきだが、必ずしもそうはいかない。
- 推進会議のメンバーは、このボランティア活動が個人的なものだけではなく社会的な意義を有したものであり、そうした責任に対する自覚を持って



■ 武生文化センター／武生国際音楽祭

いるが、“そこまでは付き合いきれない”といった場面もある。

- 業務を円滑に行うため、専任事務局員というスタッフを雇って（時給1,000円、音楽祭費用で対応）欧文レターのやりとりなど、アーティスティック・アドミニストレーター（Artistic Administrator）としての館長の業務を補佐してもらったこともある。しかし、そうした常駐スタッフがセンターにいと、本来ボランティアがやるべき仕事まで、その人に頼ってしまうようなことが起こり、結局その制度はうまく機能しなかった。
- 9月からは専任アルバイトとして違う人に来てもらい、ボランティア通信の編集業務などをお願いしている。時給は同じく1,000円だが、音楽祭経費とは別に確保する方向で検討中。

—以上—

## 😊 ボランティア・インタビュー記録 😊

Aさん（武生国際音楽祭推進会議 理事・事務局長、歯科医）  
Bさん（武生国際音楽祭推進会議 会員、自営業）  
Cさん（武生国際音楽祭推進会議 会員、会社員）  
Dさん（武生国際音楽祭推進会議 会員、武生市文化センター職員）

### 1. 参加の動機

**Aさん** | 東京で最初にフィンランド音楽祭を開催した時点で、主催者の館野さんが地方都市での受け皿を探しており、2回目から武生での開催が決まった。最初は官主導で文化センターが実際の受け皿になり、市内の各種団体に声がかかった。丁度青年会議所に属していたため、そこからの代表として参加することになった。

- 音楽祭自体には特別な思い入れはなかったが、これが街おこしの材料になる、ネットワークを拡大できる、子供達の感性の育成につながる、などの派生的な要素にむしろ可能性を感じた。一回目は無事に終わった。一回限りの開催のつもりであったのが、二回目も開催することになり、そのとりまとめ役を依頼された。

- 滞在型の音楽祭とすることで、アーティストとの個人的なネットワークができるし、①最低限教育的効果はある、②うまくいけば経済波及効果も生まれる、③さらには音楽祭を通して街おこしなど政治に関心をもつ人が増える可能性がある、と考えた。

**Bさん** | 市内で印刷屋をしているので、ボランティアのメンバーとは個人的に接点があった。また、10年ほど前から市民運動等には参加していて、ジャンルに関係なく市民のための催しを行っていた。武生の街づくりについて考える市民グループにも所属していたことがあるし、社会福祉系のボランティアは今でも継続している。

- 武生音楽祭の運営については、観客の反応を聞いているうちに、つくりあげる喜びややりがいを感じるようになった。音楽祭のボランティアが他の市民団体と異なる点は、活動している人達の目的が明確で、各論をやっても必ず根本にフィードバックされているところだと思う。理事会もボランティアメンバーに議論する機会を与えている点が違う。

**Cさん** | もともと音楽が好きだった。6回目の音楽祭の時に初めて観客として来て、その時のアンケートにボランティアに参加する意志があることを書いた。

**Dさん** | 武生市文化センターの職員であるために、自動的に音楽祭の実行委員会にボランティアとして参加している。

\* 武生国際音楽祭推進会議の会員（登録 59 名）のうち、7名は武生市文化センターの職員。1名は市役所の職員。音楽祭の事務局が文化センター内に設置されているため、自動的に実行委員会に入ることになる。

### 2. 満足度

**Aさん** | これまで続けてきたのは、抱えている問題以上に魅力があったからだと思

■ 武生市文化センター／武生国際音楽祭

う。歯科医以外のネットワークができる、具体的には音楽祭実行委員会の名刺を持っていけば、歯科医をしては会うことのない人にも会うことができる。

- 人生で、音楽祭をやらなかったらできなかったこと、経験できなかったことは仕事の何十倍もある。これを経験しない人生はもったいない。自分の利益ではないことにどんどん参加することで、それが結局は自分の得になる。満足度としてはこのように考えている。
- 一方では、理事を務めていることで多方面に義理ができる。理事の最大の責任は赤字の負担。“音楽祭の傘になれ”と言われている。理事はまず年間5000円を支払う。その他にアーティストや関係者の接待もする、チケットも売るという大変な役目を担っている。広告一頁10万円の協賛金集めもするし、自らも協賛金を出す。
- 理事長も、音楽祭を通して知り合った武満さんや秋山さんとの出会いをとても重要だと思っている。また、70歳をすぎて40歳も年のはなれた他のボランティアメンバーの人たちと交流できることも非常に大切に思っている。ボランティアの中は非常に民主的で、理事長ダカラという特別なものはない。ただ一方では、民主的すぎて芸術監督に対してもウンと言わない場合もある。
- 文化センターに音楽祭の事務局があるため、センターのスタッフの仕事の質としてもレベルはあがっていると思う。武生市規模の街で諸外国との大使館とも仕事をするようになるし、外国人もたくさんくるので必要に迫られて英語を話すようになるなど、刺激が多い。
- 行政は、やる気のある市民を使ってお金がなくてもできることをさまざまに行えば良い。
- 現状では行政に対する不満はある。今までの官僚は「これまで何をやってきたか」が重要。行政改革は民間人をいかに使えるかで違ってくる。

**Bさん** | 文化センターのこの部屋で音楽祭の話や武生の街づくりの話をしている時間は非常に充実している。その時間を自宅でテレビを見て過ごすこととの違いを長期的に考えれば随分の差が出てくると思う。

- ボランティアはある意味では民主的だが、民主的すぎて作業が進まないと思うことはよくある。広告もコンセプトにあわないところからはもらっていない。行政からの補助金も1割で良いと考えている。行政には文化センターの提供など補助金以上にできることがあると思っている。

**Cさん** | 演奏家の人達と実際に話ができたり、年齢層の違う人達ともネットワークが広がる点は満足しているが、話し合いによる意志決定を重視しているため、作業の進行自体が遅いと感じることはある。

**Dさん** | 立場の割り切りが難しい。特に音楽祭の事務局が文化センターにあるために、作業の切り分けも難しい。以前に一度文化センターの職場を離れた時には音楽祭のボランティアは継続しなかった。今の立場は純粋な意味でのボランティアではない。

### 3. 施設側への要望・課題等

Aさん | 行政が負担をして有償ボランティアを採用すると官主導になってしまうので、経費は民間である我々が負担する。但し、音楽祭の基本的な事務局機能として、特に音楽祭機関前は専任のスタッフが必要となる。この人件費だけでも行政が負担してくれると、コストもさることながら、行政とのパイプ役として働くことも期待できる。

- 文化センターをボランティアだけが使える場所にするのではなく、市民誰もがそこを利用するような状況になって欲しい。
- 今後は、武生に来た人やアーティストがどんどん世界中に広がって行けばと思う。音楽祭としては第10回まではこぎつけた。第5回を開催した時に次の5回のことを考えたように、第10回以降20回までは、新しい形での展開をして行けば良いと思う。
- また、NPO（非営利団体）の法人化も非常に重要である。淡々と仕事をこなす行政と一気に盛り上がる街のアンチャンとのエネルギーが繋がれば、必ず相乗効果が期待できる。音楽人口という意味では、7万人の都市で音楽祭開催中1万5千人が来ればマキシマムだと思う。来年、福井県立の音楽堂ができるので、競合するかもしれない。街づくりの運動体としては10万人規模が丁度良いと思う。地方都市が生き残るのは、マイナスの財産をいかに使うかしかない。

Bさん | まとめ役のAさんがいなくてもできるシステムづくりが必要。現在はAさんの献身に随分助けられてしまっている。

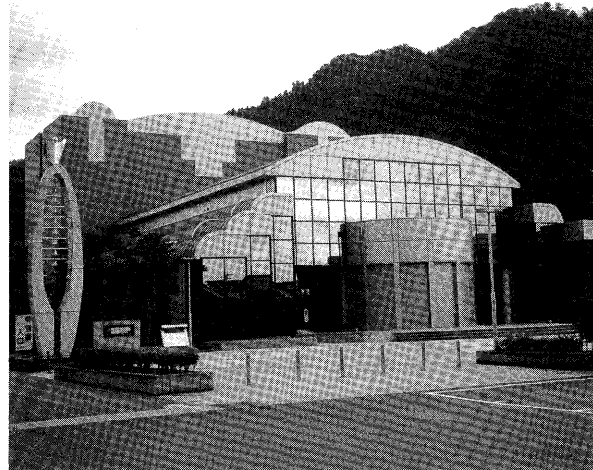
—以上—

## IV. いまだて芸術館

住民が企画立案から運営までを行う「企画プロデューサー委嘱システム」と、舞台・音響・照明等のスタッフを委嘱する「技術（AE:アシスタント・エンジニア）スタッフ委嘱システム」の2本立てでボランティアを採用。1991年の開館当初からの採用で、ボランティア・システムとしては先駆的な事例。

### 📄 施設・運営の概要

運営母体	今立町・いまだて芸術館事業協会
所在地	福井県今立郡今立町粟田部 11-1-1
TEL	0778-42-2700
FAX	0778-42-2828
開館年月	1991年11月
複合形態	単独館
施設特性	多目的ホール
座席数	600
自主事業予算	年間3,000万円
自主事業数	年間35本（平成七年度）
立地都市人口	14,859人
組織体制	7名（名誉館長1、館長1、副館長1、職員4）



### 😊 ボランティア制度の概要

名称	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企画プロデューサー委嘱システム</li> <li>・技術（AE:アシスタント・エンジニア）スタッフ委嘱システム</li> </ul>
導入時期	・開館当初から
登録人数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プロデューサーは現在企画数分の15名。但し、各企画に関わる延べ人数は200名程度。</li> <li>・AEスタッフは現在15名。</li> </ul>
導入の経緯	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住民参加型の施設運営を目指した町長および初代館長の川津氏の発案。</li> <li>・AEスタッフは当初、ホールの柿落としを契機に募集された町民劇団「綺羅星座」の技術スタッフとして募集され、開館後に追加募集をしている。</li> </ul>
活動内容	・企画・制作、広報・宣伝、舞台・音響・照明、受付・案内
募集方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プロデューサーは、所定の申込書で企画書を提出。採用されれば芸術館の自主事業として位置づけられる。募集は随時。広報誌等に募集記事を掲載（町の広報、芸術館の広報(アートホール31)）。</li> <li>・AEスタッフについては前述のとおり。</li> </ul>
研修	・AEスタッフの技術研修は時々実施（館内研修、館外研修(視察交流)）。先輩が新人に伝授する形を採っている。
実費支給	・AEスタッフのみ1事業の活動に対して5,000円（昼食代含む）を支給。
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開館当初と比較してボランティアスタッフが増加していない点が課題。新メンバーを育成する必要がある。</li> <li>・町民の中にはまだ一度も芸術館に足を運んだ事のない人もいる。広く町民に芸術館の活動を浸透させたい。</li> </ul>

## 施設側インタビュー記録

### 1. 施設運営のしくみ

#### (1) 運営の基本的な考え方

- いまだて芸術館の愛称は「アートホール31」。公募で決定した。
- 正倉院に残っている越前和紙は千年以上も昔のもの。いまだて芸術館も、千年先を見つめた活動を目指している。“31世紀の未来を見つめ「自然と人間との共存」と「住民主体の企画運営」”がテーマ。
- メジャーなもの、客寄せパンダ的なもの、打ち上げ花火的な催しはやらない、というポリシーを持っている。しかし、住民の中には、まだ芸術館に来られたことのない人もおられる。
- そこでみんなが身近にとらえることのできるお笑い文化を街づくりに活かそうと、実行委員が「吉本お笑いいまだて道場」という催しを開催した。人が入るものや芸術的な専門性の高いもの、という発想ではなく町民にとって良いモノであれば良いという発想。

#### (2) 組織・財政

- いまだて芸術館の運営母体は、いまだて芸術館事業協会。
- いまだて芸術館は年間の全体予算5,000万円。事業費3,000万円と管理費が2,000万円。
- 予算の流れとしては、今立町が財団法人伊万太千（パピルス館、和紙の里会館、公園、スポーツ関係施設、キャンプ場などを管轄している）を経由していまだて芸術館事業協会へ補助金を出している。事業協会はいわば3,000万円の予算の受け皿。公演や展示をするアーティストは、このいまだて芸術館事業協会との契約となる。
- いまだて芸術館の所管は教育委員会。職員は今立町教育委員会からの派遣。名誉館長と館長は財団の嘱託。

#### (3) 事業内容（昨年度）

- 事業内容はさまざま、毎年開催している今立現代美術紙展、第九演奏会のほかに町民演劇「綺羅星座」の公演など。綺羅星座、第九などには町長も参加している。その他には、沖縄の音楽（ネーネーズ）、親子のコンサート、ふるさとキャラバン、音楽座、サンデー・ナイト・ワールドミュージック・コンサート、シネフォリ、おわらい寄席、など。
- 昨年度の自主事業は35本、貸館事業が34本で、計69事業を実施している。
- 映画のプログラムでは観客が3人ということもあった。たとえ観客が3人でも、その3人にきちんと意図が伝えられるような企画であれば、彼等が周囲に広めてくれるはず。観客が少なくてもきちんと伝えることを考えた。

- 人口15,000人に対してホールの席数は600席。メジャーなものや親子を対象にした企画をすれば600席をうめることは難しくない。
- 集客で判断しがちだが、町には15,000人がたえずいる、文化はたえず町の中にいると考えている。文化で最も重要なことは伝えること。

#### (4) 館長に川津祐介氏を迎えたきっかけ

- 柿落としの劇の座長を依頼した。柿落としの後、館長に就任していただいた。佐々木小次郎のシナリオは川津氏が書くことになった。
- 綺羅星座は開館の半年前頃に結成された。団員は150名（当日の参加者も入れば600名が参加）。最初は演劇の稽古らしい稽古はほとんどしなかった。川津さんが、とにかく団員に生き生きしてもらうことを最優先し、みんなのささやかなことをとにかく誉めてくれた。
- シナリオや台詞が決まったのは二カ月前になってからで、3日前にやっと立ち稽古を行った。背景も150人みんなで描いた。
- 川津さんは自主事業の内容にも目を通す。現在は月に1回程度の来館。名誉館長。

## 2. ボランティア制度のしくみ

- ボランティア・スタッフは主に企画運営スタッフ（企画プロデューサー）と技術スタッフ（AE:アシスタント・エンジニア）に分けられる。このような住民参加のシステムはもともと町長や川津さんの発案。
- 「何をやりたいか」というよりも「町をどうしたいか」「町の人にこんな事に気付いてほしい」という思いを重視している。

#### (1) 企画プロデューサー・システム

- 企画プロデューサーについては、先ず企画提案書を提出してもらう。初めての人も電話で問い合わせさえしてくれば申込書を郵送する。提出した企画が選ばれば、芸術館の自主事業として採用される。年間いつでも随時受け付け。芸術館の広報誌（アートホール31）などに募集記事を掲載している。
- 企画を提案した人は、プロデューサーに任命される。自分の企画を実現するために、みんな口コミで集まってくる。
- 企画によって提案から実現までの期間もマチマチ。企画者の気持ちや思いが継続することを重視している。
- 各々の企画に関わる人は延べ200名程度。一つの企画にはプロデューサーを中心に10数名が平均して関与している。
- 年齢層は企画によってさまざま。アースデイは青年層が多い。性別では男性：女性が7：3くらい。

#### (2) AE:アシスタント・エンジニア

- 綺羅星座の技術スタッフとしてかかわった人がAEスタッフの母体になった。次の年にAEスタッフを募集した。

## ■ いまだて芸術館

- AEスタッフは現在15名。技術職だけに、個々人の技能に差が出てくるのが課題といえば課題。土曜日の仕込みと日曜日の本番で5,000円（食事代含む）の有償ボランティアとしている。ただ、スタッフ達はグループ全体の積立にしている。
- 芸術館の自主事業だけでなく、貸館事業の時にも出勤する。
- AEスタッフには全員保険を掛けている。職員に掛けているものと同じで、非常勤公務員災害補償制度（損保）というもの。責任は館側にあるので、AEスタッフが働く時には館側のスタッフも必ず付くようにしている。
- 企画プロデューサーはAEスタッフの例会に出席して、企画内容を説明し、技術的にサポートして欲しい部分を依頼する。
- AEスタッフに技術的な個人差が出て、それまでの人間関係が壊れることを川津さんは懸念していた。今は先輩が新人に伝授する形での研修が行われている。新しいスタッフには貸し館事業や発表会など高度な技術を要求されないものから初めてもらい、AEスタッフが指導をする。

### 3. 現在の課題と今後の可能性

- 現在、いまだて芸術館が抱えている問題としては、以下の点が指摘できる。
- ①開館当初と比較してボランティア・スタッフが増加していない点。新しいメンバーを育成する必要がある。
  - ②町民の中には、また芸術館に足を運んだことのない人もいる。待っている行政ではなく、町に出かけていき、町民に対して広く働きかけをしたい。
  - ③AEスタッフと企画プロデューサー・スタッフのドッキング。相互のコミュニケーションをもっと図りたい。
  - ④町民の思いを先行・優先したいと言いつつも、継続することが半ば義務感になりつつある。各グループのねらいを確認しながら継続すべき。

—以上—



# いまだて芸術館・企画提案書

文化芸術活動を通じて、いまだて芸術館のテーマである「地域の人々が主人公」と「人と人が支え合い、自然の中で育み合い、人と自然を大切にしたい地域づくり」をすすめるため、この企画を提案します。

企画アシスタントプロデューサー	
氏名	電話 & FAX
住所	〒

## 1. この企画のねらいについて

(1) あなたはなぜこの企画を提案されますか？

(2) この企画の地域に対する広がりをご考えますか？

2. この企画の提案と今後の展望を聞かせてください。

3. この企画の実現に向けて、実施のための仲間づくりをどう考えていますか？

## 4. 企画(案)

(1) 内容

(2) 開催場所(利用場所)

(3) 予定の日時・期間

(4) 予算(案)

○収入

円(千円単位)

チケット収入	
協賛金(広告&助成金)	
その他	
計	

○支出

出演謝礼	
交通費	
宿泊費	
食費	
広報費	ポスター チラシ チケット マスコミPR
舞台関係費	照明 音響 舞台美術
記録費	写真・ビデオ
計	

☺ ボランティア・インタビュー記録 ☺

Aさん	Hさん（結村構想研究会）
Bさん（綺羅星座、表現教室）	Iさん
Cさん（綺羅星座、表現教室）	Jさん（いまだて紙展事務局）
Dさん	Kさん（福井合奏団、教員）
Eさん（映画サークル・シネホリ事務局）	Lさん（綺羅星座）
Fさん（アシスタント・エンジニア）	Mさん（いのちと文明フォーラム）
Gさん（いまだて紙展事務局長）	Nさん（シネフォリ）

1. 参加の動機

**Cさん** | きらぼし座に入る以前から音訳グループ「いまだて」という視覚障害者のための朗読をする会に入っていた。芸術館は思いを訴えれば涙み上げてくれるところだと思う。高齢者が“私がいなければできない”と思う機会を与えられるのは芝居が良い。

**Dさん** | もともと芝居が好きだった。芝居を芸術館でできる、自分の夢の実現がここでできると思って応募した。他の公共ホールを使用したり自分たちだけで運営するのはリスクが大きすぎる。自分達の芝居だけでなく、福井のアマチュア劇団を呼んだり、自ら照明操作を担当したりして、自分に活力を与えている。

**Eさん** | 以前に芸術館の職員をしていた先輩に誘われたのがきっかけ。個人的には「街づくり」に興味があった。ハード面ではなく人間的なつながりが重要なのだろう、ということを感じていた。

**Fさん** | アシスタント・エンジニアをやっている。もともと高校演劇をやっていて、多少の知識はあった。芸術館で「綺羅星座」の柿落としの時に芝居に必要な設備をそろえてくれるように頼んだ。

\* 芸術館側としては、高価で使用頻度の低いものはレンタルで対応している。

• 技術系のスタッフは、①業者委託、②職員を整備するという方法以外として、③ボランティアによる運営が考えられる。

**Iさん** | やってみたいことに行政がお金を出してくれることに対する興味を感じた。スチールドラムのワークショップなどは、子供達が何かを通して生き生きと活動するために企画をした。

**Kさん** | 福井合奏団の公演を担当（30名程度）。南越中学校で音楽教師をしている。ポップス系に偏りがちな子供達や町民にクラシックの体験を深めさせたいと思った。また、中学校を卒業したあとも楽器に関わりたいという子供達も育って来た。福井合奏団に中学校の吹奏楽団も賛助出演している。

**Mさん** | 「いのちと文明フォーラム」という討論会を企画している。昔から環境問題には興味があった。丁度自分自身の生き方に疑問を持ち始めていた頃に、武生市の太鼓（はぐるま太鼓）のグループの記事を読んで子供達を温かい目で育てていることに感動した。直接話を聞きに行き、自分でも何かやってみたいと思った。「何のためにするのか」が明確にならないと芸術館での企画は通らない。企画のテーマは『許す』。自分を許すことを学んだ

と思う。自分でやりたいことがあって、それが社会のためになればここは何でもやらせてくれる。

**Nさん** | 映画が好き。映画サークル名の『シネフォリ』とは「映画バカ」のこと。上映の中心は日本映画。文化庁から出ている優秀映画鑑賞事業に指定されたものもある。今立に映画館はない。“フィルム”がアナログだという見られ方もあるが、映画製作の素晴らしさを伝えたいと思っている。

## 2. 満足度

**Bさん** | 青年団に所属している時にやっていた芝居をもう一度やりたいと思って「綺羅星座」に入った。丁度、精神的に落ち込んでいた時だったが芝居をやったお陰で仕事も定年まで勤め上げることができた。

- 川津館長の「世の中は演劇です。社長も会長も一時的なキャストです。今の仕事を一生懸命やれば良いんです。」という言葉は落ち込みから脱するきっかけとなった。芝居を通して友人ができ、心の内を裸にして自分自身に素直になれる場所を得た感じがする。

- ボランティアというと「自己犠牲」という感があるが、自分のやりたいことをやって自分自身を幸福にすることが大切。それがたまたま社会の役に立てばなお良いという感じ。

**Gさん** | いまだて紙展の事務局を務めている。事務局は13名。満足度は50%。

- 全国各地あるいは海外からアーティストなど来客が来た時の事後処理が大変。作家も個性があつて難しいし、個々の作家からの要求や期待への対応も難しい。紙展の規模が大きくなるにつれて難題も広がる。

- 一方、プラスであると思える部分は、サントリー地域文化賞を受賞したことや、他の地域の作家との交流が生まれることで、いまだて以外の地域の情報を得ることができる点。

- 公募展は隔年開催。その間の年はより実験的・ワークショップ的な活動をしている。運営方針全体として少し壁にぶつかっている時期だと思う。

**Hさん** | 学生のころから反体制運動に携わってきた。芸術館には義理で見に来たことはあったが、自分で何かをする時間はないと思っていた。副館長に「環境と芸術は一体のものだ。」と言われたのがきっかけ。結い村構想研究会に参加できて、これまで個人でしてきた活動が広がった。

**Jさん** | いまだて現代美術紙展に、いまだて芸術館ができる前から17年ほどかかわっている。国際的な作家も招聘できるような空間づくり・場づくりを考え、美術を中心にした芸術村を目指していた。当時はなかなか理解されず、他の活動を通して資金を集め、紙展の活動を重ねて来た。

- 自分の目標から言うと満足度は60%。「生きること自体が芸術」ということを人に伝えたい。

**Lさん** | 「生まれてきて良かった。出会えて良かった。生きていて良かった。」という目標や、「きらぼし座の運営は“損取りゲーム”。人のことをどれだけ考えられるか、それがきらぼし座の原点だ。」という話など、川津さんや「きらぼし座」との出会いに感動があった。

## ■ いまだて芸術館

- 一般的には町長と直接言葉を交わしたりするのは難しいが、町長も「きらぼし座」に入っていて、社会的な役職・地位に関係なく自分が一人の間になった時に何を感じるかを考えるようになり、その体験が大きな収穫だった。そういう活動を世界に向けて発信したい。
- 満足度は100%。今では表現教室や音響にも関わるようになった。

### 3. 施設側への要望・課題、その他

- Jさん | 人事異動で担当者が変わると人間関係の蓄積が失われる。音楽・演劇・美術の各々の専門知識を持った担当者が芸術館のプロパー職員としているのが理想的。職員は異動してしまう。
- 芸術館に隣接して図書館もあるが、芸術館もさまざまな情報や活動のセンター的なものであって欲しいので、芸術関係の情報や資料をもっと充実させて欲しい。
  - 人との交流が生まれることは良いが、そこから次のステップへと前進するような考え方が欲しい。
  - 町民以外の方が芸術館を使い始めると、責任関係が曖昧になる場面が生まれてくる。そこを明確にして欲しい。
- Iさん | 技術スタッフの技術向上などをめざし、研修等を積極的に受講させて欲しい。一つが終わった後、次のステップに引っ張るシステムが館側で整備されていない。
- 町の人々から我々の活動やそのシステムが支持されていないと、継続できない。
- Fさん | アシスタント・エンジニアは、館側の担当者の了解がなければホール of 機材を自由に使えないしくみになっている。機材の管理上の都合そうなることはやむを得ないと思うが、逆に異動してくる職員の人にもっと知識や経験があって欲しい。
- 地元の若者がもっと出入りするようになる工夫が必要。
  - 人口数万のこの町では、施設の利用率から見てもある程度飽和状態になっているのかもしれない。長期的な視野をもって運営する必要がある。

—以上—

## V. 大阪府立青少年会館・プラネットステーション

大阪府立青少年会館では、青少年の文化活動の拠点施設として平成2年に「プラネット・ステーション」を建設。そこで行われる主催事業は、青少年の手によって企画・運営されるもので、その運営に「イベントすたっふ」というボランティア制度が導入されている。ボランティアというより、青少年が主体になった事業を組み立てることによって、青少年の健全育成を図ることに主眼が置かれている。

### 施設・運営の概要

運営母体	(財)大阪府青少年活動財団
所在地	大阪市中央区森ノ宮中央 2-13-33
TEL	06-942-5146
FAX	06-942-2448
開館年月	1965年4月(プラネット・ステーション1990年12月)
複合形態	複合館(ギャラリー併設)
施設特性	多目的
座席数	文化ホール：1,200／プラネットホール：140
自主事業予算	年間1,000～3,000万円
自主事業数	年間15本(平成八年度)
立地都市人口	2,599,642人(大阪市)
組織体制	総務系:11、企画系:4、技術系:14、計29 (青少年会館全体)



### ボランティア制度の概要

名称	・イベントすたっふ
導入時期	・1994.12
登録人数	・168名
導入の経緯	・主催事業は青少年の企画提案に基づいて、青少年のプロデューサーにより実施しており、その運営業務そのものも青少年の手に委ねて実施するためにボランティア制度を導入。
活動内容	・企画提案、受付・場内整理・観客誘導、舞台・音響・照明の補助
募集方法	・主催事業の企画を募集し、採用された企画の提案者が「チーフすたっふ」となる。その企画内容に基づいて「イベントすたっふ」を募集。
研修	・技術講座(6コース)。
実費支給	・予算の範囲内で活動費(交通費相当)を支給。
その他	・主催事業は、大阪府が総合プロデューサーに委託して実施している。委託先から派遣する形で、イベントすたっふのまとめ役として制作チーフを1名置いている。 ・企画の内容に関して、もっとオモシロイ、若者らしい“やんちゃ”なものが出てほしい。

## 施設側インタビュー記録

### 1. プラネット・ステーション設立の目的と運営

- プラネット・ステーションは、青少年の文化活動の拠点施設として、建設費8億、設備費3億で、平成2年12月に青少年会館小ホールの跡地に建設された。
- 府立青少年会館には、1,200席の多目的ホールの他に、複数の会議室やグループ活動室があり、演劇の練習に最も多く使われている。現在約200の劇団が登録しており、会議室が満室のときなどは、屋外の広場（ヤングスクエア）で発声練習をしたりするグループもある。
- 青少年を対象とした主催事業の技術サポートはボランティアのイベントすたっふが行っている。ただし、使用料を取る貸し館事業の場合は、専門のスタッフからなるホール課（5名）が対応している。
- 主催事業の場合でも、当然ホール課のスタッフが、状況によってはイベントすたっふにアドバイスをする。
- 施設の中の機器類は、基本的に自由にさわられるようしくみを取っている。
- 現在の稼働率は、ホールが約90%、スタジオが60～70%。
- プラネット・ステーションの年間事業費は、府からの委託料と補助金をあわせて約2,000万円。

### 2. ボランティア制度導入の経緯

- 主催事業は、若者のための若者のイベントを基本としており、大阪府が総合プロデューサーに業務委託して実施している。
- 開館当初は、その総合プロデューサーを経由して若手プロデューサーを募集して、5名（10代2名、20代3名）を起用し、各主催事業を実施していた。
- 事業を実施する際、プロデューサーが若手であること、また、扇町ミュージアムスクエアで若者を対象に実施したアンケートによると、若者の多くに、劇場やホールの舞台設備の技術操作、裏方さんに興味があることが明らかになったことから、運営メンバーとして、ボランティアのイベントすたっふを募集することになった（平成3年8月）。
- 青少年の健全な自己実現の場として、ボランティアの経験を提供することは意味のあることだと思う。

### 3. プラネットステーションとボランティア

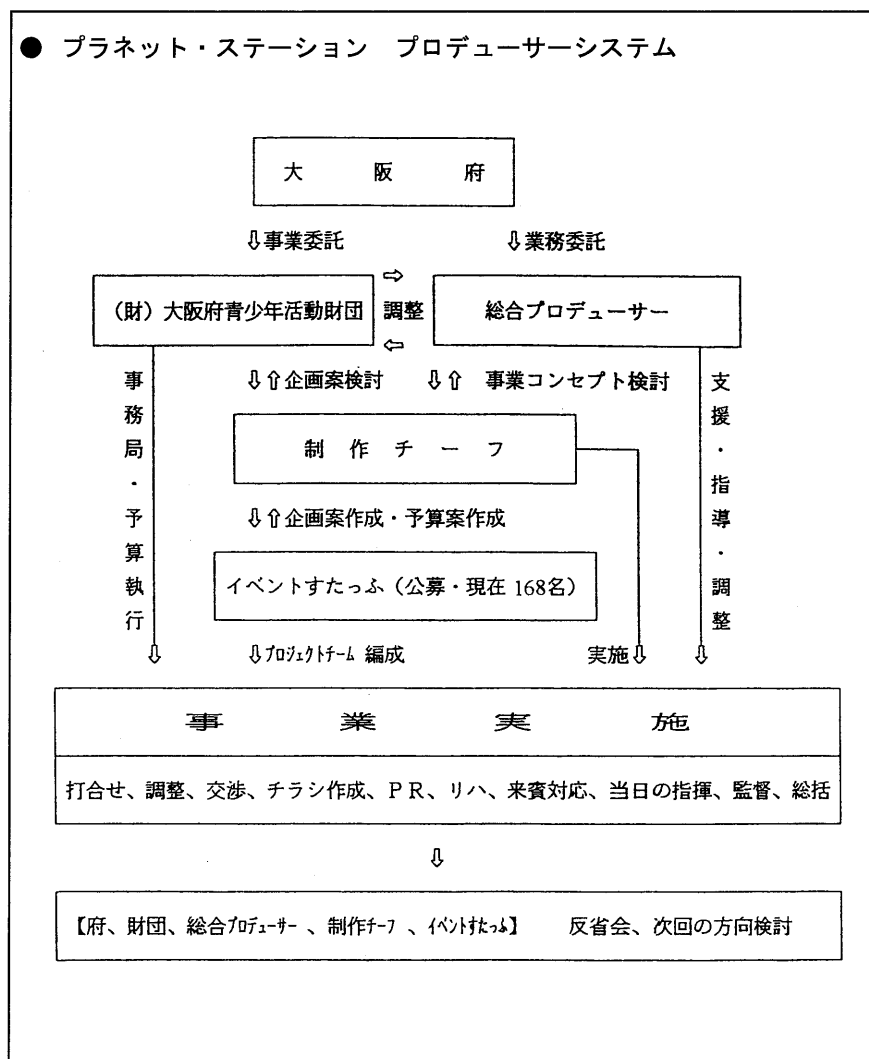
#### (1) プロデューサーとボランティアの役割

- 最初は総合プロデューサーが核になって事業を実施していた。翌年になって新たな若手プロデューサーを公募して事業を実施したところ、企画の立案が義務化してしまったこと、イベントすたっふの方が実績があつてプロ

■ 大阪府立青少年会館／プラネット・ステーション

デューサーとの役割が逆転してしまったことなどがあり、必ずしもうまくいかなかった。

- そこで、イベントすたっふの中から各事業ごとのプロデューサー役となる「チーフすたっふ」を選び出し、他のイベントすたっふが事業の制作・運営をサポートするという方式に変更した（平成6年12月）。
- 平成8年度のプラネット・ステーションの主催事業は別紙のとおりである。このうち、最も大きな催しは毎年夏に行われる「プラネット・フェスティバル」と高校生のアマチュア演劇公演「プラネット演劇祭」で、どちらも100名程度のイベントスタッフが関わっている。
- 基本的にはやりたいことをやってもらうようにしているが、企画の実現に向けて糸口を見つけるなど手助けをすることもある。
- 企画の立案から当日の運営までは、基本的にイベントすたっふに任せているが、事業の実施に伴う予算経理上の手続きは館側の職員が対応。



■ 大阪府立青少年会館／プラネット・ステーション

● 参考：平成8年度 プラネット・ステーション主催事業 イベントメニュー一覽表

イベント名		実施予定日 (仕込み、バラシ含む)	内 容
プラネット・フェスティバル (演劇、音楽、アート)		8/3(土)～4(日)	プラネット・ステーション全館を使って多様なイベントを展開し、幅広く交流する場とする。
演劇	HOSANNA	11/16(土)～17(日)	「HOSANNA」を主人公とした演劇で、プラネット・プロデュース公演とする。
	プラネット演劇祭'97	3/21(金)～23(日)	ややもすればコンクールを意識しがちな高校演劇に自由な演技ができる場を提供する。
プラネット・ジャム '96		12/14(土)	一般公募のアマチュアミュージシャンとプロミュージシャンの共演
映画	映像ワークショップ	6/23(日)、30(日)、7/21(日)	ビデオ撮影・編集などのノウハウを実践を交えて指導
	プラネット映画祭 '97	2/15(土)～16(日)	公募した自主製作映画とプラネット・プロデュース作品を上映
アート	THE WALL ART	9/2(月)～10/16(水)	会館防音壁の壁面を利用してアートを制作する。
	オムニバスアート	9/15(日)～30(月)	美術展終了後の不要となった材料を使ったアート展
技術講座	基礎編	5/18(土)～19(日)	照明・音響・舞台の初歩的技術講座
	中級編	1/31(金)～2/1(土)	同 中級講座
	プラネット・テクニカル・スクール	6/10(月)、6/24(月)、7/15(月)、8/1(木)、9/12(木)、9/26(木)、9/30(月)、10/5(土)、10/6(日)	照明・音響・舞台効果の実践の場
プラネット年鑑		3 月末日発行目標	平成 8 年度イベントの集大成の編集
日活浪漫劇場公演		10/19(土)～20(日)	プロ演劇
おかげ様ブラザーズ公演		12/15(日)	プロ音楽
演劇ワークショップ		9/21(土)～22(日)	
音楽ワークショップ		2/2(日)	



## (2) 運営方法等

### ① 募集方法等

- まず、企画を募集し（多いときは30～40件の提案がある）、それに基づいてイベントすたっふを募集し、説明会を開催する（年1回）。
- イベントすたっふは基本的に応募者全員（30歳までの青少年）を受け付けており、現在168名が登録している。1回のイベントに協力するスタッフはイベントの規模によるが、20～100名程度。
- チーフすたっふがイベントすたっふとして仲間を連れてくるときもある。
- イベントすたっふには、予算の範囲内で活動費（交通費相当）を支給しているが、わずかであり本人の持ち出しとなっているのが現状。また、必要に応じて、昼夕の弁当を提供しているが、あとは無報酬。

### ② 運営

- 現在、イベントすたっふのまとめ役として制作チーフを1名置いており、イベント実施のための調整とともに、イベントすたっふの相談役としてプラネット・ステーションに常駐している。
- 具体的には、府の青少年課から㈱セカンドプロデュースに対して総合プロデューサーの業務委託を行い、㈱セカンドプロデュースから派遣されている。
- ボランティアの保険については、イベント保険に加入している。各イベント20名の補償に対応できる保険である。

## 4. 現在の課題と今後の方向性

- 企画の内容に関して、館側の“大人”が思うほど斬新な企画やアイデアが出てこない。もっとオモシロイ、若者らしい“やんちゃ”なものが出てきてもいいと思っている。
- イベントすたっふについては、もっと気楽にやって欲しい。例えば、具体的な用事がなくても気軽にプラネット・ステーションに顔を出すとか。
- イベントすたっふのたまり場として「プロデューサー・ルーム」を設けているが、そのことで逆に閉鎖的になったり、身内化してしまう危険性もある。
- プラネット・ステーションの自主事業としてイベントすたっふが何をやっているかが伝わりにくいので、インフォメーション機能を強化してほしいとの意見が強い。
- 現在のイベントすたっふは、館の自主事業にしか関わっていないが、ホールの運営全体に関与させてはどうかという意見もある。
- ただ、現在のイベントすたっふが一般の公演をサポートすることは、技術レベルと館としての責任の問題から難しい。借りる側にとってもあまりあてにできない。
- イベントすたっふの方から自主的に手伝いを申し出た例や、借りる側から手伝って欲しいという要望が出されたことはある。

■ 大阪府立青少年会館／プラネット・ステーション

- 現在、外部への貸しホールに関しては、ホール課のスタッフが対応している。

－以上－

## 😊 ボランティア・インタビュー記録 😊

- Aさん（プラネット・ステーション・制作チーフ）  
 イベントすたっふのアドバイザー兼まとめ役。また、文化課とスタッフの橋渡し役でもある。）  
 Bさん（今回のプラネットフェスティバルの舞台監督、大阪芸大学生）  
 Cさん（今回のプラネットフェスティバルの照明チーフ、劇団にも所属、役者）  
 Dさん（今回のプラネットフェスティバルの受付）  
 Eさん（今回のプラネットフェスティバルのコスチューム担当、アルバイト）  
 Fさん（今回のプラネットフェスティバルの企画「人」担当、専門学校生）

### 1. 参加の動機

**Aさん** | 音楽活動をしていたことから、舞台裏の仕事に興味を持ち、関連する講座を受講した際に総合プロデューサーに誘われた。制作チーフとしての活動歴3年目。

\* プロのミュージシャンであり、芝居もわかる。イベントすたっふ全体のコーディネーションを依頼している。

**Bさん** | 高校生時代から劇団に属しており、プラネット・ステーションで開催された演劇祭に参加したことがきっかけで、M先輩（高校の先輩、プラネット・ステーションでは2代目の演劇プロデューサー）に誘われた。今年で2年目になる。

\* 開館当初のプロデューサー・システムは、公募によって集められた演劇・音楽・美術・映画の各プロデューサー4名を固定し、その企画をボランティアが手伝う、という方式。①プロデューサーが交替すると、継続しているイベントすたっふの方がプラネットステーションのことを良く知っているという逆転現象が起こる、②企画が無い時のスタッフ間の情報交流が停止してしまう、などの理由によりこの方式は廃止された。

**Cさん** | 高校演劇がきっかけ。Bさんと同じ時期、M先輩に演劇プロデューサーのアシスタントをやらなかと誘われてイベントすたっふを始めた。活動歴2年目。

**Dさん** | もともと芝居をやっていた。M氏に勧誘された。

**Eさん** | 「ぴあ」でのイベントすたっふ募集記事を見て応募した。活動歴2年目。もともと裏方に興味があり、いくつかの劇団を受けてみたが採用には至っていなかった。始めた当初は何でもやってみたかったので、様々なことに挑戦してみた。衣装には以前から興味があった。

\* 希望者は、舞台関係の技術講座を受講できる（一般に公開しているもの）。あとはやりながら覚える。上達すれば別のホールでアルバイトとして働いたり、プラネットから旅立って劇団付きの照明スタッフになった人もいる。

**Fさん** | プラネットステーションのテレホンカードを作成した人のチラシを見て、アート関係の友人が欲しくて応募した。去年は美術の装飾関係のスタッフとして活動したが、たまたま「人」という企画が今年のプラネット・フェスティバルのテーマとして採用され、より深く関わるようになった。

### 2. 満足度

**Aさん** | イベントすたっふはボランティアなので、結局は学校や会社など生活のメ

## ■ 大阪府立青少年会館／プラネット・ステーション

インな活動が別にある。そのために、連絡なしに来ない、時間に大幅に遅れる、よって予定していた作業が進まない、などの状況が起こりやすい。現状では、その度に怒っていることもできないので、その状況の中で何ができるかを考えることにしている。

- 各スタッフの担当は、募集をした時の個々人の要望にあわせて割り振っている。

**Bさん** | プラネットには芝居がしたいと思って来たが、良い意味で自分が期待していなかった部分、つまり美術や音楽など他の分野に関する知識も得ようになり、面白くなった。プラネットに来ているイベントすたっふで劇団も結成した。

**Cさん** | 舞台・照明など役者以外のことを学べ、知識が広がった。“自分の好きなことをやりに来ている”ので、ボランティアという感覚はあまりない。

**Dさん** | 人間関係に広がりがあったのが良かった。いろいろな分野のことを体験させてもらえる雰囲気があった。プラネット・ステーションは、以前はただの“公共ホール”だったが、今では勝手にわかるようになり“好きなホール”になった。ボランティアという意識は当初からなかった。

**Fさん** | 考え方が以前より柔軟になったように思う。芝居関係の人達の話も素直に聞けるようになった。

### 3. 活動の頻度

**Aさん** | 週に5～6日は出勤している。時間帯は昼過ぎから夜閉館まで。この場所に常駐している人が誰かいないと、スタッフがフラッと来館した時に対応できない。特にボランティアが来るのは夕方以降だが、事務局の担当が定時（午後6時）で居なくなる場合があるため、橋渡し役がいないとコミュニケーションが充分にはかれない。

**Bさん** | イベント期間中は、毎日足を運ぶ。それ以外でも週1回は顔を出す。夕方来れば、誰かに会える。

**Eさん** | アルバイトをしながら、イベントがある時はほぼ毎日、仕事がなくても顔を出している。

### 4. 施設側への要望・課題等

**Aさん** | 実際、やりたいことがあれば何でもできる場所だと考えている。

- イベントすたっふは、様々な理由で数年で止めてしまい、その後のフォローが難しい。イベントすたっふを支え、バックアップできる体制をつくりたい。イベントすたっふを育てるイベントすたっふが必要。但し、限られた人だけが居心地の良い場所であっても困る。新しく来て新しいことをやってみたい人には、そのチャンスを与えたい。
- プラネットステーションの周辺に食べる場所が無いため、遅くまで活動・稽古をしていると不便を感じる。公共ホールであるがゆえに制約もあるが、何とか改善できないかと思う。
- その他、大阪市内の他のホールとの交流もしたい。プラネット・ステーション

## ■ 大阪府立青少年会館／プラネット・ステーション

オン内部の活動が活発なのは良いが、内部だけでかたまっているような印象も持っている。

- イベントすたっふ全般に対しては、とにかく約束を守って欲しい。ボランティアであっても“来る”ことに対する責任感が欲しい。

\* イベントすたっふの職業は、1/3が大学生、1/3が社会人、1/3がフリーター

**Bさん** | 何年か同じスタッフで活動していると、マンネリ化する。常にいろいろな面白い活動をしている人をスタッフに加える努力が必要。

\* イベントすたっふは毎年募集。うち20%程度が継続。常時活動をしているのは20人程度。プログラム単位で活動するが、複数のプログラムに関わる重複スタッフもいる。

- これからは、もっと「芝居」がメジャーになるような活動がしたい。遊びに行くジャンルの中に、映画やスポーツなどと同じ並びで「芝居」に足を運びたくなるような企画をし、そうすることで、プラネットでの活動を広めたい。現状では、プラネットは芝居をやっている人にしか知られていない感がある。

**Cさん** | しいて言えば、この先も自分が好きなことをできる場所であって欲しい。

\* イベントすたっふへの参加はロコミが多い。興味本位での参加は長続きしない場合が多い。スタッフの募集はちらしが中心となるが、ラジオ等の広報媒体にお願いすることもある。スタッフ公募の前にまず企画を募集する。

**Dさん** | プラネット・フェスティバルは分野を越えたイベントの一つだが、その他は演劇、音楽、美術、映画など分野ごとに活動している。分野を越えたイベントを企画して、プラネット・ステーションの前を歩いているようなサラリーマンにも参加してほしい。このような考え方をするようになったのは、プラネットの影響。

- プラネットホールの利用希望者が多く、抽選で利用日を確保するのが至難の技。個人的にはこの点が改善されると有り難い。
- プラネット・ステーションを発表の場として使用するのは、旗揚げして1～2年の劇団が多い。その他、打ち合わせや稽古場（青少年会館の会議室など）として使っている。劇団関係者の“集合場所”という感じ。「森ノ宮」と言えばプラネットステーションを指す。1階（要予約・パブリックスペースは無料）と2階はフリースペースで自由に使える。青少年会館が使えなければ、外の広場でも稽古をする。

**Eさん** | 貸し館としての青少年会館も午後9時の閉館までの使用を、せめて10時まで延長してもらいたい。

- イベントすたっふとして来る人がだいたいいつも決まっている。継続してスタッフを努める人もいるが、短期間でやめてしまう人も少なくない。“ボランティア”という意識で来ている人は長続きしないような気がする。“好きなことをやらせてもらっている”という意識の人は残っている。あと、ジャンルを融合した活動は、今後の課題だと思う。

**Fさん** | 「プラネット・ステーション」が一般に知られていない。この場所自体のPRを考えて欲しい。個人的には、実際に運営する立場にたつて裏の厳しさがわかった。それをふまえて、また企画を出してみたい。

—以上—

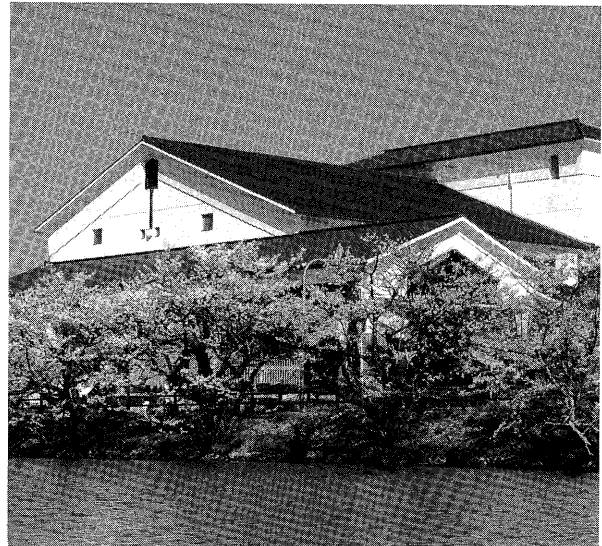


## VI. たんば田園交響ホール

裏方業務を担う「ステージ・オペレーター・クラブ」、もぎり、客席案内などオモテ方の業務を行なう「レディースi」、女性に期待される企画と観客動員を安定させる方策を諮問している「レディース21委員会」という複数のボランティア制度を導入。様々な角度から地域住民がホールの運営を支える試みで、地域に根ざした公共ホールの運営をめざしている。

### 📄 施設・運営の概要

運営母体	篠山町
所在地	兵庫県多紀郡篠山町北新町 41
TEL	0795-52-3600
FAX	0795-52-3646
開館年月	1988年4月
複合形態	単独館
施設特性	音楽ホール
座席数	800
自主事業予算	年間 3,000～5,000 万円
自主事業数	年間 11 本（平成八年度）
立地都市人口	22,590 人
組織体制	総務系:2、企画系:1、技術系:3、その他:1 （全て自治体職員）



### 😊 ボランティア制度の概要

名 称	①：ステージ・オペレータークラブ、②：レディースi (アイ)、③：レディース21
導入時期	1987.10
登録人数	①：89名、②：36人、③：21人
導入の経緯	①：舞台技術に対する知識とノウハウを理解してもらうことを目的に、開館の1年前より養成講座を実施（直接的には技術スタッフの業務委託費用の利用者負担の軽減がきっかけ）。
活動内容	①：舞台・音響・照明／ボランティア会報誌の発行、②：もぎり・案内・パンフレット配布、③：企画・制作
募集方法	①～③：新聞等で公募。
研修	①：養成講座15回／年（現在5期生）。
実費支給	①：午前/午後/夜間各1コマ1,500円、全日4,500円を交通費と食事代として費用弁償。
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 地元のアマチュア文化団体の発表会については、公演内容や演出方法をステージ・オペレーターがアドバイスし、徐々に内容が向上している。</li> <li>• 将来的には、ホールのボランティアが地域コミュニティのコアになってほしい。ボランティア・メンバーがきっかけになって、篠山町では、舞台に立ったことのある人、ホールに来たことのある人の割合は非常に高い。</li> </ul>

## 施設側インタビュー記録

### 1. 施設全体の運営のしくみ

- たんば田園交響ホールは、広域行政を対象にした兵庫県の県有施設で、県が地元広域行政に運営を委託し、広域行政がさらに篠山（ささやま）町に運営を委託している。
- 建設費（12億）は県が負担し、地元が用地を提供して施設は建設されたが、運営費は100%篠山町が負担。
- 自主事業を含めた年間の総運営費は約1.3億円で、貸ホールや入場料収入を除いた約8,000万円が町の一般財源から支出されている。ちなみに町の一般会計の規模は約90億円で、ほぼ1%に相当。
- 自主事業は年間13～14回程度。
- ホールの運営は、当初は町の教育委員会の管轄だったが、現在は町長部局の課の位置づけ。
- 町の人口は現在22,500人。広域行政の周辺の町を合わせた4町全体では約5万人弱。篠山町の計画人口は2万5千人で、ベッドタウン的な性格の強い町であるが、神戸新聞の調査などでは住みやすい町の上位にランクづけされている。
- 篠山町のイメージづくりにホールは一役買っており、隣接する公共施設や観光ホテルの外観は、ホールのデザインの“なまこ壁”に統一されている。

### 2. ステージ・オペレータークラブ

#### (1) ボランティア導入の経緯

- 1987年度に建物を建設、同時にオペレーター養成講座を開設し、その修了生で翌年の88年からステージオペレータークラブというボランティア・スタッフを導入しており、今年で9年目。
- 当初は、舞台・音響・照明等の運営は、関西方面の専門業者に委託することを検討していたが、専門業者と契約すると一人につき1,500万円近い契約金額とさらに一日2万円ぐらいの経費がかかることがわかった。つまりそれでは、1公演当たり、経費だけで30～40万、仕込みも入れると50～60万円の費用がかかってしまうことになる。
- そこで、その経費を節約するために、ボランティアで裏方の業務をやるのができないかと考えた。まず、準備室のスタッフがフォークソングをやっていた経験を活かし、そのメンバーが中心になって裏方をボランティアでやっていけないか検討した。
- 新聞で公募したところ60名の応募があり、87年の11月から養成講座を毎週1回、5ヶ月間実施した。
- 県内のホールの照明担当者を講師に招いたり、舞台関係の設備・機器類の



● 第5期ステージオペレーター養成講座カリキュラム

	月	日	曜	講 習 内 容	講 師	
1	1	・	17	火	開講式（舞台をたのしく芸術する）	
2		24		火	舞台概論	出口源市
3		29		日	劇団「四季」篠山公演 視察研修	
4		31		火	照明概論	菟原 功
5	2	・	7	火	音響概論	小林純一
6		12		日	おじさまの音楽会 視察研修	
7		14		火	舞台技術論	荻野円蔵
8		21		火	舞台技術実習	舞台部オペレーター
9		28		火	照明技術実習	照明部オペレーター
10	3	・	7	火	音響技術実習	音響部オペレーター
11		14		火	舞台技術実習	舞台部オペレーター
12		21		火	照明技術実習	照明部オペレーター
13		28		火	音響技術実習	音響部オペレーター
14	4	・	4	火	専門部に別れての懇話会	各部オペレーター
15		9		日	閉講式	各部オペレーター

納入業者による使用方法の説明会を開催したりした。また、オープニング事業では専門業者の神戸国際ステージが入っていたため、ボランティアがその業務の手伝いをさせてもらったりした。

- ・こうして覚えたノウハウで、地元の人々の公演を手伝うというのが、ボランティアの基本的な役割。
- ・技術をかわれたボランティアが嘱託職員になり、4年目にホールの正職員として現在の技術担当者を務めている人もいます。

(2) ボランティア制度の概要

- ・第1期生は38名。現在5期生までいて登録者数は89名。
- ・養成講座は2期生以降も各期15回開催している。
- ・ボランティアの職業は電気屋、大工、宮司、僧侶、教師、元役者などまちまち。
- ・年齢的には、一番若い人が22,3才で最も高齢者は70才近い。男女比はほぼ半々。
- ・ボランティアの募集は地元ミニコミ誌と一般新聞、町の広報誌で行う。
- ・ボランティアスタッフの中には、混声合唱団や吹奏楽、ジャズダンス、ママさんコーラスなど自分でも文化活動に取り組んでいる人も多い。
- ・業務の内容は、舞台、照明、音響のオペレーションと搬入・搬出で、スタッフ一人当たりの年間平均出役日数は約8日。仕事がなくとも、ホールに顔を出す人もおり、実際ホールに来る日数ということになるともっと多い。中には毎日1回は必ず顔を出すという人もいます。

● たんば田園交響ホール ステージオペレータークラブ 会則（抜粋）

（名称）

第1条 本会は、たんば田園交響ホールステージオペレータークラブ（SOC）と称し、事務局はたんば田園交響ホール（以下「ホール」という）内に置く。

（目的）

第2条 ホールで実施される事業に対して積極的に協力し、ステージオペレーター活動を通じて地域文化の発展に寄与する。又会員相互の交流親睦をはかる。

（事業）

第3条 前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- (1) 技術向上のための研修。
- (2) ホールにおける文化的行事への参加協力。
- (3) 会員親睦会の実施。
- (4) その他目的達成に必要な事業。

（会員）

第4条 本会は、原則としてホール主催のステージオペレーター養成講座の参加者で前条の目的に賛同するものをもって会員とする。

—以下省略—

● オペレータークラブ手当等支給規程（抜粋）

第1条 この規程は、会員に関する慶弔又は会員の病気・怪我及びその他に対する手当および研修費等の補助について定めたものである。

第2条 前条に基づく手当及び研修補助については次のとおりとする。

—途中省略—

2 研修費等

- (1) 講座等の受講料については10,000円を限度とし、交通費のみの場合は50%を補助する。
- (2) 観劇等の視察研修は、1人年1回とし、50%の補助とする。ただし、上限は1人3,000円とする。

—以下省略—

● オペレータークラブ料金規程

（規程の目的）

第1条 この規程は、オペレーター活動に対して主催者より費用弁償として負担願う金額を定めたものである。

第2条 前条に基づく費用弁償（舞台増員費）は次のとおりとする。

《オペレーター増員費》

午前	9時～12時	1,500円
午後	13時～17時	1,500円
夜間	18時～22時	1,500円
全日	9時～22時	4,500円

《オペレーター増員費》

イスはずし並びにもどし	各1,000円
オケピット設営並びに復帰	各1,500円

—以下省略—

(3) ボランティアの運営

- ・月1回ボランティア部会を開き、主催者から要請のある人数について催し物ごとに手伝う人を調整している。
- ・ボランティアの業務に従事したときは、「交通費+食事代」ということで一コマ(9:00~12:00, 13:00~17:00, 18:00~22:00)1,500円、全日(9:00~22:00)4,500円が費用弁償として支給される。
- ・実際には半年間プールしておき、弁当代を除いた金額をメンバーに支給するしくみになっている。
- ・有償ボランティアという言葉もあり、当初からこの費用弁償を行う方式を採用している。当初は一回3,000円だったものが、活動時間がバラバラになることもあって一コマ1,000円になり、他のホールで同様のしくみを導入しているところとの相場との関係もあって、5年目から現在の水準になっている。

● たんば田園交響ホールスケジュール表 (1996年9月末~11月)

9月17日現在

月/日	行事名	仕込	リハ	本番	舞台	照明	音響	その他
9/30	ひょうごゆうあい音楽祭	18:00	:	:	2人	2人	3人	人
10/1	"	:	10:30	13:00	2人	2人	3人	人
/2	ア・ラオペラ樽姫	9:00	15:00	19:00	2人	2人	1人	人
/6	篠山町合併20周年式典	18:00	:	:	2人	2人	2人	人
/7	"	:	:	9:30	2人	2人	2人	人
/15	木下オータムコンサート	9:00	:	10:00	人	人	1人	人
/18	篠山町戦没者追悼式	13:00	:	:	人	1人	人	人
/19	"	:	:	10:30	人	1人	人	人
/20	篠山混声合唱団リサイタル	13:00	19:00	:	2人	2人	人	人
/21	"	:	:	18:00	2人	2人	人	人
/22	篠山中吹奏楽演奏会	9:00	:	13:00	2人	2人	人	人
/25	県中学校長研修会	9:00	:	:	2人	2人	2人	人
/26	"	:	:	9:00	2人	2人	2人	人
/28	ダンシングパフォーマンス	9:00	13:00	:	3人	4人	1人	人
/29	"	:	9:00	14:00	3人	4人	1人	人
11/2	幼児のうたまつり	:	:	9:00	人	人	人	人
/3	丹波の森国際音楽祭	:	:	:	人	人	人	人
/4	"	:	:	:	人	人	人	人
/5	"	:	:	14:00	人	人	人	人
/8	郡養・小音楽会	:	:	9:30	人	人	人	人
/9	郡中学校音楽弁論大会	18:00	:	:	人	人	人	人
/10	"	:	:	9:00	人	人	人	人
/11	中村美律子コンサート	9:00	:	14:30	人	人	人	観入者10人
/12	篠山ライオンズ30周年	9:00	10:30	:	2人	2人	2人	人
/15	篠山町消防団同和研修会	18:00	:	19:00	人	人	人	人
/16	丹有高校音楽会	9:00	:	10:00	人	人	人	人
/17	丹有中学校音楽会	9:00	:	10:00	人	人	人	人
/18	メロマン室内管弦楽団	13:00	15:00	19:00	2人	人	人	人
/19	サワヤマピアノ発表会	:	:	10:00	人	人	人	人
/22	町合同芸能発表会	13:00	16:00	:	4人	4人	4人	人
/23	"	:	:	10:00	4人	4人	4人	人
/25	産業高校吹奏楽演奏会	9:00	10:00	13:00	人	2人	人	人
/26	丹波合唱祭	9:00	:	10:30	人	人	人	人
/		:	:	:	人	人	人	人
/		:	:	:	人	人	人	人

※各部の出役人数は予測ですので変更の場合があります。

## ■ たんば田園交響ホール

- ・ステージオペレータークラブには会則があり、会費は月500円、年6,000円で、新年会などの親睦会費用に使われている。専門技術を磨くための講座の受講料や技能認定試験などの費用についても、会から補助が出るしくみ。
- ・町サイドの管理係の人間が1名ボランティア・クラブの担当者（世話役）となっているが、連絡調整には舞台、照明、音響の担当職員があたる。

### 3. 現在の課題と今後の方向性

- ・ボランティアということであまりきつく言うことはできないが、しかし時にはきつく言う必要もあり、その辺の兼ね合いが難しい。
- ・ボランティアは半ば身内ようになっており、彼らにとってホールは居心地のいい場所になっていると思う。

#### ① ステージ・オペレータークラブ

- ・「ステージ・オペレータークラブ」については、このままで継続できると思う。20代、30代にしかできない活動だと先は不安だが、今60歳の人も活動している状況を考えると、先はある。
- ・これまでにステージオペレーターの養成講座を受講した人は、延べ150人になっている。その人たちは、ある意味で目の肥えた人たちで、そういう人たちが住民とホールの橋渡しをするようになると、観客のレベルも向上すると思う。
- ・アマチュアの発表会の際、公演の内容等に関してボランティアに相談があることもある。毎年公演をやっているようなところは、年々裏方に対する注文が多くなる。
- ・プロに委託していたのでは、こういう住民とホールをつなぐコアになれるような人は育ってこなかった。

#### ② レディース21

- ・「レディース21」については、企画をするのに企画のことだけを知っているだけでは不十分。舞台の裏のことも知る必要がある。1990年に発足しているので、10年後の2000年には独立した企画集団として、場合によっては住民による“実行委員会”方式の企画・制作を実現してくれれば良いと思う。この形式の活動を定着させたい。

#### ③ 鑑賞型から自主制作へ

- ・篠山町民のひとりひとりが必ず一回はボランティア・スタッフとしてホールに関わったことがあるくらいになっても良いと思う。劇場・ホールに対する観客のこれからの関わりは、舞台の“創作”に関わる形になり、“鑑賞型”の時代は終わる。舞台裏の大切さを知っているからこそプロにも感動するし、アマチュアの成長・努力にも感動できる。観客としての関わりだけでは育たない。
- ・行政が“自主公演”と称して買い取り公演を提供するだけでは、観客は来ない。住民の企画の方が客は入る。今年もホールの自主企画のうち4つは実行委員会方式。篠山町が委員会に加わっている。

## ■ たんば田園交響ホール

- “参加型” から “参画型” へ。この意味では岸和田方式を目標にしている。
- 「自主制作」 も行いたい。住民のなかからプロデューサーを育て、モノもヒトも地域にあるものをプロデュースしたい。これまでの実績では「たんばオペラフェスティバル」で市民参加のオペラを制作してきたが、次はミュージカルをやってみたいと思っている。

### ④ ボランティアが核になった地域づくり

- ボランティアは行政の補完的な機能を担うのではなく、ボランティアという活動をとおして市民に“生きがい”を与えることだと思う。安上がり行政ではなく、地域を変えていくといった長期的な展望が必要。
- 将来的には、ホールのボランティアが地域コミュニティのコアになっていけばいいと思う。ボランティア・メンバーがきっかけになって、篠山町では、舞台に立ったことのある人、ホールに来たことのある人の割合は非常に高い。

—以上—

## 😊 ボランティア・インタビュー記録 😊

Aさん（ステージオペレータークラブ副会長、音響担当、第1期オペレーター養成講座修了）  
Bさん（ステージオペレータークラブ、舞台部長、第2期オペレーター養成講座修了）  
Cさん（ステージオペレータークラブ、照明部長、第3期オペレーター養成講座修了）  
Dさん（ステージオペレータークラブ照明担当、第1期オペレーター養成講座修了）  
Eさん（レディース21会長）  
Fさん（ステージオペレータークラブ音響担当、レディース21）  
Gさん（レディースi(受付・案内)）  
Hさん（レディースi(受付・案内)）

### 1. 参加の動機・きっかけ

**Aさん** | 音楽が昔から好きだった。養成講座の開催日と会社の休日が重なっていたので参加できた。当初は安易に考えていたが、深く関われば関わるほど難しくなっている。具体的には、ステレオの大きいようなものがあるだけだと思っていたが、実際には高性能のマイクやラインがあり、操作には専門性を要する。ただ一方では、すぐに操作をマスターできる簡単なものであったら長続きしてないと思う。難しくても、それをマスターしたいがために活動を続けてきた。

**Bさん** | 動機は二つある。ひとつは、日曜大工が好きで、舞台の様々なものを自分で作れると思ったこと、もう一つは、西紀町役場に勤務しているため、篠山町との交流がはかれると思ったこと。活動歴7年目。

**Cさん** | ボランティアは4年目、自分で50名程度のダンス・グループのチーフインストラクターをやっており、1年に1回大ホールで発表会を開催している。

- たんば田園交響ホールができる前、市民会館（300席）でダンスの発表会をした。ここの大ホールで2回目の発表会を行ったとき、照明でもう少し青と赤を強く出して欲しいと言ってもわかってもらえなかったのが、ボランティアに参加するきっかけ。
- 最初は、ボランティアで裏方の勉強をして、自分たちの発表会だけうまくいくようになればいいと思っていたが、やりはじめたらボランティアが面白くなってやめられなくなった。

**Dさん** | 自分で吹奏楽をやっていたため、ボランティアを経験すると自分の出る演奏会でいろいろなことができると思った。

- 以前は豆腐屋をやっていて午後3時には毎日ホールに来ていた。第一期生なので、ホールに出入りするようになって9年目になる。
- プロの歌手に会えるかもしれないというのも参加した動機だったが、実際にやってみて簡単には会えないことがわかった。

**Eさん** | 平成元年にレディース21が発足した当時から参加している。参加のきっかけは主人。何かコンサートがあると主人がポケットマネーで2人分のチケットを購入していたので、「ホールで活動したら一人分助かるからやってみろ」というのが最初。

\* 「レディース21」は、女性の目で見えた企画をやる、という目的で発足。100企画して10が実現すれば良い方。メンバーは20代から60代までの21人。職種も

いろいろ、ホール運営や企画についての知識もまちまち。

**Fさん** | 小さいころ東京にいて演劇をやっていた。参加していた劇団が解散し、大阪に転居することになった。それ以降、コンサートに行ったりバンドに参加したりする中で、プロの音響について勉強したいと常々思っていた。縁があって3年前に篠山に来た時に、ステージオペレーター・クラブの存在を知り、第5期の講座を受講した。

- レディース21はこの4月から参加。Eさんに誘われた。発足当初からの人が1/3程度。皆それぞれ知識が豊富で、向上心が高い。

- \* レディース21は基本的には2年任期だが、更新可能

**Gさん** | 会社の先輩に勧誘された。当初は実際の業務として何をやるか良くわからないまま、“有名人に会える”“タダで公演が観られる”という動機で参加することにした。

- \* 「レディースi」の制度としてはオープン当初からある。毎年募集している。

- \* オペレータークラブ、レディースi、レディース21ともスタッフは全員、どの公演も無料で鑑賞できる。感性の向上のために、観てもらおうとしている。レディース21の人はよく観に来る。

**Hさん** | 知り合いの人に誘われた。タダで公演を観られる、有名人に会えるという誘い文句に乗った。活動歴2年目。

## 2. 満足度

**Bさん** | 日曜大工と違い、自分で作ったものが外にでる、みんなで作り上げる、という満足感がある。

**Cさん** | 実際、自分たちの発表会をやるときも、照明や音響に対して細かな指示ができるようになり、ボランティアをやる前に比べて、照明や音楽とダンスがずっとバランスのとれた公演ができるようになった。

**Dさん** | ここで初めて知り合った人もいる。50代や60代の人もあるが、ボランティアには年齢差によるタテ関係がまったくないのも魅力。定年後の人の中には、ここ以外でもボランティアをやっている人もいる。

- ボランティア共済保険に加入しているが、安全面に関しては、日頃から徹底するようにしている。出役の間隔が空くと、機械操作のカンが鈍ることがある。

**Eさん** | 自分たちが何をしたらよいか、何ができるかという方向性が見えて来るまでが大変だった。ファッションショーは5年間チャレンジした。思考錯誤の末、関西以西でキャパシティのあるホールすべてに電話し、6カ所まで共催者を集めたが、昨年の地震でキャンセルせざるを得なくなった。非常に残念だったが、“やればできる”と思えるようになったし、ネットワークの重要さも学ぶことができた。また、自分が個人になった時には全く不可能なことが、この組織に属していることで可能になることは素晴らしいと思う。

- 感性を研ぎすますことの重要性を知った。感性は自分でいつでも研ぐことができる。

**Fさん** | 単に音響のことだけでなく、電気関係のことなど幅広い知識が必要であることを知った。

## ■ たんば田園交響ホール

- また、特にレディース21では、個性の強い人が集まっているが、人間関係がギクシャクすることがあまり無く、お互いに助け合うことができている。
- Gさん | 満足している。年1回、受付や案内に関する「講習」を受講でき、他では学べない知識を得ることができた。
- Hさん | クラシックなどそれまで興味のなかったものが段々に好きになり、それが自分のものになりつつあることが一番うれしい。また、礼儀作法も学ぶことができた。

### 3. 活動の頻度

- Aさん | ホールが丁度会社の近くにあり、出役に関係なく、一日に3回くらい顔を出す。
- Bさん | 現状では、月1回程度しか参加できていない。従って出役はあまりしていないが、舞台部の役員（部長）を務めている。仕事とボランティアの両立は難しい。スケジュールの調整が難しいので、多様な専門家をそろえておくと思う。
- Eさん | 毎月21日をレディース21の例会日にしている。企画が近くなるともっと頻繁に集まる。
- Hさん | レディースiの出役は2ヶ月に1回程度。

### 4. 施設側への要望・課題等

- Bさん | ボランティアは時間的な制約もあり、結局はプロになりきれない。ボランティアの限界がある。また、参加の頻度や技術の習得速度も個人差があり、技術レベルが均一ではないし、失敗もある（これを許容してくれているホール側に感謝している）。逆にレベルが全員高くなりすぎても新人は入りにくい。
- ホール側スタッフに随分依存していると思う。“お手伝い”という意識をいかに払拭できるかが問題だろう。ボランティアだから失敗しても許されるということはない。誰が舞台を作ろうと観客は同じ金額を払って公演を鑑賞するので、手抜きはできない。
  - また、ホール（施設）に属する舞台スタッフの場合、公演ごとに毎回新しい舞台に対峙しなくてはならない点が難しい。劇団に所属する舞台スタッフなら同じ公演を繰り返し行うので進行順はわかっている。
- Cさん | 現在はステージ・オペレータの部屋がないため、待ち時間はロビーで待機している。皆で集まれる場所があると良い。
- \* 改修してボランティア専用の部屋を設ける予定。
  - プロの公演で照明等の持ち込み機器があるときは扱いがわかりにくい。うまく対応できなくて、出演者側の担当者からしかられ、悔しい思いをしたこともある。
  - ブランクが空くとカンが鈍ることがある。年間10回ぐらいの経験では、技術水準の向上にも限りがある。
  - 午前中リハーサル、昼本番というような場合には、スケジュールの調整が



■ たんば田園交響ホール

大変。春の田植え時、秋の稲刈り時、また11月の黒豆の収穫時には、人手を確保するのがとくにたいへん。リハーサルと本番で人が違ってしまいうこともある。

- ボランティアだからといって甘えたくないし、しっかりとしたプロ意識を持ってやっていけたらいいと思う。

**Eさん** | 企画もさておき、メンバー自身の繋がりをもっと強くしたい。21人は個人的にはほとんど知らない人同士の集まり。もう少し深いところで知り合って、レディース以外のところでの繋がりも発見したい。

**Gさん** | 年間12～13本程度の公演について、レディースiのスタッフ全員で仕事を分担するため、年間の出役数は5回から少ない人は2回程度になってしまう。あまり間隔があくと仕事の勘を忘れてしまう。また、皆女性なので、結婚すると止めてしまうことも課題のひとつか。

**Hさん** | レディースiとして案内用の制服があれば良いと思う。

—以上—

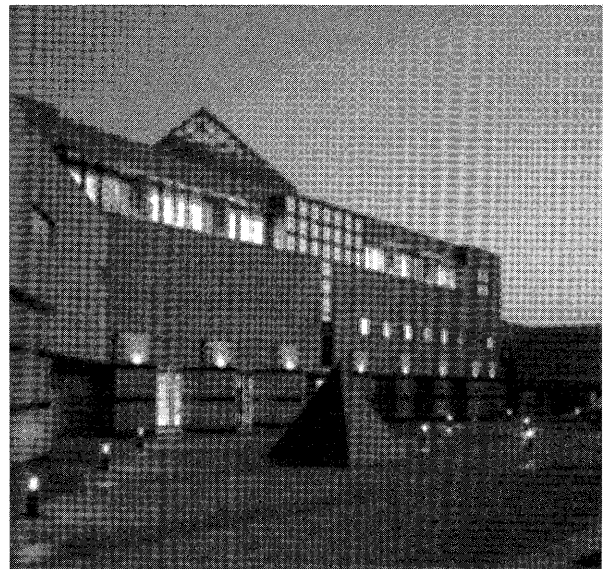


## VII. 春日市ふれあい文化センター

春日市ふれあい文化センターは、福岡市のベッドタウンに立地する複合文化施設。青少年を企画面と運営サポートの両面から、施設運営のボランティアとして取り込むことによって、街全体の青少年の活動を活性化させつつ、地域に密着したホール運営の可能性を模索している。

### 📄 施設・運営の概要

運営母体	(財)春日市文化スポーツ振興公社
所在地	福岡県春日市大谷 6-24
TEL	092-584-3366
FAX	092-501-1669
開館年月	1995年4月
複合形態	複合館（図書館、ホールなど）
施設特性	音楽ホール
座席数	中：600、小：302
自主事業予算	年間1億円以上
自主事業数	年間80～90本（平成8年度）
立地都市人口	約10万人（H8.11.）
組織体制	総務系:6、企画系:9、技術系:2、計17 （技術系2は外部委託スタッフ）



### 😊 ボランティア制度の概要

名 称	・K's Crew（ケイズ・クルー）
導入時期	・1995年3月
登録人数	・40名
導入の経緯	・市民の顔の見える運営を検討する中で、30歳未満を対象にホールの運営に参画してもらうボランティア制度を導入することとなった。
活動内容	・ボランティアの業務の内容は①公演サポートと②企画協力の二つに分けられる。 ・企画・制作、広報・宣伝、舞台・音響・照明、受付・案内
募集方法	・センター発行のイベント広報紙によって公募。自分のやってみたいイベント等の「企画提案書」を出してもらう。ボランティアとしては基本的に応募者全員を採用。
研修	・とくになし。
実費支給	・公演サポートに関してのみ770円/時間を支給。
その他	・企画協力業務は、アコースティック・トークライブ（地元で活躍するアマチュア・ミュージシャンのコンサート）について出演者探しから、当日運営までを全てボランティアでやっている。 ・将来的にはボランティアが自主事業を実行委員会形式で実施するような形で機能してほしい。

## 1. センターの立地環境とボランティア制度導入の経緯

### (1) 立地環境

- 春日市の人口は約10万人で増加傾向が続いている。ただし、通常の人口増加のパターンとは大きく異なっており、約4分の1が転出入を繰り返しながら、毎年2~3千人ずつ増加している。これは、福岡への通勤族が多いということ（福岡は支店のまちと言われている）と、自衛隊の駐屯地が2ヶ所あることが影響している。
- そうしたことから、現在の春日市にはいわゆる“地縁”による人々の結びつきが少なく、どこか他の地区で生まれ育った人が多い。市の青年団も30年前になくなったまま。唯一春日市の中心部で、春日の婿押し祭りというものが300年前から続いており、青年の活動が存続しているのみ。
- 福岡市に隣接する春日市は、福岡市のベッドタウン化が進み、市民の顔が見えない町になりつつある。市内の人口は10万人を越え、1学年約1,600人の学生がいるが、昼間にとくに若い男性の姿を見ることがめっきり少なくなってしまった。現在スポーツや文化活動を楽しんでいるのは、年輩の女性が中心である。
- 春日市の青年層は、天神や中州で遊んで、夜遅く帰ってきて寝るだけといった状況になっており、センターの運営に、なんとかこれらの青年層の力を借りたいと考えている。

### (2) ボランティア導入の経緯

- センターでは、市民オーケストラや少年少女合唱団など、人づくり、人材育成に力を入れており、ボランティアのK's Crewもその一環と言える。
- センターがオープンしたのは1995年4月1日。ボランティアに関する企画はオープンの前年に検討された。福岡の都心部に近い立地ではあるが、逆に人気のあるアーティストをだれでも呼べるような立地にはないため、半分は貸し館になざるを得ないと考えた。
- 残りの半分を何とかホール側で主体的に運営する方法、しかも市民の顔の見える運営方法を検討する中で、30歳未満を対象に、ホールの運営に参画してもらおうボランティア制度を導入することとなった。
- 中年層の女性を対象にしたボランティアについても検討したが、古株がボランティア団体を牛耳ってしまったたり、そうすると若い人がセンターの活動を面白くないと感じたりするのではないかという意見も出た。そこで、まず若い人を対象にした現在のボランティアを導入し、それが軌道に乗ってきたら、中年層の女性を対象にしたボランティア組織についてもいずれは検討したいと考えている。

## 2. ボランティア制度の内容

- ボランティアの位置づけとしては、ホールの運営をサポートするためのボランティアではなく、主体的に事業を企画・運営するボランティアという性格が強いかもしれない。

### (1) ボランティア制度の概要

#### ① メンバー構成等

- ボランティアメンバーの数は現在40名で、そのうち常時活動しているメンバーは3分の2前後。男女比は3対7で女性の方が多い。男性メンバーはかなり休眠状態だが、活動には参加しなくてもボランティアメンバーはやめたくないという人が多い。女性はOLが中心、ボランティアを始めてからOLをやめた人が二人いる。
- 電車で片道1時間半もかかるメンバーもおり、熱心にボランティア活動をする姿には、感心している。
- K's Crew という名称は、ボランティアメンバーの議論の中から生まれたもの。スタッフという言葉を使いたくないということで、乗組員を意味するクルーという言葉になった（K'sのKは春日市のという意味）。

#### ② 募集方法

- スタッフの募集は、センターの発行するイベント広報紙に「ふれあい文化センターの事業の企画や運営をサポートする方としてボランティアを募集します」といった趣旨の募集文を掲載して行った。
- 応募した人全員に、自分のやりたいコンサートについて「企画提案書」を提出してもらい、それを全員に配布した。
- 基本的に応募者全員にボランティアメンバーになってもらったが、応募はしたけど1回も来なかった人が18人いる。随時受け付けているため、最大時には53名になったこともあるが、その後35名になり、再募集で5名が加入し現在40名。中には、メンバーの口コミで参加した人もいる。
- 募集の条件としては、30歳未満の独身者を対象とした。中には加入後30歳を越えてしまった人もいるが、やめるかどうかは、メンバー自身で決めてほしいと考えている。

#### ● センターの広報紙「エイ・メッセ」創刊号に掲載された募集案内



### ● ボランティア コンサートスタッフ

平成7年4月以降、各種コンサート事業や演劇公演、イベントのサポートをしてくれるコンサートスタッフを募集します。

内容は、公演時の舞台裏方・会場整理・タレント接待・企画立案の補助などです。

募集人員は男性15名、女性10名。条件は、いずれも30歳未満の好奇心旺盛で元気な独身者とします。

センターまでハガキで応募するか、直接おいでください。

### ③ 参加の動機

- 参加の動機はまちまちだが、仕事と家以外に、プライベートな時間をもっと有意義に使いたい、ということが多いようだ。高校生のメンバーは、サポートしているときにホンモノのアーティストが見れるからということを経由にあげていた。
- ボランティアのキャプテンは、学校の先生をやめて現在は印刷関係のデザイナーをやっている人。今のコンサートがアーティストとの距離が遠くなってしまっていると感じ、もっとアーティストと近く感じられるようなコンサート、本当に見たいもの聞きたいものを企画できないかということで、ボランティア活動に取り組んでいる。

### ④ 研修

- ボランティア導入に際して、民間プロモータの話を書かせるなどのことを考えたこともあったが、実際には研修は行わなかった。今後は、1年に1回ぐらいは何らかの形で研修を実施する予定である。
- 職員だけで対応できる事業の場合も希望があれば出てきてもらい、ウラに回って見ているだけでも、ボランティアにはいい研修になると考えている。

## (2) ボランティアの業務内容

### ① 業務の内容

- 業務の内容は、大きく①公演のサポートと②企画協力の二つに分けられるが、中には①だけでいいという人もいる。
- 企画関連の業務としては、「アコースティック・トークライブ」が年間11回（毎月第一土曜）、「リレートークライブ」が年1回、「サンホールライブ」が年3回。
- サポート業務については、月平均5～6本で年間80本程度。1回のサポート要員は多くても5名ぐらい。仕事の内容としては、オモテのもぎりや観客対応、楽屋のケータリング、後かたづけなど。最近では、簡単な司会をやってもらうこともある。
- 平均の業務時間は3～4時間程度。1日に映画を3回上映する場合などは、9時から20時までと長時間になることもある。

### ② 企画協力業務ーアコースティック・トークライブ

- センターでは毎月第一土曜日にアコースティック・トークライブという企画（地元で活躍するプロ・セミプロのアマチュアミュージシャンによる小規模なコンサート）を実施しており、現在は、その企画から実施までほとんどをボランティアが担当するようになってきた。舞台のセッティングから照明・音響機器の操作まで自分たちの手でこなしている。
- アコースティック・トークライブは、地元のアマチュアミュージシャンのコンサート（出演料は1万5千円と夕食）で、企画の枠組みは元々ホール側で設定したものだが、現在は天神のライブハウスを回ったりして、出演者を見つけるところから K's Crew が対応している。福岡はいろいろなアーティストを排出している土地柄で、「照和」という喫茶店が彼らの根城にな

● センターの広報紙「エイ・メッセ(1996.9月号)」に掲載されたK's Crew関係の企画

アコースティックトークライブ

地元で活躍するプロ・セミプロ・アマチュアによる、アコースティックなライブ!  
アットホームな雰囲気のライブハウス感覚でお楽しみください。(出演者募集中!)

**SWEETS 9/7(土)** AVホール 19:00~ **無料**

大学の友人同士で結成したツインボーカルの女性グループ、ギターの上上義知子とヴォーカルの川口和英のバワフルな演奏は必聴!バラードやメッセージソングを中心に、どの曲も心に残るライブとなるだろう。  
照和やGRAND TOWNで定期的にライブ実施中。時に福岡駅コンコースにてストリートライブもやる。そのエネルギーをぜひ感じてみよう!  
【企画協力】 K's CREW



**HOW HAPPY 10/5(土)** AVホール 19:00~ **無料**

ヴォーカルの島塚美智子、ギターの山野修作、ピアノの島塚秀治のトリオによる初めてのジャズ・ホサノバの登場!  
それぞれが色々な音楽活動を経て、HOW HAPPYを1995年に結成。現在「デジャヴ」にて定期的にライブ活動中。  
期待度満点のライブになること間違いなし!  
【企画協力】 K's CREW



サンホールライブ

ビリーバンバン

**10/1 火** サンホール (全席自由)  
開場18:30 開演19:00

永遠の名曲「白いブランコ」でデビューしたビリーバンバン。  
「れんげ草」「さよならをするために」「やさしい雨」など、数々のヒット曲をはじめ、新曲も織りまぜながら今も変わらぬソフトなデュエットをお贈りいたします。  
淡き青春の1ページをビリーバンバンと共に振り返ってみませんか?  
【企画協力】 K's CREW

前売り **2,500円**  
(チケット発売中)  
当日500円  
アップ

センター  
チケット  
ローンチケット  
FACET

フリーマーケット



11月2日(土)~4日(月)に実施される春日市文化祭の会場において、「リレートークライブ'96&フリーマーケット」を開催予定。そこでフリーマーケットに出店される方を募集いたします。

【日時】 11月3日(日)及び4日(月) 10時~16時  
【場所】 春日市ふれあい文化センター周辺(文化祭会場内)  
【対象】 18歳以上の方(高校生、プロはご遠慮願います)  
【条件】 1 テント4ブース割り(1ブース1.8m×2.7m)で、1ブースあたり500円の出店料必要。

【応募要領】  
往復ハガキ又はFAX (FAXの方は必ずこちらからFAX可能な方に限ります)に、①住所②氏名③年齢④連絡先(自宅、勤務先、FAX番号) ⑤希望日⑥希望ブース数を明記のうえ、センターフリーマーケット係宛ご応募ください。  
折り返し説明会開催のご連絡をいたします。なお応募者多数の場合は、説明会において抽選のうえ選考させていただきます。  
FAX 092-501-1669 【企画協力】 K's CREW



っていた時代もあった。

- 最初、館の方で出演者を探していた時と違い、自分たちで見つけたミュージシャンの場合は、企画だけでなくいろいろな意味で力が入るようで、いきいきと仕事をしている。
- 福岡市内のあるプロモータは、もとは音楽好きがボランティアのような活動から始めて、今では福岡でも有数のプロモータ会社に成長している。K's Crewも現在の活動を地道に続けて、信頼を得られるような集団になって欲しい。センターでやっているアコースティック・トークライブの活動を、彼らがアクロス福岡を借りて公演を行つことで、天神付近の若者に、そうした活動をアピールしたいというようなことも、検討しているようだ。
- 10月1日に実施予定のビリーバンバンのコンサートは、K's Crewが企画・制作に本格的に協力した事業で、今後の展開のひとつの試金石と考えている。

### (3) ボランティアの運営

#### ① 有償ボランティアの考え方

- ・公演のサポート業務については、基本的にはアルバイトということで、時給770円を支給している。ただし、センターからお願いした必要スタッフ数を越えて K's Crew が自主的に協力してくれた分については無償。企画協力業務は交通費を含めて無償。
- ・有償ボランティアのあり方については、随分と議論した。当初は、時給400円で K's Crew の会計係が一度プールし、交通費実費と時給200円換算で計算し直した金額を支給していた。しかし、別途サポート要員としてアルバイトを雇う際には、時給800円を支払っており、依頼する業務が同じなのに、時給単価が異なるというのは矛盾しているという話が、センターの経理担当から出てきた。
- ・そのため内部で検討した結果、現在は時給770円とし、財団の経理から各人に直接支払われたものを一度 K's Crew の会計係が回収して、交通費実費と時給400円換算で計算し直した額を支給するようになっている。
- ・有償にすることによって、お金が支給されるサポート業務の方だけに偏ってしまうのではないか、という心配もあった。カネを払うと気を使う必要はなくなって使い易くなるが、ボランティアはアルバイトと違って互いの信頼関係が最も重要で、「使われている」という印象を与えてはいけないと思っている。
- ・導入当初は、K's Crew にお金を支払っているために、センターの中にはアルバイトと同じように接する者がいたが、現在は彼らが決してカネのためにやっているのではないということが浸透して、いい関係ができつつある。
- ・現在は、サポート業務は「アルバイト」、企画協力業務は「ボランティア」と明確に線引きをしている。
- ・大型のパッケージ公演を買い取るような場合には、別途アルバイト要員を雇うこともあるが、極めて希なケース。

#### ② ボランティアのスケジュール調整

- ・K's Crew のメンバーがどの事業を手伝うかということについては、センターの方から必要人数を示し、基本的に手を上げた順に手伝ってもらうようにしている。月2回のミーティングの時にも調整をしているようだ。
- ・当初は人員手配がうまくいかない時期もあり、キャプテンが留守電をつけて対応したようなこともあったが、結局再度調整する必要が生じるため、現在はセンターの担当者に連絡してきた順にお願いするようにしている。
- ・仕事を持って活動しているという制約から、平日の日中イベントに必要な人数が集まらない場合もあり、大学生を勧誘しようという話もある。

#### ③ 運営予算

- ・K's Crew のサポート業務の費用は、昨年度が120万円、今年度が135万円。

#### ④ 保険

- ・ボランティアの保険については保険会社と契約している。年間契約で、1



イベント最大15人の範囲内でボランティアの業務中におきた怪我や物損に対応できる保険。春日市は、市民全員がボランティア保険に入っているが、その保険では対応できないということで、保険会社と内容を検討して新たに契約した。

### 3. 現在の課題と将来の方向性

#### (1) ボランティア運営上の留意事項

- ボランティアの運営で最も難しいのは、彼らの中に入り込みすぎではないが、離れてしまってもいけないということ。ホール側のボランティア担当者の熱意といったものも重要な要素。
- (現在のボランティア担当者自身も) 「少年の船」というボランティアを経験しており、その時に得た感動と同様のものを、センターのボランティア活動をとおして感じてくれる人がいると思う。ボランティアとしてセンターの運営に関わっていい思い出を作って欲しい。

#### (2) 今後の方向性

- 将来的には、K's Crew の活動が活発になり、そのことによって自主事業が活性化されるといい。
- 長期的には、K's Crew が事業の実施に際して実行委員会的な取り組みをする場合があってもいいと考えている。チケットの売り上げも K's Crew の収入になり、館はホールを貸しているだけといったようなスタイルになると面白い。
- そのため、来年は規約を持った組織としたい。現在はセンターに K's Crew が付属した状態になっているが、将来的には K's Crew の組織体制を整えることによって、センターの財団とボランティア団体が対等の立場で仕事ができるような形に持っていきたい。そうすることによって財団の担当者に異動があった時にもスムーズに対応できるようになると思う。
- センターの希望としては、このグループはこのグループのまま成長していき、また、これとは違うグループが生まれ、将来的には、複数のボランティアグループが異なる企画を出し、自ら実施していくような形になってくれると理想的。
- 現在のボランティア制度は、財団（運営側）がサポートしてもらうという関係。将来的には、ボランティアが自主事業を実行委員会形式で実施するように成長すれば、その活動を財団がサポートするといったようなスタイルにしていきたい。
- センターが地域に密着した活動を展開していくには、ボランティア活動はひとつの有効な方法だと思う。現在は建物ができてそのことを誇っているような状態。しかし10年後にはソフトしか誇れなくなる。その時、市民が主体となって活発な文化創造活動が展開されているセンターでありたい。

—以上—

## 😊 ボランティア・インタビュー記録 😊

Aさん (ボランティア・キャプテン)	Gさん (会社員)
Bさん (会社員)	Hさん (大学研究生)
Cさん (学生)	Iさん (高校生)
Dさん (もとOL)	Jさん (高校生)
Eさん (もとOL)	Kさん (会社員)
Fさん (大学生)	Lさん (会社員)

### 1. 参加の動機

- Aさん | 音楽関係の仕事をしたかと思っていたが、現実にはそれほど窓口はない。春日市にホールができたので、何か関わりを持ちたいと思った。
- Bさん | 大学の先輩からの紹介。何か外に向けた仕事をやりたかった。今年、新しく入った。
- Cさん | 将来、企画・音響などのイベントスタッフになりたいと思っている。ふれあい文化センターで発行している「エイ・メッセ」の募集記事を見て応募。
- Dさん | 雑誌「ふくおか」を見て応募。裏方の仕事に興味があったことと、会社の仕事以外の人的ネットワークが欲しかったことが応募の動機。
- Eさん | ふれあい文化センターから歩いて2分程度のところに住んでいる。この建物を工事途中から毎日目にしていて、この中で何かできることはないかと考えていた。
- Fさん | 新しくボランティアを始めた。大学生活では満足する楽しみを見いだせなかった。大学の友人は就職の際にはいずれ競争相手になる。勝負のない世界での知り合いが欲しかった。
- Gさん | とにかく何か手伝えることがあればやりたいと思った。裏方も以前から興味があった。ひとつのことをやる目的で全く違う世界の人達が集まれるのは素晴らしいことだと思う。
- Hさん | 1ヶ月前に入った。昨年、文化祭でふれあい文化センターを利用した際にK's Crewの活躍を見て興味を持った。勉強だけに自分の時間を使うのはもったいないと思った。
- Iさん | 就職を控え、学校の勉強だけでなく様々な体験をしてみたかった。
- Jさん | ふれあい文化センター内にある「関係者以外立ち入り禁止」の中に入ってみたかった。
- Kさん | もともと忙しく走り回るような仕事、例えばイベント会社のような仕事をしたいと思っていたが、実際には叶えられないでいた。裏方・表方のどちらをやりたいのか、自分で見つけるためにK's Crewに入った。
- Lさん | 音響のサークルを持っていた。「エイ・メッセ」の募集記事を見て電話をしたところ、担当者の熱意が伝わってきて、手伝おうと思った。

### 2. 満足度

- Aさん | センターに関しては、我々の活動に柔軟に対応してくれるので大変感謝し

ている。居心地が良いと思う。近隣のホールでのボランティアにも参加したことがあるが、予算がないだけでなく活動に対する制約が多かった。また、職員の意識にも違いがある。ボランティアに対して「施設を使わせてやっている」という意識が見えかくれする。

- K's Crew 内のニュース「Crew's Press」は随分早い時期に個人的なレベルで作りはじめ、ミーティングに参加できないスタッフに送った。現在も「K's Crew's Press」として継続して発行している。
- アコースティック・トークライブはもともとホール側担当者の企画。昨年4月に K's Crew で担当してみないかと言われ、2〜3人で天神のライブハウスに足を運ぶようになった。出演するアーティスト側はセンターの職員ではない我々が出演依頼をしてもまずは快く引き受けてくれる。おそらくステージさえあればどこでも、という感じなのかもしれない。
- アコースティック・トークライブの観客層は、出演バンドの個人的なファンかセンターに来ていて偶然公演を知った人。春日市という場所は、福岡から春日駅までなら出かけるのも困難ではないが、春日駅からセンターまでの交通の便が悪すぎる。

**Bさん** | 最初はモギリ程度の仕事しかしていなかったのですが、アコースティック・トークライブが始まって随分と中身が濃くなり楽しくなった。大学でバンドをやっていたので、PAにも興味があり裏方にはなつかしさも覚える。

**Cさん** | 去年はなかなかサポートに参加できず、また仕事の内容にも満足できなかったもので、実は自然消滅しようと考えていた。(イベント企画、照明の操作、衣装の制作などをすると考えて参加したが、当初はチケットのモギリ、ケータリングの補助などお手伝いの要素が強かった。) 今年になって来てみると K's Crew のメンバーが以前よりもイキイキと活動するようになっていて可能性が高まっているのを感じた。今は満足している。

\* 「エイ・メッセ」にある募集記事のうち、裏方に興味を持って応募した人4名、会場整理0名、タレントへの対応2名、企画に興味を持った人6名。実際のサポートは会場整理を中心に始まった。

**Dさん** | ネットワークをつくる、という点では恐らく 100%満足している。福岡市内から電車で通うことをおっくうに感じることも当初はあったが、K's Crew の誰かが個人的に連絡をくれるなど繋がりが完全に絶たれることがなかった。仕事ではアコースティック・トークライブの担当者になっている今が一番楽しい。福岡市内のライブハウスに行ってみてアマチュアのバンドを捜すなどこれまでにない楽しみを見いだしている。

**Eさん** | もともとハコ(建物)に対する興味から入ったので、仕事に対する不満はない。ホール側担当者の話を聞いているとガンバロウと思えてくる。サポート以外でもボランティア内の行事(レクリエーション部に入っている)を企画するなど、生活に密着している。

- 企画をするためにはモギリの仕事も決して無駄だとは思わない。会計を担当しているが、報酬やその支払い方法(一旦施設側からスタッフ個人に支払われたものを会計に渡し、交通費実費の額に応じて再配分する)についても特に不満はない。

\* 春日市内在住者が50%。それ以外の地域からは1時間程度かかる。最も遠い人で

## ■ 春日市ふれあい文化センター

片道2時間はかかる。

\* サポートは希望制。ミーティングの際に活動可能な日程を挙手で決める。足りない場合にはセンター職員で対応。

**Fさん** | 新しいところでの人との出会いについては満足している。仕事の内容に関しては、舞台裏の仕事もよくわからないし、それを本当にやりたいかどうかもよくわからない。現在のモギリで満足している。

**Gさん** | 人を求めて来たという面では、同じ目的を持って集まれ満足している。センターの職員の方々にも親近感を感じる。舞台裏も積極的に見たい。ここでやれることの可能性を感じる。交通費も支払ってもらえるだけで有り難い。ボランティアというよりもむしろ、市民活動団体あるいはサークルといったイメージ。趣味の延長上にある。

**Hさん** | ミーティングには出てきているが、実際のサポートは未だしていない。

**Iさん** | 面白いと思う時と、そうでない時がある。土曜シアターに継続的に関わることになってから、大人と同じように「いらっしやいませ」などの言葉を使えるようになった。

**Jさん** | 当初思っていたものと少し違うような気もするが、実際自分で何がやりたいのかわからない部分もある。高校生なので平日のイベントには入りにくい。祭日の方がイベントは多いので特に問題は感じない。

**Kさん** | 仕事を持っているため時間に限界があり、イベントでももう少し奥深いところまで関わりたいと思うが現実には対応できない。K's Crewのミーティングには多くて月1回。実際のイベントには多くて月に2回程度の参加頻度となっている。

**Lさん** | 異業種や年代の違う人との交流ができるようになった点は満足している。また楽屋でタレント等のふるまいや人柄に直接触れることができた点も良かった。

- ・アコースティック・トークライブについて、PRとしては、チラシを作成してセンター内や春日駅に置いてもらっている。地元のFMでも情報を流してもらう。会場のAVホール(50名のキャパ。立席で70~80名)は丁度良い大きさ。当初1年間は300人のホールを使用していたため客席がうまらなかった。相応の会場に移り、ミュージシャンとも近くなり、観客の反応も良くなった。

## 3. 施設側への要望・課題等

**Aさん** | 個人的には、アコースティック・トークライブについて、今のステージではアーティストと観客の間に距離がありすぎると思う。本当に感動するステージを600人のホールで実現してみたい。

- ・もうひとつは、ボランティア活動自体について。日本のボランティアは関西大震災以来興味関心は高まっているものの、まだまだ後進国。ボランティアに対する偏見もある。それを変えるための受け皿を自分たちがK'Crewでつくりたい。

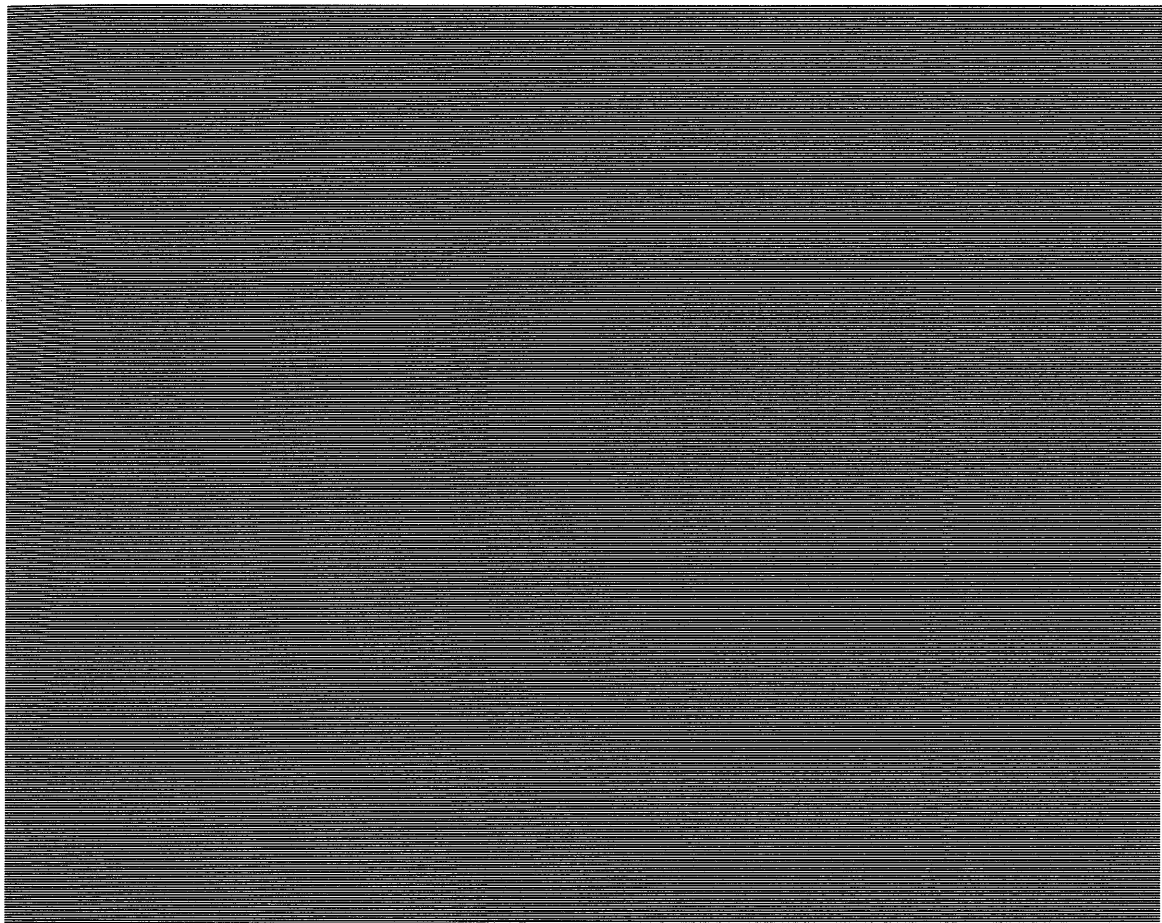
**Bさん** | 音響をもう少し勉強したい。センター側で音響機材など技術的な面での研修や企画に関する研修などを開催してくれるととても役に立つと思う。

■ 春日市ふれあい文化センター

- Cさん | スプリングホールを使ってアコースティック・トークライブでやっているような企画をやりたい。
- Dさん | K'Crew で対応できることに関して研修を受け、もっと勉強してみたい。
- また、立地条件が悪いので、それでも人が来るような企画をして欲しい。これまでのセンター側とのやりとりの経験からは、こちらからの要望に対しては、随分柔軟に受け入れていただいていると思う。
- Eさん | ひとつの企画を最初から最後までやりたい。あと、継続してやっている土曜シアターについては、映画上映の前にアナウンスを入れるなど、関連した企画を考えてみたい（現在の業務は、当日券の販売、モギリ）。そのためには、上映作品を事前に見ることができたりすると良いと思う。
- Fさん | センターの職員の方々はとても快く対応してくれていると思うので、特に要望はない。センターの運営に関しては、館内放送がないので、放送で公演やイベントの情報を流すようなことがあっても良いのではないかなと思う。
- Gさん | ある程度の規模のコンサートを1から10まで、つまり企画から始め観客の満足度を感じるところまでやってみたい。音響や舞台に関する研修などが可能なのであれば、是非やってほしい。
- Hさん | K'sCrew を始めて日が浅いので特に要望はない。周囲の人達のレベルに早く達したい。
- Iさん | あまり観客が入らないようなアーティストを呼んで、会場をいっぱいにしてみたい。
- Jさん | K'sCrew をやめても、ここでの経験が生かせるような活動がしたい。
- Kさん | 有名なアーティストを呼んでコンサートをやりたい。春日市ではいわゆるオバチャンにパワーがある。彼女たちの層をターゲットにし、観客がいっぱいになるようなコンサートをやってみたい。
- 交通の便が悪いので友人を誘いにくいと思うこともある。特に最終バスの時間が早いので、アンコールが長くなるとバスに乗り遅れるため、バスの時間を気にして拍手をするようなことになる。コンサートの送迎バスがあれば良いと思う。
- Lさん | 我々のより幅広い活動のために、教えて欲しいと思うことはたくさんある。
- 職員の人にもボランティア活動を体験してみたら良いと思う。センターでの仕事に関わりたいたいという純粋な気持ちからここに来ているが、それが精神的・体力的に大変なこともあるので、それを理解して欲しい。
  - K's Crew をやっていることで仕事をおろそかにしていると言われたくないので、通常以上の努力を職場でもしていると思う。K's Crew をやって強くなったと言われたい。

—以上—





## 資料編 **3** :

### ボランティア参加者の意識

—事例調査対象のボランティア参加者へのアンケート調査結果—

I. アンケート調査の概要	資3- 1
II. 回答者の属性	資3- 2
III. ボランティアの意識	資3- 5
IV. アンケート票	資3-19





## I. アンケート調査の概要

### 1 調査の目的と対象

- ・公共ホール・劇場で活動しているボランティアの実態と意識を把握することを目的としてアンケート調査を実施。
- ・調査対象は、既存資料等からボランティア制度の導入時期、施設の特性、ボランティアの活動内容等を考慮し、以下の7施設におけるボランティアとした。なお、調査先には別途ヒアリング調査も実施しているが、インタビュー数は限定されるため、各ボランティアの意識を包括的に調査するための補完的なものとしてアンケートを位置づけている。
  - ・喜多方プラザ文化センター
  - ・中島町文化センター
  - ・武生市文化センター
  - ・いまだて芸術館
  - ・大阪府立青少年会館
  - ・たんば田園交響ホール
  - ・春日市ふれあい文化センター

### 2 調査の方法

- ・郵送方式
- ・調査票は各ホール・劇場のボランティア担当者を経由して各ボランティアスタッフへの配布を依頼し、回収は各個人から直接返信する方式を採った。

### 3 実施時期

- ・平成8年7月から9月

### 4 回収率と抽出標本数

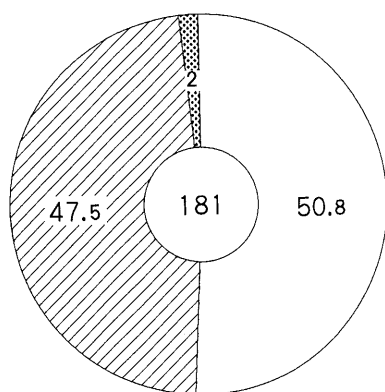
- ・回収率は30.6%
- ・抽出標本数は以下のとおり。なお、中島町文化センターについては、舞台芸術アカデミーという裏方業に関する講座が中心であったため、分析対象としては割愛した。

	配布数	回答数	回収率
喜多方プラザ文化センター	40	24	60.0%
中島町文化センター	20	2	10.0%
武生市文化センター	70	31	44.3%
いまだて芸術館	200	26	13.0%
大阪府立青少年会館	100	16	16.0%
たんば田園交響ホール	150	70	46.7%
春日市ふれあい文化センター	19	14	73.7%
合 計	599	183	30.6%

## Ⅱ. 回答者の属性

### F 1 性別

- ・回答者の性別は、男性50.8%、女性47.5%である。
- ・「美術館におけるボランティア調査」\*1) では女性が91%を占めていたことと比較すると、男女比がほぼ同数という今回の結果は興味深い。



凡例  
 □ 男性  
 ▨ 女性  
 ▩ 不明

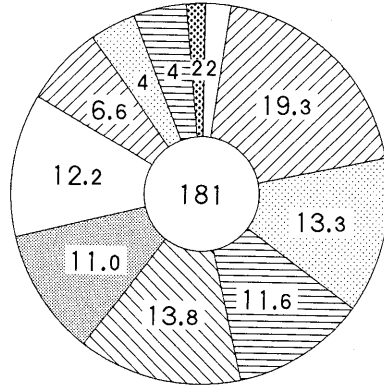
	調査数	F1 性別			
		男性	女性	不明	
合計	181 100.0	92 50.8	86 47.5	3 1.7	
調査時点	喜多方プラザ	24 100.0	20 83.3	3 12.5	1 4.2
	武生市文化	31 100.0	17 54.8	14 45.2	-
	いまだて芸術館	26 100.0	16 61.5	9 34.6	1 3.8
	大阪府立	16 100.0	6 37.5	10 62.5	-
	たんば田園交響	70 100.0	31 44.3	38 54.3	1 1.4
	春日ふれあい文化	14 100.0	2 14.3	12 85.7	-

### F 2 年齢

- ・年齢別の構成については、18歳未満から50歳まではほぼ均等に分かれており、50歳以上も14.6%いることから、幅広い年齢層の人がボランティア活動に関わっていることがわかる。
- ・この結果も40歳代から60歳代が83%を占めていた先述の美術館のケースと比較すると、ホール・劇場系ボランティアの特徴の一つと言える。
- ・ただし、『大阪府立青少年会館』は青少年を対象とした施設であり、『春日市ふれあい文化センター』ではボランティアを30歳以下に限定して募集していることから、若年齢層のボランティアが中心となっている。

\*1) 『文化行政とボランティアに関する調査』1994年5月（東京都生活文化局コミュニティ文化部）において実施された「美術館におけるボランティア」アンケート調査

F2 年齢



- 凡例
- 18歳未満
  - 18歳～24歳
  - 25歳～29歳
  - 30歳～34歳
  - 35歳～39歳
  - 40歳～44歳
  - 45歳～49歳
  - 50歳～54歳
  - 55歳～59歳
  - 60歳以上
  - 不明

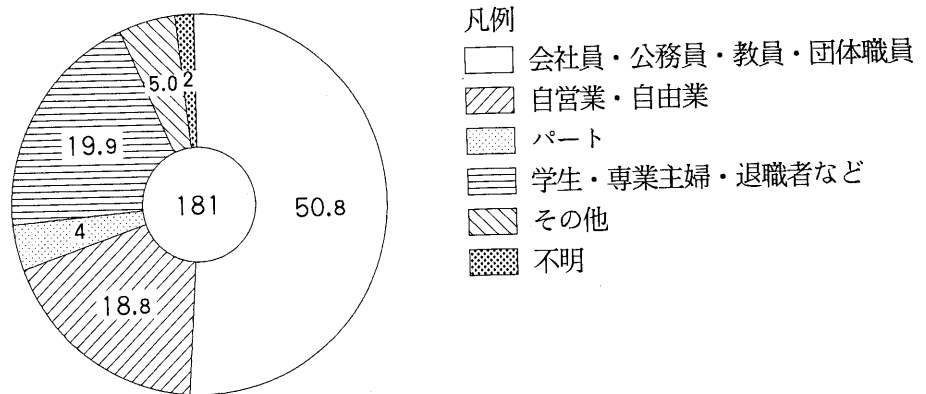
	調査数	F2	
		調査数	平均
合計	178	100.0	36.27
調査時点	喜多方プラザ	23	38.61
	武生市文化	31	35.90
	いまだて芸術館	25	44.68
	大阪府立	16	22.31
	たんば田園交響	69	38.43
	春日ふれあい文化	14	23.50
		7.9	

	調査数	F2 年齢											
		18歳未満	18歳～24歳	25歳～29歳	30歳～34歳	35歳～39歳	40歳～44歳	45歳～49歳	50歳～54歳	55歳～59歳	60歳以上	不明	
合計	181	4	35	24	21	25	20	22	12	7	8	3	
	100.0	2.2	19.3	13.3	11.6	13.8	11.0	12.2	6.6	3.9	4.4	1.7	
調査時点	喜多方プラザ	24	2	2	3	8	3	2	-	1	2	1	
		100.0	-	8.3	8.3	12.5	33.3	12.5	8.3	-	4.2	8.3	4.2
	武生市文化	31	3	4	1	7	4	-	7	5	-	-	
		100.0	9.7	12.9	3.2	22.6	12.9	-	22.6	16.1	-	-	
	いまだて芸術館	26	-	2	2	-	5	3	4	3	3	1	
		100.0	-	7.7	7.7	-	19.2	11.5	15.4	11.5	11.5	3.8	
	大阪府立	16	-	13	2	1	-	-	-	-	-	-	
	100.0	-	81.3	12.5	6.3	-	-	-	-	-	-		
たんば田園交響	70	-	9	10	9	8	14	9	4	3	3	1	
	100.0	-	12.9	14.3	12.9	11.4	20.0	12.9	5.7	4.3	4.3	1.4	
春日ふれあい文化	14	1	5	7	1	-	-	-	-	-	-	-	
	100.0	7.1	35.7	50.0	7.1	-	-	-	-	-	-	-	

■ ボランティア参加者の意識

F3 職業

・職業別の構成では、「会社員・公務員・教員・団体職員」が50.8%とほぼ半数を占めており、「自営業・自由業」の18.8%、「パート」の3.9%を含めた有職者の率は73.5%となる。<sup>\*2)</sup>



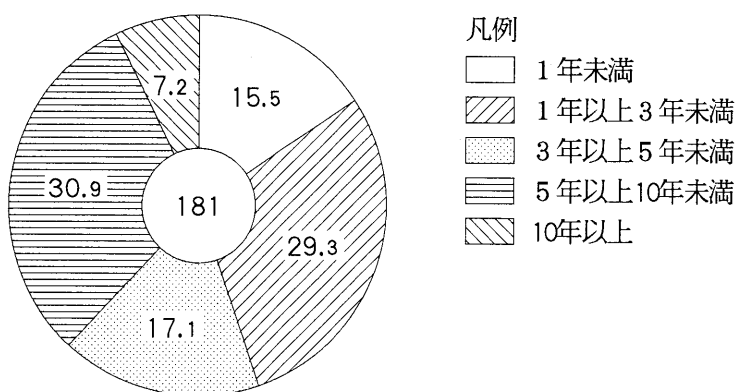
		調査数	F3 職業					不明
			会社員・公務員・教員・団体職員	自営業・自由業	パート	学生・専業主婦・退職者など	その他	
合計		181	92	34	7	36	9	3
		100.0	50.8	18.8	3.9	19.9	5.0	1.7
調査時点	喜多方プラザ	24	14	5	-	2	2	1
		100.0	58.3	20.8	-	8.3	8.3	4.2
	武生市文化	31	13	9	-	5	4	-
		100.0	41.9	29.0	-	16.1	12.9	-
	いまだて芸術館	26	16	5	-	4	-	1
		100.0	61.5	19.2	-	15.4	-	3.8
	大阪府立	16	2	2	2	10	-	-
	100.0	12.5	12.5	12.5	62.5	-	-	
たんば田園交響	70	43	13	4	7	2	1	
	100.0	61.4	18.6	5.7	10.0	2.9	1.4	
春日ふれあい文化	14	4	-	1	8	1	-	
	100.0	28.6	-	7.1	57.1	7.1	-	

<sup>\*2)</sup> 「美術館におけるボランティア」調査では、有職者率が27%、無職が69%となっている。

### Ⅲ. ボランティアの意識

Q1：ボランティア活動を始められてから何年になりますか（○は1つ）。

- ・ボランティア活動を始めてからの年数については、3年未満が40%以上を占めるているのに対し、5年以上の経験者も40%近くに及んでいる。
- ・ボランティア制度を新しく導入したところも多い一方で、ある程度の歴史がある事例では、導入当初から継続して活動している人の層も厚いことがわかる。



	調査数	Q1 ボランティア活動を始めてからの年数					
		1年未満	1年以上3年未満	3年以上5年未満	5年以上10年未満	10年以上	
合計	181	28	53	31	56	13	
	100.0	15.5	29.3	17.1	30.9	7.2	
調査時点	喜多方プラザ	24	4	4	4	5	7
		100.0	16.7	16.7	16.7	20.8	29.2
	武生市文化	31	6	6	7	11	1
		100.0	19.4	19.4	22.6	35.5	3.2
	いまだて芸術館	26	5	3	6	9	3
		100.0	19.2	11.5	23.1	34.6	11.5
	大阪府立	16	4	9	1	1	1
	100.0	25.0	56.3	6.3	6.3	6.3	
たんば田園交響	70	5	21	13	30	1	
	100.0	7.1	30.0	18.6	42.9	1.4	
春日ふれあい文化	14	4	10	-	-	-	
	100.0	28.6	71.4	-	-	-	

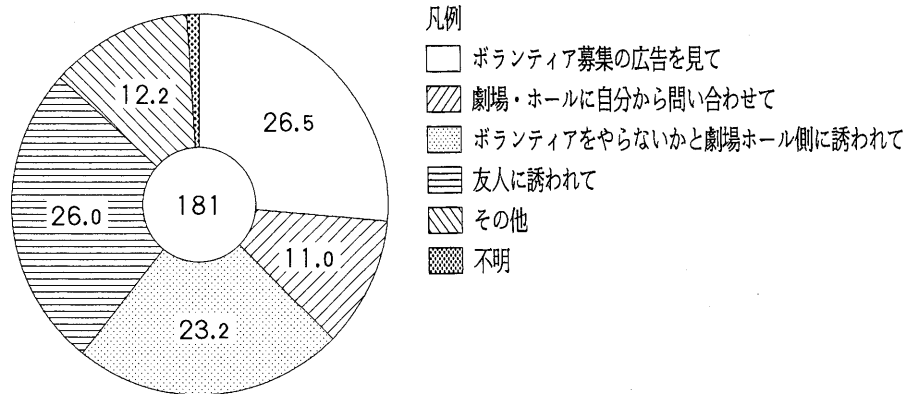
Q2：ボランティアを始められたきっかけは何ですか（○は1つ）。

- ・ボランティアを始められたきっかけは、「ボランティア募集の広告を見て」、「劇場・ホールに自分から問い合わせる」など自発的なものが36.5%であるのに対し、「劇場・ホール側に誘われて」や「友人に誘われて」など、む

■ ボランティア参加者の意識

しる受動的なきっかけで始めた人も半数近くを占めている。

- また『武生国際音楽祭』では、会場となる武生市文化センターの職員は音楽祭のボランティアとしても活動することになっており、「たまたま職場が文化センターだったから」というスタンスの場合もある。

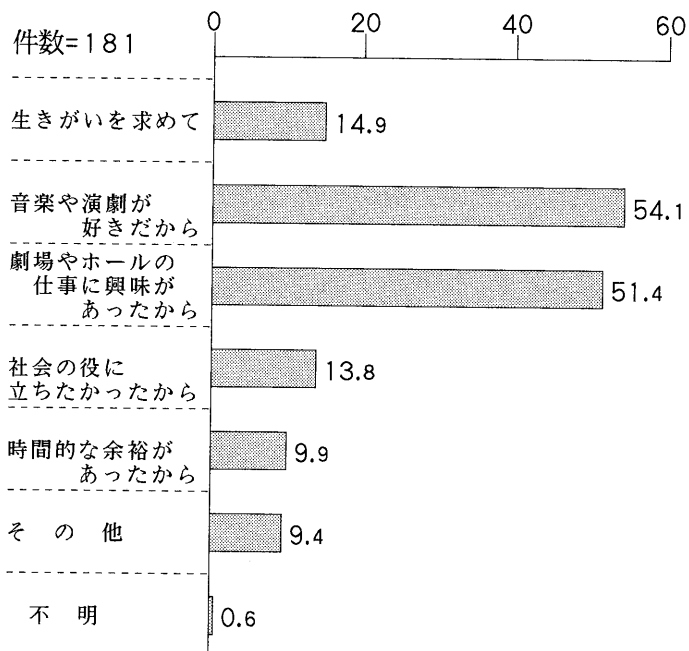


	調査数	Q2 ボランティアを始めたきっかけ					
		ボランティア募集の広告を見て	劇場・ホールに自分から問い合わせ	ボランティアをやらなかと劇場ホール側に誘われて	友人に誘われて	その他	不明
合計	181	48	20	42	47	22	2
	100.0	26.5	11.0	23.2	26.0	12.2	1.1
調査時点	喜多方プラザ	24	2	1	9	10	2
		100.0	8.3	4.2	37.5	41.7	8.3
	武生市文化	31	-	1	8	10	12
		100.0	-	3.2	25.8	32.3	38.7
	いまだて芸術館	26	6	1	8	6	5
		100.0	23.1	3.8	30.8	23.1	19.2
	大阪府立	16	8	1	2	4	1
	100.0	50.0	6.3	12.5	25.0	6.3	
たんば田園交響	70	22	16	13	16	2	
	100.0	31.4	22.9	18.6	22.9	2.9	
春日ふれあい文化	14	10	-	2	1	-	
	100.0	71.4	-	14.3	7.1	-	

Q3 : ボランティアを始められた理由は何ですか (〇は2つまで)。

- 実際にボランティアを始めた理由については、「音楽や演劇が好きだから」(54.1%)、「劇場やホールの仕事に興味があったから」(51.4%)が群を抜いており、逆に「生きがいを求めて」(14.9%)や「社会の役に立ちたかったから」(13.8%)などの数値が低くなっている点は、“文化系ボランティア”の特徴と言える。
- 「その他」の回答の中には、「新しい出会いを求めて」という個人的な理由から「地域に対する愛着」など地域の活性化を視野に入れて参加しているものなど、多様な意見がみられた。

Q3 ボランティアを始めた理由



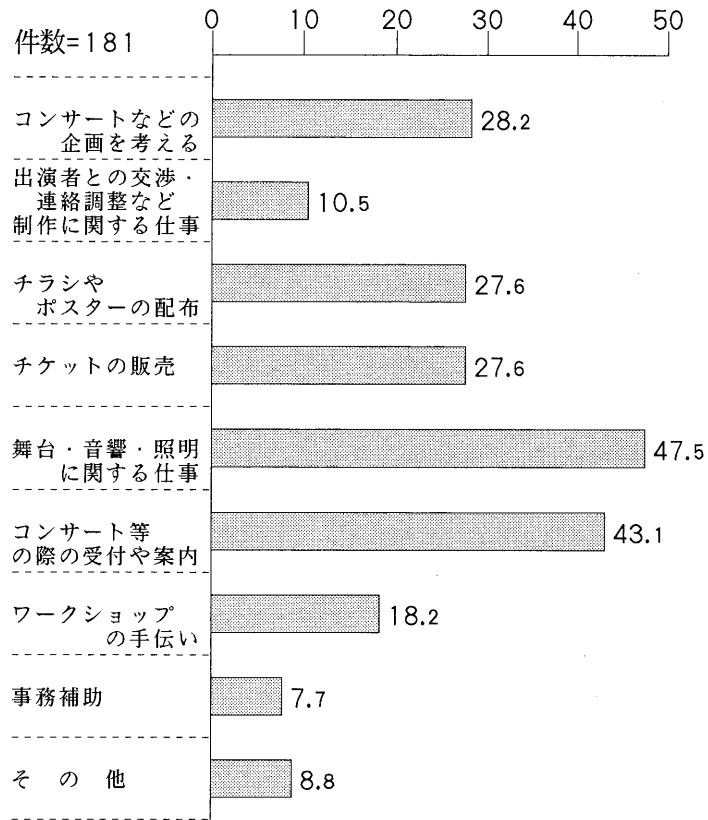
	調査数	Q3 ボランティアを始めた理由							合計反応数
		生きがいを求めて	音楽や演劇が好きだから	劇場やホールに興味があったから	社会の役に立ちたかったから	時間的な余裕があったから	その他	不明	
合計	181	27	98	93	25	18	17	1	278
調査地点	喜多方プラザ	24	10	15	4	3	2	-	34
	武生市文化	31	6	15	11	2	6	-	45
	いまだて芸術館	26	8	15	4	2	1	1	35
	大阪府立	16	2	12	1	1	2	-	27
	たんば田園交響	70	8	37	5	7	3	-	112
	春日ふれあい文化	14	3	9	7	-	3	-	25
		100.0	14.9	54.1	51.4	13.8	9.9	9.4	0.6

Q4 : ボランティアでどのような仕事をしていますか (〇はいくつでも)。

- ・具体的なボランティア活動の内容としては、いわゆる裏方の「舞台・音響・照明に関する仕事」(47.5%)や、表方の「コンサート等の際の受付や案内」(43.1%)が上位を占める。
- ・一方で、ボランティアが実際に関わっている業務は企画・制作、広報、チケット販売から事務補助まで多岐にわたり、公共ホール・劇場の業務ほぼ全般にわたって活動している状況がうかがえる。一人で複数の仕事に関わっている人も少なくなく、個々の役割は明確には分かれていないようである。

■ ボランティア参加者の意識

Q4 ボランティア活動の内容



	調査数	Q4 ボランティア活動の内容									合計反応数
		コンサートなどの企画を考える	出演者との交渉・連絡調整など制作に関する仕事	チラシやポスターの配布	チケットの販売	舞台・音響・照明に関する仕事	コンサートの受付や案内	ワークショップの手伝い	事務補助	その他	
合計	181	51	19	50	50	86	78	33	14	16	397
調査地点	喜多方プラザ	24	1	1	1	21	4	2	-	2	33
	武生市文化	31	8	3	14	20	18	15	8	9	98
	いまだて芸術館	26	11	5	5	11	5	5	1	1	55
	大阪府立	16	5	6	7	-	7	8	7	4	47
	たんば田園交響	70	18	3	12	16	46	23	4	-	122
	春日ふれあい文化	14	8	1	11	2	4	14	-	1	42
		100.0	28.2	10.5	27.6	27.6	47.5	43.1	18.2	7.7	8.8

Q5-1 それらの仕事に、平均してひと月に何時間くらい従事していますか。

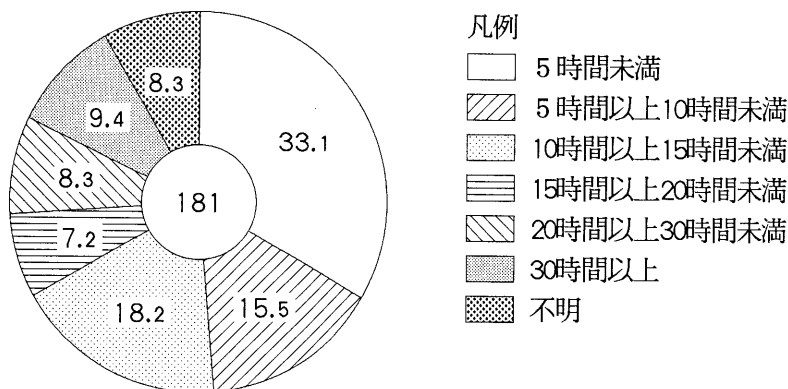
- ・ひと月にボランティア活動に従事する時間は、「5時間未満」が33.1%で最も多いが、「20時間以上30時間未満」、「30時間以上」も各々10%近くお



■ ボランティア参加者の意識

り、平均すると約11時間半となっている。

- ・事例別の平均では、『大阪府立青少年会館』の24.43時間が最も多く、『いまだて芸術館』の15.54時間がそれに次いでいるが、それ以外はおおよそ10時間前後である。
- ・フェスティバルの開催期間中に業務が集中する『武生国際音楽祭』では、開催期間中30～40時間というケースも珍しくないようである。

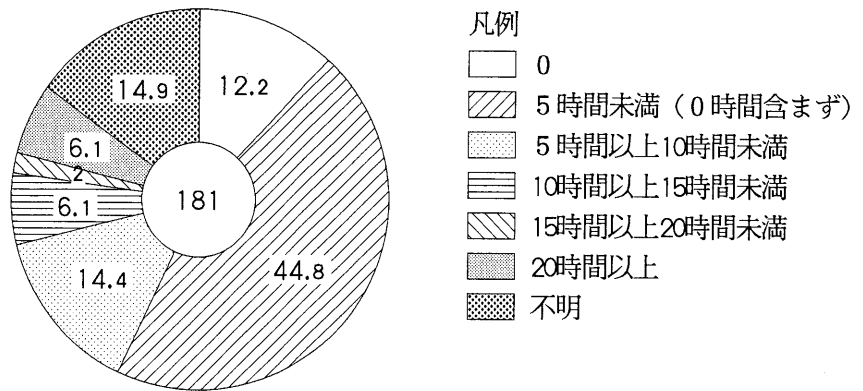


	調査数	Q5 A ひと月にボランティア活動に従事する時間							調査数	Q5.1 平均	
		5時間未満	5時間以上10時間未満	10時間以上15時間未満	15時間以上20時間未満	20時間以上30時間未満	30時間以上	不明			
合計	181 100.0	60 33.1	28 15.5	33 18.2	13 7.2	15 8.3	17 9.4	15 8.3	166 100.0	11.57	
調査時点	喜多方プラザ	24 100.0	7 29.2	5 20.8	5 20.8	2 8.3	2 8.3	2 8.3	1 4.2	23 13.9	10.04
	武生市文化	31 100.0	12 38.7	3 9.7	5 16.1	1 3.2	1 3.2	3 9.7	6 19.4	25 15.1	9.16
	いまだて芸術館	26 100.0	9 34.6	2 7.7	5 19.2	1 3.8	3 11.5	6 23.1	-	26 15.7	15.54
	大阪府立	16 100.0	1 6.3	1 6.3	7 43.8	1 6.3	-	4 25.0	2 12.5	14 8.4	24.43
	たんば田園交響	70 100.0	29 41.4	14 20.0	8 11.4	6 8.6	8 11.4	2 2.9	3 4.3	67 40.4	9.09
	春日ふれあい文化	14 100.0	2 14.3	3 21.4	3 21.4	2 14.3	1 7.1	-	3 21.4	11 6.6	9.55

Q5-2 仕事以外の研修会、勉強会、懇親会などには、平均してひと月に何時間くらい従事していますか。

- ・仕事以外の活動に従事している時間は平均で5.6時間程度で、半日から一日程度は研修やボランティア相互のコミュニケーション等のための時間に費やされていることがわかる。時間帯別にみても「5時間未満(0時間含まず)」が44.8%で最も多くなっている。

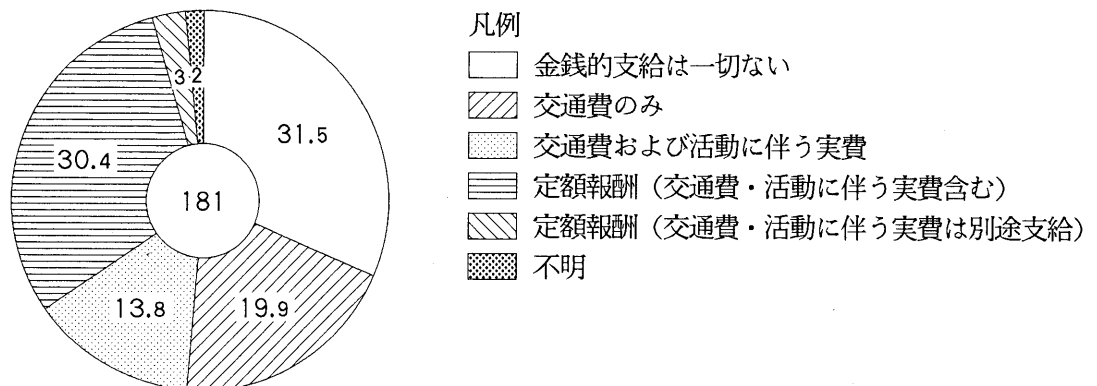
■ ボランティア参加者の意識



	調査数	Q5B ひと月に研修会等に従事する時間							調査数	Q5.2 平均
		0	5時間未満 (0時間含まず)	5時間以上 10時間未満	10時間以上 15時間未満	15時間以上 20時間未満	20時間以上	不明		
合計	181	22	81	26	11	3	11	27	154	5.62
調査時点										
喜多方プラザ	24	3	13	3	-	-	-	5	19	2.32
武生市文化	31	3	11	-	2	1	5	9	22	7.77
いまだて芸術館	26	3	5	9	3	1	3	2	24	8.54
大阪府立	16	2	4	3	1	-	2	4	12	12.58
たんば田園交響	70	11	42	6	2	1	1	7	63	3.44
春日ふれあい文化	14	-	6	5	3	-	-	-	14	5.50

Q6-1 ボランティア活動に対して何らかの金銭的支給を受けていますか (○は1つ)。

・金銭的支給の有無については、「一切ない」(31.5%)が最も多い一方で、「定額報酬(交通費・活動に伴う実費を含む)」(30.4%)が次に多くなっており、活動の内容にも関係するが、有償性についての考え方は劇場・ホールによって考え方が異なっている様子がうかがえる。

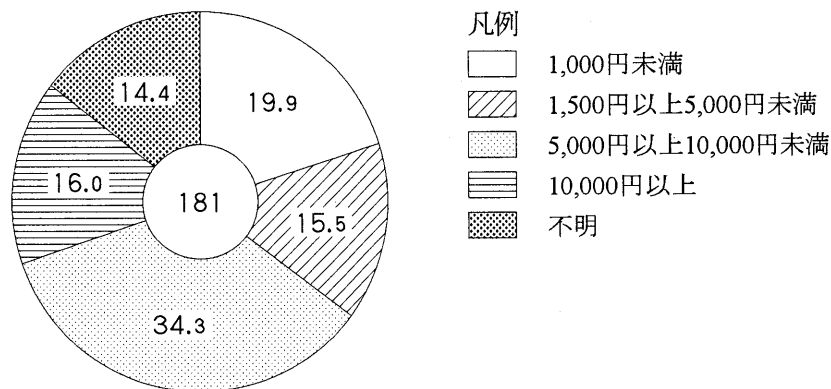


■ ボランティア参加者の意識

		調査数	Q6A ボランティア活動への金銭的支給の有無					不明
			金銭的支給は一切ない	交通費のみ	活動に伴う実費 交通費および	定額報酬 (交通費・活動に伴う実費含む)	は別途支給 ・活動に伴う実費 定額報酬(交通費)	
合計		181 100.0	57 31.5	36 19.9	25 13.8	55 30.4	5 2.8	3 1.7
調査時点	喜多方プラザ	24 100.0	6 25.0	-	2 8.3	16 66.7	-	-
	武生市文化	31 100.0	27 87.1	2 6.5	2 6.5	-	-	-
	いまだて芸術館	26 100.0	22 84.6	-	1 3.8	2 7.7	-	1 3.8
	大阪府立	16 100.0	1 6.3	11 68.8	3 18.8	-	1 6.3	-
	たんば田園交響	70 100.0	-	23 32.9	10 14.3	32 45.7	3 4.3	2 2.9
	春日ふれあい文化	14 100.0	1 7.1	-	7 50.0	5 35.7	1 7.1	-

Q6-2 費用の自己負担がある場合、それは年間どのくらいの金額ですか (○は1つ)。

- ・費用の年間自己負担額については、「5,000円以上10,000円未満」が34.3%と最も多く、次いで「1,000円未満」の19.9%となっている。
- ・『春日ふれあい文化センター』(42.9%)では、「1,000円未満」の層が最も厚く、ボランティアの自己負担は軽い例と言える。
- ・一方、『武生国際音楽祭』では「5,000円以上10,000円未満」が38.7%、「10,000円以上」が25.8%を占めており、特に10,000円以上の層のなかには20万～50万円規模の負担をしているひともおり、ボランティアの一部が音楽祭のパトロン的な役割を担っていることがわかる。
- ・『いまだて芸術館』では「1,000円未満」が34.6%と最も多くなっているものの、「5,000円以上10,000円未満」「10,000円以上」の層も各々23%程度おり、活動内容によって自己負担額に差が出ていることがわかる。



■ ボランティア参加者の意識

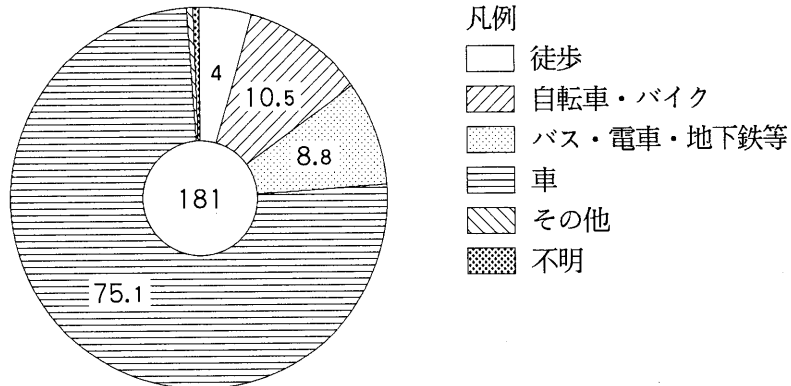
	調査数	Q6B 費用の年間自己負担額					10,000円以上の内訳			
		1000円未満	1000円以上5000円未満	5000円以上10000円未満	10000円以上	不明	10,000円以上20,000円未満	20,000円以上30,000円未満	30,000円以上	
合計	181 100.0	36 19.9	28 15.5	62 34.3	29 16.0	26 14.4	4	1	16	
調査時点	喜多方プラザ	24 100.0	1 4.2	13 54.2	4 16.7	3 12.5	3 12.5	-	2	
	武生市文化	31 100.0	4 12.9	2 6.5	12 38.7	8 25.8	5 16.1	-	8	
	いまだて芸術館	26 100.0	9 34.6	3 11.5	6 23.1	6 23.1	2 7.7	-	3	
	大阪府立	16 100.0	2 12.5	4 25.0	6 37.5	2 12.5	2 12.5	-	1	
	たんば田園交響	70 100.0	14 20.0	5 7.1	31 44.3	10 14.3	10 14.3	4	1	2
	春日ふれあい文化	14 100.0	6 42.9	1 7.1	3 21.4	-	4 28.6	-	-	

Q7-1 ボランティアをしている劇場・ホールまでは、どの交通機関を使われていますか（○は1つ）。

- ・使用している交通機関は「車」が75.1%と圧倒的に多く、公共交通機関を利用している人（8.8%）は1割に満たない。この点は立地都市の条件に大きく左右され、大阪のような大都市では68.8%が公共交通機関を利用しているが、喜多方やたんばではほぼ9割が車を利用している。

	調査数	Q7A 使用している交通機関						
		徒歩	自転車・バイク	バス・電車・地下鉄等	車	その他	不明	
合計	181 100.0	8 4.4	19 10.5	16 8.8	136 75.1	1 0.6	1 0.6	
調査時点	喜多方プラザ	24 100.0	2 8.3	1 4.2	-	21 87.5	-	-
	武生市文化	31 100.0	-	4 12.9	3 9.7	23 74.2	-	1 3.2
	いまだて芸術館	26 100.0	-	4 15.4	-	22 84.6	-	-
	大阪府立	16 100.0	1 6.3	1 6.3	11 68.8	3 18.8	-	-
	たんば田園交響	70 100.0	1 1.4	6 8.6	-	63 90.0	-	-
	春日ふれあい文化	14 100.0	4 28.6	3 21.4	2 14.3	4 28.6	1 7.1	-

Q7-1 使用している交通機関

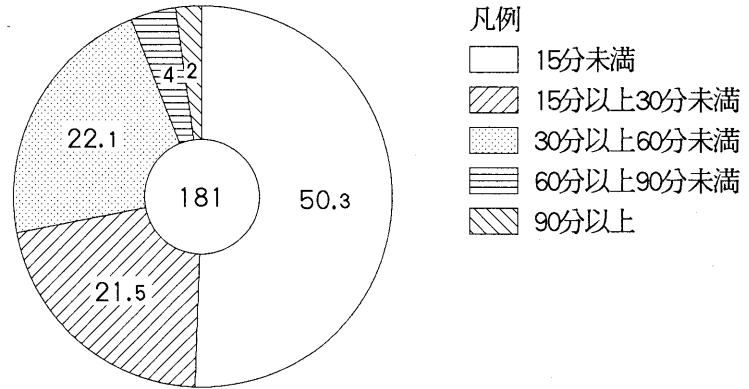


Q7-2 ボランティアをしている劇場・ホールまでは、平均何分くらいかかりますか。

- ・劇場・ホールまでの所要時間は、平均で20.7分。「15分未満」が50.3%とほぼ半数を占めている。
- ・事例別の平均では『大阪府立青少年会館』が50.13分と最も多く、大都市圏では近隣居住・勤務に関わらず幅広いエリアからボランティア活動に参加していることがわかる。
- ・一方、『喜多方プラザ文化センター』、『いまだて芸術館』では「15分未満」が各々58.3%、76.9%で、距離的には気軽に行ける身近な場所でのボランティア活動となっているようである。

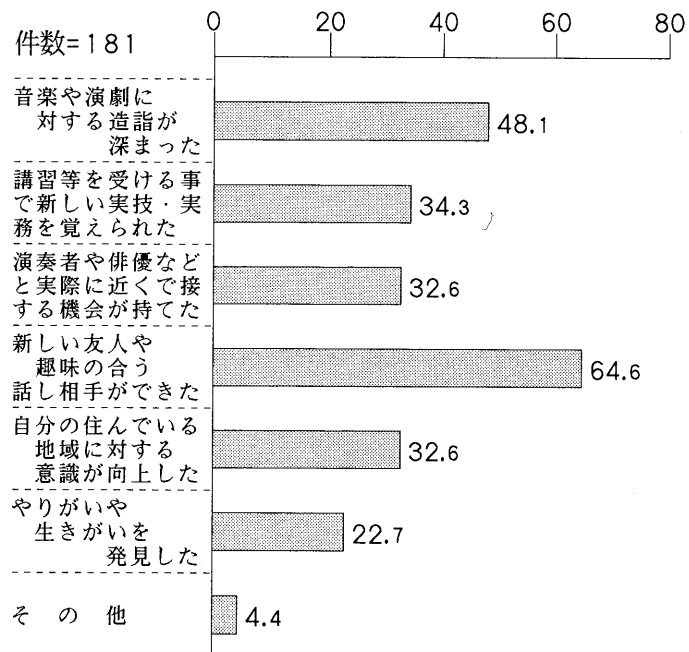
	調査数	Q7B 劇場・ホールまでの所用時間					調査数	Q7.2 平均	
		15分未満	15分以上 30分未満	30分以上 60分未満	60分以上 90分未満	90分以上			
合計	181 100.0	91 50.3	39 21.5	40 22.1	7 3.9	4 2.2	181 100.0	20.72	
調査時点	喜多方プラザ	24 100.0	14 58.3	7 29.2	3 12.5	-	-	24 13.3	14.42
	武生市文化	31 100.0	15 48.4	12 38.7	2 6.5	2 6.5	-	31 17.1	16.94
	いまだて芸術館	26 100.0	20 76.9	3 11.5	3 11.5	-	-	26 14.4	12.04
	大阪府立	16 100.0	2 12.5	-	8 50.0	4 25.0	2 12.5	16 8.8	50.13
	たんば田園交響	70 100.0	33 47.1	13 18.6	23 32.9	-	1 1.4	70 38.7	20.93
	春日ふれあい文化	14 100.0	7 50.0	4 28.6	1 7.1	1 7.1	1 7.1	14 7.7	21.43

Q7-2 ホール・劇場までの所要時間



Q8 あなたがボランティア活動をして良かったと感じることはどんなことですか（〇は3つまで）。

- ・ボランティア活動をして良かったこととしては、「新しい友人や趣味の合う話し相手ができる」（64.6%）、「音楽や演劇に対する造詣が深まった」（48.1%）が上位にあげられている。
- ・また、裏方系のボランティア活動をしている『喜多方プラザ文化センター』や『たんば田園交響ホール』では、「講習等を受けることで新しい実技・実務を覚えられた」ことが各々62.5%、51.4%と上位に位置している。



■ ボランティア参加者の意識

	調査数	Q8 ボランティア活動をしてよかったこと								合計反応数	
		音楽や演劇に 対する造詣が 深まった	講習等を受け た新しい実技・実 務を覚えられた	演奏者や俳優など と実際に近くで接 する機会が持てた	新しい友人や 話し相手ができ た	自分の住んでい る地域に向上した 意識が対する	やりがいや 生きがいを見 つけた	特にな い	そ の 他		
合 計	181 100.0	87 48.1	62 34.3	59 32.6	117 64.6	59 32.6	41 22.7	- -	8 4.4	433	
調査地点	喜多方プラザ	24 100.0	13 54.2	15 62.5	6 25.0	11 45.8	7 29.2	4 16.7	- -	1 4.2	57
	武生市文化	31 100.0	7 22.6	4 12.9	18 58.1	18 58.1	13 41.9	6 19.4	- -	5 16.1	71
	いまだて芸術館	26 100.0	11 42.3	4 15.4	3 11.5	24 92.3	4 15.4	12 46.2	- -	- -	58
	大阪府立	16 100.0	8 50.0	3 18.8	6 37.5	13 81.3	2 12.5	4 25.0	- -	1 6.3	37
	たんば田園交響	70 100.0	41 58.6	36 51.4	20 28.6	39 55.7	27 38.6	12 17.1	- -	1 1.4	176
	春日ふれあい文化	14 100.0	7 50.0	- -	6 42.9	12 85.7	6 42.9	3 21.4	- -	- -	34

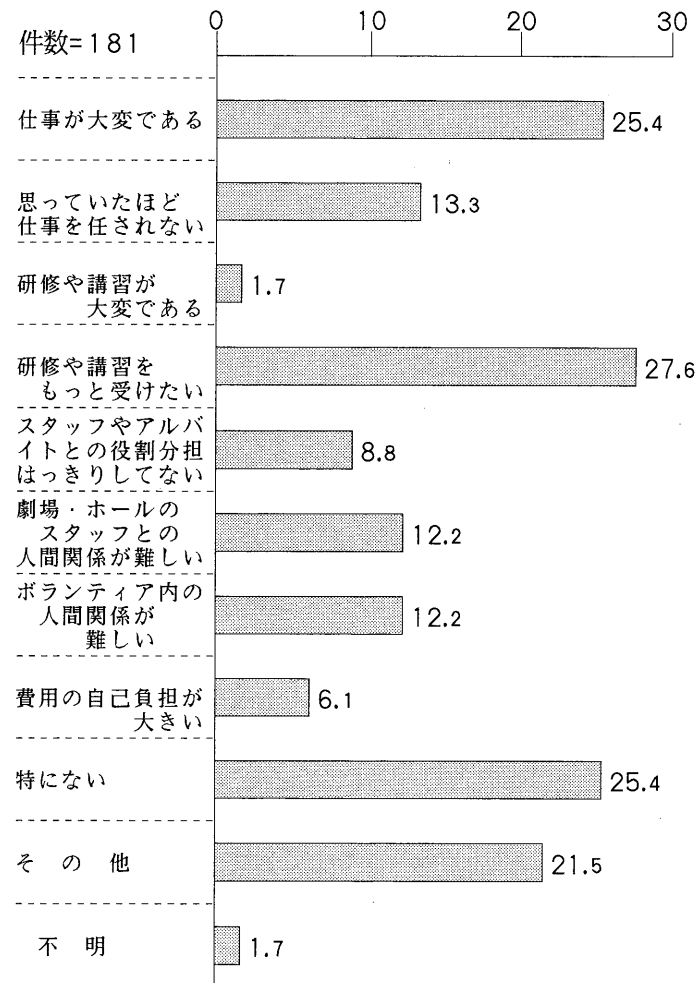
Q9 あなたがボランティア活動で抱えている問題点や期待と違った点がありますか（〇は3つまで）。

- ・ボランティア活動での問題点については、4分の1の25.4%が「特にな」と回答している一方で、「仕事が大変である」と答えた人も同数の25.4%いる。
- ・また、「研修や講習をもっと受けたい」（27.6%）が最も多くなっており、経験を重ねるにつれて活動内容の充実、向上に対する欲求が高まっていることがわかる。『たんば田園交響ホール』では37.1%が「特にな」と答え「研修や講習をもっと受けたい」が27.1%と次に続いており、全体的に前向きな姿勢がうかがえる。

	調査数	Q9 ボランティア活動での問題点等											合計反応数	
		仕事が大変である	仕事に任されたほ どではない	研修や講習が大 変である	研修や講習をも っと受けたい	スタッフやアルパ バとの役割分 担	はつきりしてない 劇場・ホールとの 人間関係が難し い	ボランティア内 の人間関係が 難しい	費用の自己負担 が大きい	特にな い	そ の 他	不 明		
合 計	181 100.0	46 25.4	24 13.3	3 1.7	50 27.6	16 8.8	22 12.2	22 12.2	11 6.1	46 25.4	39 21.5	3 1.7	279	
調査地点	喜多方プラザ	24 100.0	6 25.0	1 4.2	- -	8 33.3	2 8.3	3 12.5	1 4.2	- -	7 29.2	10 41.7	- -	38
	武生市文化	31 100.0	17 54.8	2 6.5	1 3.2	2 6.5	6 19.4	3 9.7	5 16.1	5 16.1	4 12.9	6 19.4	1 3.2	51
	いまだて芸術館	26 100.0	7 26.9	5 19.2	- -	8 30.8	1 3.8	5 19.2	6 23.1	- -	5 19.2	2 7.7	1 3.8	39
	大阪府立	16 100.0	3 18.8	2 12.5	1 6.3	3 18.8	2 12.5	3 18.8	3 18.8	4 25.0	3 18.8	4 25.0	- -	28
	たんば田園交響	70 100.0	13 18.6	6 8.6	1 1.4	19 27.1	2 2.9	5 7.1	7 10.0	2 2.9	26 37.1	14 20.0	1 1.4	95
	春日ふれあい文化	14 100.0	- -	8 57.1	- -	10 71.4	3 21.4	3 21.4	- -	- -	1 7.1	3 21.4	- -	28

■ ボランティア参加者の意識

Q9 ボランティア活動での問題点等



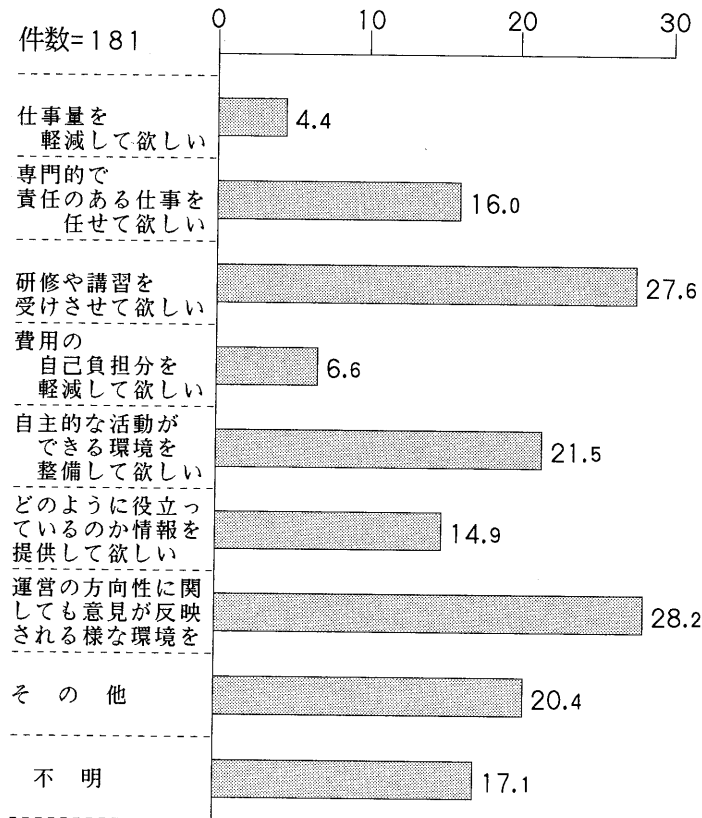
Q10 現在のボランティア活動に対する要望はありますか (〇は3つまで)。

- ボランティア活動に対する要望としては、「研修や講習をうけさせて欲しい」(27.6%)や「運営の方向性に関しても意見が反映されるような環境を整備して欲しい」(28.2%)が上位にあげられており、ボランティア活動に対するより積極的な関わりを求めている状況がうかがえる。
- 「その他」としてあげられた具体的な要望には、以下のようなものがある。
- まず、技術面の向上に対する要望が、裏方系のボランティアに強く見られる。職業として毎日あるいは定期的に関わるわけではないため、高度化する欲求と現実的に修得している技術の差に悩む声が多く聞かれた。
- また、活動を始める時点での経験や活動の頻度によってボランティア内で技術格差が生まれ、実際の現場で活動できるのが限られた層になってしまい、内部の平等性や将来性に対する不安の声も聞かれた。
- 一方、ボランティアによる企画を採用して事業を実施しているケースでは、実際にそれを実現する段階でのプロセスが把握できていないため、制作から運営に関する実務面の講習等を望む意見もあった。



■ ボランティア参加者の意識

・また、有職者がほぼ4分の3を占めていることから、「時間的にボランティア活動をする時間があまりない」「自営業なので仕事の時間を削ってボランティアをしている」「土日にボランティア活動をすると休みがなくなる」などの意見が多くあげられており、ボランティア活動に対する気持ちと相反する現実面での時間調整に苦慮している状況が強く感じられる。



	調査数	Q10 ボランティア活動への要望										
		仕事量を軽減して欲しい	専門的で責任のある仕事を任せて欲しい	研修や講習を受けさせて欲しい	費用の自己負担分を軽減して欲しい	自主的な活動ができる環境を整備して欲しい	どのように役立っているのか情報を提供して欲しい	運営の方向性に関しても意見が反映される様な環境を	その他	不明	合計反応数	
合計	181	8	29	50	12	39	27	51	37	31	253	
調査地点	喜多方プラザ	24	2	4	4	-	2	6	6	9	5	33
	武生市文化	31	3	2	4	3	11	5	8	8	3	44
	いまだて芸術館	26	1	5	10	-	7	5	7	4	3	39
	大阪府立	16	1	3	3	4	4	-	8	1	2	24
	たんば田園交響	70	1	13	21	5	11	9	15	11	17	86
	春日ふれあい文化	14	-	2	8	-	4	2	7	4	1	27
		100.0	4.4	16.0	27.6	6.6	21.5	14.9	28.2	20.4	17.1	

## ■ ボランティア参加者の意識

- 一方、専業主婦の場合でも「子育て中で夕方の外出が難しくなった」など、年齢的な問題や活動の時間帯が障害になって積極的な参加ができないというケースがあることもわかった。
- 年齢的な面では、“年代の違う人達との新しい出会い”を肯定的に受けとめている場合と、若年層からは経験や知識の差から来る劣等感によって活動の意欲が薄れたという意見の両方が聞かれ、“多様な年齢層が共に活動できる”という特徴をいかに有効に活用するか、というマネジメント側の力量が問われる結果となっている。
- また、40歳～50歳代が中心となっている事例では、「若い人が入って来ない」など、10数年継続してきた活動を次世代に引き継ぐ段階に来て、ボランティア制度だけでなく施設運営の将来性に対する不安も感じられた。
- 有償性の問題では、研修・講習に対する要求とも関連するが、「有償である以上ボランティアといえどもプロである」という意見もあり、高い意識での活動に繋がっている面も見られる。一方では、「お金のためにやっているのではないことを理解して欲しい」など活動内容の充実を求める声もあった。集計結果を見ても、「費用の自己負担分を軽減して欲しい」と回答しているのは全体のわずか6.6%で、若年層が多い『大阪府立青少年会館』の25.0%を除けば、ほとんど無いと言える。
- 行政との関係では、“柔軟に対応してくれている”という意見もある一方で、肯定的に受けとめられていない意見も少なくなく、事例によって行政とボランティアの関係は必ずしも安定的ではなく、微妙な問題をはらんでいるようである。また、「担当者が異動しても制度が存続されるようにして欲しい」という意見もあり、現状がある特定の個人に依存したものであることを認識したうえで、ボランティアの制度としての早期確立が望まれている状況がうかがえる。
- “ボランティア”に対する行政側の意識が問題になっているケースもあり、中には「行政の人も休日や夜間に実際ボランティア活動を体験してみたい」という厳しい意見も見られた。

以上

## 公共ホール・劇場とボランティアに関するアンケート調査

### 【ご回答にあたってのお願い】

このアンケートは、大半が選択式の質問ですが、一部記入式になっております。  
選択式の質問は、あてはまる選択肢の番号に○印をおつけ下さい。なお、番号に○をつける数は、質問の最後に明記してある数にしたがって下さい。記入式の質問は、数字などを回答欄にご記入下さい。

回答は必ずご本人が調査票に記入の上、同封の返信用封筒で

平成8年 8月 2日（金曜日）までに

ご投函くださいますようお願い申し上げます。

本調査に関するお問い合わせは、下記までお願い致します。

調査実施担当

(株)ニッセイ基礎研究所 芸術文化研究担当

電話：03(3597)8436 ファクシミリ：03(5512)7161

担当：吉本、片岡、柄田

問1 ボランティア活動を始められて何年になりますか（○は1つ）。

- 1 1年未満
- 2 1年以上3年未満
- 3 3年以上5年未満
- 4 5年以上10年未満
- 5 10年以上

問2 ボランティアを始められたきっかけは何ですか（○は1つ）。

- 1 ボランティア募集の広告を見て
- 2 劇場・ホールに自分から問い合わせ
- 3 ボランティアをやるのかと劇場・ホール側に誘われて
- 4 友人に誘われて
- 5 その他（具体的に

問3 ボランティアを始められた理由は何ですか（○は2つまで）。

- 1 生きがいを求めて
- 2 音楽や演劇が好きだから
- 3 劇場やホールの仕事に興味があったから
- 4 社会の役に立ちたかったから
- 5 時間的な余裕があったから
- 6 その他（具体的に

問4 あなたは、ボランティア活動でどのような仕事をしていますか（○はいくつでも）。

- 1 コンサートなどの企画を考える
- 2 出演者との交渉、連絡調整など制作に関する仕事
- 3 チラシやポスターの配布
- 4 チケットの販売
- 5 舞台・音響・照明に関わる仕事（具体的に
- 6 コンサート等の際の受付や案内
- 7 ワークショップの手伝い
- 8 事務補助（具体的に
- 9 その他（具体的に

問5-1 それらの仕事に、平均してひと月に何時間くらい従事していますか。

--	--

 時間程度

問5-2 仕事以外の研修会、勉強会、懇親会などには、平均してひと月に何時間くらい従事していますか。

--	--

 時間程度

問6-1 ボランティア活動に対して何らかの金銭的支給を受けていますか（○は1つ）。

- 1 金銭的支給は一切ない
- 2 交通費のみ
- 3 交通費および活動に伴う実費
- 4 定額報酬（交通費、活動に伴う実費含む）（具体的に
- 5 定額報酬（交通費、活動に伴う実費は別途支給）（具体的に

問6-2 費用の自己負担がある場合、それは年間どのくらいの金額ですか（○は1つ）。

- 1 1,000 円未満
- 2 1,000 円以上 5,000 円未満
- 3 5,000 円以上 10,000 円未満
- 4 10,000 円以上（お差し支えなければ、具体的な金額をお書き下さい  万円）

問7-1 ボランティアをしている劇場・ホールまでは、どの交通機関を使われていますか（○は1つ）。

- 1 徒歩
- 2 自転車、バイク
- 3 バス、電車、地下鉄等
- 4 車
- 5 その他（具体的に )

問7-2 ボランティアをしている劇場・ホールまでは、平均何分くらいかかりますか。

<input style="width: 100%; height: 100%;" type="text"/>	分程度
---	-----

\* \* \* \* \*

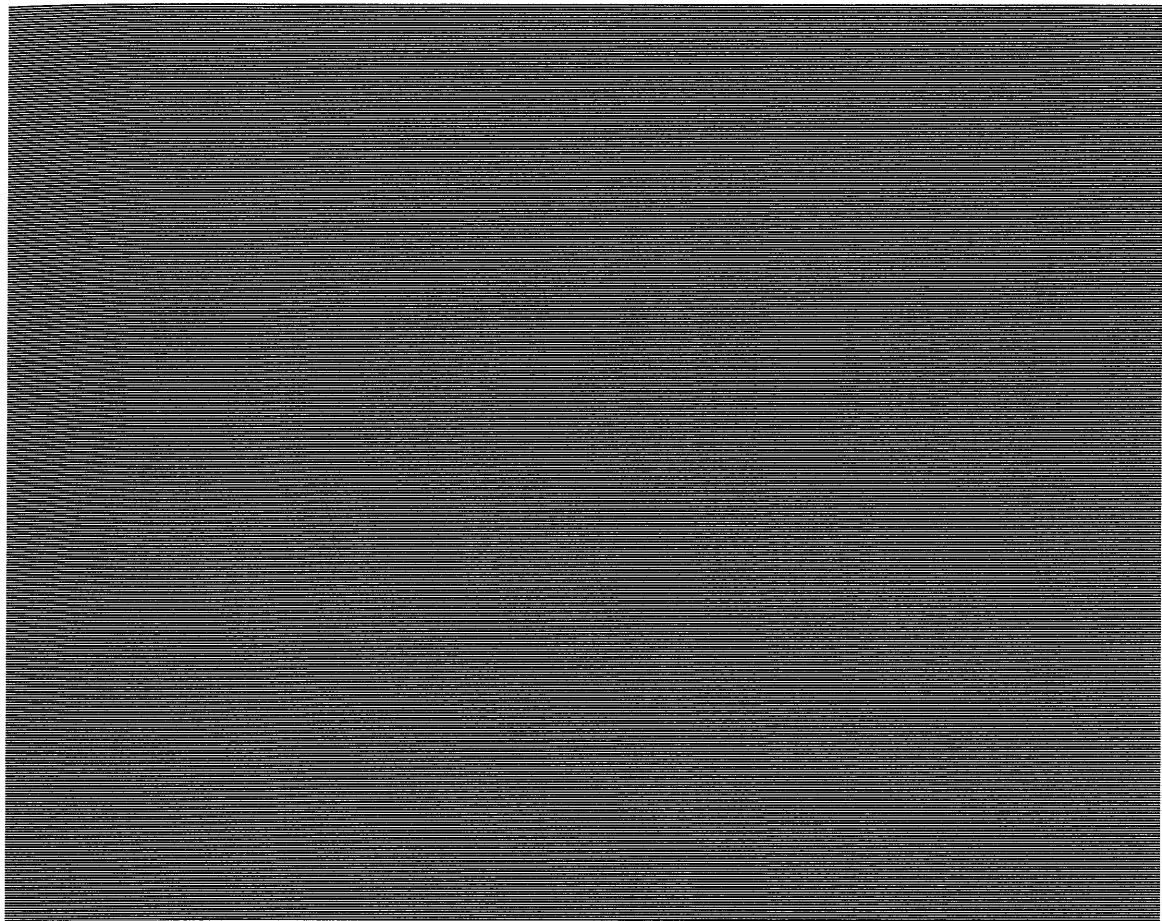
問8 あなたがボランティア活動をして良かったと感じることはどんなことですか（○は3つまで）。

- 1 音楽や演劇に対する造詣が深まった
- 2 講習などを受けることで、舞台の裏方など新しい実技・実務を覚えることができた
- 3 演奏者や俳優などと実際に近くで接する機会が持てた
- 4 新しい友人や、趣味の合う話し相手ができる
- 5 自分の住んでいる地域に対する意識が向上した
- 6 やりがいや生きがいを発見した
- 7 特になし
- 8 その他（具体的に )

問9 あなたがボランティア活動で抱えている問題点や期待と違った点がありますか（○は3つまで）。

- 1 仕事が大変である
- 2 思っていたほど仕事を任せられない
- 3 研修や講習が大変である
- 4 研修や講習をもっと受けたい
- 5 劇場・ホールのスタッフやアルバイトとの役割分担がはっきりしていない
- 6 劇場・ホールのスタッフとの人間関係が難しい
- 7 ボランティア内での人間関係が難しい
- 8 費用の自己負担が大きい
- 9 特になし
- 10 その他（具体的に )





資料編 **4** :

米国パフォーミング・アーツ分野におけるボランティア活動の実態  
—代表事例及び関係機関に対するインタビュー調査結果—

I. 米国のボランティアを取り巻く社会構造 .....	資4-1
II. The Symphony Space .....	資4-19
III. Snug Harbor Cultural Center .....	資4-31
IV. The Kennedy Center for the Performing Arts .....	資4-45
V. Autumn Stage .....	資4-75
VI. The Public Theater .....	資4-81
VII. Mayor's Voluntary Action Center (MVAC) .....	資4-89





## I. 米国のボランティアを取り巻く社会構造

\* 米国と我が国では、ボランティアという言葉の意味合いや社会的な背景が異なるため、本項では、米国のボランティアの表記を英字表記とした。

アメリカの日常生活の中で、「Volunteer の行為」というものは、測り知れないほどのインパクトをもたらしています。「Volunteer の行為」は、教会で、医療施設で、大学で、研究所で、社会事業で、文化施設で、舞台芸術環境で、そしてその他のあらゆる非営利活動に根をはっています。

— 『American's Voluntary Spirit / The Foundation Center 発行』より—

日本では、ボランティアの存在あるいはボランティアの活動というものは、現状の社会構造や行政のサービスの「隙間を埋めるもの」、すなわち何らかの主体を“補完する機能”として語られることが多い。

だがアメリカでは、Volunteer 活動は、“社会の構造体の一部”と言うべきものである。近年では、中産階級の貧困化、女性の社会進出、核家族化、家庭の崩壊などが原因となって「昔のアメリカ人に比べて今のアメリカ人は Volunteer をしなくなった」と言われることもよくあるが、それでもなおアメリカ人の「Volunteer」への意識は、いまだ米国社会の底辺を成すファクターのひとつとして根強い。

Volunteer がどれほど米国の社会構造に不可欠なものを、教育制度を例にとって簡単に説明してみよう。

- 日本の学校制度では、校長を任命したりカリキュラムを決定するのは行政の役割だが、アメリカの多くの州、都市では、小・中各学校の校長を選定・任命・罷免するのは、「コミュニティー・ボード」と呼ばれる所定の学区内の住民から成る Volunteer の集団。教育カリキュラムを認定するのも、このコミュニティー・ボードである。
- 一方ニューヨーク市ではこのほど、市行政直轄の教育委員会の長に、校長の任命・罷免権を移す法案が可決された。これに対して市民の多くは、「学区内の住民の意見を学校制度に正しく反映させるには、学区内の住民の代表が直接に制度を司るべきだ」という考えを支持しており、市の新方針への反発は大きい。

このように、アメリカでは、「行政に属している専門家よりも、一般市民の側に属している素人の Volunteerの方がより大きな権限を持つべきだ」とまでいった姿勢を、社会生活の様々な局面で発見することができる。つまり米国の Volunteer のあり方は、カタカナの「ボランティア」という言葉から連想されるよりもずっと多様な形、多様な影響力で社会に存在するわけである。

その“多様さ”は次に述べるとおりである。

## 1. リーダーシップの Volunteer

Volunteer 活動が、社会の中で大きな権限を持っているということは、すなわち「Volunteer は社会をリードし得る」という価値観が社会に浸透していることの結果と言えるだろう。このことはもちろん、そもそもアメリカという国自体が市民活動から興ったという特種な歴史と無縁ではないが、経済的に余裕があったり社会的地位の高い人などが、おしなべて非営利団体の Board of Directors (理事会) の役員に名を連ねる (注: 理事会役員は多くの場合が無償無給、つまり Volunteer) のは、このような価値観に裏付けされている。

首都ワシントンにある非営利団体『National Center for Nonprofit Board (NCNB)』によれば、アメリカ人が理事会の役員になって無償で時間と労力を割く動機について、最も一般的なものは、「これまで社会でおさめてきた成功を社会に還元したいから」というものと、「自分という成功者の知識や技術を使って〇〇を導いてやらなければ」という義務感だという。

この義務感は、キリスト教的であると共に、階層社会アメリカの、その上部に属する者に特有の多分に“帝王学的”な志向である。

理事会役員らが実質的に期待されるのは、「活動資金集めのための水先案内人」としての機能である。すなわち、同じように裕福かつ指導的な立場にある人々とのネットワークを使って、寄付金をたぐりよせることにある。だが、もっと理想的には、その非営利団体の使命に基づいて長期的なビジョンを示唆し指導する役割までが求められており、この点においては、古く大きな非営利団体ほど大きな問題を抱えていることが多い。というのも、古い団体ほど設立当初の活動の使命が、現実とのすり合わせにおいて曖昧になってきていたり、また、大きな団体ほど日常的な業務を扱う有給のスタッフと、活動を大局的に論じる理事会との間にギャップが生じやすいこと、などが原因である。

そこで、理事会役員という Volunteer をめぐっては、例えば以下のような非営利団体が諸問題を取り扱っている。

- NCNB (前出) : 理事会がその非営利団体といかにより生産的な関係を作り上げていけるかを、出版、セミナー、会議、コンサルティングなどを通して指導していく。全米規模の活動を行う非営利団体[資料 SUP-1参照]。
- Volunteer Consulting Group : ニューヨーク市には、1969年に設立された『Volunteer Consulting Group』という非営利団体がある。これは、ハーバード大学経営学部の同窓会ニューヨーク支部によって発足されたもので、非営利団体の理事会がいかにより効率よく非営利団体を導くことができるかというコンサルティングを、非営利団体と理事会の双方に対して行う組織である。また、非営利団体の理事・監査・管財人にふさわしいニューヨーク在住の人物と、理事候補を探し求めている非営利団体とをマッチングさせる「マーケット・プレイス」というプログラムも施行。「リーダーシップ的 Volunteer」における、“キリスト教的かつ帝王学的”姿勢の代表的な例である[資料 SUP-2参照]。

## 2. 専門知識を生かす Volunteer

### (1) プロフェッショナルリティを生かす

終身雇用制度の徹底した日本には、国家試験制度のある職業や一部の技術職を除いては、社会人の間に「プロフェッショナル」という意識が欠如している。が、自分の専門分野を特化して転職を重ねるアメリカのビジネスマンの場合には、「マーケティングのプロ」「人事のプロ」「総務のプロ」「投資コンサルティングのプロ」「経営管理のプロ」といった専門職ビジネスマンから、「グラフィック・デザイナー」「コピー・ライター」など日本にも存在するソフト技能職まで、さまざまなプロフェッショナルが存在する。(ここで言う Professional とは、「専門職」と訳すべきもので、例えば秘書業、タイピスト、ひと通りのコンピューター知識程度の技能しか持たない者は、プロフェッショナルとは呼ばれない)。

彼らの専門知識と経験を非営利団体の運営のために役立てようというコンセプトは、米国の様々な Volunteer プログラムの中に見ることができるが、以下は、特に芸術に関連する非営利団体用のプログラムを参考に挙げた。

#### ① Arts & Business Council (ABC)

この非営利団体では、ビジネス・セクター(経済界)で働く「プロフェッショナル」の人々を、その人々の専門知識や技術を必要としている芸術系非営利団体にマッチさせ、Volunteer として送り込むという活動をしている。ABC はニューヨークに本部を持つが、ほぼ全米の大都市にそれぞれ支部があり、独自のマッチング・ネットワークを広げている。

最も一般的なマッチングのケースとしては、「新しい観客層をつかもうとする劇場がマーケティングの専門家の指導を受ける」、「経営難に陥った非営利団体が総務・人事のプロに財政や人事構成の建て直しを相談する」、「基本財産の有効運用を金融コンサルタントに依頼する」など。その他、ニューヨーク・シティ・オペラ団やレパトア・エスパニョーラ劇団では、Volunteer グラフィック・デザイナーに印刷物(チラシやパンフレット)のデザインを依頼している。

ABC でのマッチングの具体例は、[資料 SUP-3]を参考のこと。

#### ② Volunteer Lawyers for the Arts (VLA)

弁護士という専門職については、別途『Volunteer Lawyers for the Arts (VLA)』という非営利団体があり、芸術家および芸術系非営利団体の法律相談に無料で応じるボランティア弁護士のマッチングを行っている[資料 SUP-4 参照]。

VLA も ABC 同様、シカゴ、サンフランシスコといった大都市にはそれぞれ独自の VLA が存在するが、地方分権の徹底した米国では各州によって法律が異なるため、各 VLA 間の交流や情報交換はあまり盛んではない。芸術家と芸術団体の集中度と弁護士の数の多さからいって、VLA の活動がもっとも盛んなのは当然ニューヨークである。

ニューヨーク VLA でのマッチングの具体例は、[資料 SUP-5]を参考のこと。

## ■ 米国のボランティアを取り巻く社会構造

### ③ Doctors for Artists

医者という専門職については弁護士のVLAほど徹底したVolunteer組織は存在していない。ただしニューヨーク市には、ごく個人的なVolunteer医師らが集まって作っている『Doctors for Artists』という任意的な活動がある。これは、身体が資本の舞台芸術家（おもにダンサーや役者や歌手など）のために、ニューヨーク近郊に診療所を持つ専門医（スポーツ医、声帯専門医、整体医、整形外科医等）の住所録をまとめ、問い合わせのあるごとにReferral Service（＝情報照会）を行うというもの。

### (2) 専門技術・技能を提供するVolunteerは被雇用者

自分のプロフェッショナルリティを無償で提供するVolunteerのなり手は、ABC、VLAとも、ごく一部の例外を除いてほとんどが“被雇用者”である。すなわち、あくまで「彼らの専門知識や専門技術をタダで提供しても、彼ら自身の生活の糧は脅かされない」という前提でのVolunteer行為であることに、留意したい。

言い換えれば、デザイン事務所、会計事務所、弁護士事務所、建築事務所、投資コンサルティング会社など、特にサービス業において、“経営者”がみずからその本業のサービスをVolunteer提供するという事は、あまり一般的ではない。ここには、自営自立した人のプロフェッショナルリティに尊厳を払う（＝タダで本業のサービスを提供してもらうべきではない）という社会的コンセンサスがあるように思える。

一方、もしも経営者自身がこのようなVolunteer活動に積極的である場合は、自分の従業員に対してVolunteerへの参加を奨励するという方法をとる。場合によっては、就業時間内に従業員が行ったVolunteer時間を時間給に換算し、従事した非営利団体にその証明書を発行してもらい「寄付」扱いにして税金から控除することも可能である。

経営者がみずから専門的な知識をVolunteerで生かそうという場合には、レクチャーやセミナーの講師を無料で引き受けるといったような、一歩立場の高い指導的な方法が一般的だ。

### (3) 舞台芸術家自身のVolunteer

「プロフェッショナル」ということでは、舞台芸術家（ダンサー、歌手、俳優等）はもちろんプロフェッショナルである。が、舞台芸術家が、その専門技術（すなわちパフォーマンス）をタダでVolunteer提供することは、ごく一部の例外（ごくローカルなフェスティバルなど）を除いてほとんど見られないし、またそれを期待されることも少ない。

このあたりの理由を、いくつかの芸術系非営利団体に問い合わせたところ、サービス業の経営者が自ら専門知識を無償で提供することを避けるのと同じ、すなわち「本業のサービスをタダで提供すべきではないから」、という説明をする者もいれば、「アーティストは、本質的にVolunteerを行えるほど余裕のある人々ではないから」という理由をあげる者もいた。

ごく一部のスター的舞台芸術家は、資金集めのガラ・コンサートなどに無償のVolunteer出演することがしばしばあるが、この場合は、観客は観賞代を支払っているわけであるから「タダでパフォーマンスを観せている」とは違う。

## ■ 米国のボランティアを取り巻く社会構造

一方、劇団やバレエ団、あるいは劇場やホールなどの非営利の芸術団体が、学校や施設などで無料（或いは安価）の公演を提供することがあるが、この場合でも、個々の出演者は **Volunteer** の無料出演をしているのではなく、ちゃんと報酬を受け取っている（報酬支払いのための資金源は、もちろん財団や公共機関からの活動助成金である）。

以上をまとめれば、「アーティストは、本業をタダで提供するという形での **Volunteer** は行わない」というのが米国での不文律と言えるだろう。

### 3. リタイアした人々の Volunteer

アメリカでは昔から、「リタイアした人々は **Volunteer** の重要な人材源」ということになっており、そのため、前項で挙げた『**ACTION**』や『**American Association of Retired Persons (AARP)**』のような全米組織をはじめ、州・郡・市町村など様々なレベルで、「**Volunteer センター**」と呼ばれる組織（たいていは行政筋の外郭団体としての非営利法人）が存在する。こういった組織が行っているサービスは、**Volunteer** 希望者と募集团体とのマッチング、**Volunteer** プログラムの開発指導、**Volunteer** トレーニング、情報照会などである。

また、やはり前項で挙げた『**Service Corps of Retired Executives (SCORE)**』や『**National Executive Service Corps (NESC)**』の例からもわかるように、ひとことで「リタイアした人」と言っても、現役時代の履歴によって、**Volunteer** として求められる働きが違ってくる。

あまり職能もなく暮らしてきた人であれば、「手足としての **Volunteer** (= DMの封筒づめが最も一般的で、劇場・ホール等の場合には、これに会員募集やチケットの電話セールス、およびアッシャー業務などが加わる)」、地域の顔役程度の“地位”がある人ならば、「ファンドレイジング・パーティーの企画・推進係」、そして企業のトップに座していた人であれば、「理事会役員」か、もしくはもっと特別の指導的な立場の貢献が期待される。

### 4. 企業が従業員に奨励する Volunteer

前項で挙げた『**National Council on Corporate Volunteerism (NCCV)**』のような組織が存在することからもわかるように、「企業市民」という価値観の生みの親であるアメリカでは、企業が企業体として **Volunteer** 活動を行ったり、あるいは企業が従業員に対して **Volunteer** 活動を奨励したりすることが、ひとつの典型的な社会貢献活動になっている。

#### • CITIBANK

[資料 SUP-6]は、1993年度のニューヨーク市内 **CITIBANK** での、従業員手引きからの抜粋である。同資料そのものは、**CITIBANK** 従業員のための「劇場での入場料割り引き一覧」であるが、同時に、**CITIBANK** がこれらの劇場施設と“相互協力関係”を築いていることを示している。すなわち、**CITIBANK** の従業員は、これらの劇場のために自由意志で一定時間の **Volunteer** を行うことが奨励されており、その就業時間数に見合うだけの現金を **CITIBANK** は「マッチング・ギフト」としてその劇場に寄付する体

## ■ 米国のボランティアを取り巻く社会構造

制を敷いている。

マッチング・ギフトの仕組みは、(すでに日本でもよく知られているように) 従業員の意思を企業の社会貢献活動に反映させるという意味合いと、寄付金の行く先について経営者サイドが試行錯誤しなくてもすむという意味合いとの両方がある。

1993年に、Mutual Benefit Lifeが発表した統計『The Mutual Benefit Life Report II』によれば、アメリカでは、CITIBANKのような大企業ではない中小・零細レベルの企業でも、多くの経営者が、「従業員に Volunteer 活動を奨励することは企業にとって大切」と考えている(アンケート対象企業のうちの61%。ただし、企業の資本金が大きいほど、従業員の Volunteer 活動の奨励度は増す)。

同統計によれば、従業員の Volunteer 活動をよしとする理由は、

- 職場の雰囲気向上
- 職場内のチームワークの向上と、コミュニティーとのチームワークの向上
- 従業員の新規採用に便利

となっている。

また、「従業員がコミュニティで行う Volunteer 活動は、売上向上などの直接的な利益を生むか？」との質問には、ほとんどの企業が「直接的な効果は感じない」と述べているが、その一方で、「生産性の向上、モラルの向上、ビジネス上のツテの拡張、企業イメージの向上などのメリットは得られる」として、「基本的には従業員の Volunteer 活動は、企業にとって利益がある」と答える企業が、7割を越えている。

## 5. Volunteer 人員だけで運営される非営利団体

本項冒頭で「米国の Volunteer は補完・補足ではなく、社会の構造体の一部である」と述べたが、“構造体の一部”どころか Volunteer の働きが“構造そのもの”をなしている非営利団体も数多い。

### (1) フェスティバル

米国の地方や小都市で行われるパフォーミング・アーツ系のフェスティバルには、企画→準備→実施→運営まですべて Volunteer の手だけで行われているものが珍しくない。

「企画→準備」の段階には、当然、資金調達(ファンドレイジング)という行為も含まれている。資金は、出演者や出演団体へのギャラ、交通費、会場設営費、告知印刷物制作費、そして Volunteer 全員用のユニフォーム兼謝礼代わりにTシャツ制作費などに使われる。

#### • Baroque Music Festival of Corona Del Mar :

これは、カリフォルニア州コロナ・デル・マーでの毎夏恒例のバロック音楽のフェスティバル。ほとんど演奏されることのない埋もれた古楽を復活させる、というユニークな活動である。

フェスティバル名と同名の非営利法人登録をしているが、有給のスタ

## ■ 米国のボランティアを取り巻く社会構造

スタッフはおらず、運営管理、会計、広報、資金調達から、当日の座席案内まで、すべて Volunteer でなりたっている。出演する演奏家は全員ユニオンのメンバー（音楽家用労組の組合員）のため、彼らには「ユニオン・スケール」と呼ばれる最低賃金以上のギャラが支払われるが、指揮者だけは、同フェスティバルの設立者のひとりのためノー・ギャラで出演。

「同好の士が好きで集まってやる」というのが基本コンセプトの非営利団体のため、毎シーズン黒字の経営を続けているにもかかわらず、Volunteer 人員を有給のスタッフに切り替える意志はまったくない。

### (2) 小劇場

極小の劇場スペースを運営するニューヨークの非営利団体の中には、「演出家ひとり（＝ほとんどの場合がその非営利団体の設立者）を除いて、すべての運営スタッフが Volunteer」というところが数多く存在する。これらの非営利団体は、好んで Volunteer に依存しているわけではなく、「有給のオフィス・スタッフを雇い入れるだけの資金力が無い」というケースがほとんどである。

#### • Actor's Theater Workshop :

マンハッタンの西 28 丁目にある『Actor's Theater Workshop』という小劇場は、独自の演劇プロダクションの創作の他、子供に演劇を指導する土曜学校、役者にオーディション技術を教えるワークショップなどの活動を行っている。

スペースはビルの 5 階のワンフロア、という小さなもの。Volunteer の範囲は、アシスタント・マネージャー（オフィスの日常業務を処理する係）、広報担当（問い合わせへの電話対応から、メディアに対する広報活動まで）、資金調達係（ファンド・レイジング・イベントの企画実施から、助成金申請の手続きまで）、広告印刷物制作係（グラフィック・デザインおよびコピー・ライティング）、そしてこれらのボランティアをしきるボランティア・コーディネーター（理事会の役員＝発起人のひとりが担当している）、というように、ほぼ事務仕事の全面にわたっている。

## 6. Volunteer に関する情報源、サービス機関

首都ワシントンには、全米に分散する各種各ジャンルの非営利団体をそれぞれ相互にネットワークし情報の行き来を助ける統括的非営利団体（通常「アンブレラ・オーガニゼーション」と呼ばれる。例えば、全米のオーケストラ団をネットワークする『American Symphony Orchestra League』、全米のダンスカンパニーをつなぐ『Dance USA』、芸術系非営利団体を代表してロビー活動を行う『American Arts Alliance』、全米の非営利老人ホームを指導する『National Association of Home & Services for Aging』、全米の労働組合をつなぐ『AFL-CIO』等々）が、数多く存在する。

つまり、Volunteer 関係のアンブレラ・オーガニゼーションを眺めれば、どんな切り口での Volunteer 活動がアメリカに存在するかを、おおまかに知ることができる。

## ■ 米国のボランティアを取り巻く社会構造

### ① ACTION

連邦政府筋の外郭非営利団体。ジャンルを問わず Volunteer 活動全般を奨励することを使命とし、全米各地に支部を持って情報サービス、照会サービス、出版、基本となるボランティア・プログラムの開発提供などを行う。「Student Community Service Program (スチューデント・コミュニティー・サービス・プログラム、通称「SCSP）」や、「Retired Senior Volunteer Programs (リタイアード・シニア・ボランティア・プログラム、通称「RSVP）」などが代表的なプログラム。

### ② Independent Sector (IS)

医療、福祉、文化など社会問題や篤志活動全般に関わる非営利団体をつなぐ、非営利団体。Volunteer 関連のリサーチ研究を行う非営利団体への助成を行うほか、Volunteer 全般に関する書籍を数多く出版。

### ③ American Association of Retired Persons (AARP)

リタイアした人に関わる非営利団体を統括する、非営利団体。Volunteer に関しては、年齢 50 歳以上の社会的リーダーを名簿にした「Talent Bank (タレント・バンク)」という情報サービスを行っている。「エリア・オフィス」と呼ばれる全米各地の支部が、各地の非営利団体のために、「リタイアした人用の Volunteer プログラム」の開発サービスを行う。

### ④ Service Corps of Retired Executives (SCORE)

すでにタイアした元管理職(取締役クラス)の人たちの叡知を、Volunteer その他を通じて社会に有効利用することを目的とした非営利団体。

### ⑤ National Executive Service Corps (NESC)

企業の前社長や元取締役クラスを Volunteer としてリクルートしようとしている非営利団体のために、プログラム開発コンサルティングを行う非営利団体(アンブレラ・オーガニゼーションではあるが、この団体はビジネスの中心地であるニューヨークにオフィスを持つ)。

### ⑥ National Council on Corporate Volunteerism (NCCV)

社会貢献活動の一環として企業が行う Volunteer プログラムを、指導するための非営利団体。全米各地に「コーポレート・ボランティアリズム・カウンスル」という支部を持つ。

### ⑦ International Executive Service Corps (IESC)

社会の指導的立場にある人たちの Volunteer (社会貢献) 活動全般を奨励するための非営利団体。

### ⑧ Association For Volunteer Administration (AVA)

Volunteer 管理を専門にしている人々(=有給または無給の Volunteer コーディネーターたち)を会員にして運営されている非営利団体。コロラド州ボルダー市にあるが、全米を対象とする全国組織。「ジャーナル・オブ・ボランティア・アドミニストレーション」という名の情報新聞の発行をはじめ、Volunteer コーディネートに関する出版事業、情報交換やセミナーのための全国大会、国際会議などを行う[資料 SUP-7 参照]。



## 7. Volunteer コーディネーター教育

Kennedy Center でのインタビューの中で、「Volunteer コーディネーターは、大卒レベルの専門職だ」というコメントがあったが、実際に「Volunteer を管理する職業の人のための大学講座」というものが、全米に存在する。

隔週誌『The Chronicle of Philanthropy』1994年7月24日号によれば、「少なくとも全米の41の大学で、Volunteer を管理する立場の人のための履修コースが設けられている」とのこと[資料 SUP-9 参照]。これらの中には、単位修得後に「Volunteer Manager Certification (ボランティア・マネージャー証明書)」を発行するところもあるが、別段法的資格が云々という効力のあるものではない。

また、年鑑『Volunteerism』(R.R. Bowker 社出版)では、上記のような大学講座をはじめ、サマー・コースやその他各種セミナーに至るまでの「Volunteer マネージャー教育」に関する全米の情報が総覧できる。ちなみに、現時点での最新の同年鑑は1991年発行の第3版である。

## 8. Volunteer と Community

\* 米国と我が国では、コミュニティという言葉の意味合いや社会的な背景が異なるため、本項では、米国のコミュニティの表記を英字表記とした。

"Community"という英語は、しばしば日本語で「生活地域」「地域社会」といったような言葉で代用され、あたかも地理的な範囲を意味するもののように認識されているが、アメリカにおける「Community」という言葉にはもっと大きな意味の広がりがある。

アメリカにおける Community を理解するには、むしろ英和辞書に出ているとおり、「利害・宗教・国籍・文化などを共有する共同社会」とか「思想・利害などの共通性」という訳語を用いた方が的確だ。すなわち、「Black Community」と言えば黒人の人たちが係る社会全体を指し、「Gay Community」と言えば同性愛者たちが形成する社会を指し、「Catholic Community」と言えばカトリック信者たちが形成する社会を指す。さらに「Business Community」と言えば企業同士のつきあいや経済界、「Middle Class Community」と言えば中産階級の家集団、そしてもちろん「Arts Community」と言えば、芸術に携わる人々や団体のことを指すのである。

こうして Community の意味を「思想・利害を共有する社会」と捉えた時、アメリカにおける Volunteer の位置づけはとてもわかりやすいものになる。例えばシンフォニー・スペースやスナッグ・ハーバー・カルチュラルセンターなどの起りこは、「建物を取り壊しから守り、文化施設として利用したい」と考える“同好の士”の集まりだったわけで、これはすなわち「思想・利害を共有する」人々が、実際にその思想を“活動”へと転化させたカタチにほかならない。そのカタチが法人格を有したものが、「非営利団体」なのであり、その非営利団体に同じ思想・利害を共有しようと集まってくる人が、Volunteer なのだ。

逆の言い方をすれば、Volunteer というあくまで自発的な生産活動は、

#### ■ 米国のボランティアを取り巻く社会構造

「Community 感覚＝共通の利害意識」があって初めて成し得る行為だと言えるだろう。

こう考えてくると、非営利団体の側が Volunteer をリクルートする際のポイント、そして Volunteer たちを効率よく管理するプログラムのポイントが見えてくる。つまり、「Volunteer や Volunteer 予備軍らにいかん『共通の利害意識』を持たせる“仕掛け”をつくるか」が重要なのである。

もしも Community が、単に「地理的広がり」と同義だとすれば、劇場やホールにとっての Community とは、そのまま「商圈」を意味するにとどまってしまう。だが、その商圈の中には、人種、性別、宗教、性癖、経済状態、ステータス、趣味、ライフスタイルなど様々な“小社会”があるわけで、「共通の利害意識」とはまさにこういった切り口の中にこそ存在する。そして当然、これらの小社会ごとに、「ゲイ・Community の共通の利害意識」、「リタイアメント・Community の共通の利害意識」、「シングル・マザーの共通の利害意識」は、異なっている。

上手な Volunteer プログラムとは、その地理的商圈の中にはどのような種類の Community が存在しているのだろう、彼らと自分ら劇場との「共通の利害意識」はどのような形で存在し得るだろう、と探り出す行為から始まるものなのである。

## OVERVIEW

### MISSION

The National Center for Nonprofit Boards is the only organization of its kind in America. Its mission is to improve the effectiveness of the nation's more than one million nonprofit organizations by strengthening the capacities of their leadership.

The Center accomplishes its mission by:

- ◆ Assisting directly both new and experienced board members to better understand the multiple responsibilities they face individually and collectively as nonprofit leaders;
- ◆ Assisting chief executive officers to work more effectively with their governing boards;
- ◆ Assisting others who have a stake in the successful performance of nonprofit organizations in the nation, particularly corporations and foundations; and
- ◆ Gathering, synthesizing, and disseminating information on the many consequential issues that affect the performance of this vital sector so unique to American society.

### PROGRAMS AND SERVICES

To carry out its mission, the National Center for Nonprofit Boards offers four programs and services:

1. **The Board Development Program** helps nonprofits design and conduct board development workshops and retreats tailored to their board members and chief executives, and provides speakers for conferences and meetings;
2. **The Board Information Center** is a nationwide service that responds to telephone and written inquiries on a range of topics affecting nonprofit boards;
3. **The Publications Program** offers booklets, texts, and audio tapes on key issues in nonprofit governance; and
4. **The Membership Program** provides individuals and organizations with a subscription to the NCNB periodical, *Board Member*, toll-free access to NCNB's Information Center and other services, and a 25 percent discount on publications and meetings. Organizational members receive a 15 percent discount on customized board development programs.

### ORGANIZATIONS SERVED

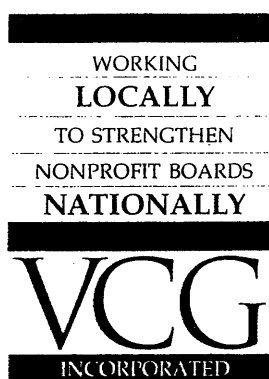
The programs and services of the Center are designed primarily for board members and chief executives of national, state, and local nonprofit organizations that work in areas such as aging, arts and culture, communications, conservation, education, employment, health, housing, human services, international affairs, public policy, religion, social action, and youth development.

### ORIGIN

The National Center for Nonprofit Boards was established in 1988 by the Association of Governing Boards of Universities and Colleges (AGB) and Independent Sector. After operating as a program of AGB for three years, the Center became an autonomous 501(c)(3) organization with its own governing board in 1991.

資料 SUP-2 : Volunteer Consulting Group, Inc.

—Brochure より—



Volunteer Consulting Group, Inc.  
9 East 41st Street, Eighth Floor  
New York, NY 10017  
212/687-8530 FAX 212/370-0418

**V**olunteer Consulting Group (VCG) is a nonprofit corporation founded by the Harvard Business School Club of Greater New York in 1969. It works locally and nationally to strengthen the governing and management capability of nonprofit boards of directors with a special focus on helping boards and potential trustees find each other.

VCG provides a range of services to meet the needs of nonprofit organizations, potential trustees and local communities.

IN THE TRI-STATE  
NEW YORK REGION

**B**oard Recruitment — VCG assists nonprofit organizations in defining their board recruitment objectives, and then conducts a targeted search for business, professional and community leaders with the desired expertise, diversity of perspective and resources.

**B**oard Consulting — VCG provides professional guidance on effective governance structure and board management practices. VCG works with both volunteer and staff leadership in strategically addressing such issues as growth, transition and revitalization, board responsibilities, training and evaluation, communications, and board/staff relations.

**T**ri-State Board Marketplace Program

- Assists individuals in exploring their interests and reviewing board opportunities.
- Helps chairs and executive directors clarify the skills and other qualifications they desire in new trustees.
- Trains potential trustees to bring the same sort of focus to board hunting as to job hunting.
- Manages the expectations on all sides.
- Supports the process with the diplomacy of a professional staff.
- Follows up each placement.
- Maintains computerized databank in a central location.

**E**ducation Seminars

- *How to Go on a Nonprofit Board*, a unique orientation program for potential trustees which discusses not only their future role as a board member, but the factors to be considered in evaluating a board opportunity.
- *Board Management and Leadership*, case-based seminars for executive directors and boards, on such issues as Building A Board, Strategy Formulation, and Chairmanship.

VCG's seminars are also available in work book form as training manuals.

NATIONALLY

**A**s a community catalyst, VCG fosters the American heritage of broad citizen participation as nonprofit trustees by responding to requests from local communities:

- Raise awareness of the importance of enhancing the flow of volunteer leadership onto boards of Directors.
- Assist in the planning and implementation of local programming to bring together nonprofit boards and potential trustees of diverse knowledge and resources.
- Share VCG's two decades of experience and new Board Marketplace Program technology.

資料 SUP-3 : pARTners, Arts & Business Council Inc.のマッチングの事例

—News Letter より—

**BVA MATCHES**

Many matches have taken place since the last issue of *pARTners*, so many in fact that we can't report on all of them now. Here are some highlights, and we'll catch up in our next issue.

Linda Kastan, Vice President at Chemical Bank, and Norma Morris, owner of Norma Morris Design Products, are working with Circle Repertory Theater to help create and execute their Annual Gala. □ Susan Goodman, a marketing and management consultant, Bena Green, Staff VP and Editorial Director for ICSC, and Judith Ventur-Murphy, Assistant VP at Smith Barney, are working with the School of American Ballet to develop a profile of their current ALLEGRO advertisers and use this information to create an overall marketing strategy. □ Vivian Mamelak, Sr. Investment Officer at Chemical Bank, is working with Materials for the Arts to review their mission in this economic climate, look at potential commercial partnerships and determine strategies for increasing earned income. □ Junior Cho, Consultant at Andersen Consulting, Lily Moy, Analyst at Chemical Bank, and Walter Kiechel, Editor for Business Development at Time Inc., are working with Creative Time Inc. to analyze their current planning efforts and develop strategies for organizational structure and management. □ Rhonda Kruman, Vice President at Chemical Bank and Stacy Ostrow, Manager at Lehman Brothers are working with TADA! to review their printed materials and develop a marketing plan.

**Arts & Business Council Inc.  
25 W. 45th St., Suite 707  
New York, NY 10036  
212/819-9287  
212/819-9278 (FAX)**

Nancy Meier  
Executive Director  
Gary Steuer  
Director of New York Programs  
*pARTners* Editor  
Leah Krauss  
Manager, BVA/New York  
Wai Look  
Program Associate

資料 SUP-4 : Volunteer Lawyers for the Arts の概要

-AERA 1996.1.1 号より-

法律家の文化支援

# 弁護士が守る芸術家

アーティストという、法律にはうとい人が多い。  
そんな彼らを、何かと支援してくれる弁護士がいる。

「かつて、頼る先もなかったころはどんなにか『VLA』の世話になったことか」  
一九九三、九四年と、二年連続トニー賞の最優秀演劇賞を獲得した戯曲家のトニー・クシュナーは『VLA二十五周年記念冊子』の中でそう語っている。  
VLAとは「ボランティア・ロイヤーズ・フォー・ジ・アーツ」の略称。年収の低い芸術家や弱小芸術団体のために、無料の法律相談を行う非営利団体である。  
六九年にニューヨークのアート

好きな弁護士数名がつくった。今では公・民の寄付金に支えられて、常勤のスタッフが七人。  
「簡単な問い合わせまで含めれば、年間八千件もの芸術にかかわる法律相談に対応しています」と、VLAの主宰、ダン・メイヤー弁護士(三三)。  
「マネジャーになってやると申し出を受けたのだが、契約内容をチェックしてほしい」といったミュージシャンからの相談が多い。そのほか、「無断で意匠を使われてしまったので告訴したい」  
「免税措置を受けられるダンスカンパニーとして届け出るには？」など、用件が複雑になれば、ボランティア・リストの中から引き受け弁護士を探して仲介をする。「年間四百人の弁護士が、無償で、芸術家たちの代理人や案件を引き受けてくれています」と、メイヤーさん。

## 「無許可」で逮捕十回



左後方から時計回りに、ダン・メイヤー弁護士、新原亜紀子弁護士、ノーラン法律事務所のスタッフ加藤恵子さん、ジェームス・ノーラン弁護士

「無許可」で逮捕十回  
画家のロバート・レダーマンさんとVLAとの付き合いは、かれこれ十年以上になる。  
レダーマンさんは、マンハッタンの街頭で絵を描き、それを街頭で売って生計を立てている。この行為が「無許可の露天商」として、逮捕されること十回。  
「街頭を高級イメージに保ちたいからと、ドナルド・トランプのよう

大きな大手不動産オーナーたちが行政に圧力をかけるせいなんです」とレダーマンさん。  
「一日に二十人以上のアーティストが逮捕されることもあるが、VLAはひとりひとりにボランティア弁護士をあてがってくれます」とVLAの見解では、街頭での絵の販売は無許可でも「合法」だ。「表現の自由」の範疇とみなされており、露天商の許可申請が不要だからだ。つまり、「モノの画集は合法的に路上販売ができるのに、モノ自身が自分の絵を売れば逮捕されるのか？」

こういって、レダーマンさんの案件を四カ月にわたって担当したボランティア弁護士は、逮捕と作品没収の不当さを訴えた。  
**日本人芸術家も支援**  
「弁護士を雇うカネのない人間はみんな刑務所行き、なんて社会でいいわけがないでしょう？」と、メイヤーさんは言う。  
「弁護士を雇えない芸術家にも芸術家として生きる権利を与える。VLAは、そういう民主主義理念に支えられているんです」  
九四年、VLAは、「在米日本

人芸術家のための法律相談サービス」をスタートさせた。  
これは、五年前に始まった「ヒスパニック・プロジェクト」(電話相談や著作権法のレクチャーなどすべてをスペイン語で行う一連の活動)の成功を受けたもので、いわば「非・英語サービス」第二弾。日系企業を多くクライアントに持つノーラン法律事務所の協力のもとに実現した。  
同事務所に勤める新原亜紀子弁護士(三三)は、この新体制に欠かさない、バイリンガル・ボランティアのひとりである。  
「日本人芸術家からかかってくる月十数件の電話相談は、すべて私どもの事務所に転送される仕組みになっています」  
ニューヨーク州とマサチューセッツ州の弁護士資格を取得して一年そこそこの「新米ロイヤール」の彼女にとって、VLAは、「多岐の分野での法律を学ぶことができるし、クライアントの話を聞くだけでも貴重な経験です」  
九六年一月にジェームス・ノーラン弁護士(三三)は、東京で小さなフォーラムを催す予定だ。米国で活動したいと考えている日本人アーティストに、VLAの存在を知ってもらおうという趣旨だ。  
「ゆくゆくは、日本国内でも同じような活動が組織されてほしい。そのきっかけになれば……」  
芸術文化事業研究者  
塩谷陽子(ニューヨーク)

資料 SUP-5 : VLA における弁護士無料マッチングの事例

VOLUNTEER LAWYERS FOR THE ARTS

July 1, 1995

For more information or to take a case: please call Kevin Friedmann, Pro Bono Coordinator, (212) 319-2787 ext. 24. Priority matters are marked with an asterisk.

**CONTRACTS**

**MUSIC**

(2785)

1. Client is a member of an instrumental folk group that has independently produced two CD's. Client wishes to enter into a distribution agreement with a record company. Client seeks an attorney to draft and negotiate the agreement on his behalf.

**MUSIC**

(2840)

2. Client is a singer who has been offered a personal management contract and a recording contract by a music production company. Client seeks an attorney to review and negotiate the contracts on his behalf.

**MUSIC**

(2826)

3. Client is an R&B singer and songwriter who has been offered a personal management contract. Client seeks the assistance of an attorney to review and negotiate the contract on her behalf.

**MUSIC**

(2839)

4. Client is a singer/songwriter/musician who was offered a music production deal by a record company. Client drafted a production contract and seeks an attorney to review and negotiate it on his behalf.

**MUSIC**

(2860)

5. Client is a rap musician in a three-member group that has been offered a music production contract and a co-publishing contract. Client seeks an attorney to review and negotiate the contracts on his behalf.

**FILM/MUSIC**

(2863)

6. Client is a musician who was offered a contract by a film production company interested in using one of his songs in a film. Client seeks an attorney to review and negotiate the contract on his behalf.

**ACTRESS**

(2870)

7. Client is a young actress who has been offered a personal management. Client seeks an attorney to review and negotiate the contract on her behalf.

**MUSIC**

(2871)

8. Client is a rhythm and blues singer who has been offered a personal management contract. Client seeks an attorney to review and negotiate the contract on her behalf.

**VISUAL ARTIST**

(2874)

9. Client is a visual artist who has been offered a license agreement to sell five of his designs to a greeting card company. Client seeks an attorney to review and negotiate the contract on his behalf.

\*\*\*\*\*  
**NOT-FOR-PROFIT INCORPORATION & TAX-EXEMPTION**

**ARTS/SCIENCE ORGANIZATION**

(2735)

16. Client is a not-for-profit corporation dedicated to fostering interaction and collaboration among artists, scientists and engineers. Client seeks the assistance of an attorney in applying for tax exempt status.

**CULTURAL ORGANIZATION**

(6421)

17. Client is a not-for-profit corporation/cultural association that seeks the assistance of an attorney to change its tax exempt status from 501(c)(7) to 501(c)(3).

**FINE ART**

(2865)

18. Client is an organization which maintains an exhibition space and holds shows featuring the work of emerging artists. Client seeks an attorney to assist it in incorporating as a not-for-profit corporation and in applying for tax-exempt status.

資料 SUP-6 : CITIBANK における従業員向け入場料割引一覧

—CITIBANK 従業員手引きからの抜粋—

Employee Activities — 3

**Philadelphia Zoo**

(215) 243-1100  
34th & Girard Ave., Philadelphia, PA  
A limited number of free tickets will be available to employees this spring; notice will appear in *Items*.

**Wave Hill**

(212) 549-3200  
675 West 252nd St., Bronx, NY  
Free admission on weekends for employees and family.

**THEATERS**

**American Place Theatre**

(212) 840-3074  
111 West 46th St., New York, NY  
Discounts up to 30% for employees and one guest; call for information.

**Circle Repertory Theatre**

(212) 691-3210  
99 7th Ave. South, New York, NY  
10% discount on tickets and subscriptions for employees and guests.

**George Street Playhouse**

(908) 246-7717  
9 Livingston Ave., New Brunswick, NJ  
10% discount for employees and one guest for all George Street theatre productions.

**INTAR Hispanic Theater**

(212) 695-6134  
420 West 42nd St., New York, NY  
Productions at various theaters; 50% discount for employees and guests.

**Manhattan Theatre Club**

(212) 645-5848  
Performances at City Center  
131 West 55th St., New York, NY  
10% discount for employees and one guest on single tickets and 10% on subscriptions; per availability. Must order tickets by phone at least 48 hours in advance.

**McCarter Theatre**

(609) 683-8000  
91 University Place, Princeton, NJ  
20% discount for employees and one guest on single tickets for drama series.

**National Actors Theatre**

Performances at the Lyceum Theatre  
45th Street and Broadway, New York, NY  
Discounts on selected productions. Notices will appear in *Items*.

**National Corporate Theatre Fund**

(212) 393-6252  
22 Cortlandt St., New York, NY  
20-40% discount on selected Broadway and off Broadway shows; vouchers required; call (212) 310-7768 for vouchers; for performance information call (212) 393-6252; subject to availability.

**New Jersey Shakespeare Festival**

(201) 408-5600  
Drew University, Route 24, Madison, NJ  
10% discount for employees only on single tickets.

**New York Shakespeare Festival**

(212) 598-7100  
425 Lafayette St., New York, NY  
30% discount on most productions.

**Playwrights Horizons**

(212) 279-4200  
416 West 42nd St., New York, NY  
30% discount for employees, 15% discount for guests; parking discount (coupon at box office); discount at local restaurants (call box office for info and coupons); 15% off season subscription.

**Pregones Touring Puerto Rican Theatre**

(718) 585-1202  
295 St. Ann's Ave., Bronx, NY  
50% discount for employees only.

**Puerto Rican Traveling Theatre Company**

(212) 354-1293  
304 West 47th St., New York, NY  
\$3 discount for employees and guests; call in advance.

**Roundabout Theatre Company**

(212) 869-8400  
1530 Broadway, New York, NY  
\$10 discount for employees and guests on single tickets and \$15 off subscriptions;  
*Candida* from 3/3-4/25; call for information.

**Second Stage Theatre**

(212) 787-8302  
2162 Broadway, New York, NY  
\$5 discount for employees and guests.



資料 SUP-7 : Association for Volunteer Administration

—Membership Brochure より—



ASSOCIATION FOR  
VOLUNTEER ADMINISTRATION

### WHAT IS AVA?

The Association for Volunteer Administration (AVA) is the professional membership organization for individuals working in the field of volunteer management who want to shape the future of volunteerism, develop their professional skills, and further their careers. Membership is open to salaried and nonsalaried professionals in public, nonprofit, and for-profit organizations.

### WHY JOIN AVA?

Membership in AVA will give you skills to help you be a successful volunteer administrator, will save you money on valuable products and services, and will unite you with others around the world.

### WHO SHOULD JOIN AVA?

AVA's international membership is made up of directors of volunteers, volunteer coordinators, program administrators, agency executives, educators, community resource managers, researchers, consultants, trainers, students, fundraising executives, church and synagogue volunteer coordinators, for-profit volunteer managers, and authors who enjoy the support of like-minded professionals who share common concerns while broadening their professional base of knowledge through AVA workshops, conferences, and programs.

### MEMBERSHIP BENEFITS

Professional publications with valuable information include:

- ❖ *The Journal of Volunteer Administration*, featuring articles on practical concerns, philosophical issues and research in the field
- ❖ UPDATE, a bi-monthly newsletter with articles that share information and discuss timely issues
- ❖ One copy each of the state-of-the art *Statement of Professional Ethics in Volunteer Administration* and the very popular *Portrait of a Profession*
- ❖ Discount on becoming Certified in Volunteer Administration (CVA). See reverse for additional information on certification
- ❖ 20% discount on The International Conference on Volunteer Administration (ICVA) — 1996 in Calgary, Alberta, Canada, October 16-19
- ❖ Local and national leadership opportunities
- ❖ Opportunities to work on larger issues — issues that affect your professional life
- ❖ A linkage with local, regional, national and international colleagues and practitioners
- ❖ Opportunities to enhance your visibility and credibility as a professional and leader in the field of volunteer administration



## II. The SYMPHONY SPACE

廃ビルになっていた映画館を民間デベロッパーが再開発しようとしたことをきっかけに、地域住民が取り壊しの反対運動を起こし、ビルの救済と文化施設としての再利用を訴え、地域住民のボランティアによって劇場に生まれ変わった施設。設立後 20 年が経過した現在では、NPO としての運営が軌道に乗っているが、メンバーシップの勧誘活動を中心に、約 100 名のボランティアが登録され、活動を行っている。

### 📄 施設・運営の概要

運営母体	The Symphony Space
所在地	2357 Broadway (at 95 <sup>th</sup> Street), New York, NY 10025
TEL	212-864-1414
FAX	212-932-3228
開館年月	1978 年
複合形態	単独館
施設特性	音楽、演劇、ダンス等
座席数	820
年間運営予算	年間約 2.2 億円 (200 万 US\$)
自主事業数	年間約 200 本
立地都市人口	731 万人(1992 年)
組織体制	有給スタッフ数



### 😊 ボランティア制度の概要

名称	—
導入時期	・1978年（劇場の設立そのものがボランティアによって行われた）
登録人数	・約100名（うち25～30名が積極的に活動）
導入の経緯	・観客にこやかに接し、メンバーシップの勧誘や、チラシ、公演カレンダーの配布等を行い、シンフォニー・スペースの顔としての役割を担ってもらう。
活動内容	・カウンター業務（友の会メンバー勧誘業務）、ダイレクトメールの発送業務。
募集方法	・ボランティアメンバーによる勧誘（メンバーシップ勧誘用紙にボランティア参加希望の記入欄がある）、プッシュホン電話の問い合わせで参加者名・連絡先を自動録音。
研修	・（誰にでもできる業務なので）特に行っていない。
特典・実費支給	・DM ボランティアは勤務時間が10時間になるとメンバー資格（チケットが2割～半額割引になる）が与えられる。 ・映画会のボランティアは映画が無料で鑑賞できる。
その他	・ボランティア歴5年のボランティアがコーディネーターを務め、スケジュール調整等を行っている。 ・ボランティア参加の動機としては、報酬や役得よりも「This is ours!」、すなわち「この劇場は私たちのものだ」という強い意識に支えられている。

## 📖 インタビュー記録 📖

- 訪問先：The SYMPHONY SPACE
- 住所：2537 Broadway (at 95th Street), New York, NY 10025
- 電話：212-864-1414 FAX: 212-932-3228
- 面会者1：Ms. Marnie Corbett…Membership & Special Event Manager（会員の募集管理と資金集めのためのガラや特別イベントの担当）
- 面会者2：Ms. Riva Peskoe …ボランティア・スタッフ。ボランティア・コーディネーターを務める。

### 1. 事業主体の概要

#### (1) 設立年、予算、施設、組織等の規模

- 設立：1978年
- 年間運営予算：200万 US\$（約2.2億円：1US\$=¥110として換算、以下同様）
- 席数：1階のオーケストラ席が約700席。これを回廊状にとりまく二階席と合わせて合計820席。
- 有給スタッフ数：約30名（技術、パートタイム等すべて含む）

#### (2) 定期公演・演目、アウトリーチ活動

##### ① 自主企画

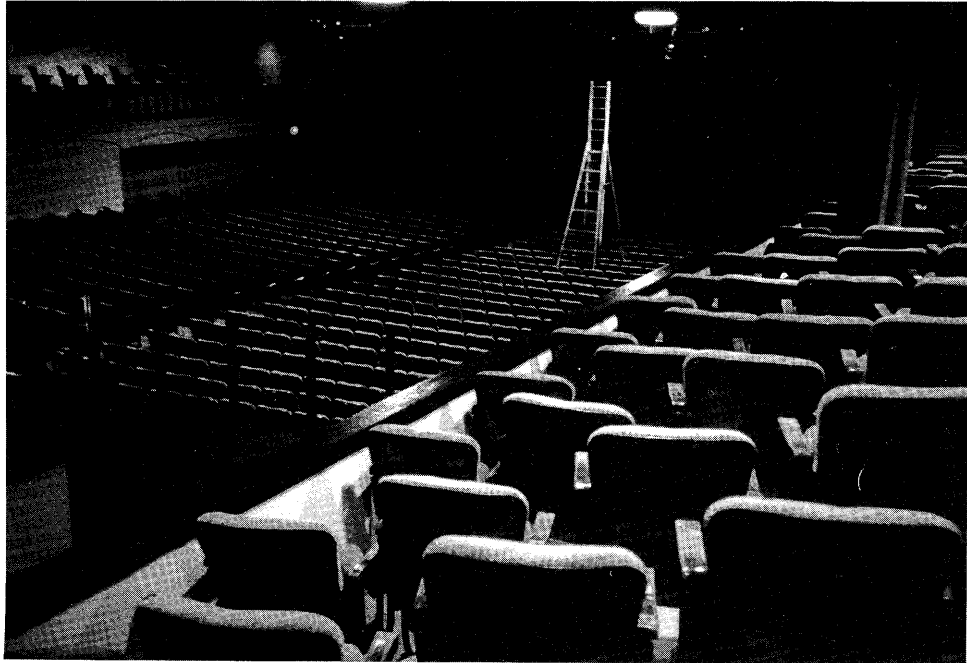
- 自主企画数は年間約200公演。多様なプログラム構成。特に近年はアフロ・アメリカンおよびラティノ・アメリカンのパフォーマンス・グループの出し物が増える傾向にある。主なプログラム内容は次のとおり。
  - 『Wall to Wall』…様々なジャンルの作曲家（現代音楽、民俗音楽、ゴスペル、etc.）の作品を集めた24時間マラソン音楽コンサート。
  - 『Selected Shorts』…有名な俳優による朗読小劇シリーズ
  - 『Face the Music and Dance』…実験的&新進のパフォーマーやミュージシャンによる音楽とダンスのシリーズ。クラシック音楽、現代音楽、民俗音楽、ポップス、コメディ、モダン・ダンス、パフォーマンス等々、幅広いジャンルを網羅する。中でも民俗的なプログラムの多様さには特徴があり、アフリカ系やラテン系にとどまらず、ラティノ・アフリカ系、アメリカン・インディアン系、中央アジア・インディアン系の出し物なども含む。
  - 『Tuesday Night Repertory Film Series』…話題の新旧の映画会シリーズ。
  - 公立の小・中・高等学校向きプログラム公演。

##### ② レンタル公演

- その他、レンタル公演が年間約140公演。

##### ③ ボランティア以外のコミュニティ巻き込み活動（アウトリーチ）

- 『ストリート・フェア』への参加：ブロードウェイを開放して行われるフェア（通りが歩行者天国になり、左右に屋台が道路に立ち並ぶ半日フェア）



● Symphony Space の劇場内部

にブースを出店し、パンフレットを配ったりメンバーを募ったりする。

### (3) ロケーション

- ・マンハッタンのアッパー・ウェストサイドと呼ばれる地域の北端に位置する。劇場の面しているブロードウェイはレストランやショップの立ち並ぶ商業通りだが、地域一帯としては古いアパート・ビルの多い住宅地区。
- ・マンハッタンの他の地域と比べて特徴的なのは、ミュージシャン、俳優などパフォーミング・アーツ系の自由業の人が比較的好んで住む他域であること。家族持ちの住民が多いこと。さらに、数十年間同じアパートに住み続けているかなり高齢の住民（主に白人層）の数が多きこと。
- ・ハーレムと呼ばれる地域は、ここからすぐ数ブロック北へのぼったあたりから始まるため、当シアターは黒人地区と白人地区のジャンクシヨンの位置にあると言える。また、劇場からセントラル・パークにかけての東方向のブロックは、エル・バリオと呼ばれるヒスパニック系住民の多い地区でもある。

### (4) 客層

- ・年間集客数は、約10万人。
- ・地域がらを反映して人種的・民族的に多様な構成。この傾向は近年ますます顕著になっている。全体の35%以上がマイノリティー民族。
- ・近隣住民が全観客数の中で占める割合は約半数。残りは「トライ・ステート・エリア」と呼ばれるニューヨーク市近郊の3州（ニューヨーク州＋ニュージャージー州＋コネチカット州）からの観客が占める。



● 劇場の片隅にディスプレイされた客席のミニチュア・モデル（リニューアル前の椅子の素材とデザインで作られている）

#### (5) 発足の背景

- 60年代～70年代のジェントリフィケーション（地域浄化）の流れの中、民間ディベロッパーが廃ビルになっていた映画館『シンフォニー・シアター』を取り壊そうと計画。この建物が1915年に立てられた長い歴史を持つ建物であることから、地域の住民が取り壊し反対の運動を起し、「ビルの救済と文化としての再利用」を訴えた。土地と建物の権利と使用権の譲渡の経過については「あまりにこみいっていて簡単には説明のしようがない」（スタッフ談）とのこと。

\*注：「納税義務免除の非営利法人」に対して不動産を譲渡する、或いは無料または超低価格で貸与した場合、権利者側は減税を含む様々な恩恵を被ることができる場合が多い。この劇場の場合も、市が間に入って、土地と建物の権利者に対して税金上の恩恵措置をとることによって話をとりまとめたと考えるのが常識的であろう。

- 発足から数年間のスタッフ構成は、「二名の設立者（無給）＋近隣住民のボランティア」。すなわち、有給のスタッフは存在していなかったという意味において、「ボランティアによって設立されボランティアによって運営されていた」と言っている。
- 現在の芸術監督（Artistic Director）は上記設立者のひとり。大学で演劇を教

えたり、フィルム制作に携わったりということで生活を支えながらシンフォニー・スペースでのボランティア活動を確保した。

- 劇場として立ちあげるための施設の改修工事費も、ボランティアたちによる資金調達活動でまかなわれた。調達の方法は、通常の助成金申請や寄付金の嘆願のほかに、出演者にノーギャラで出演をお願いして入場料を工事費にまわすという方法、または、パフォーマンスの終わるたびに、シルクハットを持って客席をまわり現金を投げ入れてもらうという方法などがとられた。
- 昨シーズンには10万ドルをかけた改修工事が終了し、マーキー（表通りに張り出した庇：Marquee）、ロビー、手洗い等が立派になったところ。現在はクッションのきかなくなった客席を総取り替えすべく新たな資金調達キャンペーンを計画中。

## 2. ボランティア・プログラムについて

### (1) 役務の種類

#### ① カウンター業務ボランティア（友の会メンバー勧誘業務）

- オーケストラ席の客席の後方に設置されたカウンター（チラシ&パンフレット・コーナー+ギフトショップの機能を果たす）の中に立って、公演開始前&インターミッション時に、観客に“にこやかに接する”のが業務。
- 具体的には、小さなカードを手渡して名前や住所を記入してもらうよう勧める仕事が一番重要。記入してもらったカードは翌日オフィスに回され、コンピューターにインプットされ、メーリング・リストに加えられる [資料SS-1参照]。



● 客席後部に設けられたメンバーシップ勧誘のカウンター

## ■ The SYMPHONY SPACE

- ・特に「レンタル公演」の時には、「シンフォニースペース側の顔」としてのこのボランティアを配置しておく意味合いが大切になる（公演カンパニー自身が自分たちのチラシや寄付募集要項をカウンターに並べるので、シンフォニースペースとしては単なる「貸し小屋」的イメージに成り下がることを避けるためにも、観客に対して独自に「劇場側のアイデンティティ」を強調しておく必要がある）。
- ・ボランティア・スタッフは、チラシを手渡したりプログラム・スケジュールを説明したりといった“接客”はするが、ギフト・アイテムを販売するといった「カネを扱う業務」には携わらない。
- ・必要なカウンター・ボランティアは、一晩につき1名～2名。
- ・業務時間は、公演開始の30分前からインターミッション終了時まで。ただし、ほとんどのカウンター・ボランティアは公演終了時まで残って、「無料観賞」の役得を楽しむ。

### ② ボランティア・コーディネーター（Ms. Riva Peskoe ひとりで対応）

- ・「何月何日のカウンター業務を担当するボランティアはだれそれ」というコーディネートを行う。ボランティア名簿に載っている人々に電話をして、可能な日を調整する。
- ・電話代の関係上、ボランティアはシンフォニー・スペースへ出掛けて行き、オフィスの電話を使用する。業務時間はボランティアの自由。

### ③ ダイレクトメール・ボランティア

- ・チラシ、イベント・カレンダー [資料 SS-2参照]、月刊ニュースレター [資料 SS-3参照]等の封筒詰めと、メーリングのラベル貼り業務。
- ・毎月一回、平日のオフィス営業時間中に、2～3人のボランティアを集めて行う。
- ・有給スタッフの職務の肩代わりとなるようなレベルの仕事には、携わらない。

### ④ スペシャル・イベント・ボランティア

- ・資金調達のためのファンド・レイジング・パーティー用のボランティア。不定期。年に数回。
- ・パーティーの受け付け、コート・チェック（クローク）、会場案内、食べ物や飲み物の給仕、招待客（著名パフォーマーなど）の接待係りなどの分担業務がある。

## (2) ボランティアの人数

- ・ボランティア名簿に載っている人員の数は優に100人以上。この中で非常に積極的（定期的）に参加しているのは25人～30人。

## (3) 募集と教育

### ① 募集の方法

- ・上述の「小さなカード」には、「Yes! I want to be a member」と書かれた欄にチェックをするコーナーと、「Yes! I want to volunteer」と書かれた欄



にチェックをするコーナーがある [資料 SS-1参照]。

- 「ボランティアをしたい」というコーナーにチェックをした人には、ボランティア・コーディネーターが電話をかけて、「どんなボランティアがしたいのか」「いつ、どれくらいの頻度での参加が可能か」などを聞き出す。
- ボックスオフィスのインフォメーションの電話はプッシュホン・ダイアルの選択式になっている。「本日の催し案内」「今月の催し案内」「シンフォニー・スペースへの交通手段」などの選択肢と共に、「ボランティアの参加希望者は、『7』を押してください」という選択肢がある。これを選択すると、「ボランティアへの参加を希望していただき、ありがとうございます。あなたのお名前と電話番号を発信音の後に残してください。ボランティア・コーディネーターの Riva Peskoe が後ほどお電話をいたします」というメッセージが流れる。
- 特に映画会の日のカウンター・ボランティアの場合、その映画が無料で観たいという理由から、「何月何日にカウンター業務ボランティアがしたい」という旨の電話が、直接オフィスにかかってくることも多い。
- スペシャル・イベント・ボランティアについては、ボランティア・コーディネーターがボランティア・リストにある面々に電話をして集める。

## ② 教育の方法

- マニュアルのいるような複雑な内容ではなく誰にでもできる業務なので、特に教育システムと呼べるようなものや教材（マニュアル）などはなにもない。
- シンフォニー・スペースを愛して参加している人ばかりなので、トラブルの心配は特にしていないし、またこれまで特に問題が起こったこともない。

## (4) ボランティアへの報酬

- ダイレクトメール・ボランティアには、勤務時間が10時間に達した時点で、「メンバー」の資格を与える。メンバーになるとチケットが2割～半額割り引き購入ができる（正規のメンバーシップ代は最低45ドルから）[資料 SS-4参照]。
- 時々小さなお茶会を催してボランティアを招待。感謝の意を表すため。お茶会にパフォーマーを招いて、ボランティアたちがパフォーマーとじかに接する機会を設けるようにすることもある。

## (5) ボランティア・スタッフのプロフィール

- カウンター業務ボランティアの場合は多様で、「パフォーミング・アーツに興味がある人」という以外には、特筆すべき傾向はない。ただし、事務補佐ボランティアに比べると年齢層は若い。
- ボランティア・コーディネーターの Riva Peskoe さんは、もと広告マーケティング関係の会社に勤務しており、現在はリタイアして、ひとり暮らし。成人した娘がサンフランシスコに住む。
- ボランティア・コーディネーターを始めて5年になる。リアイアしたら文化施設でボランティアをしようと以前から決めていた。中でもシンフォニ

ー・スペースは以前からの常連であり、地理的にも数ブロックのところに住んでいるため、理想的なボランティア対象だったとのこと。

- ダイレクトメール・ボランティアは平日の昼間の時間を使うため、自然と参加者のほとんどがリタイアした高齢者になる。

#### (6) ボランティア参加の動機

- 「This is ours!」という気持ち。即ち「この劇場は自分たちのものなんだ」という強い意識。報酬や役得よりも、とにかくこの意識がボランティア参加の一番の動機とのこと。
- 映画会のカウンター・ボランティアの場合は、特に催しが無料で観られるという役得が魅力。
- パフォーマー、アーティストと直接知り合える（言葉を交わせる）機会があることも動機のひとつ。

### 3. 問題点・将来構想

#### (1) スタッフ談：

- オフィス内の事務アシスタント要員としてレギュラー・ベースかつ長期的なボランティア・スタッフが欲しい。目的は予算不足と人手不足の緩和のため。
- そのためには、ある程度マニュアル化された業務説明書やオリエンテーションを準備する必要があるが、現時点ではそれらを計画するだけの時間的、財政的余裕がまったくない。従って現実味は薄い。
- また、「事務アシスタント」というある程度責任ある仕事を任せるとなると、今のように「協力してくれる人なら誰でも歓迎」というわけにはいなくなる。それを管理・コントロールするだけの有給スタッフの体制がとれない。

#### (2) Riva Peskoe さん（ボランティア・コーディネーター）談：

- 自分の今のボランティアの仕事にもかなり責任が伴うが、時間的な拘束なくやっていけるのでいい。
- 一方「事務アシスタント」という仕事はやはり“定期的”にオフィスに通う必要があるので、時間的な拘束感が強く、そうなると自分が「ボランティア」という言葉の中で定義している業務とは違うものになる。自分のように考えない人も多くいるとは思いますが、やはり基本的には自分の自由意志で行動できる範囲での仕事が「ボランティア」というものではないか。

—以上—

資料 SS-1 : メーリング・リスト記入用紙

**SYMPHONY SPACE**

2537 Broadway @ 95th Street/NYC/10025

212  
864  
5400

To receive information on upcoming events at Symphony Space, clearly print your name and address in the space provided below.

\_\_\_\_\_  
**First Name** **Last Name**

\_\_\_\_\_  
**Address** **Apt/Suite**

\_\_\_\_\_  
**City** **State** **Zip**

\_\_\_\_\_  
**Day Phone** **Evening Phone**

**YES!** I want to be a member  **YES!** I want to volunteer

I am especially interested in (choose as many as apply):

3. Classical Music     8. Jazz     7. Dance  
 6. Children's Shows     4. Theatre     5. Literary Events  
 0. Film     9. Other \_\_\_\_\_

**Program Attended** \_\_\_\_\_ **Date** \_\_\_\_\_

\*会員やボランティアへの参加希望も聞けるようなしくみになっている。

資料 SS-2 : イベント・カレンダー



The Piano

All Evenings \$8  
Seniors \$7  
Members only \$4!  
call 212.864.5400

OUR FILMS ARE BRIGHTER  
THAN EVER WITH NEW  
PROJECTION LAMPS!

THE BEST  
FILMS OF  
OUR LIVES  
Part III



Tuesdays, Sept 10 - Dec 3, 1996

A slightly REVISIONIST, selectively QUIRKY, sometimes OBVIOUS, often PROVOCATIVE, always ENTERTAINING CELEBRATION OF 100 YEARS OF FILM

SEPT 10

7 PM: CHARLIE CHAPLIN, BUSTER KEATON, FATTY ARBUCKLE, et al.

Silent shorts by some of the great slapstick comics of the 1920s—moon-faced and big-bottomed Fatty Arbuckle, the sprightly yet sad comic genius, Charlie Chaplin, and the delightfully deadpan Buster Keaton.

Live piano accompaniment by Stuart Odeman.

SEPT 17

7 PM: MERRY CHRISTMAS, MR. LAWRENCE

1983. Japan, Britain. Nagisa Oshima. 124 min. Color. David Bowie, Tom Conti, Ryuichi Sakamoto, Japanese POVV camp. Java, 1942: a Japanese commander and a British major in a strange battle of wills. Haunting drama; beautiful score by Sakamoto. Oshima's first film in English.

Fatty Arbuckle



9:15 PM: FIRES ON THE PLAIN 1959. Japan. Kon Ichikawa. 105 min. B&V. Japanese. Eiji Funakoshi, Osamu Takizawa, Micky Curtis. As WWII ends, a band of soldiers battle for survival in the steaming Philippine jungle. Emotionally piercing, shockingly graphic.

SEPT 24

7 PM: TWO FORTHE ROAD 1967. USA, Britain. Stanley Donen. 112min. Cinemascope. Audrey Hepburn, Albert Finney, Eleanor Bron, William Daniels, Jacqueline Bisset. Motoring in France, a bickering couple recall the ups and downs of their 12-year marriage. A winning bittersweet comedy.

9:15PM: VOYAGE TO ITALY

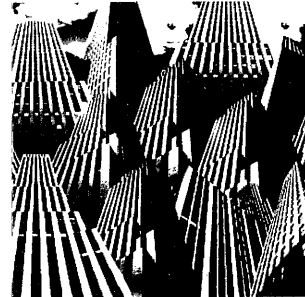
1953. Italy. Roberto Rossellini. 100 min. B&V. English. New 16mm print. Ingrid Bergman, George Sanders. On a sunny drive to Naples, a couple confront their icy relationship. "...opens a breach that the entire cinema must pass through..."—Jacques Rivette, *Cahiers du Cinema*. Introduced by Gil Rossellini.

OCT 1

7 PM: UN CHANT D'AMOUR 1950. France. Jean Genet. 26 min. B&V. Silent. Study of homosexuality in prison; the only film of the '50s deemed obscene by the U.S. Supreme Court. Provocative, mesmerizing.

7:35 PM: SCORPIO RISING

1963. USA. Kenneth Anger. 37 min. Color. Bruce Byron, Johnny Sapienza. Classic American "underground" cinema; an amusing surreal mirror of gay iconography, glitz, culture, sex & violence. Winner of numerous awards. Music by The Angels, Elvis, Ray Charles, and other R&R heroes.



Skyscrapers by Thurman Rotan, Keith de Lellis, NY, NYNY: City of Ambition, Whitney Museum of American Art

AND MORE  
LITERATURE...

Literary Enthusiasts Save the Date!  
Mon, June 16  
BLOOMSDAY ON  
BROADWAY Re-Joyce at our  
16th Annual Ulysses Extravaganza

13TH YEAR OF STORIES  
READ BY NEW YORK'S  
FINEST ACTORS

10 Wednesdays: Jan 29, Feb 12 & 26, March 12 & 26, Apr 9 & 23, May 7 & 21 & Jun 4.

Programs start at 6:30PM unless noted.

Season Highlights

Feb 12  
LOVE STORIES FROM  
THE NEW YORKER,  
hosted by Roger Angell

Feb 26  
HOST: JAMAICA KINCAID

Mar 26 at 7PM  
HOST: ROBERT MacNEIL

Apr 23 at 7PM  
HOST: PAUL AUSTER

Tickets: \$16/MEMBERS \$11  
Available to Members only:  
8-Program Subscription: \$80  
Best available seats at lowest prices!  
(Does not include Mar 26 & Apr 23)

6TIX: \$75 6 admissions to your  
choice of programs for only  
\$12.50 a ticket



Photo: Eduardo Patino

JUST KIDDING!  
Performing  
Arts for Kids  
5 & Up

5 Saturdays at 11AM

Dec 7: NATIONAL DANCE INSTITUTE  
Join 60 children from National Dance Institute, founded by Jacques d'Amboise, in a joyous celebration of music and dance.

Jan 11: GILBERT & SULLIVAN FAMILY CONCERT with NY GILBERT & SULLIVAN PLAYERS

Feb 8: ANCIENT VIBRATIONS & M'ZAWA DANZ

Mar 8: WOMEN OF THE CALABASH

April 12: TOM CHAPIN

Tickets: Children \$3/Adults \$6  
FREE admission for children of MEMBERS of Symphony Space and CMOM

Cherry Jones

LIVE ON STAGE! See the award-winning National Public Radio show heard throughout the metro area on WNYC 93.9FM & 820AM.

Selected Shorts is made possible, in part, by support from the Arthur Foundation; the Axe-Houghton Foundation; the Heathcote Art Foundation; the Henry Nias Foundation, Inc.; the New York State Council on the Arts; and the National Endowment for the Arts.

Directed by Isaiah Sheffer;  
produced by Katherine Minton.

資料 SS-3 : 月刊ニュースレター

# SYMPHONY SPACE NEWS

fall 1996

## VICTORY IN ALBANY AND A CHALLENGE FROM WASHINGTON Two Historic Decisions Ensure Symphony Space's Future

BY ISAIHAH SHEFFER

Late spring of 1996 saw not one, but two major new developments that each give a tremendous boost to the life, health and future of Symphony Space. On June 13th, New York State's highest court, the Court of Appeals in Albany, issued a unanimous judgment in favor of Symphony Space finally ending the 11 year litigation over rival real estate claims to our building. And a couple of months earlier it was announced that Symphony Space would be the recipient of a prestigious Challenge Grant from the National Endowment for the Arts.

The important court decision, which made the front page of the *New York Law Journal*, declared null and void a disputed option agreement under which our adversaries had sought to dislodge us from our ownership of the theatre building, and reaffirmed the intent of the New York State Legislature in holding invalid very long-term options of this kind. What the decision means for Symphony Space is that any lingering threat to our permanent ownership of the theatre is now gone once and for all.

In fact, we were so confident that we would win the court case, that we planned for summer renovations that included the complete repainting of the theatre interior, the totally new and expanded restrooms, the new house-lighting, and outdoor street-front, showcases, and marquee.

The Challenge Grant award is remarkable because last year only 24 such grants were issued by a much-reduced National Endowment for the Arts in what may be the last round of Challenge Grants ever awarded. Only two were awarded in the entire state of California, and one in all of Massachusetts; New York had six winners, and Symphony Space was one of them! Ours is for \$200,000, which must be matched three-to-one over a three year period. That means in the next three years we must raise an additional \$600,000, over and above our usual operating budget fundraising, to receive the federal money which cannot be used for annual expenses, but only for long-term endowment and stability. Now you see why they call it a

*continued on page 3*



Arlane Smolderen

Legendary **Randy Weston** performs compelling rhythms on Nov. 7

## FACE THE MUSIC & DANCE FESTIVAL

November is jazz and dance month at Symphony Space, and this year, our innovative *Face the Music & Dance* series includes some of today's most exciting jazz musicians, celebrated blues artists and talented choreographers performing, improvising, creating and premiering innovative collaborations.

Pianist, composer and bandleader Randy Weston and his African Rhythms Quintet open the Festival on Nov. 7 with a breathtaking, richly-textured program of African-American and African rhythms and deep, consolidated grooves. According to *The New York Times*, "Weston may be the most direct descendant of Duke Ellington's spare but emphatic blues sensibility." "To Weston and his disciples," Howard Reich writes in the *Chicago Tribune*, "past, present and future merge gloriously in jazz of the 90's."

Weston's quintet includes jazz greats Talib Kibwe, Benny Powell, Alex Blake

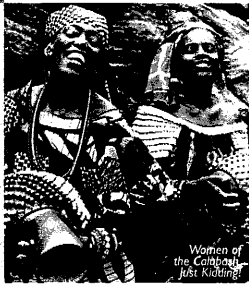
*continued on page 3*

**NEW  
Member  
Referral  
Reward  
Program!**  
See page 2 for  
more information

資料 SS-4 : メンバー募集用パンフ



- ◆ Ticket discounts of 20% to 50% to more than 150 events.
- ◆ Monthly calendar mailings with the latest program information.
- ◆ Free admission for children to *Just Kidding!* and to the Children's Museum of Manhattan on the day of the performance.
- ◆ Opportunity to purchase two subscriptions to *Selected Shorts*.
- ◆ Priority admission to the *Wall to Wall Leonard Bernstein* free music marathon.
- ◆ Members' newsletters and more!



Become a member and look at the difference you make. Your support helps us

- ◆ Bring our arts-education and literacy programs to more than 4,000 children and adults each year.
- ◆ Present outstanding performances for free or at the lowest possible prices.
- ◆ Assist established and emerging artists in building new audiences.
- ◆ Broadcast *Selected Shorts* on public radio, reaching more than 250,000 people nationwide 52 weeks a year.



Isaiah Sheffer  
Artistic Director  
Joanne Cossa  
Managing Director



**STUDENT: \$15 (\$10 tax-deductible)**  
Benefits for One • Reduced-price admission to designated events • Two free tickets to opening night of *Face the Music & Dance: Jazz, Dance, Collaboration* (subject to availability) • Priority admission to our annual *Wall to Wall* 12-hour music marathon • Bi-annual member newsletter • Monthly calendar of events • Discounts on selected Symphony Space merchandise • Discounts to selected neighborhood restaurants and shops.

**FRIEND: \$45 (\$40 tax-deductible)**  
All of the above plus • Benefits for two • Opportunity to purchase two subscriptions to *Selected Shorts: A Celebration of the Short Story* • Free admission for children to every *Just Kidding!* program and to the Children's Museum of Manhattan on the day of the performance.

**CONTRIBUTOR: \$75 (\$70 tax-deductible)**  
All of the above plus • Benefits for four • Free admission to designated special events and receptions • Beverage stamp - entitles member to one free drink at every program where refreshments are sold.

I am joining at the level checked below.

<input type="checkbox"/>	\$1,000	Star
<input type="checkbox"/>	\$500	Leading Player
<input type="checkbox"/>	\$250	Patron
<input type="checkbox"/>	\$100	Sponsor
<input type="checkbox"/>	\$75	Contributor
<input type="checkbox"/>	\$45	Friend
<input type="checkbox"/>	\$15	Student*

Name \_\_\_\_\_  
Address \_\_\_\_\_  
City, State, Zip \_\_\_\_\_  
Phone \_\_\_\_\_

Enclosed is my check payable to Symphony Space.  
Charge to:  Visa  Mastercard  AMEX  
Card Number \_\_\_\_\_  
Name as on card \_\_\_\_\_  
Expiration Date \_\_\_\_\_  
Signature \_\_\_\_\_

My company will match my gift.  
Enclosed is a matching gift form.  
Company Name \_\_\_\_\_

\*Students must submit copy of current student I.D.

To order by phone, call  
**212.864.1414**  
or you may fax this form  
to **212.932.3228**

Send to  
**SYMPHONY SPACE**  
2537 Broadway  
New York, NY  
10025-6947



**SPONSOR: \$100 (\$85 tax-deductible)**  
All of the above plus • Four free tickets to Tuesday night film of your choice.

**PATRON: \$250 (\$235 tax-deductible)**  
All of the above plus • Patrons' desk services - our membership office will assist you in making ticket arrangements (subject to availability).

**LEADING PLAYER: \$500 (\$485 tax-deductible)**  
All of the above plus • A year-long listing in the Symphony Space performance program.

**STAR: \$1,000 (\$970 tax-deductible)**  
All of the above plus • The newest volume of *Selected Shorts on Audiocassette* and our heartfelt thanks.

Corporate memberships are also available.  
For information, please call 212.864.1414.

Will your company match your gift? Check with your personnel office to see if your company has a matching gift program and mark the appropriate area on the order form.

A copy of the latest annual report may be obtained from Symphony Space or from the Office of Charities Registration, Department of State, 162 Washington Street, Albany, NY 12231.

### III. SNUG HARBOUR CULTURAL CENTER

19世紀初頭、海運業で財を成した実業家の遺志によって建てられた船員のためのリタイアメント施設が、民間ディベロッパーに転売されて商業施設として再開発されるという構想に地元住民が反対。長い歴史を残す建物をそのまま活用するため、市の主導で非営利法人「Snug Harbor Cultural Center」が設立され、文化施設として再利用されることとなった。オフィス内の一般事務やギフトショップの販売員、ツアー・コンダクター、もぎり・客席案内など、年間140名のボランティアが活動している。

#### 📄 施設・運営の概要

運営母体	Snug Harbor Cultural Center
所在地	1000 Richmond Terrace, Staten Island, NY 10301
TEL	718-448-2500
FAX	718-442-8534
開館年月	1973年
複合形態	複合館(約34万㎡の敷地に26軒の建物が配置されている)
施設特性	施設ごとに主要用途を特定
座席数	250 (ベテランズ・メモリアル・ホール)
年間運営予算	年間2億8,000万円 (250万US\$)
自主事業数	—
立地都市人口	731万人 (1992年、スタッテン島: 39万人)
組織体制	有給スタッフ数: 約70名



#### 😊 ボランティア制度の概要

名称	—
導入時期	・ (1973年)
登録人数	・ 140名 (内約50名がオフィス内の業務に携わっている)
導入の経緯	—
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ オフィス内: ギフト・ショップ販売員、一般事務アシスタント、DM 発送、電話セールス</li> <li>・ 一般催し: ツアー・コンダクター、集客イベントの警備・案内</li> <li>・ パフォーミング・アーツ関連: もぎり、客席案内、プログラム配布</li> </ul>
募集方法	・ 地元新聞、地域情報紙などの印刷媒体への掲載、ローカルのケーブルTV やラジオ局での広告、センターのニュースレターへの掲載、催し物の開催時に配布する印刷物等により募集。
研修	・ 新規ボランティアには年に数回オリエンテーションを開催、個々の詳しいオリエンテーションは各部署の裁量によって開催。
実費支給・特典	・ 半額チケットを2枚進呈、サンキュー・ランチ等への招待、交通費は昼食の支給はなし。
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 140名のボランティア組織を管理・運営するため、18名からなる「ボランティア委員会」を設置、任期1年の代表委員によって構成。</li> <li>・ ボランティア・コーディネイターは有給スタッフ。</li> <li>・ 140人のボランティアがいて初めて運営が成立するため、常に新しいボランティアを採用する努力を続けなければならない。</li> </ul>

📖 インタビュー記録 📖

- ・訪問先：SNUG HARBOR CULTURAL CENTER
- ・住所：1000 Richmond Terrace, Staten Island, NY 10301
- ・電話：718-448-2500 FAX: 718.442.8534
- ・面会者1：Ms. Marie Penza…Volunteer Coordinator（有給スタッフ）
- ・面会者2：Ms. Beverly Ziel …ボランティア・スタッフ歴6年

1. 事業主体の概要

(1) 設立年、予算・組織の規模

- ・設立年：1973年
- ・年間運営予算：250万 US\$（約2億8,000万円）
- ・有給スタッフ数：約70名

(3) 施設概要 [資料 SHCC-1 参照]

・全敷地面積は83エーカー（約33万6千平米。日本の広いゴルフ場なみの広さ）。ここに26軒の建物と、植物園、公園などが配置されている。主な施設は以下のとおり。

- 1] ビジターズ・センター：案内所、オフィス、ショップ、ミーティングルームなど
- 2] ニューハウス・センター・フォー・コンテンポラリー・アート：美術ギャラリー館
- 3] ベテランズ・メモリアル・ホール：250席のパフォーミング・アーツ用施設
- 4] ミュージック・ホール：現在改修工事中、1997年秋オープン予定
- 5] メルヴィルズ・カフェ：飲食カフェ館
- 6] グレート・ホール：結婚式その他用のパーティー・レセプション館
- 7] サウス・メドウとガゼボ：芝生の広場と野外コンサート用のあずま屋
- 8] アーティスト・スタジオ：アーティスト・イン・レジデンス用の住居棟
- 9] コテージ群：パフォーミング・アーティストの宿泊施設として、改修を計画中
- 10] チルドレンズ・ミュージアム：スナッグ・ハーバーとは別の独立した非営利団体が運営
- 11] ボタニカル・ガーデン（植物園）：スナッグ・ハーバーとは別の独立した非営利団体が運営

・多くの建物は、19世紀初頭から半ばにかけて建てられた歴史的なもの。グreek・リバイバル様式、ボザール様式、ヴィクトリアン・リバイバル様式など、当時の建築様式をつぶさに伝えているため、敷地一帯は「全米歴史保存区域」に、上記建築物のうち6棟は、「ニューヨーク市歴史保存建築」にそれぞれ指定されている。





● 19世紀初頭から半ばにかけてのデザイン様式が残されている

- ・上記10] や11] の他、全部で20以上の別個の独立した非営利団体が、同敷地内の施設を本拠地として活動している。従って、『スナッグ・ハーバー・カルチュラル・センター』は、自らが活動施設団体であると同時に、これらの非営利団体に対する「大屋」の役割も果たしている。

### (3) 年間行事

- ・スタッテン島の中心的文化施設として、はば広いプログラムを催している。特に美術系の催しについては著名作家の展覧会から新人作家の展覧会まで、質の高いことには定評がある。
- ・パフォーミング・アーツ系の催しは、主に「ベテランズ・メモリアル・ホール」で行われる（場合によっては「グレート・ホール」を使用）。250席という施設規模の制約もあって、室内楽、朗読劇、子供向きオペラなど小規模なものが主なプログラム（来年「ミュージック・ホール」の改修工事が終わった後には、著名なダンスカンパニーやある程度の規模の演劇公演などの開催が予定されている）。
- ・7～8月には、「サウス・メドウ」のガゼボを利用して、無料の野外コンサート、民俗音楽祭、ダンス、人形劇、道化芝居や曲芸などの催しが行われる。
- ・その他、主なものとしては1991年から毎年恒例となった秋の「クラフト・フェア」[資料 SHCC-2参照]。全米から50人ほどの工芸作家が自作を持ち寄

り、展示即売会やワークショップを開く。

- 敷地が広く、植物園や100年を経た建物が多く点在することから、「スナッグ・ハーバー散策ツアー」もプログラムの目玉のひとつ。歴史解説などを聞きながら1時間半をかけて敷地内を巡る。毎週末の午後と夕方に2回ずつ、一年中行われる。

#### (4) ボランティア以外のコミュニティ巻き込みプログラム（アウトリーチ）

- 米国では、軽犯罪を侵した者が、罰金や禁固刑の代わりに「〇〇時間のコミュニティー・サービスをせよ」という判決をもらうことがある。一般にはゴミの収集とかホームレス施設での勤務などがこの「コミュニティー・サービス」にあたるが、スナッグ・ハーバーでのボランティア時間も「コミュニティー・サービス」と見なすことのできる指定施設になっている（ただしこうしたケースは稀）。
- 主に小学校高学年～中学生を対象に、クラフト・フェアの手伝いや物販の手伝いに参加してもらう仕組みを、学校のカリキュラム（年中行事）のひとつとして取り入れてもらうように働き掛けている。すたれつつある米国のボランティア精神を教育する意味あいから。

#### (5) ロケーション

- マンハッタンの南端からフェリーで約30分。ニューヨーク市の5区のひとつ。
- 他の四つの区（マンハッタン、ブルックリン、ブロンクス、クイーンズ）がビルのひしめく大都会の様相を呈しているのと違い、スタッテン島の街並みはいわゆる“アメリカ的”で、広い庭を持つ一戸建て住宅が立ち並ぶ。他の四区と違い、住民の生活は車無しでは成り立たない。
- ニューヨーク市の他の四つの区は、貧富の差と教育レベルの差が激しく人種の多様な「都会型」の人口構成であるのに対し、スタッテン島には白人の中産階級の家庭が多い。また、ニューヨークの他の区の白人に比べると学歴や収入のレベルはかなり低い。
- すなわち、人種構成、収入、街並み、景色、住宅事情、教育レベルなどをとって、いわゆる「ニューヨーク的」な特徴はきわめて薄く、「全米の平均的な中産階級の住宅地サンプル」と性格づけるべき地域である。

#### (6) 客層

- 年間集客数は、約25万人。
- ほとんどがスタッテン島の住人。「夫が働き、妻が主婦をして、子供が2～4人」といった典型的な白人の中産階級の家庭の者が多い。
- ニュージャージー州からはフェリーを使わず高速道路でアクセスできるため、ニュージャージー州の中産階級の者も訪れる。

#### (7) 発足の背景

- 1801年、海運業で財を成したロバート・ランドールが、「自分の財を使って船員のためのリタイアメント施設を作る」旨を遺書にしたためて没する。



● リニューアル中の建物（資料 SHCC-1 のA,B）、右側はH: Visitor's Center

1831年、遺志に従って、現在のスナッグ・ハーバーの土地が管財人委員会によって購入される。1933年、リタイアした船員とその家族のための複合住宅施設『セイラーズ・スナッグ・ハーバー』が完成。

- 1960年代までには収容する船員の数が増減したため、管財人委員会は、最後の居住者たちをノースカロライナの同様の施設に移住させ、土地と建物的一切をニューヨーク市に売却。一時は、民間のディベロッパーに転売して商業的に開発するという話もあったが、長い歴史をそのままに残す同施設を保存したいと強く望んだスタッテン島の住人が反対。その意志をくんで、市の主導で非営利法人『スナッグ・ハーバー・カルチュラル・センター』を発足させた。当初の運営は、地域住民のボランティアによって成り立っていた。

## 2. ボランティア・プログラムについて

### (1) 役務の種類

#### ① オフィス内

- ギフト・ショップの販売員＋帳簿管理係
- 一般事務アシスタント
- ダイレクト・メールやニュース・レターなどの封筒づめ、メーリング・ラベル貼り
- メンバー勧誘やチケット販売のための電話セールス

#### ② 一般催し関連

- 「スナッグ・ハーバー散策ツアー」のツアー・コンダクター（案内解説係）
- 「古本市」や「クラフト・フェア」など、大勢の集客のある時の警備・案

内係

- 「古本市」「クラフト・フェア」「野外コンサート」時などの飲食物販売係
- 資金集めのための「富くじ」の販売員
- 展覧会のチケットもぎり
- 展覧会のオープニング・パーティーのための飲食給仕やコート・チェック係（クローク）

### ③ パフォーミング・アーツ関連

- 「ベテランズ・メモリアル・ホール」では、一晩の催し時に参加するボランティアの数は、約6～8名。役割は以下のとおり。
  - 入り口でのチケットもぎり……開演の1時間前に出勤
  - アッシャー（座席案内&プログラム配付係）……開演の1時間前に出勤
  - インフォメーション・カウンター係……資金集めのための「富くじ」販売、アンケート・メモ用紙の配付、メンバーへの勧誘などをを行う。
- 「夏期の野外コンサート」では、1回の催しに参加するボランティアの数は、約12～15名。役割は以下のとおり。
  - 会場整理案内係・兼・プログラム配付係
  - レンタル折畳み椅子の貸し出し係
  - 飲食販売員

## (2) ボランティアの人数

- ボランティア参加者の数は年間約140名。うち50名がオフィス内業務に携わる。

## (3) ボランティア・スタッフの自治構造

- 140名を管理・運営するための自治組織として、18名のボランティアからなる「ボランティア委員会」が存在し、その長として任期1年の「ボランティア・リプレゼンタティブ（代表委員長）」が選出される。
- 「ボランティア委員会」は、反省や今後の計画などを話し合うために、年に5回のミーティングの機会を持つ。ミーティングには、有給のボランティア・コーディネーターが必ずオブザーバーとして出席し、話し合いをリードする。
- ボランティア委員会はボランティア業務についての話し合いをするだけではない。他の文化施設の団体観賞の計画を練ったり（どこの文化施設にも、団体観賞にはチケット割り引き制度がある）、遠隔文化施設へのバス・ツアーの計画を練ったり、時には芸術文化とはまったく関係のない団体旅行の計画を練ったりする。
- これは、自分たち自身が楽しむ「クラブ・ライフ」的なアクティビティであるが、同時に、こういった仕掛けによって仲間＝ボランティア志願者を増やそうという目的にもかなっている。また、ボランティアたちの自主性

と士気を高めるためにも効果がある。

#### (4) 募集と教育

##### ① 広告宣伝

- ローカル新聞、町内新聞、週間地域情報誌など一般の印刷媒体に掲載。ただし、広告掲載料は全く支払わなくてすむ方法で載せる（注：米国の新聞は、コミュニティー新聞に限らず、時にはニューヨーク・タイムズのような大きな新聞でも「Helping Hands」といったような非営利団体サポート用の欄が作られているため）。単に「ボランティア募集」と載せるのではなく、「〇〇の業務をしてくれる〇〇な人」という風に詳細説明を入れる。
- 一般の放送媒体（ローカルのケーブルTV局&ラジオ局）を使っでの広告宣伝。番組の合間に募集の旨をしゃべってもらう。これも広告料は無料。
- スナッグ・ハーバーのニュースレターに掲載 [資料 SHCC-3参照]。
- 催し開催時に配るアンケート・メモや富くじの購入申込用紙に、ボランティア参加希望の有無の記載欄を設ける。
- メンバー募集用のカラー・パンフレット上に、「ボランティアに参加しませんか」の呼び掛けを掲載。
- 既存ボランティアを対象に出すニュースレター（たいていは大きなイベントの終了ごとに発送する「Thank You Letter」に、「仲間を誘って欲しい」旨を記載する。
- 地域の教会など、他の団体に協力を呼び掛ける。若い元気な人手が必要な時（例えばクラフト・フェアの会場整理係など）には、「ガール・スカウト」や「キー・クラブ（ティーンエイジャー・ボランティアの派遣・コーディネートをする団体）」などからの人員派遣が頼りになる。

##### ② フォローアップ

- ボランティア参加を希望して来た人には、有給のボランティア・コーディネーターがまず電話をかけて、その人の興味の対象、得意な分野、ボランティア経験の有無などのあらましを問い合わせる。
- その後、「ボランティア・リソース・アンケート用紙」を郵送 [資料 SHCC-4参照]。返送されてきた内容をコンピューターにインプットする。

##### ③ オリエンテーション

- 年に数回、新規のボランティア希望者を集めてオリエンテーションを行う。郵便にて開催日を通知。仕事を持っている人でも参加できるよう、開催は土曜か日曜の昼間、1～2時間程度。
- 「感謝」の意を表すため、また参加者同士が互いにリラックスして言葉を交わしやすい雰囲気をつくるために、お菓子やお茶を準備しておく。
- オリエンテーションの内容は、スナッグ・ハーバーの施設概要や、ミッション、歴史的解説に広くふれるのみ。個々の詳しいオリエンテーションは、各部署ごとの裁量（古参のボランティアが新規ボランティアを指導するというやり方が普通）に任せる。
- ボランティア・スタッフ専用の控え室を案内。使用ルールの説明。

(5) ボランティア・スタッフのプロフィール

- 平均50～60歳。近年ますます老化の傾向にある。
- 美術にしる舞台芸術にしる、何らかの芸術のジャンルに大きな興味と知識を持っている人が多い。
- 女性の数の方が多い。スタッテン島では仕事を持たない「専業主婦」の割合が高いためか。
- 夏期などの週末のボランティアは「家族ぐるみで参加」というケースも珍しくない。

(6) ボランティアへの報酬

- 半額チケットを2枚を進呈。
- 「サンキュー・ランチ」「サンキュー・ディナー」「サンキューお茶会」等の開催。年に1回～数回。
- 大イベント終了ごとに、個々のボランティアに対して「サンキュー・レター」を発送。
- ホリデー・パーティーの開催（ボランティアの家族も招待）。
- ボランティア専用控え室の提供（お茶やコーヒーの飲める休憩所）
- 交通費や昼食の支給はなし。

(7) 問題点・将来構想

- 年々ボランティアの平均年齢が高齢化していることが問題。アメリカ全体の傾向として、昔より人々はボランティアをしなくなっている（共働きの増加／レクリエーションの多様化／中産階級の生活の貧困化などが原因）。
- 140人のボランティアを得てはじめて運営の成り立っているスナッグ・ハーバーとしては、公共の芸術予算削減から有給スタッフも削減の傾向にあることもあって、常に新しいボランティアをリクルートする努力をし続けないと近い将来ボランティアは枯渇し、スナッグ・ハーバー自体の存続の危機に関わってくる。

### 3. ボランティア参加者の意識

(1) ボランティア参加の動機

① Marie Penza さん（有給のボランティア・コーディネーター）談

- 第一に「社交」。リタイアした人にとっては「家から出て人と出会う」ということに意義があるから。
- 「スナッグ・ハーバーの一員でいたい」という気持ち。スナッグ・ハーバーは、「ニューヨーク市」という世界の芸術都市・大都会のイメージからかけ離れたスタッテン島において、唯一マンハッタンにも自慢できる巨大な文化施設。そのことに、住民は絶大な誇りと愛情を持っている。
- ボランティアの仕事を通じて充足感を味わえる、新しい経験ができる。
- パフォーマー、アーティストと直接知り合える（言葉を交わせる）機会が

あることも動機のひとつ。

② Bevely Ziel さん（ボランティア歴 6 年、定期的に週 3 日＋イベントの手伝い全般を担当）談

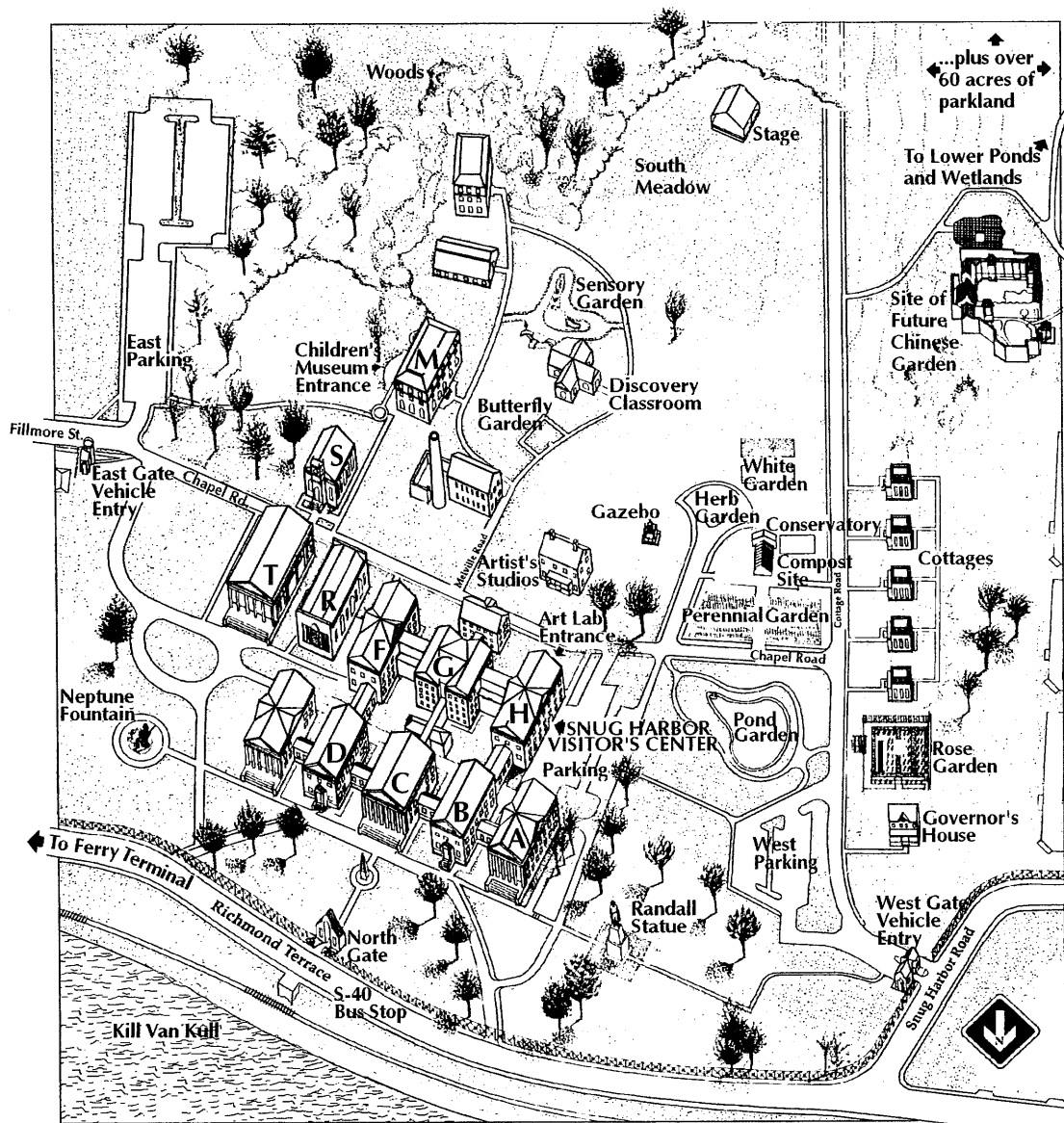
- 第一に、知的好奇心・知的刺激を得られること。Ziel さんは働いた経験がないので、特にオフィス内での事務アシスタントなど「ビジネス経験」に対して充足感を得ることが多い。
- 同じ興味を持つ友人を得られること。
- 自分の子供が小さかった頃からスナッグ・ハーバーは生活の一部になっていた（学校の課外授業、家族で夏の野外コンサート観賞等々）から、いつかは“この一員になりたい”と思いつけてきた。だから、子供が手を離れたのを契機に、ごく自然にボランティア参加を希望した。実現できて満足だし、まだまだ色々なことに参加したい。

(2) 施設側への希望・要望（Bevely Ziel さん：ボランティア歴 6 年、定期的に週 3 日＋イベントの手伝い全般を担当談）

- ボランティアに対して「感謝」の意を持ってもらうこと、そしてその意を何らかの形で「表現」してもらうことはとても大切。大掛かりな感謝イベントである必要はまったくないが、例えば、「サンキュー・レター」をある程度の頻度で受け取ること、小さなお茶会でスタッフとの懇談会が持てること、などによって非常に充足感が得られる。
- 逆に言えば、ささいなことでも「Thank You!」と言ってもらうことだけが、ボランティア側の唯一の要求と言ってもいい（この点についてスナッグ・ハーバーには問題はない）。

－以上－

資料 SHCC-1 : 施設配置



**Principal Buildings**

**A & B** Future Home of the Staten Island Institute of Arts and Sciences

**C** Newhouse Center for Contemporary Art & Access Gallery

**D** John A. Noble Collection

**H** Snug Harbor Visitor's Center, Reception & Admin.; Botanical Garden Offices; Art Lab (Stair at South end of bld'g.)

**G** Melville's Cafe, (Enter through Visitor Center)  
**M** Staten Island Children's Museum

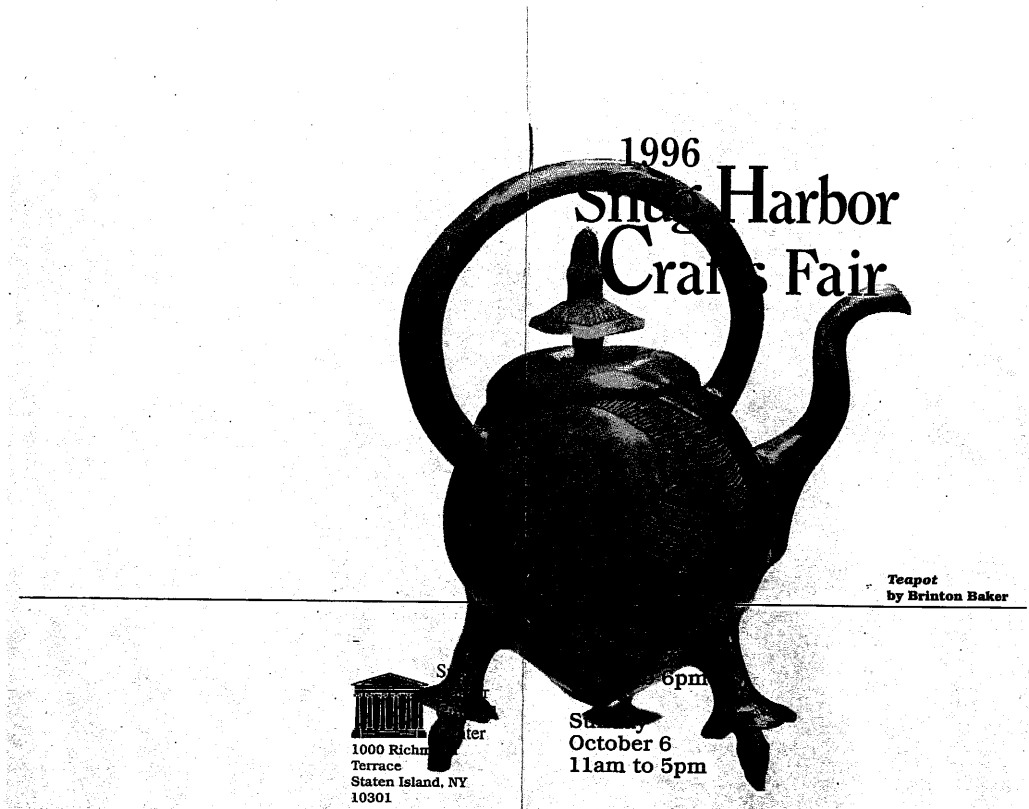
**R** Great Hall  
**S** Veterans Memorial Hall

**T** Music Hall

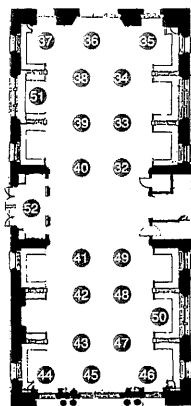


資料 SHCC-2 : 1996 Snug Harbor Crafts Fair

—同イベントのパフレットより—

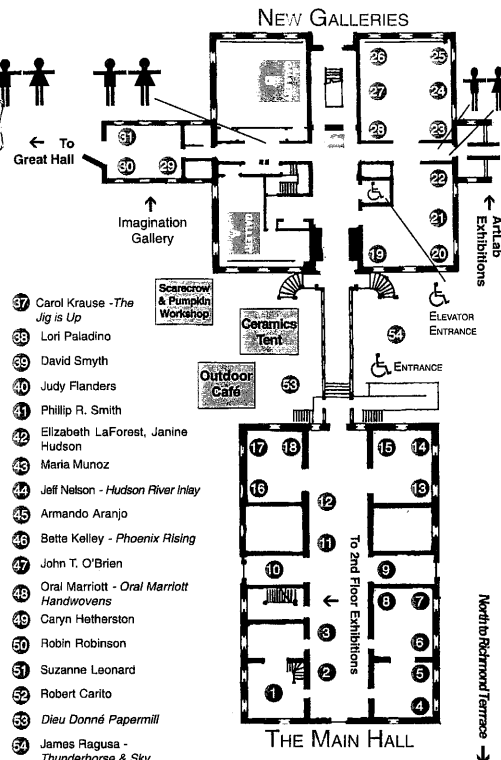


- EXHIBITORS**  
By Booth Number
- Main Hall**
- 1 Sharon Milstein, Alison Eldin, Riva Renes, Emma Crawford
  - 2 Lisa Lytle - *Lytle Glass Art*
  - 3 Irene Lantz - *Manu Designs*
  - 4 Jim Wolnosky, Pamela Timmons
  - 5 Rebecca Ann Robertson
  - 6 Poogy Bierklia/ Ceil Langer - *Enduo*
  - 7 Agnieszka Potoczek - *Agusha, Leda Lee*
  - 8 Megan Daly - *Streamside Pottery*
  - 9 Andrea & Saint Maurice Phillips
  - 10 Robert Brown
  - 11 Adrienne Jennings
  - 12 Margaret Neher
  - 13 Gloria Orzechowski
  - 14 Leonore Alaniz - *Turn A New Leaf*
  - 15 Yetta Colodna
  - 16 Brinton Baker - *Stone Window Gallery*
  - 17 Otto Franek - *Franek Art Glass*
  - 18 Eleanor Katz
- New Galleries**
- 19 Shimon Kahloun
  - 20 Leslie-Bowman Friedlander- *Bowman Fiber Design*
  - 21 Irving Branman
  - 22 James & Matt Evans - *Waxen Candles, Inc.*
  - 23 Beatrice Bloom
  - 24 Ina Chapler
  - 25 Ingrid Jordan
  - 26 Eva Capobianco



THE GREAT HALL

- 27 Malachi McCormick - *The Stone Street Press*
  - 28 Kathryn Pearce - *Kallima Designs*
  - 29 Pearl Lau
  - 30 Maggie Vail, Ingrid Cusson
  - 31 Marguerite van Stolk
- Great Hall**
- 32 Donald Thieberger & Karen Klaussen - *Platypus Pottery*
  - 33 Grettal & Ricardo Miguez
  - 34 Lucine Baronian
  - 35 Clay Workman - *Workman's Woodworks*
  - 36 Bernadette Darche



THE MAIN HALL

資料 SHCC-3 : Newsletter に掲載されたボランティア関連の記事

—Columns | The Snug Harbor Cultural Center Newsletter, October/November 1996 より—

## Volunteer Views

We are delighted to announce the appointment of Cindy Selmon, as the Volunteer Representative to Snug Harbor's Board of Directors. Cindy, a long-standing volunteer who has an extensive knowledge of the site and whose lively historical accounts of life at Snug Harbor have educated and entertained countless visitors, replaces Shelia Reh. We wish Cindy the best in her new position and extend our appreciation to Shelia for her tireless devotion to Snug Harbor—which we certainly hope will continue.

Thanks to all the volunteers who gave their time, energy, and support to the weekend programs over the summer. Whether collecting tickets, passing out programs, selling raffle tickets, staffing the membership & information tables, meeting & greeting the public, conducting tours, or working in the Gift Shop, you helped make the Harbor's summer a terrific success.

We regretfully announce the departure of Gift Shop bookkeeper Rosemary Mitchell. Over the past two years Rosemary devoted many hours to her duties. Her dedication and valuable expertise greatly contributed to the success of the Gift Shop. We are immensely grateful to Rosemary for the time and effort she has contributed and we wish her the very best.

And while we're on that subject, Gift Shop volunteers are certainly needed. If you have any expertise in bookkeeping or a financial background and would like to volunteer some of your time, please contact Marie Penza at 448-2500. We are also seeking Gift Shop assistants. The **Annual Gift Gathering** will be held November 22-24. As always, many volunteers will be needed for this special event. Volunteers are asked to work in 3-hour shifts.

The Volunteer Office apologizes for the error in the August/September *Columns* regarding the Winterthur trip. The trip is scheduled for Saturday, 11/16, *not* 11/7. Please note the change. Seats are still available. A seasonal Yuletide tour, luncheon and a Decorative Arts tour of the former estate of Henry Frances Dupont are included. The cost is \$75/\$70 Snug Harbor Friends.

Welcome new volunteers Suzzette Roberts, Sejal Parekh, Lee Webb, Alex Genato, William Blocker, Peter Vitiello, Kevin Swords, Kim Cullum, James Sigman, and Anthony Barchitta!

資料 SHCC-4 : ボランティアの情報に関するアンケート用紙



**Snug Harbor Cultural Center**

1000 Richmond Terrace  
Staten Island, New York 10301-1199  
718-448-2500  
Fax # 718-442-8534

**VOLUNTEER RESOURCES QUESTIONNAIRE**

Date: \_\_\_\_\_

Name: \_\_\_\_\_

Address: \_\_\_\_\_  
(Street) (Apt.#) (City/State/Zip)

Home Telephone: \_\_\_\_\_ Business Telephone: \_\_\_\_\_  
(Area Code+No.) (Area Code+No.)

Current Employer: \_\_\_\_\_

Address: \_\_\_\_\_

Occupation /Profession: \_\_\_\_\_ Years Employed: \_\_\_\_\_

Education:  
College: \_\_\_\_\_ Degree: \_\_\_\_\_

High School: \_\_\_\_\_

Other Employment Experience: \_\_\_\_\_

Volunteer Experience: \_\_\_\_\_

Special Skills: (please circle) Telemarketing; Word Processing; Computers; Typing;  
Marketing/Public Relations; Baking; Crafts; Educational; Accounting; Bookkeeping;  
Writing; Other \_\_\_\_\_

When are you available?  
days: \_\_\_\_\_ evenings \_\_\_\_\_ weekends \_\_\_\_\_

In Case of Emergency:  
Name: \_\_\_\_\_ Phone No. \_\_\_\_\_



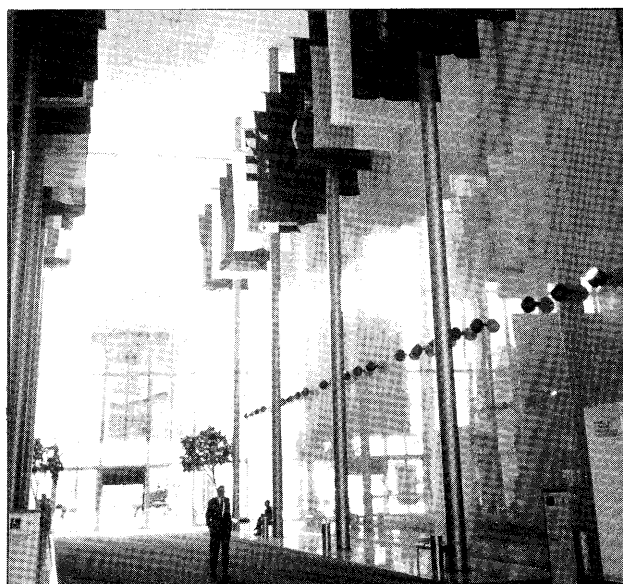
## IV. THE KENNEDY CENTER FOR THE PERFORMING ARTS

ケネディセンターは、コンサートホール、オペラ劇場、演劇劇場などが複合された大型文化施設。年間を通して650名のボランティアが登録され、そのうち500名が実際に業務を行っている。また、年に1回行われる「オープン・ハウス・アーツ・フェスティバル」でも、500名近いボランティアが運営を支えている。

細分化された業務内容、完成されたマニュアル、自治構造に基づいた運営体制など、ある意味でアメリカの文化施設におけるボランティア制度のあり方を象徴するような内容となっている。

### 📖 施設・運営の概要

運営母体	The Kennedy Center(スミソニアン機構の一組織)
所在地	Washington, DC 20566-0001
TEL	202-416-8033
FAX	202-416-8205
開館年月	1971年
複合形態	複合館
施設特性	コンサートホール、オペラハウス、演劇劇場などの複合施設
座席数	2,750、2,300、1,100
年間運営予算	年間約100億円(8~9,000万US\$)
自主事業数	—
立地都市人口	585万人(1992年)
組織体制	150~200名(正職員、技術スタッフ含む)



### 😊 ボランティア制度の概要

名称	• Friends of the Kennedy Center (通常運営時のボランティア)
導入時期	• 1971年
登録人数	• ① 通常運営時：650名(内500名が活動) • ② オープン・ハウス：470名(内250名は通常運営時のボランティア)
導入の経緯	—
活動内容	• ①：ギフトショップ、ツアーガイド、ライブラリー、インフォメーション、事務アシスタント etc. • ②：臨時会場の設営・撤去、混雑整理、ギフトショップ、ごみ拾い、インフォメーションなど28種
募集方法	• ①：ケネディセンター・マガジン、フレンズ用ニュースレターに募集掲載。 • ②：同上、米軍機関に会場撤去等のボランティアを呼びかけ。
研修	• ①：半期に1度のオリエンテーション、ハンドブック、各種マニュアルを配布。3ヶ月は仮採用、ボランティア・マネージャーによって業績評価。 • ②：開催の1週間前にオリエンテーション、業務開始前に責任者による説明会。
実費支給・特典	• ①：駐車場代無料、交通費払い戻し、ニュースレター送付、無料コンサートチケット(不定期)、ギフトショップでの割引 etc。 • ②：無料Tシャツ、イベント終了後打ち上げ会への招待。
その他	• 開館以来25年間もボランティアをしているメンバーもいる。 • 自治組織が設けられ、3つの時間帯を3交代制がとられるなど、非常にオーガナイズされた大型のボランティア組織。

## 📖 インタビュー記録 📖

- 訪問先：THE KENNEDY CENTER FOR THE PERFORMING ARTS (Kennedy Center)
- 住 所：Washington DC 20566-0001
- 電 話：202-416-8033 FAX:202-416-8205
- 面会者1：Ms. Shelley Brown…Festival Manager (フェスティバル担当)
- 面会者2：Ms. Brooks Boeke…Friends/Volunteers Manager (有給のボランティア・マネージャー)

### 1. 事業主体の概要

#### (1) 設立、予算・組織等の規模

- 設立年：1971年
- 年間運営予算：8,000～9,000万 US\$ (約100億円)
- 有給スタッフ数：約150～200名 (正社員のみ、技術関係等含む)

#### (2) 施設概要

• 敷地面積は17エーカー (約7万平米)。以下の6つの施設はすべて巨大なビルのひとつ屋根の下に配置されている。

- 1] コンサート・ホール：2,750 席。レナード・スラトキン率いるナショナル・シンフォニー・オーケストラが常駐カンパニー。
- 2] オペラ・ハウス：2,300 席。オペラ、バレエ、ミュージカル等のための劇場。
- 3] アイゼンハワー・シアター：1,100 席。主に演劇のための劇場。
- 4] アメリカン・フィルム・インスティテュート・シアター：映画観賞用のホール。別個の独立した非営利団体であるアメリカン・フィルム・インスティテュートが運営。
- 5] テラス・シアター：ポトマック川に面したテラスにしつらえられたステージ。約 500 人収納。
- 6] シアター・ラボ：子供や家族のための催しを行う小劇場。

#### (4) ロケーション、催し、客層

- ウォーターゲート・ビルのそば。ポトマック川のほとりに建つ。ホワイトハウスから地下鉄で2駅目、ペンタゴンからは3駅目と、いわゆる「首都ワシントン」の中心に位置する。
- 年間集客数は、170万人。地元ワシントンの一般市民、政府関係者、各国大使館関係などから、ヴァージニアやバルチモアなどの周辺地域の一般住民やワシントンへの通勤者。世界各地からの観光客も非常に多い。
- 年間公演数は2,800公演。「アメリカの舞台文化の顔」であるため、いわゆるハイ・カルチャーの演目だけでなく、話題のブロードウェイ・ミュージカルや、ジャズ、ポップスのスターのコンサート等も頻繁に行われるほか、



● ポトマック川沿いのメインロビー、ケネディの頭像が見える、左手奥がオペラハウス

ファミリー・プログラムも多彩。

- 毎年9月には恒例の「1日オープン・ハウス・フェスティバル」が開催される。これは、50種類近いコンサートや催しが無料で提供される催し。詳しくは後述。今回は、このフェスティバルにおけるボランティア・プログラムを主な調査対象とした。

#### (5) 発足の背景

- 1958年、アイゼンハワー大統領が「アメリカの芸術文化の殿堂」たる施設を首都ワシントンに設立する旨の法案を承認。国立公園の土地の一部17エーカーをその施設のために分割すると定めた。
- 1961年、ケネディー大統領が上記法案の実施を引き継ぐ。舞台芸術のための施設とすることを定め、資金集めや具体案の策定を受け持つ理事会等を指名・設立する。
- ケネディー大統領が暗殺された翌年の1964年、ジョンソン大統領がこの施設をケネディー大統領のメモリアルとすることを決定。また施設の維持費を連邦政府の予算でまかなって行く旨を可決させ、結果としてケネディー・センターは国立美術館ナショナル・ギャラリーなどと同様、スミソニアン機構（連邦政府直轄の外郭組織で、文化財の保護・管理を行う。全米

芸術基金NEAとはまったく別枠の、安定した予算を持つ)の一部に組み込まれることとなった。

## 2. 通常運営の中でのボランティア・プログラムについて

### (1) 役務の種類 [資料 KC-1 参照]

#### ① ギフトショップ

- ・勤務時間は、毎日朝10時～夜9時半の中で、可能な時間帯を選択。
- ・役務は、販売係、キャッシャー業務(現金・小切手・クレジットカード)、会計管理、在庫管理等を兼ねる。

#### ② ツアーガイド

- ・勤務時間は、毎日朝10時～午後2時の中で、可能な時間帯を選択。
- ・役務は、一般の希望者に対して館内案内(無料)を行うこと。一般客のほか、団体、英語圏以外の観光客、政府関係者、国賓などが対象となる。

#### ③ エデュケーション・リソース・センター(ライブラリー)

- ・勤務時間は、火曜～土曜の正午から夜8時までの中で、可能な時間帯を選択。
- ・主な役務はアーカイブの管理。すなわち目録づくり、コンピューター・インプット、閲覧請求に応じての資料の出し入れ、利用者へのライブラリー使用方法のインストラクションなど。

#### ④ パブリック・インフォメーション・センター

- ・勤務時間は、毎日朝10時～夜9時半の中で、可能な時間帯を選択。
- ・主な役務は、いわゆる「案内デスク」係。ケネディー・センターではこれを「最前線の外交係」と説明する。

#### ⑤-1 オフィス事務手伝い

- ・勤務時間は、通常の有給スタッフの勤務時間内(平日朝10時～5時半)の中で、可能な時間帯を選択。
- ・主な役務は、「フレンズ・オブ・ザ・ケネディーセンター」の円滑な運営のための事務業務。即ち、メンバーやボランティアの勧誘、年間通しチケットのセールス、名簿の管理、ダイレクト・メールやニュースレターの郵送等。
- ・有給スタッフの一般事務補佐につく場合や、特別プロジェクト(ファンドレイジング・イベントなど)に携わる場合もある。

#### ⑤-2 ニュースレター『フレンズ・スクリプト』編集制作 [資料 KC-2 参照]

- ・ボランティアの、ボランティアによる、ボランティアのための月刊ニュースレターの編集・制作業務。ボランティア仲間への原稿依頼から編集～印刷管理まで全般を行う。
- ・担当者は月に一度のミーティングを持つ。
- ・ニュースレターの仕立ては白黒10ページ。内容は、ボランティア・スタッフの近況報告(結婚・死亡・誕生日・学位取得・引っ越し etc.)、ボランティア勤務時間の最長者の表彰、各部署のボランティアの活動報告、イベン



ト・カレンダーなど。

## (2) ボランティアの人数

- ・現在、通常運営におけるボランティアの数は名簿上は約650名。実際に役務についている者は、約500名。

## (3) ボランティアの自治構造

### ① フレンズ・オブ・ザ・ケネディーセンター

- ・ボランティア・スタッフは、「フレンズ・オブ・ザ・ケネディーセンター」という任意組織の構成員になることを意味する。「フレンズ……」は、会費を払ってギフトショップの割引特権などをもらうメンバー（会員）資格の者と、ボランティアの者の2種類で構成されているが、たいていのボランティアは、会費を払った「メンバー」でもあることが多い。ただし、「ボランティアをすれば自動的にメンバー資格を得られる」といった制度ではない。
- ・「フレンズ・オブ・ザ・ケネディーセンター」の発足は1965年。ケネディーセンターの理事会が、当時準備段階にあった同センターを実現するための資金集めと、オープン後の円滑な運営のための協力体制づくり、そしてセンターへの世間の関心を高めることを目的に発足させた。

### ② シフト・チェアマン

- ・ボランティアの勤務体制は、前項の①～⑤いずれの役務も、〔朝10時～午後2時〕〔午後2時～夕方6時〕〔夕方6時～夜9時半〕の3つの時間帯を単位にシフトを組むことになっている。このシフト・スケジュールをボランティア各自に割り当てコーディネイトするのが、シフト・チェアマンの役割。
- ・シフト・チェアマンは、有給のボランティア・マネージャーによって選抜・指名され、任期は一年。最低一年以上のケネディーセンターでのボランティア経験のある者で、すぐれたボランティア実績や熱心さを持ち、人望の厚い人物が選ばれる。
- ・シフト・チェアマンは、役務①～⑤各部署の各シフト時間帯の責任者たち（5部署×2～3シフト×5～7日/wk＝約60名）を集めて、年4回ミーティングを行う。ここで反省点、問題点、改良点、提案などが自主的に話し合われる。

### ③ ボランティア・アドバイザー・コミッティ（VAC）

- ・ボランティア・スタッフ自主管理のトップ機構として、「ボランティア・アドバイザー・コミッティ（相談役会）」が存在する。
- ・VACは、
  - ・前項の役務①～⑤-2の6部署から代表各1名ずつ
  - ・ケネディ・センターに本拠地を置く他のボランティア組織（例えばナショナル・シンフォニー・オーケストラやワシントン・オペラのボランティア団体）の各代表1名ずつ

によって構成される。毎月1度のミーティングを通じて、施設全体の運営に

におけるボランティアの役割を大局的見地から話し合う。

- VACの議長は、VACの構成員数名からなる「ノミネーション担当委員会」によって候補者数名が推薦され、この中からVACのメンバーが投票を行って決定される。候補者となるのは、「ケネディーセンター・コミュニティ&フレンズ理事会（ワシントン地域で影響力を持つ人々からなる理事会）」の役員、またはケネディーセンターの現役管理職職員である。

#### (4) 募集と教育

##### ① 募集の方法

- 『ケネディーセンター・マガジン』に「ボランティア募集！」の呼びかけ掲載。
- メンバー用ニュースレターの中で「ボランティア募集！」の呼びかけ掲載。
- 「フレンズ……」事務局からのメンバー勧誘の電話の中で、ボランティアへの参加も呼び掛ける。

##### ② ボランティア受け入れまで

- 問い合わせのあった人には、次の一式を送付 **[資料 KC-3参照]**。
  - カバーレター（ボランティア参加までの簡単な手続き説明）
  - 役務①～⑤についての簡単な説明書
  - ボランティア申し込み用紙 **[資料 KC-3参照]**
  - メンバーへの勧誘パンフとメンバー申し込み用紙
  - メンバーシップ代（最低年間50ドル）の10ドル割り引きクーポン券
  - 返信用封筒
- 「ボランティア参加申込用紙」は、最終学歴／ボランティア歴／職歴のほか、次項でのべる役務の内のどれに、どの時間帯で参加したいか等を記載する欄が設けられている。記載漏れのある申し込みは受け付けられない。
- 採用の対象となる人は、最低週3～4時間参加できる人、並びに18歳以上の人のみ。
- 半期に一度（＝年2回）行われるオリエンテーションに参加してもらう。オリエンテーションの日時は、申し込み書提出者全員に手紙にて通知される。参加不可能な場合は次回の開催日に繰り越せばよいが、いずれにせよオリエンテーションを経験してもらうまでは受け入れないことが基本。

##### ③ 教育・教材

- オリエンテーションでは次の2資料を配付。
  - ボランティア・ハンドブック：ケネディーセンターの成り立ち、管理体制と人事構成、各ボランティア役務の概略、ボランティアの自治構造、ボランティア報酬、細則（服装、欠席の通知、モラル、勤務態度、その他）等、詳細が記載 **[資料 KC-4参照]**。
  - カスタマー・サービス・マニュアル（接客マニュアル）：言葉づかい、電話の対応の仕方、謝罪のシチュエーション、接客の意味などを説明 **[資料 KC-5参照]**。
- 役務とシフトの割り当てをもらった後は、その役務に関するマニュアル・

## ■ THE KENNEDY CENTER FOR THE PERFORMING ARTS

ブックを受け取る【資料 KC-6参照】。例えば、ツアーガイドのマニュアル・ブックは、ほぼ台本に近い仕立て。

- その他現場での実施詳細は、同じ役務部署で働く先輩のボランティアから手ほどきをうける。
- 働きはじめたボランティアは、その後3か月間は「仮採用」の身分と見なされる。この期間の内に、有給のボランティア・マネージャーが、「出勤率」「誠意」「知識の吸収度」の3点から適性と業績を評価し、基準に達していない場合は退去をお願いする。退去を言いわたされたボランティアでも、後日また参加申し込みをすることができる。
- その後、1年後、3年後、数年後のサイクルで、ボランティア・マネージャーによって評価の見直しがなされる。業績が基準に達しない場合は、一時的な“停職処分”が言いわたされる場合もある。停職処分中のボランティアには、ボランティア報酬（後述）は適用されない。

### (5) ボランティアへの報酬

#### ① ボランティア開始から最初の3か月間＝仮採用の期間まで

- ボランティア勤務時間中の、センター内駐車場利用代が無料。
- 交通費（地下鉄、バス、タクシー）代の払い戻し支給。
- ニュースレター『フレンズ・スクリプト』の毎月の送付。
- メンバーシップ代（最低年間50ドル）の10ドル割り引き。但しボランティア初年度のみ。

#### ② 仮採用期間終了の後

- 上記のうち、「メンバーシップ代の10ドル割り引き」を除いた3つの報酬。
- 年次「ボランティア・リコグニション・ガラ」（後述）への招待。
- 無料コンサート・チケットの進呈。ただし不規則・不定期。
- ギフトショップで、10ドル以上の購入をした時に限り、25%割り引き。
- センター内職員用食堂の利用。
- 有給スタッフとのお茶会。不規則・不定期。

#### ③ 「ボランティア・リコグニション・ガラ」

- 毎年恒例、12月の第二月曜日の晩に行われるボランティアのための感謝パーティー。以下の表彰式がある。
  - ボランティア・オブ・ザ・イヤー賞：長期に尽くした優れたボランティアを表彰。
  - プレジデント賞：ボランティア歴5年以内の人に表彰状、5年の人／10年の人／20年の人にはそれぞれ色ちがいのピン（ブローチ）、25年の人には“石付き（宝石入り？）のピン”＋表彰カップが授与される。
  - フレンズ・オブ・ライフ賞：15年以上ボランティア勤務の後にリタイアした人には名誉賞として次のものを授与する。
    - 「フレンズ・オブ・ライフ」表彰状
    - リコグニション・ガラへの生涯招待

## ■ THE KENNEDY CENTER FOR THE PERFORMING ARTS

- 『フレンズ・スクリプト』の生涯送付
- ギフトショップで、10ドル以上の購入をした時に限り、15%の生涯割り引き。

### ④ 税金控除の証明書

- ボランティア業務に関連して自費で支払った旅行代、交通費、車の走行距離から計算される減価償却費は、ケネディーセンターが「ボランティア業務に関連している旨」の証明書類を発行することによって、税金申告の際に控除の対象となる。この証明書は、リコグニション・ガラの日ごとに各自に支給される。

### (6) ボランティア・スタッフのプロフィール

- 年齢層としては50～60歳が大半（約7割）を占める。とくに60歳前後のリタイアした人が多い（男女比率、住居地域、人種別などの詳しい統計データは、現在集計中とのこと）。
- 主にワシントン首都圏近郊に住む人、あるいはバージニア、ウエスト・バージニアなど通勤圏内住宅地域の人。首都圏のすぐ外側にドーナツ状にはりつく低所得者層の地域からはあまり参加者がいない（すなわち、「比較的豊かな中産階級以上の白人層が主力」と言っていいたいだろう）。
- 舞台芸術の好きな人。クラシック音楽やバレエに興味でよく精通した人。
- ケネディーセンター設立以来25年の間ずっとボランティアを務め続けている人もいる。この人たちに、長年の活動のあれこれを述懐してもらい、それをビデオに録画してドキュメント記録としてライブラリーに保存することが計画されている。

## 3. オープンハウス・フェスティバルにおけるボランティア・プログラム

### (1) オープンハウス・フェスティバル概要

- 1985年にスタートした恒例行事。新年度のスタートを期する意味で、毎年9月の第2日曜日に行われる一日祭。
- オペラハウスを除いた5ヶ所の劇場ホールその他、ホワイエ（ロビー部分）、リバーテラス、野外のプラザなど、全施設を利用して、50演目以上の催しが開催される [資料 KC-7参照]。
- 観客は出入り自由、観賞はすべて無料。
- ケネディーセンターに縁のなかった人に、ケネディーセンターを知ってもらおう、親しみを持ってもらおう、観客として通うようになってもらおうというのが、「オープンハウス」の目的。
- プログラムの内容は、常駐楽団のナショナル・シンフォニー・オーケストラの演奏やワシントン・オペラのメンバーによるリサイタルから、カントリー・ミュージック、ジャズ、ロック、ゴスペル、民俗音楽、フォーク音楽、室内楽、バレエの小品、モダンダンス、ラップ、ファミリー向きコンサートまで幅広い。その他、風船配り、珍しい楽器のデモンストレーション&演奏体験コーナー、フェイス・ペインティング、水上ショーなど、エ

ンターテイメントの催しも数多い。

- 当日の集客数は、約4万人。ワシントン近郊からの客が6~7割。残りはバルチモア、ウエスト・バージニア、アナポリスなどの遠距離から。
- 予算は約20万ドル。主に企業スポンサーからの寄付でまかなわれる。この程度の小予算で50種以上ものプログラムを無料で提供できる理由は、同じところにワシントン近郊に公演に来るパフォーマンス・グループを選んでブックリングをするため、交通費や宿泊費などの経費が節減できるから。また、地元のグループや若手グループにとっては、「ケネディーセンターで公演」という経歴や、4万人の集客数が魅力であるため、特別の低報酬でも参加を希望するものも数多くある。

## (2) オープンハウス・ボランティアの役務

- 非常に細かい以下の28種の役務に分類される（abc順）。
- **Balloonist Assistant** : 風船膨らましエンターテナーの補佐役、客の行列整理。
- **Character Guide** : 道化師エンターテナーの付き添い。混雑の整理。
- **Clean-up Crew** : 臨時会場の設営と撤去作業。力仕事。
- **Coffeeshouse Host** : コーヒーハウス（セルフサービス）での業務全般。ゴミの片付け、座席への案内など。
- **Crowd Management** : 会場混雑整理係り。
- **Escort** : パフォーマーのエスコート係。控え室からパフォーマンス場まで人込みをかき分けて道をつける役。
- **Face Painting** : フェイス・ペインティング・エンターテナーの補佐役、客の行列整理。
- **Freight Elevator Operator** : 搬入搬出用エレベーター利用の交通整理係。
- **Gift Bag Distribution** : ギフトバッグ手渡し係り。ケネディーセンターのアンケート用紙に記入してくれた客先着5千人に福袋を配る係り。中身はスポンサーからのオリジナル・グッズ（マグカップ、雑誌、カレンダー、キーホルダー等々）。ボランティアの中で最も希望者が多い人気の役務。
- **Gift Shop** : ギフトショップ店員。通常のギフトショップ・ボランティアが担当する。
- **Grounds Monitor** : 「グラウンド・モニター」と言えば聞こえがいいが、要は「ゴミ拾い係」のこと。
- **Information Center** : インフォメーション・センター係。通常のインフォメーション・センターフェボランティアが担当する。
- **Information Floater** : インフォメーション・センター係の補佐役。会場一帯を歩きながら、オープンハウス当日用のパンフレット（プログラム一覧）や会場内地図を来場者に手渡す係。
- **Information Restocker** : 上記 **Information Floater** や **Information Tables** に、足りなくなったパンフレット類を逐次届ける係。
- **Information Tables** : 会場のあちこちに臨時に設けられたインフォメーション

## ■ THE KENNEDY CENTER FOR THE PERFORMING ARTS

ン・テーブル。ケネディーセンターの通常の催しについて説明するためのインフォメーション係。

- **Instrument Demonstrator** : 楽器のデモンストレーション奏者。楽器を弾けるミュージシャンのみ採用。
- **Membership Lounge Host** : メンバー用ラウンジの給仕+テーブルの片付け係。
- **Musical Zoo Assistant** : 楽器のデモンストレーション・コーナーの補佐役+混雑整理係。児童の扱いに慣れた人のみ採用。
- **Parking Lot Monitor** : 出演者専用駐車場の監視係。一般客の車が進入・駐車したりせぬよう管理する。業務開始は早朝8時から。
- **Radio Monitor** : 会場各地にラジオを設置する係（当日のパフォーマンスが生放送されるため）。
- **Refreshment Monitor** : ステージ控え室用のお茶やお菓子の管理・給仕係。
- **Stage Crew** : ステージ・セットの設営クルー。力仕事かつ長時間（朝10時から夜7時まで）仕事。
- **Stroller Check-In** : 無料乳母車レンタル係。
- **Theatrical Characters** : 道化役。コスチュームを来てあたりを徘徊。客と一緒にカメラに納まるなど、来場客をあれこれと楽しませる係。接客好きの人間向き。1週間前にコスチュームの採寸がある。
- **Ticket Distribution** : 無料観賞整理券配付係。
- **Volunteer Check-In** : 登録ボランティアの出欠確認係。
- **Volunteer Refreshments** : ボランティア用控え室のお茶やお菓子の管理・給仕係。

### (3) オープンハウス・ボランティアの人数

- 96年度は過去最高の、470名が参加。
- 内、約250名は通常ボランティア「フレンズ……」のメンバー。残りは、オープンハウス一日だけのための臨時ボランティア。

### (4) オープンハウス・ボランティアの自治・管理体制

- 全体の統括役として2名の委員長（Chairs）、その下に、各役務ごと2名ずつのリーダーを設ける。いずれも有給のボランティア・マネージャーの指名による [資料 KC-8参照]。
- ボランティア参加時間帯は {正午～午後3時} {3時～6時} の2シフト制が基本。ただし、会場設営係やボランティア・チェックイン係などは朝8時からの勤務。
- 基本的に一役務・一シフトあたり、2名～5名程度の配置が基本。ただし、会場整理係や簡易テーブルの設置・撤去係などには、数十名が配置される [資料 KC-9参照]。
- ボランティアの申し込み書をチェックし、各自の希望を汲みながら各自を各役務・各時間帯へ割り当てる作業は、委員長が受け持つ。

(5) オープンハウス・ボランティアの募集と教育

① オープンハウス・ボランティア募集の方法。

- ・『ケネディーセンター・マガジン』に「ボランティア募集！」の呼びかけ掲載。
- ・メンバー用ニュースレターの中で「ボランティア募集！」の呼びかけ掲載。
- ・「フレンズ……」事務局から、ボランティア勧誘の電話セールスを行う。
- ・米軍の機関にボランティア要員を提供してもらうよう呼び掛ける。会場設営・撤去作業や混雑の整理係といった体力仕事は、高齢者の多い通常のボランティア名簿の中からはまかなえないため。
- ・ケネディーセンターの常駐楽団である「ナショナル・シンフォニー・オーケストラ (NSO)」のボランティア組織に協力を呼び掛ける (NSO は独自に1,100人ものボランティア名簿を管理している)。

② オープンハウス・ボランティア受け入れまで

- ・「フレンズ……」の名簿、メンバーの名簿、NSOのボランティア名簿、教会のグループ、などにダイレクトメールを発送する。封筒の中には以下の資料一式を同封する。
  - ・カバーレター (オープンハウスの簡単な紹介、2名の委員長の紹介、公開オリエンテーションの時間割り、ボランティア参加者への「無料Tシャツ進呈」のお知らせ、申し込み期日等を説明) [資料 KC-10 参照]。
  - ・28種類の役務についての内容説明書 (「着席仕事」「立ち仕事」「力仕事」「屋根のない屋外での仕事」「長時間労働」などの注釈付き、「(2) オープンハウス・ボランティアの役務」参照)。
  - ・オープンハウス・ボランティア申し込み用紙 [資料 KC-11参照]。
  - ・メンバーへの勧誘パンフとメンバー申し込み用紙。
  - ・メンバーシップ代 (最低年間50ドル) の10ドル割り引きクーポン券。
  - ・返信用封筒。
- ・「オープンハウス・ボランティア参加申込用紙」には、ケネディーセンターでのボランティア経験の有無/参加可能な時間帯 (一日中・昼・午後～夕方・早朝～午前中) /希望の役務/特種希望 (ex.屋内希望、着座での業務希望等々) /Tシャツのサイズ等の記載欄が設けられている。

③ オープンハウス・ボランティア教育の方法

- ・開催の1週間前に公開オリエンテーションを設ける。仕事を持たない人・仕事を持つ人の両方に対応するために、平日の午後の部と夜の部に分けて、同様の内容のものを2回開催する。要予約。
- ・オープンハウスの当日、各役務ごと、各シフト時間帯ごとに業務開始前の説明会が設けられる。各役務の責任者が指導を担当。

(6) オープンハウス・ボランティアへの報酬

- ・公開オリエンテーションで無料Tシャツ配付。当日はこのTシャツを着用

してボランティア業務につく。

- ・オープンハウス終了後の同日の夜、ケーキやアイスクリームなどで打ち上げ会。午前中のシフトのボランティアや一日勤務の者などは参加しないことが多いため、比較的小規模となる。

#### (7) オープンハウス・ボランティアのプロフィール

- ・通常のボランティア「フレンズ……」のメンバーが約半数を占める。ほとんどが高齢者。
- ・その他、軍に所属する若者の男性、ガール・スカウト所属の高校生、大学生、マッチング・グラント制度を持つ企業に勤める従業員など。

#### (8) オープンハウス・ボランティアに関するその他の事項

##### ① 自己評価

- ・当時業務を終了したボランティアには、アンケート用紙を配る。仕事への満足度はどうだったか、問題は無かったか、来年度への示唆や希望はあるかなどの評価・査定を記入して提出してもらう。

##### ② 「スタッフ・ボランティア制度」

- ・オープンハウスは日曜日であるため、ケネディーセンターの有給スタッフにも「ボランティアとしての参加」を呼び掛ける。96年度は20名が参加（年々参加数は低下の傾向にある）。
- ・目的は、「チーム・スピリット」をスタッフに体感してもらうため。会場設営やアーティストの接待係りなどを含む14種類の役務選択がある。

## 4. ボランティア全般に係る問題点・特記事項・将来構想

### (1) ボランティア・コーディネーターにとっての課題／Brooks Boeke さん（有給のボランティア・コーディネーター）談：

- ・ボランティアと有給スタッフでは「仕事に対するコミットメント」の種類・質が違う。「義務感と満足度」がうまくバランスする地点を見極めること、「ボランティアをすることの意味」をはっきりと提示してやることが大事。
- ・「役務の内容をできるだけ詳細に規定すること」がボランティア・プログラム成功の秘訣。即ち、何をしてもらいたいかを明確にしてそれを明文化する（＝マニュアルにする）こと。そして、どこまでしてもらえれば合格かの最低評価ラインをはっきり持つこと。
- ・マニュアルは毎年あるいは逐次見直し、必要があれば改訂・更新する。
- ・ボランティア自身にとってもボランティアを管理する側にとっても、一番難しい曲面は、「変化」への対応。即ち、マニュアルが改訂された時／コンピューターのシステムが変わった時／チーム編成変わった時／担当部署の有給スタッフ人事が変わった時等々の事態のこと。特に高齢者のボランティアが多いため、「慣れたものから新しいもの」へ順応するのがおっくうかつ不得手であるため、ボランティア・コーディネーターは、彼らに「嫌気」を感じさせないように常に励まし、質問をすることに躊躇をさせない雰囲気・環境づくりに腐心する必要がある。



- ボランティア・コーディネーターは500名にもものぼる現役ボランティアの顔と名前を覚え、各自の得手不得手や個性などを把握している必要がある。その意味からも、ボランティア・コーディネーターというのは、大卒レベルの「専門職」と言っている。
- 問題があった時には、必ずボランティア・コーディネーターに相談するよう指導する。「問題」となるのはたいていは人間関係について。同僚のボランティアとスムーズに仕事ができない、担当部署の有給スタッフとうまくやってゆけないなど（あまり頻繁に起こる問題ではないが）。相談に来なくとも、ボランティア・スタッフの方からうまく聞き出すようにして「すべてを知っている」ようにすることが重要。
- そのボランティアが裏方（ライブラリーでのアーカイブ管理など）向きか、表方（インフォメーション・センターで接客をするなど）向きかを見極めること。また、「好き」なのか「やってみたい」のか「向いている」のかなど、向き不向きと本人の希望をバランスさせることが大切な技術。
- コンピューターを扱う役務（ギフトショップのキャッシャーと会計など）は特にデリケートな職務環境。コンピューターを扱える・扱えないでコンプレックスや嫌気を感じさせないように、特別の工夫が必要。例えば、落ちこぼれが出ないようにボランティア各自の性格を考慮してチームを構成する、など。
- ボランティアを「平等」に扱うことが大切。しかし、「平等」の意味は一辺倒ではない。複雑な仕事をしている人と単純な仕事をしている人に対してそれぞれどう感謝を表明するか、週に20時間も来てくれているボランティアと週3時間だけのボランティアに対してそれぞれをどう扱うか、など、各自その人なりに無償でケネディーセンターのためになってくれているのだと考えると、単純にコトの大小・多寡では評価できないことが多いのが難しい。

## (2) ボランティア参加の動機／Brooks Boeke さん（同上）談

- おもな動機は「舞台芸術が好き」「友人もケネディーセンターでボランティアをやっているから」の2項。
- 「オープンハウス・フェスティバル」では、ギフト・バッグ手渡し係りが一番人気がある。人々とこやかに接して「Thank You!」と言われる仕事が一日ボランティアとしては一番楽しいのではないかと。
- アッシャーやステージ・エンジニア、あるいはアーティスト自身など、普通は「内部事情」に触れることもないような専門職の人々と接触できる、近い関係になれるのが魅力。

## (3) 問題点・課題

- いかにか若い層（特に20～30代）を取り込むかが今後の課題。ボランティアという風習が「古い」ものになりつつある傾向への対策。共働きが増えたこと、片親の家族が増えたことなどから、余暇はできるだけ子供と過ごそうという傾向が強くなっている。
- 現在は、政府の外郭団体のいくつかと協力して、ケネディーセンターでの

■ THE KENNEDY CENTER FOR THE PERFORMING ARTS

ボランティアに参加するよう従業員に呼び掛けてもらっている。こういった形で、今後は一般企業（ビジネス）との連携・協力を画策して、若いプロフェッショナル層のボランティアをリクルートして行きたい。

—以上—

資料 KC-1 : ボランティア業務の内容 (通常運営時)

## FRIENDS OF THE KENNEDY CENTER VOLUNTEER OPPORTUNITIES

### GIFT SHOPS

The Gift Shops are staffed by volunteers seven days a week from 10 a.m. to 9:30 p.m. Volunteers are responsible for all sales transactions, (credit card charge, cash and check) and excellent customer service. The Gift Shops are a prime attraction to all visitors and produce significant revenue to help offset the expenses of the Kennedy Center's performing arts and public service programming.

### TOUR GUIDE

The Kennedy Center Tour Program is staffed by volunteers seven days a week from 9:30 a.m. to 2 p.m. Volunteers are responsible for providing free public tours, congressional tours, scheduled group tours, access tours for people with disabilities, pre-scheduled foreign language tours, and VIP tours. The Kennedy Center Tour Program provides visitors with an opportunity to explore theaters, lounges and presidential boxes, as well as the many gifts that have been received from around the world.

### EDUCATION RESOURCE CENTER (Library)

The Education Resource Center is staffed by volunteers six days a week from noon to 8 p.m. Volunteers are responsible for the daily upkeep of the files and records, for helping to maintain the collection, and for special projects that can satisfy the volunteer's interest as well as the needs of the reading room. The Education Resource Center collection encompasses many aspects of the performing arts. It is used by performers, directors, choreographers, and the public.

### PUBLIC INFORMATION CENTER

The Public Information Center is staffed by volunteers seven days a week from 10 a.m. to 9 p.m. Volunteers are responsible for providing visitor information, performance information, and answering general questions. The Public Information Center provides visitors with information on services offered at the Kennedy Center such as free events, tours, performances, and the specially priced ticket program (for senior citizens, students, military personnel ranked E1-E4, and persons with disabilities.)

### FRIENDS ADMINISTRATION OFFICE

The Friends Administration Office receives volunteer assistance five days a week from 10 a.m. to 6 p.m. Monday through Friday. Volunteers are responsible for receptionist and clerical needs, assisting with membership services, and assigned projects. Volunteers may also work on special projects for other Kennedy Center Departments as needed. The Friends Administrative Office coordinates all aspects of the Friends of the Kennedy Center Volunteer Program.

### FRIENDSCRIPT

The newsletter of the Friends Volunteer Program, an official publication of The John F. Kennedy Center for the Performing Arts, *Friendscript*, is written, edited and read by volunteers, administration and staff and keeps the Center informed on volunteer activities.

October 1996  
Volume IX, No. 9

# Friends Script

## 25th Bithday Open House: A Storm of Success 'n' Flood of Praise

by John Gillon, Jr.

**B**etween hurricane and high-water, the Kennedy Center, its staff and volunteers, both Friends and new recruits, welcomed more than 44,000 visitors to what one veteran observer termed "the best of the best" for the 25th Anniversary Open House, September 8.

Only two days after the windy-wet remnants of Hurricane Fran deluged Washington, DC and surrounding areas in rain, and hours before the rising waters of the Potomac and its tributaries inundated low-lying areas, festival co-chairs **Marilyn Schoon** and **Janet Jones** marshaled their 400-plus volunteers to guide visitors to entertainment at venues within and without the Kennedy Center.

**Shelley Brown**, Festival Director, said of Schoon and Jones's stewardship of Friends volunteer services that "it was a masterful effort," coming in the midst of several scheduled

performances such as "Beauty and the Beast" and concerts in the Eisenhower Theater.

"The volunteers really do it all," Brown said. "And Marilyn and Janet were an amazing team."

Park Ranger **Susan Creger**, attending her twelfth consecutive Open House—"I've been to them all ever since they were known as 'Inside Out'," -- also had high praise for this year's event and the volunteers. "It was a wonderful day, with a great crowd, and volunteers who gave their all, right up to the end, with the clean up. The volunteers stuck in there and were tremendous in their effort to clear the area after the Open House. It's not nice work, but it's awfully important to safety and to what visitors see of the Kennedy Center," Creger added.

Not all of the volunteers were seen: Friends **Liz Vecchione** and **Kaye**

**Garvey**--"with a team of about a half dozen determined folks," said Vecchione--saw to the feeding of the volunteer forces for the ten or eleven hours of set-up-to-clean-up. "We had a lot of food," said Vecchione. "And Kaye was there working from start to finish."

In the meantime, Kennedy Center visitors were treated to all the entertainment fixin's--beginning with their own participatory kazoo-and-whatever-else-made-music band. Kennedy Center Chairman **James Johnson** and President **Lawrence Wilker** wielded kazoos, while visitors added slide whistles, Pan and Peruvian pipes, plastic instruments, recorders and a particularly inventive mating of a brass mouthpiece with a length of a garden hose. Not to be outdone, some of the National Symphony Orchestra musicians, under the direction of NSO Music

Director **Leonard Slatkin**, joined in for a rousing performance of "Happy Birthday" as well as the NSO instrument petting zoo.

The Open House was sponsored in part by Target and United Airlines and many others. Featured performers included Los Lobos, and Nickelodeon TV comedian **Marc Weiner** and his "Weinerville Puppets."

### In This Issue

Calendar	2
NSO Quilt	3
Tours	4
Volunteer Spotlight	5
Friends Historian	6
Lounge Review	6
NSO Show House	7
NSO Car Chances	7
Dr. Ushers (Part II)	9

資料 KC-3 : ボランティア申込用紙 (通常運営時) - 1/2

# Friends of The Kennedy Center

THE JOHN F. KENNEDY CENTER FOR THE PERFORMING ARTS



## VOLUNTEER APPLICATION FORM

WASHINGTON, D.C. 20566-0003  
202 416-8300

NAME \_\_\_\_\_ DATE \_\_\_\_\_

HOME ADDRESS \_\_\_\_\_

CITY, STATE, ZIP \_\_\_\_\_

BUSINESS NAME/ADDRESS \_\_\_\_\_

CITY, STATE, ZIP \_\_\_\_\_

TELEPHONE (DAY) \_\_\_\_\_ (EVE) \_\_\_\_\_

BIRTHDAY \_\_\_\_\_ SOCIAL SECURITY # \_\_\_\_\_

EDUCATIONAL BACKGROUND: \_\_\_\_\_  
month/day

HIGHEST DEGREE ATTAINED: \_\_\_\_\_

MOST RECENT WORK EXPERIENCE (VOLUNTEER OR SALARIED): \_\_\_\_\_

Are you willing to be a volunteer at the Kennedy Center for at least one year? \_\_\_\_\_yes \_\_\_\_\_no

If no, please explain: \_\_\_\_\_

Are you willing to work one four-hour shift per week? \_\_\_\_\_yes \_\_\_\_\_no

If no, please explain: \_\_\_\_\_

Please check the volunteer positions that you are most interested in.

- |   |  |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> GIFT SHOP          | <input type="checkbox"/> EDUCATION RESOURCE CENTER     |
| <input type="checkbox"/> INFORMATION CENTER | <input type="checkbox"/> FRIENDS ADMINISTRATIVE OFFICE |
| <input type="checkbox"/> TOUR GUIDE         |  |

Please indicate the days and hours that you will be able to work.

	SUN	MON	TUES	WED	THUR	FRI	SAT
10-2							
2-6							
6-9:30							

NOTE: *Tour Guides* work 10-2 p.m DAILY  
*Office Volunteers* work 10-2 p.m. OR 2-6 p.m. WEEKDAYS

Assignment policy: While every effort is made to allow individual preference as to day, time, and area, assignments are made according to available vacancies.

資料 KC-3 : ボランティア申込用紙 (通常運営時) - 2/2

What are your reasons for wanting to be a volunteer at the Kennedy Center?

What do you think best qualifies you to be a Kennedy Center volunteer?

Please list any community affiliations.

Will there be any conflict between your commitment to the Friends of the Kennedy Center and your other activities?

Please list two local references who are not relatives.

1. \_\_\_\_\_ day # \_\_\_\_\_ eve # \_\_\_\_\_

2. \_\_\_\_\_ day # \_\_\_\_\_ eve # \_\_\_\_\_

Person to contact in case of emergency:

Name \_\_\_\_\_ day # \_\_\_\_\_ eve # \_\_\_\_\_

Address \_\_\_\_\_

Relationship to you: \_\_\_\_\_

Where did you hear about volunteering for the Friends of the Kennedy Center?

Visiting the Kennedy Center     Kennedy Center Volunteer     Other \_\_\_\_\_  
 Kennedy Center News     Newspaper \_\_\_\_\_

*You are not required to answer the following questions. The information provided will be used for research purposes only:*

Current Status:

married  
 divorced  
 separated  
 single  
 widowed  
  
 male     female

Racial-Ethnic Information:

White  
 Black  
 Hispanic  
 Asian or Pacific islander  
 Native American  
 other

Age range:

18-23     51-56  
 24-29     57-62  
 30-35     63-68  
 36-41     over 69  
 42-50

Are you a member of the Stars of the Kennedy Center?     yes     no

Are you a member of the National Symphony Orchestra Association?     yes     no



The John F. Kennedy Memorial Center for the Performing Arts

## The Friends of The Kennedy Center Volunteer Handbook

### Mission Statement

*The John F. Kennedy Center for the Performing Arts is the national center for the performing arts and a living Presidential memorial.*

*The Kennedy Center will:*

*Embody, stimulate, and transmit the values of freedom, creativity, expression, and joy inherent in the performing arts the opportunity to dream, to risk, to excel.*

*Present and create programming of the highest standards that reflects the diverse cultural life of the United States and that recognizes and nourishes our international heritage.*

*Encourage, nurture and develop an audience for the performing arts from the widest possible population.*

*Welcome, value, support, and respect unconditionally our artists, funders, customers, visitors, employees and volunteers.*

*Set the standard of performance for programming and management in the performing arts.*

*Our hallmarks will be:*

*Quality*

*Diversity*

*Opportunity*

資料 KC-4 : ボランティア・ハンドブック (通常運営時) -2/2 (目次)

**Table of Contents**

<b>Mission Statement</b>	
<b>The John F. Kennedy Memorial Center for the Performing Arts</b> .....	3
Hours of Operation.....	3
The Team.....	3
Organizational Chart.....	4
<b>The Friends of The Kennedy Center</b> .....	5
The Definition of a Friends of The Kennedy Center Volunteer .....	5
The Duties of a Friends Volunteer.....	5
<b>Volunteer Opportunities with The Friends of The Kennedy Center</b> .....	5
Administrative Offices.....	6
The Education Resource Center.....	6
<i>Friendscript</i> The Official Newsletter of The Friends of The Kennedy Center .....	6
Guided Tours.....	6
The Kennedy Center Gift Shops .....	6
The Public Information Center.....	7
Shift Chairperson .....	7
The Volunteer Advisory Committee.....	7
<b>General Rules and Regulations of The Friends Volunteer Program</b> .....	8
Application to The Friends of The Kennedy Center Volunteer Program .....	8
Requirements for Participation .....	8
Orientation and Training.....	9
Transition Period.....	9
Performance Appraisal.....	9
Shifts .....	9
Shift Chairpersons.....	9
Sign-In Sheets.....	10
Attitude.....	10
Conduct .....	10
Attire.....	10
Health and Hygiene .....	10
Attendance and Punctuality.....	10
Absences .....	11
Substitutions .....	11
Severe Weather Emergencies .....	11
Retention of Active Status .....	11
Re-assignment.....	11
Personal Opinions.....	11
Prejudices .....	12
Resignation .....	12
Suspension .....	12
Dismissal .....	12
Volunteer Benefits .....	13
<b>Membership Opportunities at The Kennedy Center</b> .....	13
<b>Volunteer Recognition</b> .....	14
The Friends Volunteer Recognition Gala.....	14
Friends for Life (Emeritus Status).....	14
Acknowledgment of Contribution.....	14
<b>General Rules and Regulations of The Kennedy Center</b> .....	15
Animals.....	15
Eating and Drinking .....	15
Emergencies.....	15
Lost Children/Lost Parents .....	15
Lost and Found.....	15
Packages or Envelopes.....	15
Parking .....	15
Photography .....	16
Security Credentials .....	16
Smoking .....	16
Visitor Conduct .....	16
Illness or Accident .....	16
<b>Standards of Ethical Volunteer Conduct</b> .....	17



## High-Quality Service

Quality is the key word. We offer a high-quality product, delivered with high-quality service.

Our goal is to treat every patron with equal fairness, yet to individualize each contact and make each patron feel that he or she is important to us. Even though you may have heard the same question 100 times that day, it will probably be the first time the patron has asked it.

Using the patron's name lets him or her know you care.  
(i.e. "Thank you for your support, Mr. Thomas," not the familiar --  
"Thank you for your support, Ed.")

Dissemination of correct information is an essential part of providing good service. Be willing to handle questions if you are certain that you have the correct information. It is just as important to know to whom you should refer the patron for assistance.

Nothing is less helpful than giving incorrect information. Don't be afraid to say that you don't know the answer but do make every effort to refer the patron to the correct source.

Don't use theatrical slang (i.e. "The theater is dark, comps," etc.) Use words the patron understands.

A patron doesn't usually care what our procedures or rules are; he or she just wants to conduct transactions smoothly and pleasantly.

To the patron, each of us represents the Kennedy Center as a whole, not as an individual department. If there is a problem, do not pass the blame. Apologize for the situation on behalf of the Kennedy Center and try to solve the problem.

When a patron purchases tickets, he or she is buying the total experience--from the moment the patron first contacts us to the time he or she leaves the Kennedy Center grounds.

Good service breeds patron loyalty. This is very important because it costs the Kennedy Center much more to acquire a new patron than it does to retain the same patron year after year.

Always thank the patron for coming in or calling.

\*この他に電話対応や身障者対応の要領が記載されている。

### VOLUNTEER GUIDELINES

The Kennedy Center's volunteers serve as its most visible ambassadors to the general public. The following policies have been established to maintain a consistent and positive image of the Kennedy Center. All volunteers are expected to be familiar with these policies.

1. Always be available, courteous, and helpful to each patron, as well as to fellow volunteers.
2. Each volunteer should learn and be able to do all the tasks. If you don't know how to make coffee, ask a colleague to teach you. Familiarize yourself with the set-up and participate in both set-up and clean-up.
3. Volunteers should arrive no later than **45 minutes** before the start of the performance in order to set up lounge and be briefed on any new information. Being late inconveniences the others who are working with you.
4. Volunteers should not leave before the scheduled end of their activity unless prior arrangements have been made with the activity chairperson. Activity is over after the end of the last intermission. You may stay to see the rest of the performance.
5. If you find that you will not be able to work your shift, please try to find a substitute, or notify Sally Sherman at (202) 342-3137, as soon as possible so that a replacement can be found. Do not assume that a message left with the answering service will be received in a timely manner. If you are unable to reach Sally, or if you have left her a message and she has not called you back to confirm the message, call Roberta Keating at (703) 280-4354. Call the Manager of the Donor Lounges, Julia Henderson at (202) 416-8065, if you are not able to reach Sally or Roberta.
6. Volunteers are encouraged to provide suggestions to their shift chair or to the Manager of Volunteers that may increase the effectiveness of the volunteer program.
7. Volunteers are expected to continually update and expand their knowledge about the Kennedy Center by attending all orientation and training sessions as scheduled, and by reading brochures and information sheets.

**\*Emergency Phone Number: 7900**

**(Please do not call 911, it does not transfer out of the Kennedy Center)**

8. Placement and position are not guaranteed to volunteers who fail to fulfill their volunteer responsibilities in a satisfactory manner. For the lounges, this means frequent and continuous tardiness and/or absences without making provisions for a substitute. Do not bring friends or others to the lounge if they do not have tickets. **Do not abuse your own lounge access to see performances for which you do not have a lounge assignment. If you want to see a performance and are not assigned to work the lounge for it, you must buy a ticket.** A volunteer's services may no longer be needed if s/he is unable to meet the time commitment, if his or her work does not meet acceptable standards, or if that volunteer position is no longer appropriate to the operation of the organization.
9. Always wear and make visible your Friends volunteer name badge and security badge. Notify your shift chairperson if you misplace your badge so that it can be replaced.

資料 KC-6 : 業務別ボランティア・マニュアル (通常運営時) -2/2

-The Friends of The Kennedy Center LOUNGE MANUAL から抜粋-

10. Volunteers should promote Kennedy Center membership at appropriate events ( NSOA and Stars).
11. Contributors at eligible levels to the National Symphony Orchestra Association and members of the Golden Circle are admitted to both lounges at all times. WPAS members are admitted to the Chinese lounge during **WPAS PERFORMANCES ONLY**. WPAS now lists access to the lounge as a benefit for \$50 members. The lounge privileges also apply to the Choral Arts Society performances. Admittance to the lounges is a benefit of membership at particular levels. Please do not allow and/or invite everyone in when serving in the sparsely attended Opera lounge. The lounge is not an open hospitality room. To those who pay the membership fee to get in, this is not acceptable.
12. All counter/table tops and public locations should be kept neat and clean. Personal items are to be kept out of sight of the public.
13. Volunteers are expected to dress neatly and appropriately for the event. In the lounges, men should wear a tie and jacket. Women may wear a nice dress, suit, or pant suit. Please do not wear sports attire, shorts, jeans, tennis shoes, or similar clothing. No gum chewing is allowed while working on the event.
14. Volunteers are expected to eat meals before or after their shift--not during the shift. All food and drink is to be kept out of sight of the public.
15. In the event that you should need more ice in the lounge, an ice room is located in the Hall of Nations, first door on the left as you enter from the Grand Foyer. Check supply early in the shift.
16. Pour only 2/3 cup of coffee. Members do not usually have enough time to drink a whole cup once it has cooled. Keep the water cups stacked. Members assume unstacked cups are used. Chinese Lounge receives 5-20 pre-performance and 80-150 during intermission. If the performance is WPAS sponsored or "sold out," be prepared to serve six to eight pots of coffee. Also, for WPAS performances, cold water and coffee should be pre-poured before intermission begins to accommodate a large crowd.
17. Three sets of bells will ring at seven, five and two minutes prior to the performance and at intermission.
18. There will usually be at least three people assigned to a lounge (during a WPAS performance, up to four people will be provided by the Friends and another two by the WPAS). If a volunteer does not show and help is needed, notify **Julia Henderson** at 416-8065. For WPAS performances if a WPAS volunteer has not shown, contact a WPAS staff person located on the orchestra level. If a volunteer does not arrive or there are any problems, please be sure to notify **Roberta Keating** the next day at (703) 280-4354.
19. Attendance in the lounges is proportional to the size of the audience. Check with an usher to get some idea of how well a performance has sold (Chinese Lounge receives 5-20 pre-performance and 80-150 during intermission). Also check the number of intermissions and the completion time of the performance.
20. The Kennedy Center is a smoke-free building.

\*この他に Tourscript (ツアー・ガイド用) Manual of Procedures (ケネディセンターに関する各種情報集) などがある。

資料 KC-7 : Open House Arts Festival のパフォーマンス・スケジュール 1/2

# The Kennedy Center 25th Birthday Open House Arts

	<b>PLAZA BIRTHDAY STAGE</b>	<b>RIVER STAGE</b> sponsored by WJZW	<b>KIDS' STAGE</b> sponsored by RADIO ZONE (Grand Foyer)	<b>ATRIUM COFFEEHOUSE</b> sponsored by WMZQ
12:00	<b>WORLD'S BIGGEST BIRTHDAY BAND</b> conducted by Leonard Slatkin 12 NOON			
1:00	<b>BIG VILLAGE</b> world beat band 12:20-1:10 P.M.	<b>RICKY LOZA AND FRIENDS</b> Latin jazz and salsa 12:15-1 P.M.	<b>DINOSAURS FOREVER!</b> Dinorock characters in concert 12:30-1:15 P.M.	<b>GRUPO BORIKÉN</b> Puerto Rican folk music 12:15-1 P.M.
2:00	<b>MAJEK FASHEK AND THE PRISONERS OF CONSCIENCE</b> Nigerian rock/reggae performer 1:30-2:15 P.M.	<b>LAST TRAIN HOME</b> folk/country/rock band 1:15-2 P.M.	<b>MARK WEINER</b> with his puppet characters from Nickelodeon's "Weinerville" 1:30-2:15 P.M.	<b>THIRTEEN STRINGS FROM SCANDINAVIA</b> Norwegian and Swedish folk music 1:10-2 P.M.
3:00	<b>SYD STRAW AND THE SKELETONS</b> roots rock 'n roll 2:45-3:45 P.M.	<b>THE EMPTYS</b> rock 'n roll band 2:15-3 P.M.	<b>RIBAUDO, TRAINOR &amp; MUIR</b> children's singer/songwriters 2:30-3:15 P.M.	<b>THE BOYS AND ME</b> upbeat country band 2:10-3 P.M.
4:00		<b>TOM PRINCIPATO BAND</b> local blues legend & his band 3:15-4 P.M.	<b>MARK WEINER</b> with his puppet characters from Nickelodeon's "Weinerville" 3:30-4:15 P.M.	<b>SUSAN GRAHAM WHITE</b> acoustic guitarist-singer/songwriter 3:10-4 P.M.
5:00	<b>LOS LOBOS</b> Los Angeles rock 'n roll band with Latin rhythms 4:30-6 P.M.	<b>FUSION</b> Caribbean jazz with steel drums 4:15-5 P.M.	<b>DEBI SMITH</b> children's singer/songwriter 4:30-5:15 P.M.	<b>KEVIN JOHNSON AND THE LINEMEN</b> rock 'n roll with a country twist 4:10-5 P.M.
6:00				<b>SUNDOWN</b> traditional country music band 5:10-6 P.M.
<b>SPECIAL EVENTS</b>				
<b>EDWIN FONTÁNEZ'S WASHINGTON CHALK FESTIVAL</b> Participate in creative chalk art MOTOR PLAZA		<b>FACE PAINTING</b> Children become fantastic characters PLAZA PARKING LOT	<b>MEMBERS' LOUNGE</b> As a special benefit for all Kennedy Center Stars and NSOA members, the Chinese Lounge in the Concert Hall (box tier level) will be open. Please be prepared to show your membership card. Free refreshments will be served. For information about how to become a Star or an NSOA member, please visit the membership table in the Grand Foyer.	
<b>NSO INSTRUMENT PETTING ZOO</b> Try your favorite orchestral instrument with the NSO Women's Committee HALL OF NATIONS		<b>KENNEDY CENTER ONLINE/ARTSEGE</b> Explore the Kennedy Center Home Page NORTH GALLERY	<b>REFRESHMENTS</b> Enjoy hamburgers, hot dogs, and beverages at the food stations located on the north end of the River Terrace, Atrium Coffeehouse, Plaza parking lot, and north end of the Plaza.	
<b>BALLOONOLOGIST</b> RIVER TERRACE		<b>SHORTWAVE RADIO</b> Broadcast a message live around the world with the North Shenandoah DX Club SOUTH GALLERY	<b>PHOTO EXHIBIT</b> "A Family Album"—a look at 25 years of performance at the Kennedy Center NORTH GALLERY	
			<b>FREE GIFT BAG</b> North end of the Plaza and Grand Foyer. One per family, please. While supplies last.	
			<b>WATER BALLET</b> by Washington Water Bus, Inc. POTOMAC RIVER at 3 p.m.	

資料 KC-7 : Open House Arts Festival のパフォーマンス・スケジュール 2/2

Festival

**KEY** Admission by ticket only (distributed 40 minutes before each performance at the theater).  
 6g Interpreted in sign language. 6v Visually rich performances. ★ Washington Area Music Award winner



**TERRACE THEATER**  
 sponsored by Mid Atlantic Magazine

**CONCERT HALL**  
 sponsored by WGMS

**EISENHOWER CABARET**  
 sponsored by WBIG

**AMERICAN FILM INSTITUTE**  
 sponsored by WETA

**THEATER CHAMBER PLAYERS**  
 classical chamber music  
 12:30-1:10 P.M.

**STARS OF HOPE**  
 Jubilee-style gospel  
 12:15-12:55 P.M.

**THE RED BALLOON**  
 12:15-12:50 P.M.

**TONY POWELL MUSIC AND MOVEMENT**  
 modern dance and music  
 1:45-2:20 P.M.

**NSO FAMILY CONCERT**  
 conducted by Leonard Slatkin  
 1:10-1:55 P.M.

**THE CROWTATIONS**  
 famous Motown puppets  
 1:15-1:55 P.M.

**MOUNTAIN TOPS**  
 1:00-1:30 P.M.

**UJIMA**  
 (United Joyfully in Movement Arts)  
 A look at classical ballet and other dance forms  
 2:45-3:35 P.M.

**NSO FAMILY CONCERT**  
 conducted by Leonard Slatkin  
 2:25-3:05 P.M.

**20TH CENTURY POP**  
 starring Merry Clayton, Rita Coolidge, and Darlene Love  
 2:15-2:55 P.M.

**THE COVENANT PROMISE**  
 2:00-2:15 P.M.

**WASHINGTON OPERA SOLOISTS**  
 singers in family program  
 3:25-4 P.M.

**THE LEGENDARY ORIOLES**  
 traditional gospel vocal ensemble  
 3:15-3:55 P.M.

**THE RED BALLOON**  
 2:30-3:05 P.M.

**TAPPERS WITH ATTITUDE**  
 contemporary tap dance  
 4:30-5:15 P.M.

**AMERICAN YOUTH PHILHARMONIC**  
 family concert conducted by Luis Haza  
 4:20-5 P.M.

**THE COVENANT PROMISE**  
 4:00-4:15 P.M.

**FRIDAY MORNING MUSIC CLUB ORCHESTRA**  
 family concert  
 5:20-6 P.M.

**THE RED BALLOON**  
 4:30-5:05 P.M.

**MOUNTAIN TOPS**  
 5:30-6 P.M.

**PLUS... BACKPACK PUPPETS**  
 by Joe Pipick

**LULA**  
 Jeanne Wall's entrancing circus clown

**THE GARBANZO BROTHERS**  
 Jugglers extraordinaire

**COOKIE MONSTER**  
 12-12:20, 1-1:20, 2-2:20, 3-3:20 p.m.

**PIRATES ROYALE**  
 Music of the British Isles

**JORDAN KITT'S**  
 Piano Demonstration

**Courtesy of TARGET®**  
 Indy Racecar

Bozo the Clown

Giant Birthday Card  
 created by American Greetings

**ACKNOWLEDGMENTS**

The Kennedy Center would like to thank The John Schreiber Group, Michael Schreiber and the Washington Area Music Awards, Children's Television Workshop, Bill Kisse, Video Lab Corp., Planet Cotton, and thank you to all the Friends of the Kennedy Center.

**THE KENNEDY CENTER 25TH ANNIVERSARY GALA**  
 Catch a sneak preview at 12:15 and 3:15 p.m. in the Bird Room of the spectacular celebration of the Kennedy Center's 25th Birthday—featuring performances by Aretha Franklin, Richard Dreyfuss, Kathleen Battle, Peter Nero, Laurence Fishburne, Leonard Slatkin and the National Symphony Orchestra, Dance Theatre of Harlem, Billy Taylor, Trisha Yearwood, and many more stars.  
 (The entire show airs tonight on WETA TV Channel 26 at 9 p.m.)

資料 KC-8 : ボランティア・リーダー・リスト (Open House Arts Festival)

<u>OPEN HOUSE 1996 LEADERS</u>		
	8/28/96	
	<u>Chair</u>	<u>Co -Chair</u>
<u>Volunteer Chairs</u>	JANET JONES	MARILYN SCHOON
Animal Characters	Doris Posner	
Balloon Sculpture		
Birthday/Band Line	Gloria Urias	George Urias
Coffee House	Anne Marie Crawford	Lottie Bexhoft
Crowd Management	Bill Wortley Bill Turner	Duane Flemming Tom Pachler
Communications Manager		Elton Nelson (2-7)
Escorts	Janice Peters	Rachel Friedman
Facepainting	Alice Potts	
Gift Bags	Pearl Jefferson	
Gift Shops/T-shirt sales	Ellen Karst	Sue Davis
Hospitality	Loretta Berg	
Information Tables & Floaters	Jane Allaire	Susan Stroud
Information Restockers	Ellie Donahue	
Membership Lounge	Julia Henderson	
Petting Zoo	Nancy Crum	Claire Chytilo
Public Information Center	Helen Gerry (am) Carmella Gatto	Fran Towson (pm) Bobbie Jacobs
Sign Manager	Pat Baughman	
Stage Crew	Jay Kohn	
Stroller Check In	Pat Loach	
Volunteer Check-In	Mary Maze	Donna Schwartz
Volunteer Refreshments	Liz Vecchione	Kay Garvey

資料 KC-9 : ボランティア名簿 (Open House Arts Festival) (抜粋)

**INFORMATION**

**PUBLIC INFO CENTER**

10-3

1. Helen Gerry, Chair
2. Carmella Gatto, Co-Chair
3. Bernice Goldstein
4. Helena Openchowski
5. Muriel Ardery

3-6

1. Fran Towson, Chair
2. Bobbie Jacobs, Co-Chair
3. Rose Lee
4. Evelyn McCoy
5. Helen Donahue

**INFO FLOATERS, Jane Allaire, Chair; Susan Stroud, Co-Chair**

**INFO FLOATERS--STATES, MAIN LEVEL**

12-3

1. Jane Allaire
2. Carl Batchelder
3. Michelle Calhoun
4. Maria Khatchadourian
5. Barbara Morris

3-6

1. Susan Stroud
2. Joyce Hubbard
3. Alice Potts
4. Sydney Manekofsky
5. Emanuel Payton

**INFO FLOATERS--NATIONS, MAIN LEVEL**

12-3

1. Susan Stroud
2. Jo Ann Hearld
3. Jo Ann Peltier
4. Mary Benn
5. Marian Matticole

**FACE-PAINTING,**

Alice Potts, Chair

12-4

1. Sheena Brew
2. Alice Potts
3. Barbara Merry Cohen
4. Camilla Stall
- 5.

**CHALK ART, 12-4**

1. Diane Henshaw
2. Barbara Babbs
3. Cheryl Thompson

**BALLOON SCULPTURE, 12-4**

1. Stephen Crowell
2. Steven King
3. Ryan Kuhn
4. Steve Moore
5. Adam Lewis
4. Steve Moore

**GIFT BAG DISTRIBUTION**

**PLAZA--Pearl Jefferson, Chair**

12-3

1. Marie Argana (12-2)
2. Chingwa Chang
3. Nancy Cahill
4. Verna Murphy
5. Ellen Park
6. Bret Sturtevant

**GRAND FOYER--Deborah Mayronne, Co-Chair**

12-3

1. Frances Oxenberg
2. Helen Clark
3. Mary Cleary
4. Irwin Title
5. Celeste Schamel

**ESCORTS, Janice Peters, Chair; Rachel Friedman, Co-Chair**

**GARBANZO BROS., 12-4**

Adja Acquah-Harrison

**BACKPACK PUPPETS**

(Joe Pipick) 12-4  
Holly Rollins

**LULA (Jeane Wall), 12-4**

Cindy Lankford James

**PYRATES ROYALE, 12-4**

Theresa Gallo

**BIRTHDAY BEAR, 12-4**

Catherine McKay

**BOZO THE CLOWN, 12-6**

Monie Upham

**COOKIE MONSTER**

(Jason Palmquist), STATES, 12-4

1. Ellie Gibson
2. Mary Mullen
3. Nancy Harding

**STAGE CREW/ LIAISONS, 10-7**

Jay Kohn, Chair

**STAGE CREW**

1. Joyce Allen
2. Jared Bartage
3. Glen Barnes
4. Frank Calandra
- 5.
6. Jimmy James
7. Matt Neufeld
8. Laurie Young
9. Roy Preston
10. Charles Shelleman
11. Peggy Pierron
12. Terry Rutkowski
- 13.

**ARTIST HOSPITALITY,**

Loretta Berg, Chair

**CONCERT HALL**

12-3

1. Gladys Semeryan
2. Marguerite Nowak
3. Rick Reliz (12-4)
4. Pattie Lewis (12-4)

3-6

1. Lani Etherton
2. Diana Henshaw
- 3.
- 4.

**EISENHOWER GREEN ROOM**

12-3

1. Lisa Bell
2. Luella Harter
3. Chuck Harter
4. Ethel Dwork

3-6

1. Herb Brownstein
2. Sylvia Brownstein
3. Ann Steinberg
4. Steve Hand (2-6)

**TRAINING ROOM**

12-3

1. Juana Olmos
2. Libby Cohen
3. Ron Cohen
4. William Davis

3-6

1. Deborah Mayronne
2. Mary Cacciato
3. Maria Carroll
4. Lyn Delinger

**MAIN STAGE--TENT**

12-3

1. Debbie Dumas-Hand
2. Marguerite Lucas
3. Helen Lyons
4. Joyce Hubbard

3-6

1. Pam Curtis
2. Ross Curtis
3. Sheri Maeda
4. Linda Hill

\* 14 ページにわたり、業務別、担当時間別にすべてのボランティアの氏名が記載されている。

資料 KC-10 : ボランティアへの挨拶状 (Open House Arts Festival)

## OPEN HOUSE XII

Sunday, September 8, 1996  
12 Noon — 6 p.m.

Dear Potential Volunteer,

The Twelfth Annual Kennedy Center Open House Arts Festival is on Sunday, September 8 from 12 noon to 6 p.m. "Open House" is the Kennedy Center's biggest annual community outreach event, and its tremendous success is always in large part due to the committed efforts of Friends volunteers like you.

This year's Open House will end the year-long celebration of the Center's 25th Anniversary Season with an accent on the international. We are also very fortunate that Janet Jones and Marilyn Schoon will reprise their 1995 duties as Open House Volunteer Chairs.

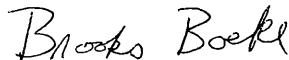
For your convenience, there will be two special orientation sessions: **Wednesday, September 4, from 2:30 to 4:30 p.m. or Thursday, September 5, from 6:30 to 8:30 p.m.** Both orientations will be held in the **Eisenhower Rehearsal Room**. Please choose to attend only **one** of these sessions, and r.s.v.p. with your choice to (202) 416-8320 by **Tuesday, September 3**. If you plan to work at Open House, it is very important that you attend one of these sessions. There you will learn about new Open House policies, performers and activities—and receive your official Open House T-shirt—*which will be given only at these sessions and only to those who work the Festival.*

If you want to volunteer for this spectacular event, please complete the enclosed application. You will find descriptions of the jobs at Open House attached. Every job is a combination of hard work and fun. Return the self-mailing application to the Open House Chairs at The Friends of The Kennedy Center by **Friday, August 30**. If you have any questions, please call the Friends office at (202) 416-8320.

*Please note that, while we will try to accommodate assignment requests, assignment priority is given to those who can work the entire day, as well as to the order in which your application is received. When space is available, free parking for Open House volunteers will be guaranteed throughout the day. Of course, the earlier you can get to the Center, the better!*

I look forward to seeing you at the Kennedy Center for Open House XII on September 8!

Sincerely,



Brooks Boeke  
Assistant Manager  
The Friends of The Kennedy Center



資料 KC-11 : ボランティア参加申込書 (Open House Arts Festival)

**TWELFTH ANNUAL  
KENNEDY CENTER OPEN HOUSE  
SUNDAY, SEPTEMBER 8, 1996  
Volunteer Application Form**

Name: \_\_\_\_\_ Organization \_\_\_\_\_  
(Friends, AFI, NSO, NSOA, STARS)

Address: \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

Telephone (H): \_\_\_\_\_ (O): \_\_\_\_\_ FAX \_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_ I have the time and interest in serving as an area leader for the 1996 Open House.

\_\_\_\_\_ I am interested in serving on the 1997 Open House Committee.

Have you volunteered at previous Open Houses? \_\_\_\_\_ If so, how many? \_\_\_\_\_

What assignments have you had at previous Open Houses? \_\_\_\_\_

Please select your desired work assignment shift (number preference 1, 2, 3):

\_\_\_\_\_ 10:00 AM to 7:00 PM (job assignment priority)

\_\_\_\_\_ 10:00 AM to 3:00 PM (orientation is at 10:00)

\_\_\_\_\_ 2:00 PM to 7:00 PM (orientation is at 2:00)

\_\_\_\_\_ available for 8:00 AM starting time

\_\_\_\_\_ Please check here if you are willing to work where you are most needed.  
(Please list your preferences below as well.)

Please read through the attached job assignment descriptions and number your choices below in order of preference, with 1 being most desired:

- |                                 |                                   |
|---------------------------------|-----------------------------------|
| _____ Balloonist Assistant      | _____ Information Tables          |
| _____ Character Guide           | _____ Instrument Demonstrator     |
| _____ Clean-up Crew             | _____ Membership Lounge (Chinese) |
| _____ Coffeehouse Host          | _____ Musical Zoo Assistant       |
| _____ Crowd Management          | _____ Parking Lot Monitor         |
| _____ Escort: performers        | _____ Radio Monitor               |
| _____ Face Painting assistant   | _____ Refreshment Monitor         |
| _____ Freight Elevator Operator | _____ Set-up Operations           |
| _____ Gift Bag Distribution     | _____ Stage Crew                  |
| _____ Gift Shops                | _____ Stroller Check-in           |
| _____ Grounds Monitor           | _____ Theatrical Characters       |
| _____ Information Center (PIC)  | _____ Ticket Distribution         |
| _____ Information Floater       | _____ Volunteer Check-in          |
| _____ Information Restocker     | _____ Volunteer Refreshments      |

Job assignments will be made based on order of receipt (date) and desire to work the whole day.

Volunteers requesting full day assignments, please note if you wish to change assignments during the day.

Please identify any special needs or requests below. We will do our best to accommodate them.

(Example: can only work inside, wish to work with \_\_\_\_\_, physical limitations.) Please be specific.

T-Shirt size: \_\_\_\_\_ Medium \_\_\_\_\_ Large \_\_\_\_\_ Extra Large \_\_\_\_\_

T-shirts will be distributed at the orientation or on the morning of Open House only.

Please return the Friends: (SELF-MAILER: ADDRESS RESERVE SIDE)

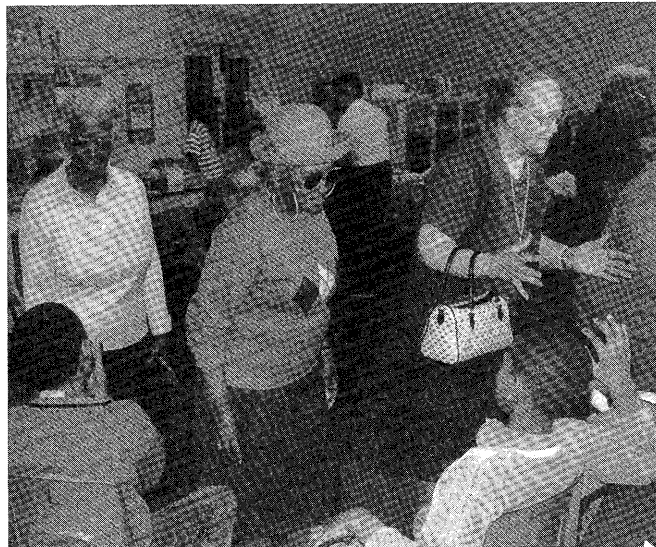


## V. AUTUMN STAGE

素人の高齢者をボランティアとしてリクルートし、語りべや即興劇の役者にトレーニングし、高齢者用施設などへの慰問公演ツアーを行っている。劇場やホールなどの活動拠点を持つボランティアではないが、即興劇というパフォーマンス・アーツと高齢者の生きがい再発見が結びついたユニークなボランティア活動と言える。

### 📄 施設・運営の概要

運営母体	The Encomium Arts, Inc.
所在地	PO Box 43296, Upper Montclair, NJ 07043
TEL	201-746-5184
FAX	201-746-2833
開館年月	1985年
年間予算	年間約1,000万円
組織体制	有給スタッフ：6～8名



### 😊 ボランティア制度の概要

名称	・Autumn Stage
導入時期	・1990年（ツアー公演の開始）
登録人数	・30～100名（年によって異なる）、年齢は60～80才。うち劇団員は20名弱、平均婦負例76,7才。
導入の経緯	・ある企業から15人乗りのバンの寄付を受けたことがきっかけ。
活動内容	・ニュージャージー州の中の養老院や病院、デイケア・センター、公民館、診療所、YMCA、大学の演劇科、高齢者社会問題科などで即興劇を上演。
募集方法	—
研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一番最初の面接を兼ねたワークショップで「即興とは何か」を理解するための体験トレーニングを行う。</li> <li>・素養のある人は、プロの役者のもとで継続的なトレーニングを行う。</li> </ul>
実費支給	—
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者用施設を訪れて公演を行うことによって、同じ高齢者がエネルギーに生きている、長い人生経験が“即興舞台”の素材になるなど、施設の高齢者が元気づけられることが多い。</li> <li>・公立学校や大学生を対象に行われる公演では、昔の生活・文化を伝えるという意味あいも生じる。</li> <li>・1989,95年度のニュージャージー州ボランティアプログラムの州知事賞を受賞。</li> <li>・メンバーの体調不良や資金不足なので本年度の活動は停滞気味。</li> </ul>

## インタビュー記録

- ・訪問先：The Encomium Arts, Inc.
- ・住所：PO Box 43296, Upper Montclair, NJ 07043
- ・電話：201-746-5184 FAX: 201-746-2833
- ・面会者：Dr. Rosilyn Wilder…創業者・主力運営者

### 1. 事業主体の概要

#### (1) 設立、予算規模等

- ・設立年：1985年
- ・有給スタッフについて：
  - ・今年度は通常より活動が停滞ぎみであるが、通常（健全時）の運営状態の「有給スタッフ」は、①年間のスケジュールとブッキングを調整・管理する者、②アート・コンサルタント（即ちプロの俳優、演技指導やデモンストレーションにあたる者のこと）の2種類。
  - ・②のスタッフについては、日当ベースの雇用。通常いちどきに6～8名を雇い、それらが二つのチームになって指導にあたる。二つのチームは、それぞれ“異なる文化テーマ”を扱うようにする。
  - ・①のオフィス・ワークは、さらに名簿上30～100人のシニア・ボランティアによってサポートされている。
- ・年間予算について：
  - ・今年度は活動が停滞しているが、最も活動が盛んだった年の年間予算は、9月のシーズン始めから翌年6月のシーズン終了時までの1年間で、公演のための予算が\$70,000～\$110,000、事務経費（電話代／郵送費／人件費／リハーサル・スペース代等）が一公演あたり\$50～\$750。公演現地への交通費は、上記に含まれない。

#### (2) The Encomium Arts の活動

##### ① Respect for Diversity リスペクト・フォー・ダイバーシティ

- ・小学校高学年～中学生を対象とするプログラム。地元の高齢者と一緒になって演劇づくりをする。

##### ② Autumn Stages オータム・ステージ

- ・演劇には素人の高齢者をボランティアとしてリクルート。彼らを、語りべや即興劇の役者にトレーニングして、高齢者用施設などへの慰問公演ツアーを行うプログラム。以下の報告は、この「オータム・ステージ」についてのもの。

### 2. オータム・ステージの活動内容

#### (1) 面接&ワークショップ

- ・ボランティア・スタッフの対象は、演劇の素養を持たない素人で、かつリ

タイアした高齢者。年齢は60歳以上～80歳代半ばくらいまで。

- 一番最初の面接を兼ねたワークショップでは、「即興とは何か」を理解してもらうための体験トレーニングを行う。

\*注：このワークショップ及び後述のトレーニング・セッションの見学を予定していたが、96-97年度の最初のワークショップ（11月）には参加者の多くが体調を崩したため中止になった。次のワークショップの予定は12月現在でまだ未定。昨今の文化関係への助成金縮小化のあおりをうけて本年度の予算がまだ決定できない状態で、そのため、活動は少々停滞ぎみのように見える。

## (2) ロザリン博士の説く「即興とは何か」：

- 「即興」とは、予定していたこととは違うことに直面した時にとる行動すべてを意味する。午後から始まるワークショップでは、「今朝から現在までの時間で、朝起きた時に予定していたのとは違うことが何かありませんでしたか？」といった問い掛けから始まる。集まったボランティア志願者たちは「昼ごはんを抜いてしまった」「友人の〇〇が電話でつかまらなかった」などと答える。「それで、あなたはどうか対処しましたか？」とロザリン博士が問う。「スナックを買って食べ食べここに着た」「代わりに△△のところへ言付けを頼んだ」などの解答が返ってくると、「それが！、『即興』ということなんですよ」と説明する。
- こうしたことから、「即興」ということが特別な技術や才能の要ることではなく、誰にでもできること、誰でもが人生の中で普通に行っていることだということを体得してもらう。
- 観客を参加させて行うオータム・ステージの即興劇も、「予定していたことと違うことに対処し続けること」から完成する舞台である。従って、特別な技術や才能など必要なく、人生の長い経験＝すなわち多くの“即興”をこなしてきた高齢者であれば誰にでもできることだ、ということを読む。
- 「誰にでも」とは言え、向き／不向きはある（例えば、科学者のような“分析型”の人は不向きとのこと）。「不向き」の人は、ツアー公演のブックイング担当、チケット・セールス担当、DMやチラシの配付郵送担当などにまわる。

## (3) トレーニング・セッション

- 「向いている」人は、Encomium Arts が雇ったプロの役者のもとで継続的なトレーニング・セッションに参加。トレーニングの内容は、「語り」「即興」「舞踊」「マイム」「発声練習」など、個人の資質により異なる。特に「即興」のトレーニングについては、プロの役者がみずからさまざまな短い即興劇をデモンストレーションして（いかに即興劇が難しいものではないということを見せる、という方法で指導する）。
- シーズン中は月に3回～5回の顔合わせを兼ねたトレーニング・セッションがあるため、ボランティアとはいえ、相当な度合いの傾倒（コミットメント）がないとメンバーを務めるのは無理。
- トレーニング・セッションは、大学の演劇部の生徒や地元住民の参加も可。

## ■ Autumn Stage

主要スポンサーであるニュージャージー州のブルームフィールド・カレッジの講堂で行われることが多い。

### 3. オータム・ステージの公演内容

#### (1) ツアー公演

- ・ツアーの開始は1990年以来。ある企業から15人乗りのバンの寄付を受けたことから始まった。
- ・おもな公演場所はニュージャージー州の中の養老院や病院、デイケア・センター、公民館、診療所、YMCA、大学の演劇科、大学の高齢者社会問題科、高齢者問題に関するセミナー・コンフェレンスなど。

#### (2) 公演の内容

- ・公演はたいてい2時間。最初は、ボランティア・メンバーが自分の人生のひとコマを語る「ライフ・ストーリー・テリング」で始まる。
- ・語りの内容は、「子供だったころに毎朝魚売りがやって来て……」「少女のころ、カーテンを取り替えなさいと母親に言われたけれどプッシュピンがみつからなくて……」といった他愛のないものが多い。が、そんな中にも、「そういえば昔は魚売りなんてものがあつたなあ～」「カーテンレールなんてのがなくてそういえばプッシュピンを使つてたっけ…」といった思いを観客に喚起させるヒントが潜んでいる。
- ・「誰かカーテンをつけるの手伝ってくれる人、いませんか？」といった展開で、観客の舞台への参加を呼び掛ける。舞台上上がった観客のセリフ、身振り、動作などに応じて、“即興”でストーリーを展開して行く。

● Life Drama における即興劇の様子

- Come, Step Into My Life by Rosilyn Wilder, New Plays Book, 1996- より





● ツアー10周年を祝うオータム・ステージ座のメンバー  
- Come, Step Into My Life by Rosilyn Wilder, New Plays Book, 1996-より

### 3. 劇団員ボランティアのプロフィールと動機

#### (1) プロフィール

- ・現在劇団員となっているボランティア・メンバーは、約17～20名ほど。核となっているメンバーは7名。年齢層は62歳～80歳代半ばまで。平均76、77歳。ボランティア・メンバーの最長歴は11年。
- ・典型的な劇団員像というものはない。現役時代の職業も様々、現在の家族構成も独り者あり、子供と妻と暮らす大家族の者あり、老夫婦者あり、という具合に様々。

#### (2) 動機

- ・「Now is the time to give back (世の中にお返しをする時期だ)」というのが、オータム・ステージのボランティア劇団員にとっての参加の動機。
- ・「老人はこうあるべき」という通念に押しまかされたくないという思いのある人が多い。

### 4. プログラムの意義

- ・ニュージャージー州のような一般的なアメリカでは、高齢者の楽しみは、食べることやギャンブル(カジノなど)、井戸端会議など、“非生産的なこと”に集約される。この有り余る時間を“生産的な行為”に費やすことは、高齢者自身にとっても人生の張り合いとなり、また社会全体にとっても意味がある。

## ■ Autumn Stage

- 高齢者用施設を訪れて公演を行うことによって、施設の高齢者が元気づけられることが多い。「同じ高齢者がエネルギーに生きている」「長い人生経験が“即興舞台”という生産的な材料になり得る」という事実が、世間を忘れて施設内に埋没してしまいがちな彼らを鼓舞するとのこと。
- 公演が、公立学校の生徒や大学生を対象に行われる時には、「昔の生活・文化を語り伝える」という意味合いも生じる。特に、最近の（アメリカの）子供は、親の離婚、家庭の崩壊、両親の共働き、核家族化といった現象のせいで、過去と現在の自分との接点を持たず、そのため過去を通じて現在の社会を眺めるという視点も持たないままに育つケースが多い。高齢者による生の語りとそこに派生する“即興”のライブ感は、このような社会問題を改善するひとつの対策でもある。
- 1989年度及び1995年度の「ニュージャージー州・ボランティア・プログラム」の“州知事賞”を受賞している。

## 5. 類似のプログラム

- リタイアした高齢者をパフォーマーに仕立てるというボランティア・プログラムは、米国ではある程度一般的な事業のようである。類似のプログラムには、以下のようなものがある。

### ① 60 KARATS

- 1987年に、ヴァージニア州アーリントン市でスタートしたプログラム。60才以上のボランティアたちがタップダンスを演じ、ギャラも観賞代も無料の公演を行うというもの。ただし、任意の鑑賞代は受け取る。受け取った観賞代は寄付金の扱いで、運営費にまわる。
- 公演の場所と機会は、主に養老院やその他の施設でのチャリティ・イベント。
- トレーニングは週2回。

### ② Senior Active Program of the Barn Players

- 1978年に、カンサス州メリアム市で、25任のリタイアした高齢者たちが自ら集まって作った集団。
- 30分の短いオリジナル劇を6本ほどレパートリーとして持つ。テーマはいずれも「高齢」に関するもの。ギャラは無料。観賞代は10ドル～25ドルの間で、すべて劇団の運営費にまわる。
- 公演の場所と機会は、主に養老院、学校、その他の施設。
- トレーニングは週に最低3回。月に最低2海野リハーサルを行う。学校施設などで公開リハーサルを行うこともある。

—以上—



## VI. The PUBLIC THEATER

パブリック・シアターでは、ボランティア制度はないが、インターン制度が導入され、運営の上で成果をあげている。米国の文化施設ではインターン制度を導入しているところは多く、ボランティアに準ずる存在として考えることができるため、その一例としてパブリック・シアターの事例を調査した。

### 📄 施設・運営の概要

運営母体	The Public Theater
所在地	425 Lafayette Street, New York, NY 10003
TEL	212-539-8680
FAX	212-539-8505
開館年月	1965年
複合形態	複合館
施設特性	演劇劇場
座席数	91～299席までの6劇場
年間運営予算	年間12.1億円(1,100万US\$)
自主事業数	—
立地都市人口	731万人(1992年)
組織体制	有給スタッフ約65名



### 😊 インターン制度の概要

名称	インターンの導入状況は各部署の裁量に任されている(以下はコミュニティ事業部における内容)
導入時期	・1993年(コミュニティ事業部の設置年)
登録人数	・3名(ヒスパニック系2名、黒人1名)
導入の経緯	・これまで当劇場に縁の薄かった黒人やヒスパニック系、アジア系などのマイノリティの人種を観客として巻き込むため、その水先案内人となるインターンを採用。
活動内容	・今までパブリック・シアターと無縁だった人を観客として連れてくること
募集方法	・特に系統だった採用制度は採っていない。理事会役員からの紹介やコミュニティ事業部ディレクターのコネクションによって。
研修	・最初にヒントを与え、あとはインターン独自の考えと行動に任せる。「経験を積んでいる」という意識ではなく「仕事をしている」という意識で働いてもらう。
実費支給	・勤務時間は週20時間以上40時間以下(月～金の10時～16時)、週給は一律50ドル。
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターンのプロフィールや動機はまちまち。劇場の運営も知っておきたいと考えた女優、イェール大学のアート専攻の黒人などで、コミュニティ事業部の新しい観客開発に力を発揮できるバックグラウンドを備えた人が採用されている。</li> <li>・劇場側のスタッフは、彼らをチームの一員として扱い、手足の係り、雑用係にはしないよう心がけている。</li> <li>・パブリック・シアターのインターンで実績と経験を重ね、実際にリンカーン・センターのマーケティング課に就職した人もいる。</li> </ul>

## インタビュー記録

- ・訪問先：The PUBLIC THEATER
- ・住所：425 Lafayette Street, New York, NY 10003
- ・電話：212-539-8680 FAX:212-539-8505
- ・面会者：Ms. Donna Walker-Kuhne…Director of Community Affairs（コミュニティ事業ディレクター）

### 1. 事業主体の概要

#### (1) 設立

- ・創立者のジョゼフ・パップによって、無料の移動野外劇活動「シェイクスピア・フェスティバル」を行う非営利組織として設立されたのは、1954年。
- ・セントラル・パークに恒久野外劇場「デラコルテ・シアター」を開設したのは、1961年。
- ・ダウタウンに現在の5つの小劇場施設を擁する「パブリック・シアター」をオープンしたのは、1965年。
- ・有給スタッフ数：65名前後。季節や年度によって多少の前後あり。
- ・年間予算：約1,100万 US\$（約12.1億円）

#### (2) 組織と施設の概要

- ・「パブリック・シアター」というのは次の2ヶ所の施設を運営する非営利団体の名前であり、同時に、そのうちのひとつの劇場施設ビルの名称でもある。劇場施設としてのパブリック・シアターには常駐の劇団はおらず、非営利団体パブリック・シアターが毎シーズンごとに複数の新作劇をプロデュースして以下の2ヶ所の施設で公演を行う。

##### ① 劇場施設ビル「パブリック・シアター」の施設構成

- 1] ニューマン・シアター：299 席。階段状客席を持つ通常の前舞台型劇場。パブリックシアター内の5劇場の中で一番大きい。
- 2] アンスペーシャー・シアター：275 席。3/4 扇状のアリーナ型劇場。ミュージカル『ヘアー』の初演（1967年）が行われた劇場。
- 3] マーティンソン・ホール：167 席。舞台／客席のレイアウトが自由になるフレキシブル・スペース。2 階席のある、天井高の非常に高い劇場。
- 4] ルエスター・ホール：150 席。舞台／客席のレイアウトが自由になる劇場。
- 5] シバ・シアター：99 席。オープン・スペース・シアター。
- 6] リトル・シアター：91 席。映写室。映画上映用の階段劇場。

##### ② 野外円形劇場「デラコルテ・シアター」

- ・セントラル・パーク内にある。毎年夏期のみ使用される。観客収容人数は1,881名。入場無料。ここでは毎年、「パブリック・シアター」のプロデュ



● エントランス・ロビー

ースによるシェイクスピア劇の他、2~3のプロダクションが開催される。近年では、台本はシェイクスピアのオリジナルのままに現代的なプロダクションにリメイクされたものなども発表されている。

### (3) 「パブリック・シアター」のロケーション／催し／客層

- ニューヨーク大学、現代美術のメッカのソーホー地区、アナーキーな若者の多いイーストビレッジ地区、自由人の多いユニオン・スクエア地区などに4方を囲まれたダウントウンに位置する。人種的な特徴よりも、むしろ年齢的、職業的に特徴のある地区＝すなわち、大学生～40代前半のアーティストや自由人が多いあたり。
- 10月から翌3月までのシーズン期間中、1カ月にひとつ、年間約8作の新作プロダクションが催される（上演される劇場はそれぞれのプロダクションにとって最適の場所が使用される）。
- 『ヘアー』『コーラスライン』をはじめ、歴史に残る数々の名作の初演をプロデュースして来た歴史を持ち、ブロードウェイまでのぼった作品は、二十作を越える。
- 創設者のジョゼフ・パップがエグゼクティブ・ディレクターを務めていた時代は、圧倒的に白人の知識層の観客に占められていた
- が、93年に黒人の劇作家兼プロデューサーのジョージ・C・ウルフ（ブロードウェイの『ジェリーズ・ラスト・ジャム』『エンジェルズ・イン・アメリカ』のプロデューサーとして有名）が三代目のエグゼクティブ・ディレクターとして就任して以来、白人・アジア系・黒人・ヒスパニック系それぞれの戯曲家・演出家の作品を、年間を通じてほぼ均等に開催。そのため、近年では、マイノリティーの客層が全体の半分を占めるようになった。

#### (4) 発足の背景と歴史的な経緯

- 1954年、ジョゼフ・パップが、ダウントウンの教会で無料の夏期シェイクスピア劇を開催。翌年からサマー・フェスティバルとして恒例となる。
- 1957年、ニューヨーク市中をくまなくめぐる入場無料のキャラバン公演を開始。
- 1959年、セントラル・パークにキャラバンを滞在させ、無料のシェイクスピア劇を続ける。61年、これを追い出しにかかったニューヨーク市との間に訴訟問題が起きるが、富豪のジョージ・デラコルテらが資金を出し合っ  
てパーク内に野外劇場建設、これを市に寄付するという形で決着。以来、  
デラコルテ・シアターでのジョゼフ・パップのプロデュースによる無料シ  
ェイクスピア・フェスティバルは、夏期の恒例となる。
- 1965年、歴史的な建築(1881年竣工)である「パブリック・シアター」のビ  
ルを解体して住宅ビルにしようとして計画していたディベロッパーに対して、  
当時開設されたばかりの「ニューヨーク市歴史的建築保存課」が事業の進  
行をストップさせ、同年、市がこのビルを買い取り、非営利法人「パブリ  
ック・シアター」に半永久貸与する措置をとった。
- 劇場への内装改装工事の後、1967年、『ヘアー』の初演にてこけら落とし。

## 2. インターンシップ・プログラムについて

- パブリック・シアターではボランティアは一切導入しておらず、代わりに  
インターン制度を導入している。その導入の度合いは各部署ごとの裁量に  
任されており、非営利団体全体としての統一したポリシーはない。

\*注：ここでは、ジョージ・C・ウルフが3年前に就任した時に新設し  
た部署、「コミュニティ・アフェアーズ(コミュニティ事業部)」  
におけるインターン制度について話を聞いた。

### (1) コミュニティ・アフェアーズ部

- コミュニティ・アフェアーズ部とは、マーケティングとセールスとアウト  
リーチをすべて足したような機能を担うところ。劇場の観客構成を「ニュ  
ーヨークの多彩な人種構成の縮図」のようにすること、すなわち、白人だ  
けでなく、いかに黒人やヒスパニック系やアジア系などマイノリティー人  
種を観客として巻き込むか、を画策する部署である。

\*注：一般的に言って、「観劇」を習慣的にする人種、あるいは劇場通  
いをする人種というのは、ほとんど白人で構成されている。

- 具体的には、劇場通いの習慣の無い人たちというのは「要するにどんな  
人たちなのか」「どこにいる人たちなのか」「なぜ劇場へ行かないのか」  
ということを探り出すことから、業務はスタートする。

### (2) インターンのプロフィール

#### ① 採用の対象となる人材

- 頭の回転がよく、創造力があり、ねばり強く、整理されており、真摯で、  
情熱のある人。そして、アーティストへのリスペクト(尊敬の念)を抱い

ている人。

- いままでパブリックシアターとは無縁だった“コミュニティ”の出身者であること。その“コミュニティ”の人間をパブリック・シアターに動員するための「水先案内人」として機能することを期待するため。

\*注：この場合の「コミュニティ」とは、地理的環境から言うところの群、経済的環境から言うところの群、人種的環境から言うところの群、文化環境から言うところの群、などを指す。「コミュニティ」という言葉の解釈については、別章『米国のボランティアを取り巻く社会構造全体についてのまとめ』を参照のこと。

## ② 採用の方法と雇用制度

- 特に系統だった採用制度はとっておらず、理事会役員からの紹介・推薦や、Walker Kuhne さんの個人的なつてや知り合いに直接声をかけて、というケースが多い。
- 劇場運営に興味のある高校生～大学院生などが「インターン希望」の手紙と共に履歴書を送って来ることも多い。
- 勤務時間は、週あたり最低20時間以上、40時間以下（月～金の10時～6時）。勤務時間の多寡にかかわらず、週給は一律50ドル。
- 採用は一時期ごとに、約3名。96年11月現在では、ヒスパニック系が2名＋黒人1名が採用されている。

## ③ インターンの業務・位置づけ・指導

- 「いままでパブリックシアターとは無縁だった人間をパブリック・シアターに観客として連れてくること」がメインの業務。
- どのようにしたら上記の業務が遂行・成就できるかについて、初めのヒントとガイドだけを与え、あとはインターン独自の考えと行動に任せるようにする。
- 客を探す、チケットを売るという行為は「修練」ではなく劇場の生存をかけた「仕事」。従ってインターンにも、「経験を積んでいる」という意識ではなく「仕事をしている」という意識で働くように指導する。一方ディレクターの Walker Kuhne さん自身も、あくまで彼らを「チームの一員」として扱うよう心掛ける（「手足の係」「雑用係」にはしない）。
- 夏のデラコルテ・シアター（＝シェイクスピア・フェスティバル開催時）にはインターンは採用しない。フェスティバル開催中の業務は、整理券を配る、電話の問い合わせに答えるといった一般事務ばかりが多く、インターン各自の能力や創造性・行動力を発揮するチャンスがほとんど無いため。

## ④ 3年前～現在までの優秀なインターン採用者の例

- Ms. Lea の場合：若手の女優。劇場の運営サイドのことも知っておきたいという動機で参加。雇用期間は6カ月。彼女の使命は、「中国」をテーマにしたプロダクションのためにいかに多くのアジア系の観客を導入するか、ということだったが、そのために当時彼女が作成した「アジア系マーケティング・リスト」は、本年度のプロダクションでアジアをテーマにした『GoldenChild』のプロモーションにも大いに役立っている。

## ■ The PUBLIC THEATER

- Ms. Wanda の場合：若手の女優。生活を支えるためにショップで売り子のアルバイトをしていたため、ワーキング・クラスのネットワークを沢山もっており、その“コミュニティ”の人々を観客として動員することに力を発揮した。また、劇場関係の非営利団体だけでなく社会福祉関係をはじめあらゆる団体にアプローチ。それらのコネクションを通じて多様な観客動員に成果をおさめた。
- Ms. Tiffany の場合：イエール大学大学院のアート専攻の黒人。雇用期間は半期。マイノリティ・グループの非営利団体、活動団体、福祉団体などあらゆるルートを通じて、地理的にも人種的にも文化的にもパブリック・シアターと無縁だったハーレム地区の住民を数多く観客として導入することに成功。この履歴のおかげで、彼女は卒業と同時に、リンカーン・センターの「ジャズ・アット・リンカーンセンター部」のマーケティング課に就職した。

### ⑤ インターンに対する評価基準

- いかにか多方面（文化・社会・教会・健康・福祉・政治など）の非営利団体とネットワークを広げるか、その行動力。
- 上記各団体の持つ既存のメーリング・リストや理事会役員の人脈などをいかに利用するか、そのポイントを捉える創造力。
- 初めて劇場を訪れる観客が疎外感を味あわないですむような「ウェルカム・フィーリング」を演出する社交性。

## 3. その他のインターンシップの例

- 年度の変わり目を前にした季節（5月～6月）には、大学生のインターンシップを募る非営利団体が増える。助成金情報ばかりを扱う図書館「ファウンデーション・センター」に掲示されていたインターン募集の概要書、参考までに3種類ほど添付した [資料 PT-1参照]。

—以上—

資料 PT-1 : ALICE FARLEY DANCE THEATER のインターン募集文書

-Foundation Center 掲示資料例-

*Looking Glass Productions, Inc.*

**ALICE FARLEY DANCE THEATER**

812 Broadway, 3rd Floor  
New York City, New York, 10003  
212-420-9208

MAY 06 1996

*Office Interns Needed!*  
Theater Interns

ALICE FARLEY DANCE THEATER seeks interns for project beginning May 1, 1996, continuing through August.

3 Positions available: 1) costume construction/puppet building - carpentry skills, knowledge of mechanics a plus - basic sewing.

- \* 2) production assistant/office work.
- 3) understudy dancer/puppeteer.

Show is a theater/live music collaboration between choreographer/designer Alice Farley and composer Henry Threadgill being created for the Henson Puppet Festival at the Public Theater, opens this September. Title is EROTEC (the human life of machines).

ALICE FARLEY DANCE THEATER is a resident dance company of La MaMa ETC. Work combines dance, puppetry, sculptural costuming, magic effects and circus techniques. "...a magician of light whose work falls somewhere between Alwin Nikolais and Oskar Schlemmer..." NY Times.

Low pay but very interesting project, good credit, and could lead to on-going work.

Fax resume to Alice Farley: (212) 420-9208.





## VII. MAYAR'S VOLUNTARY ACTION CENTER (MVAC)

MVAC は、ニューヨーク市長直轄の部署として、文化以外の分野を含め、あらゆる分野でボランティアをしたいと考える市民と、ボランティアを採用したいと考える組織や団体をつなぐ機関。市民、機関双方のデータベースを構築し、両者のマッチング業務を行うほか、ボランティア受入団体に対する基礎オリエンテーションやボランティア・マネージャーを対象とする各種ワークショップやコンサルティングも行っている。

### 📄 機関の概要

運営母体	The City of New York
所在地	61 Chambers Street, New York, NY 10007
TEL	212-788-7550
FAX	212-788-7570
開設年	約 30 年前
年間運営予算	(市役所の機構の一部で、部門としての予算は算出不能)
立地都市人口	731 万人 (1992 年)
組織体制	有給スタッフ：5 名、ボランティアスタッフ：約 35 名



### 😊 活動とサービスの概要

活動内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>①データベース管理・広報：ボランティアをしたい市民、ボランティアを求めている団体のデータベース管理と双方のマッチング業務。</li> <li>②ボランティアに関するトレーニング：ボランティア受入団体への基礎トレーニング、ボランティア・マネージャーを対象としたワークショップなど。</li> <li>③ネットワーキング、啓蒙活動：ボランティア管理者のための非営利団体の年次総会の共催、ボランティア・サービス賞の授与。</li> </ul>
ボランティア希望者に対する活動内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>パンフの配布、ローカル・ケーブル局やラジオ局での募集放送。</li> <li>希望者には MVAC に出向いてもらい、面接をしながら分野や業務内容などの要望を確認し申込用紙に記入。その場でボランティア募集データベースを検索し、希望にかなうものがあればプリントアウトする（団体への連絡は希望者自身が行う）。</li> </ul>
ボランティア募集团体に対する活動内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>問い合わせをしてきた団体に「リクエスト用紙」を送付（特に広報は行っていない）。</li> <li>団体は分野によって98種類に分類され、業務の内容、時間などの情報が登録される。</li> <li>オリエンテーションが必要と記載してきた団体には、担当者を集めてボランティア・マネージメントに関するオリエンテーションを行う。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>団体へのオリエンテーションの内容は、ボランティアと有給スタッフの違い、ボランティア導入上の心得、ボランティアの査定方法、理想的なボランティア管理者など。初めて導入する団体は、「無料の労働力」と考えている場合が多いので、まずその考えを改めることが重要。</li> <li>ボランティアを採用すること自体がたいへんだと考えている団体が多いが、実際には人材を捜すことより、ボランティアを使うことの方がたいへん。この認識を持たずにボランティアを導入して苦勞する非営利団体は少なくない。</li> </ul>

## 📖 インタビュー記録 📖

- ・訪問先：MAYOR'S VOLUNTARY ACTION CENTER (MVAC)
- ・住所：61 Chambers Street, New York, NY 10007
- ・電話：212-788-7550 FAX: 212.788.7570
- ・面会者：Ms. Carol Freidland…Deputy Director (副ディレクター)

### 1. 事業主体の概要

#### (1) 設立

- ・約30年前

#### (2) 組織の概要

- ・ニューヨーク市役所の機構の一部。市長直轄の部署。
- ・有給スタッフ数：数カ月前までは8名。インタビュー時点では5名（内3名が中間管理職、2名が補助スタッフ）。NY市の赤字対策の一環として人員削減の傾向にある。
- ・ボランティア・スタッフ数：約35名。ボランティア希望者への面接と、その内容を用紙に記入する業務を担当する。

#### (3) 年間運営予算

- ・オフィス・スペースからコンピュータ機器まで、すべて巨大な市役所の機構の一部を利用している形になっているので、人件費以外の部分の明快な「専用予算」は測りがたい。
- ・人件費も、上述のように削減の傾向にあるため、「本年度〇〇ドル」という確定予算としては語れない。
- ・MVACの傘下にはありながらも法的には独立した非営利団体「ニューヨーク市ボランティア・アクション・コーポレーション」という組織があり、NY市の予算とは別枠のファンドレイジングを行う。各種印刷物の制作などは、このコーポレーションが集めた資金（あるいは現物調達）でまかなわれることが多い。

### 2. MVACの活動とサービス内容

#### (1) 活動とサービスの概要

##### ① データベース管理&広報

- ・ボランティアをしたい市民の情報のデータベース管理。
- ・ボランティアを求めている団体（非営利法人のみ）の情報データベース管理。
- ・上記双方のマッチング（紹介）サービス。

##### ② ボランティアに関するトレーニング

- ・ボランティア受け入れ団体に対する、基礎オリエンテーションの提供（無

料)。

- ボランティア・マネージャーを対象とする各種ワークショップ (有料)。
- 特別なボランティア・プログラムやプロジェクト・ベースでボランティアの導入を考えている団体に対するコンサルティング (有料または無料)。

### ③ 各種ボランティア関連組織とのネットワーキング、及び啓蒙活動

- 例: 「Association for Volunteer Administration (ボランティア・アドミニストレーション協会)」というボランティア管理者のための会員制非営利団体の年次大会を共催。
- 例: 優秀なボランティアと優秀なボランティア・プログラムの表彰、市長賞 (ボランティア・サービス賞 [資料 MV-1参照]) の授与など。

## (2) ボランティア希望者に対する活動内容

### ① 募集と広報活動

- パンフレットを制作し、そのパンフを市の関連の人目につく様々な場所に配付・設置 [資料 MV-2参照]。
- スタンダード・パンフレットは二つ折りで、次の6種類からなる6色 [資料 MV-3参照]。
  - 文化 Culture 関連分野
  - 教育 Education 関連分野
  - ヘルス Health 関連分野
  - レクリエーション Recreation 関連分野
  - 福祉 Human Services 関連分野
  - 市民公共活動 Public Interest 関連分野
- それぞれの分野にはどのようなボランティア参加先があるか、リストアップされている。その他、特別印刷物として、エイズ関連施設団体のリスト・パンフなどもある [資料 MV-4参照]。
- ローカル・ケーブル局やローカル・ラジオ局に頼んで募集の旨を放送してもらう。
- 市長賞の授与については、市長室の広報担当が各プレス関係にプレス・リリースを配付・送付。
- 「週刊誌『NYマガジン』が十年前にMVACについて特集した記事を、定期刊行物図書館で読んで…」、とあって希望してくるボランティアもいる。

### ② 面接&データ・インプット

- 希望者にはMVACオフィスに面接に出向いてもらう。毎週火・水・木のいずれかの時間を事前に設定。
- 面接官は、MVACオフィスのボランティア・スタッフ (経験の浅いボランティア・スタッフは経験の長いボランティア・スタッフ同席で面接を行う)。
- 面接の目的は、「どの分野の」「どのような仕事を」「どれくらいの頻度と時間を割いて」遂行することが可能かを明確にすること。ボランティア希望者は「自分がどれくらいのことができるか」について漠然としたイメージしか持っていないことが多いため。「本人の希望+本人の得意技術+

## ■ MAYOR'S VOLUNTARY ACTION CENTER (MVAC)

可能な範囲」の接点を具体的見いだすことにはかなりの修練がいる。

- 面接に沿って「申込用紙」に必要事項を記入 [資料 MV-5参照]。
- その場でコンピューターの「ボランティア募集データベース」を検索し、希望にかなうものがあれば情報をプリント・アウト。希望者から直接非営利団体の方へ連絡してもらう [資料 MV-6参照]。

### (3) ボランティア募集团体に対する活動内容

#### ① 広報

- 特に行ってない。最も利用・参加度の高いのは教会関係、および学校・教育関係の非営利団体。

#### ② データ・インプット

- 募集の問い合わせをしてきた団体には、「ボランティア・リクエスト用紙」を送付 [資料 MV-7参照]。
- 返送されてきたものをインプット。インプットに際して、団体の種分けコードは全部で98項 [資料 MV-8参照]。うち、Culture に関するものは次の12項。

- 芸術系学校
- 図書館
- 劇場・劇団
- ミュージアム
- 歴史建築保存関係
- 公園
- 庭園
- 音楽関係団体
- 美術関係団体
- ダンス・カンパニー
- 動物園
- その他の文化関係団体

- さらに、「どのような部署の仕事で」「具体的には何をして」「週に何回、何曜日、どの時間帯に、何時間働いて欲しいか」などの情報をインプット。

#### ③ オリエンテーション

- リクエスト用紙の「トレーニング希望欄」に「Yes」の旨を記載してきた団体の担当者を集めて、ボランティア・マネージメントについての基礎的なオリエンテーションを行う。
- オリエンテーションの内容は、「ボランティアと有給スタッフとはどう違うか」「ボランティア・プログラムを設定するにあたっての心得」「ボランティア・プログラムの査定の方法」「理想的なボランティア管理者とは」等々と題された様々な印刷物を配付。それらを教材にして2時間の講義を行う。
- ボランティアを初めて導入しようとしている団体のスタッフは、ボランティアを「無料の労働力」と思っている場合が多い。この認識をまず改めさせ、ボランティアにはボランティア用の別個の管理・査定の基準が必要で

## ■ MAYOR'S VOLUNTARY ACTION CENTER (MVAC)

あることを知ってもらうことが、オリエンテーションの最大の目的。

### ④ 情報の管理・更新

- ・1年に1度、MVACのサービスを通じてのボランティア状況（未雇用、中断、継続など）がどうなっているかを報告してもらうよう手紙を出す。返信率は極めて低い。だが、MVACの使命は、「紹介サービス」ではなくあくまで「照会サービス」であるため、マッチングがうまく行っているかどうかを追跡することは、本来の業務目的の外にあると考えられる。従って、返信率の低さは問題にしていない。
- ・新たな募集希望の通知があれば、その都度データベースを更新。
- ・2～3年間、その非営利団体から何の音沙汰も無い場合は、データベースから削除する旨を通達（手紙または電話にて）する。

## 3. MVAC から見た一般ボランティアの動向

### (1) 発足から現在までの動向

- ・ごく手作りの小規模ベースで照会サービスを始めたのが、約30年前。当時ボランティア導入にもっとも積極的だったのは、教会関係および学校関係の団体。近年ではエイズ関連、高齢者関連、ホームレス関連の諸団体が最もボランティア・プログラムについて活動的。
- ・コンピューターによるデータベース化が始まったのは1988年。実際に活用に至ったのは1991年ごろ。
- ・文化・芸術系のボランティアに関して言えば、MVACの活用が盛んになってきたのは十年弱ほど前から。企業の吸収合併による企業からの寄付金の減少、および景気後退のあおりからくる公的援助の縮小などが、「スタッフ削減→ボランティアの導入」の動きを生んだ（ただし、ミュージアム関係は昔からボランティアが盛ん。例えばアメリカ自然史博物館では、ボランティアの数は500名。ミュージアムでは「ツアー・ガイドはボランティアが担当する」というしきたりが長くある）。

### (2) 近年のボランティアをめぐる種々の動向について

- ・昔のボランティアは、あまり職種にこだわらなかったが、近頃のボランティアは違う。例えば「劇場でボランティアをしたい」人でも、オフィス業務（裏方の事務仕事）なのか、ボックス・オフィス（窓口発券係）やアシャー（座席案内係）（＝表仕事）なのか、などの割り当てによって満足・不満足の違いが出る。
- ・昔のボランティアは「仕事を持たない人」が主力だったが、近年では働く人（プロフェッショナル）の参加が増えている。特に、動物園や植物園など、子供の教育にメリットのありそうな場所で、この傾向が強い。
- ・芸術団体へのボランティア希望者は、古来、有給スタッフへの昇格や人的ネットワークへの期待から、アーティストが応募してくる場合が少なくない。それに対し、近年の芸術団体が求める人材は、ビジネスのオフィス環境で働いているボランティアであることが多い（コンピューターの知識が

■ MAYOR'S VOLUNTARY ACTION CENTER (MVAC)

求められるという理由が大きい)。

- ほとんどの団体は、ボランティアを「リクルートすることが一番困難なこと」だと思っているが、実際には、人材自体を探すのは比較的簡単。難しいのは彼らを「使う」ことであり、この認識を持たずに実際にボランティアを導入して苦勞する非営利団体が少なくない。
- 非営利団体の有給スタッフには、「優秀なボランティアを導入することは自分の有給スタッフとしての地位が脅かされるのではないか」と恐れる者が珍しくない。特に近年は寄付金や助成金の縮小のあおりからスタッフ人員を削減する非営利団体が多く、実際にそれをボランティアの労力でカバーしようとするところも増えてきている。

—以上—

資料 MV-1 : 1996 Mayor's Volunteer Service Awards の受賞者と受賞理由

# MAYOR'S VOLUNTEER SERVICE AWARDS

## TOP WINNERS - INDIVIDUAL

**MICHAEL HARPER** - for opening doors of opportunity for at-risk adolescents who participate in Bank Street College's after-school and weekend youth programs. As part of the group Concerned Black Men, he has strengthened the program and the range of activities it can offer -- working with an environmental class, accompanying groups on field trips, mentoring teens, and raising funds for resources the project could not otherwise afford.  
*Supervisor:*  
*Maureen A. Hornung*

**LYNDREW NESMITH** - for creating first safety, then community, in his East New York neighborhood. Working with the Genesis Crescent Project, he has infiltrated drug-infested buildings, mobilizing residents to reclaim more than 20 buildings from dealers. He has helped create a "resurrection" zone from a "dead" zone by involving neighbors in cooperative problem solving to stabilize the blocks, and by creating youth mentoring programs for children who formerly had nothing to do but "hang out."

**VINCENT J. O'NEILL** - for fostering a synergistic partnership between the Boy Scout troop he leads in the Bronx and the Borough's Van Cortlandt Park. The Scouts, under his leadership, provide ongoing and badly needed clean-up and restoration work in the Park, which, in turn, serves as a classroom for challenging environmental and historical learning experiences for the boys.  
*Supervisor:*  
*Marianne O'Hea Anderson*

## TOP WINNER - GROUP

**NON-PROFIT COMPUTING, INC.** - for working to make the "information superhighway" accessible to all. The group has donated more than 1,000 computers a year to schools, and governmental and non-profit agencies in all five boroughs. Its staff of pro-bono volunteers provides free technical support for school computer labs, network Internet and World Wide Web projects.  
*Supervisor:*  
*John L. German*

## CITATIONS- INDIVIDUAL

**MARK C. HECKLER** - for assuring that persons with AIDS who are living at the bottom of the social assistance ladder receive the benefits to which they are entitled. He founded and oversees the Samaritan Project, which works through the food pantry of the Metropolitan Community Church to identify and serve those most in need.  
*Supervisors:*  
*Reverend Pat Bumgardner*  
*Malcolm Smith*

## CITATIONS - GROUP

**REACH TO RECOVERY STATEN ISLAND UNIT - AMERICAN CANCER SOCIETY** - for assisting post-mastectomy patients to meet the impact of their breast surgery with courage and confidence. Volunteers in this program sponsored by the American Cancer Society have themselves undergone mastectomies. The women visit new patients the day after surgery, offering psycho-social support and practical suggestions based on their own experiences in recovery.  
*Supervisor:*  
*Alberta Brescia*

**WASHINGTON IRVING HIGH SCHOOL BUSINESS ADVISORY COUNCIL** - for turning around a troubled school through substantial infusions of human and financial resources. The BAC sponsors tutoring and mentoring programs, a summer jobs program, and supports an award-winning student newspaper. It also has tackled the refurbishment of rundown classrooms with donations of paint, repairs, and new equipment.  
*Supervisor:*  
*Robert B. Durkin*

## HONORABLE MENTION - INDIVIDUAL

**RUTH AWNER** - for 15 years of unstinting advocacy on behalf of clients of Onestop, a comprehensive senior citizen service center on Manhattan's Upper West Side. A senior herself, she works four days a week helping elderly clients obtain benefits and legal representation, avoid evictions, and secure counseling.  
*Supervisor:*  
*Florence Lynch*

**SCOTT CAMPBELL** - an executive chef, for assisting culinary arts students at Park West High School to prepare food, cook and serve in a professional manner. He teaches monthly classes at the school, invites students to his restaurant to observe and learn, and arranges job training opportunities for students in the restaurant industry.  
*Supervisor:*  
*Gloria C. Tandjerian*

**LINDA KRAMER** - for enthusiastic dedication to researching and disseminating information about wildlife and the environment at the Central Park Wildlife Center. In addition to guiding tours and giving talks to visitors from all over the world, she applies her "can do" attitude to numerous research projects and to preparing training materials for teachers and Center docents.  
*Supervisor:*  
*April Rivkin*

**REV. DR. CHARLES E. LOTT** - for emulating Johnny Appleseed in his quest to beautify East New York's Glenmore Avenue. For the past 10 years he has worked tirelessly in one of the most abandoned parts of Brooklyn, cleaning up rubble-strewn lots, removing abandoned cars and encouraging residents to plant Greenthumb gardens.

## HONORABLE MENTION - GROUP

**THE INDUSTRIAL BANK OF JAPAN, LIMITED - POWER LUNCH TEAM** - for giving up two lunch periods a week to serve food to homeless clients of the Grand Central Partnership's soup kitchen at St. Agnes Church. Along with putting food on the table, the 36 employees of the Industrial Bank of Japan have come to know and appreciate the problems, talents and hopes of those experiencing chronic homelessness.  
*Supervisor:*  
*Dan A. Hughes*

## SPECIAL AWARD

**Bruce H. Wittmer (Deceased)** - for guiding Brookwood Child Care through a successful 40-year transition from institutionalized child care to innovative programs for foster care and adoption. Despite struggling with serious health problems, in his last five years of service he quadrupled the number of children served, and the agency's operating budget as well. He will be sorely missed.  
*Supervisor:*  
*Fatima Goldman*

資料 MV-2 : 活動内容を紹介しますパンフレット (抜粋)



**RECRUITS VOLUNTEERS  
AND REFERS THEM TO  
NON-PROFIT & PUBLIC AGENCIES  
IN ALL BOROUGHES OF  
NEW YORK CITY**

- College and high school students seeking practical experience
- Professionals willing to share expertise to address community needs
- Retirees wishing to remain productive
- Working people concerned with major urban problems
- Families looking to make a difference
- Experienced executives available to serve on boards
- Artists willing to perform on special occasions
- New Yorkers eager to develop new skills and personal contacts
- Anyone who wants to build a better New York

**MVAC draws upon the largest computerized database of volunteer jobs in the United States, and a team of highly skilled interviewers to find the right volunteer job.**



**PILOTS INNOVATIVE  
VOLUNTEER PROGRAMS  
TO MEET  
COMMUNITY NEEDS**

• Family Matters, a program of the Points of Light Foundation, provides opportunities for families to volunteer together to impact upon community problems.



**RESOURCES ON VOLUNTEERISM**

**CONSULTATIONS**

Offers technical assistance to non-profit and governmental agencies, corporations/businesses, school and university personnel on all aspects of volunteer administration; i.e., staff/volunteer relations, job development, record keeping, recognition, recruitment, referral, etc.

**WORKSHOPS AND TRAINING EVENTS**

Provides group interaction on important issues facing volunteer administrators; facilitates access to leaders in the field.

**RESOURCE AND REFERENCE LIBRARY**

Contains books, pamphlets, journals and catalogues on volunteerism and volunteer management which are made available to volunteer administrators, students, writers and media.

**TASK FORCES**

Organizes working groups to facilitate networking on issues relating to volunteerism, e.g., student volunteerism, city government volunteer programming, family volunteers, management assistance initiatives, HIV/AIDS programs.

**AWARDS AND RECOGNITION**

Administers the annual Mayor's Volunteer Service Awards for adults and youth, and helps organize the Borough Presidents' volunteer recognition ceremonies.

**CLOTHING BANK:**

New Clothes for the Homeless receives new clothing contributed by 800 apparel manufacturers and distributes them to a network of 450 community agencies serving the homeless throughout New York City.

• Corporate Resources Service brokers used office equipment, furniture and non-resaleable merchandise between donor companies and non-profit agencies in need.

• Corporate Community Initiative (CCI) assists corporations in establishing employee volunteer programs designed to meet business objectives and community needs.



資料 MV-3 : 分野別パンフレット (文化/Culture)

## Where Volunteers Work In CULTURE

- Museums
- Art Galleries
- Community Theatres
  - Zoos
- Public Television
  - Schools
- Street Theatres
- Historic Houses
- Public Radio Stations
  - Hospitals
  - Nursing Homes
- Botanical Gardens
- Community Centers
- Correctional Facilities
  - Dance Troupes
- Arts and Crafts Programs
  - Libraries
- Intercultural Programs
- Ethnic Heritage Programs
- Community Orchestras
  - Senior Centers
- Performing Arts Companies
- Landmark Preservation Programs
  - Environmental Centers
- Lead Discussion Groups

## What Volunteers Do In CULTURE

- Serve as a Docent
- Provide Administrative Assistance
  - Utilize Business Skills
  - Build Exhibits
  - Perform Research
- Design Public Relations Programs
  - Paint
  - Perform
- Serve on Boards and Committees
  - Work in the Gift Shop
- Translate Material and Ideas
  - Greet Visitors
  - Provide Information
- Serve as Host/Hostess
  - Train Volunteers
- Perform Box Office Clerk Duties
  - Teach Arts and Crafts
- Perform Gardening Tasks
- Help Care for Animals
- Organize Entertainment
  - Teach Photography
  - Interpret/Translate
- Play an Instrument
  - Lead an Chorus
  - Teach Dancing
- Assist with Dramatic Presentations



\*この他に、教育 Education、ヘルス Health、レクリエーション Recreation、福祉 Human Services、市民公共活動 Public Interest の分野別パンフレットがある。



資料 MV-5 : ボランティアの参加申込書-1/2

**MAYOR'S VOLUNTARY ACTION CENTER  
VOLUNTEER APPLICATION FORM**

**FOR AGENCY USE ONLY**

Res. I.D. #: \_\_\_\_\_ Source: \_\_\_\_\_  
 Res. Type: \_\_\_\_\_ Geo(s): \_\_\_\_\_  
 Focus (es): \_\_\_\_\_ Group(s): \_\_\_\_\_  
 Skills: \_\_\_\_\_ Office: \_\_\_\_\_

Date: \_\_\_\_\_ Interviewer: \_\_\_\_\_

Name: \_\_\_\_\_  
Mr./Ms. Last First Middle Initial Suffix

Occupation: \_\_\_\_\_ Employer: \_\_\_\_\_

Highest Education Level Reached: \_\_\_\_\_

Mailing Address: \_\_\_\_\_  
Number Street Apt. #

\_\_\_\_\_ City State Zip

Bus./School Address: \_\_\_\_\_  
Number Street Apt. #

\_\_\_\_\_ City State Zip

Phone (Day) ( ) \_\_\_\_\_ When To Call \_\_\_\_\_

Phone (Eve) ( ) \_\_\_\_\_ When To Call \_\_\_\_\_

Are you interested in volunteering with members of your family (either immediate or extended) YES NO

Can an agency contact you directly? YES NO How did you hear about MVAC? \_\_\_\_\_

Time Availability?	Mo	Tu	We	Th	Fr	Sa	Su
(D) MORNING							
(D) AFTERNOON							
(E) EVENING							
(E) NIGHT							

Would you be interested in a short term assignment (less than six weeks) YES NO

Available from \_\_\_\_ / \_\_\_\_ / \_\_\_\_ To \_\_\_\_ / \_\_\_\_ / \_\_\_\_ Indefinitely \_\_\_\_\_

Groups you would like to work with (check all that apply)

Adults (ADL) \_\_\_\_\_ Persons With AIDS (AID) \_\_\_\_\_ Teens (TEN) \_\_\_\_\_  
 Ele. School Children (ELE) \_\_\_\_\_ Pre-School Children (PRE) \_\_\_\_\_ Women (WOM) \_\_\_\_\_  
 Emotionally Disabled (EMO) \_\_\_\_\_ Physically Disabled (PHY) \_\_\_\_\_ Other \_\_\_\_\_  
 Homeless (HLS) \_\_\_\_\_ Senior Citizens (SEN) \_\_\_\_\_ \_\_\_\_\_  
 Mentally Disabled(MNH) \_\_\_\_\_ Substance Abusers (SUB) \_\_\_\_\_ \_\_\_\_\_

PLEASE TURN OVER AND COMPLETE OTHER SIDE

資料 MV-5 : ボランティアの参加申込書-2/2

Languages Spoken? \_\_\_\_\_ Languages Written? \_\_\_\_\_

Boro Preference? (check all that apply) Bronx (BNX) \_\_\_\_\_ Brooklyn (BKL) \_\_\_\_\_  
 Manhattan (MAN) \_\_\_\_\_ Queens (QUE) \_\_\_\_\_ Staten Island (SI) \_\_\_\_\_

Type of Work Desired (check all that apply)

Administration _____	Education _____	Social Service _____
Arts & Crafts _____	Environment _____	Other _____
Clerical _____	Health _____	
Cultural _____	Recreation _____	

Under 18 Years Old? YES NO      If, Yes, Do you have working papers? YES NO

Are there any assignments you can not consider because of a physical, mental, or medical disability? YES NO

If, YES, What type of assignment? \_\_\_\_\_

**FOR AGENCY USE ONLY**

SKILLS	REQ.ID #	NEED #
_____	_____	_____
_____	_____	_____
_____	_____	_____
_____	_____	_____
_____	_____	_____
_____	_____	_____
_____	_____	_____

COMMENTS:      Is this person a candidate for the Skills/Board Bank?      YES NO  
                          Is this person a candidate for CCI (Corporate Community Initiative)      YES NO

REV. 8.9.94 - E/JWZ

■ MAYOR'S VOLUNTARY ACTION CENTER (MVAC)

資料 MV-6 : データベース検索結果のサンプル

MAYOR'S VOLUNTARY ACTION CENTER REFERRALS  
REFERRAL DATE: 10/23/96

-----  
VOLUNTEER: ID# 99999

SECOND ADDRESS:

ORGANIZATION:  
TITLE/ITEM/TEAM:

-----  
AGENCY: ID# 1072  
Outreach Theatre, Inc.

NEED: ID# 318  
Development Assistant

CONTACTS:  
Bob Paton  
1219-77th Street  
Brooklyn, NY 11228  
(718) 680-3319

Bob Paton  
The Foundation Center  
79 Fifth Avenue, 8th. Floor  
New York, NY 11228  
(718) 680-3319

DUTIES: Research potential funding sources; make initial contact with targeted sources. Business/research/fundraising exp preferred.

START DATE: 06/15/95

END DATE:

WEEKDAY: DAY OR EVENING

WEEKEND: DAY OR EVENING

AVAILABILITY NEEDED: At volunteer's convenience

GROUP SERVED:

SKILLS NEEDED:  
ALL THEATRE  
FUNDRAISING  
PROPOSAL & TECHNICAL WRITING

ROLE:

PROFICIENCY LEVEL:

-----  
AGENCY: ID# 310  
New York City Ballet

NEED: ID# 2782  
Gift Shop Salesperson

CONTACTS:  
Joan Quatrano  
New York State Theatre, Lincoln Center  
62 Street & Columbus Ave  
New York, NY 10023  
(212) 870-5666

SAME CONTACT ADDRESS

DUTIES: Work at Lincoln Center Gift Shop, Evenings, once a week

START DATE: 09/25/95

END DATE:

WEEKDAY: EVENING

WEEKEND: EVENING

AVAILABILITY NEEDED: During Performances

-----  
AGENCY: ID# 281  
Wings Theatre Company

NEED: ID# 257  
Office Assistant

CONTACTS:  
Robert Mooney  
154 Christopher St.  
New York, NY 10014  
(212) 627-2960

SAME CONTACT ADDRESS

DUTIES: Answer phones, place reservations in the computer (will train),  
filing, copy programs

START DATE: 09/25/96

END DATE:

WEEKDAY: DAY OR EVENING

WEEKEND: DAY OR EVENING

AVAILABILITY NEEDED: Tues thru Sat 3pm-7pm

\*希望の分野、仕事内容、可能な時間などを入力すると、該当するボランティアを募集している機関名と業務内容などがディスプレイ上に表示され、必要なものをプリントアウトすることができる。



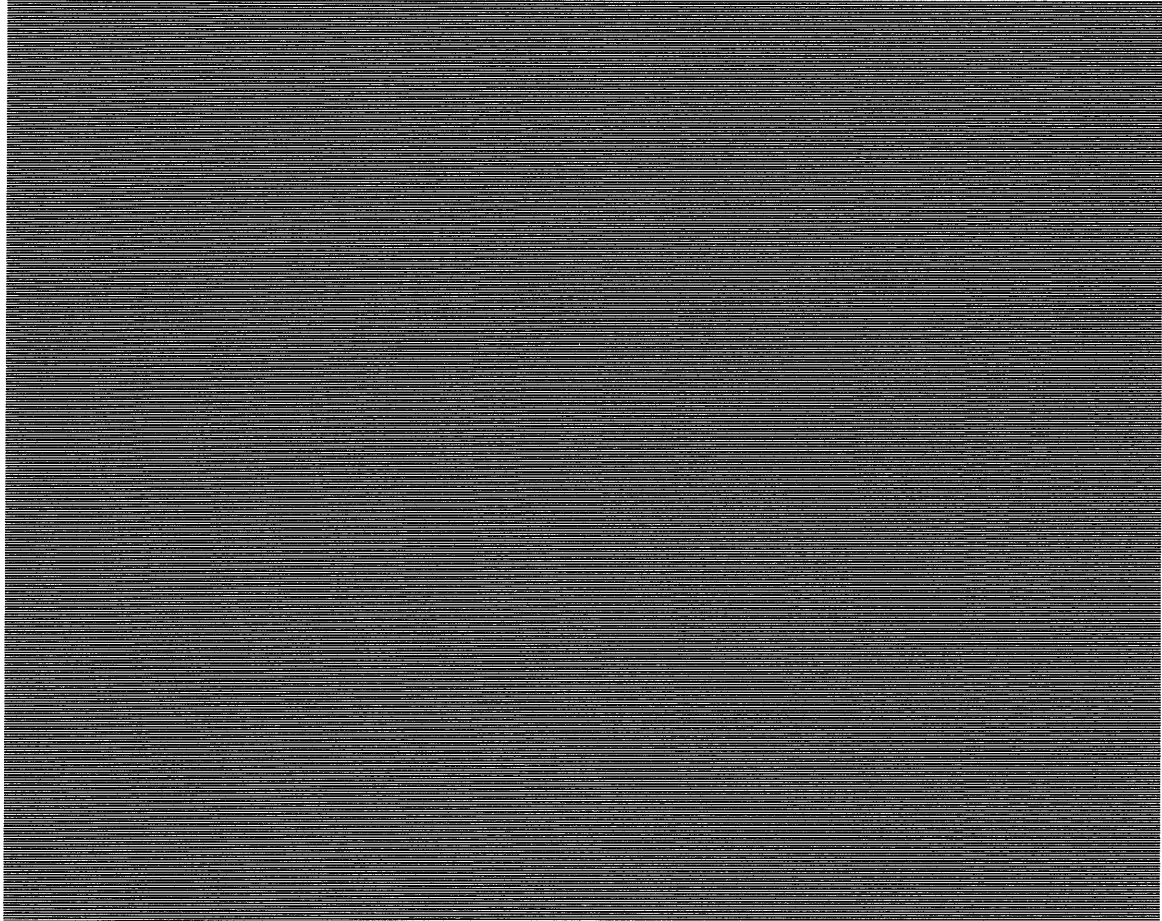


■ MAYOR'S VOLUNTARY ACTION CENTER (MVAC)

資料 MV-8 : ボランティア募集团体の分類コード一覧

REQUESTOR TYPE CODES 24 APR 1996	1	REQUESTOR TYPE CODES 24 APR 1996	2
TYPE	.....	DESCRIPTION.....	TYPE
101	BLOCK ASSOCIATION	406	PARK
102	COMMUNITY BOARD	407	GARDEN
103	CIVIC & SERVICE ORGANIZATIONS	408	MUSIC COMPANY
104	ECONOMIC DEVELOPMENT AGENCY	409	ART ORGANIZATION
105	CREDIT COUNSELING	410	DANCE COMPANY
106	HUMAN RIGHTS ORGANIZATION	411	ZOOS & ANIMALS
107	HOUSING	412	CULTURE - OTHER
108	CONSUMERISM	501	SOUP KITCHENS
109	ENVIRONMENTAL RESEARCH	502	ABUSED SPOUSE SHELTER
110	ENVIRONMENTAL PLANNING	503	PROGRAMS FOR THE HOMELESS
111	ENVIRONMENTAL EDUCATION	504	ALCOHOLISM PROGRAMS
112	ENVIRONMENTAL ADVOCACY	505	DISABLED/OTHER
113	PRISON	506	HOSPICE & RESPITE CARE
114	COURT PROGRAM	507	DAY TREATMENT
115	POLICE ENFORCEMENT	508	HOTLINE
116	LEGAL SERVICE	509	BLIND/VISUALLY HANDICAPPED
117	EX-OFFENDER PROGRAM	510	DEAF/HEARING IMPAIRED
118	CRIME VICTIMS SERVICES	511	MENTAL RETARDATION/DEVELOPMENT
119	COMMUNITY MULTISERVICE CENTER	512	EMOTIONALLY DISTURBED
120	TENANT ASSOCIATIONS	513	PHYSICALLY DISABLED
121	WOMEN'S ISSUES	514	ADVOCACY FOR THE HANDICAPPED
122	PEACE	516	MENTAL HEALTH COUNSELING
123	EMPLOYMENT COUNSELING/REFERRAL	517	SRO/WITH PROGRAMS
124	THRIFT SHOP	600	BIG BROTHER/SISTER
125	NEW YORK CITY GOVERNMENT	601	ADVOCACY FOR CHILDREN
126	PUBLIC INTEREST RESEARCH	602	ABUSED CHILDREN
127	NEW YORK STATE GOVERNMENT	603	FOSTER CARE & ADOPTION
128	FEDERAL GOVERNMENT	604	RECREATION FOR CHILDREN & YOUTH
200	MULTISERVICE PROG. - FOREIGNER	605	MULTISERVICE-CHILDREN & YOUTH
201	ENGLISH AS A SECOND LANGUAGE	700	ELDERLY MULTISERVICE PROGRAMS
202	ADULT LITERACY PROGRAM	701	SENIOR CITIZEN ADVOCACY
203	VOCATIONAL TRAINING PROGRAM	703	SENIOR CITIZEN COUNSELING SER
204	CHILDREN/TEEN TUTORING PROGRAM	704	SENIOR CITIZEN CENTER
205	DAY CARE PROGRAM	705	RECREATION FOR THE ELDERLY
206	SCHOOL PROGRAM	800	CORPORATIONS
207	EDUCATIONAL RESEARCH/ADVOCACY	801	VOLUNTEER REFERRAL AGENCIES
208	MULTISERVICE EDUCATIONAL PROGR	802	UNIONS
209	ADULT EDUCATION	900	MAILING LIST
210	INTERNATIONAL PROGRAMS	901	CLOTHING BANK RECIPIENT
211	PROFESSIONAL DEVELOPMENT	902	FUNDING RESOURCE
212	HIGHER EDUCATION PROGRAM	903	CLOTHING BANK DONOR
301	SUICIDE PREVENTION	904	Advocacy For Families
302	HOSPITAL		
303	NUTRITION PROGRAM		
304	NURSING HOME		
305	HEALTH EDUCATION		
306	HEALTH CLINIC		
307	VOLUNTEER AMBULANCE CORPS		
308	HEALTH ORGANIZATION		
309	AIDS PROGRAMS		
310	MEDICAL CARE RESIDENCE		
401	SCHOOL FOR CREATIVE ARTS		
402	LIBRARY		
403	THEATRE GROUP		
404	MUSEUM		
405	HISTORIC HOUSE/SOCIETY		





資料編 **5** :

公共ホール・劇場とボランティアに関する研究会記録

I. 第1回研究会記録	資5-1
II. 第2回研究会記録	資5-7



## 第1回「公共ホール・劇場とボランティアに関する研究会」記録

日時：平成8年6月17日(月)1:30PM

場所：財団法人地域創造会議室

委員：伊藤裕夫（電通総研研究部部長）

今枝達雄（扶桑文化会館館長）

衛 紀生（演劇評論家）

佐藤郁哉（一橋大学商学部助教授）

松浦桂子（目黒区総務部国際室）

事務局：塚田桂祐（財団法人地域創造）

津村 卓（ " ）

加川 香（ " ）

杉田 敏（ " ）

調査機関：吉本光宏（ニッセイ基礎研究所）

片岡真実（ " ）

### 1 事例紹介

#### ◎扶桑文化会館の場合

- 扶桑町は愛知県の北部に位置する人口 30,000 人規模の町。主な産業はつまおり傘と守口大根。
- 扶桑文化会館の建設に町の一般予算の4分の1を占める約24億円を要していることもあり、住民参加型の施設運営を目指した。
- 94年11月に発足したボランティア集団の名称は『文化夢応援団』。町主導で発足。スタッフ養成講座を受講した130名のうち現在約90名が活動。
- ボランティア参加者に対するアンケートによると、活動の動機・理由は、①生きがいを求めて、②文化・芸術が好きである、③社会の役に立ちたい、の順。
- 参加者の属性は、扶桑町民7割：名古屋市など町外在住者3割、女性8割：男性2割、年齢層は40～50代が最も多いものの10代から70代までと幅広い。
- 制服の代わりに「夢」の文字を染め抜いた法被を着て活動している。会館と文化夢応援団のための幟も制作して館に寄付した。
- ボランティアの活動は受付・案内などの表方が中心。駐車場の整理、もぎり、客席案内などの他にコーヒーやワインのサービス、名産品の販売等も行う。活動を開始して1年になるが、受付・案内に関してはマニュアルを使用している。
- ボランティアの活動は館の自主事業が中心。要請があれば貸し館事業に対しても行う。その他は、友の会発足の準備、自主事業に関する企画委員会、裏方スタッフに関する勉強会などを行っている。それ以外には、月例の班長会と全員が集まる会および各々部門別の専門委員会がある。交通費・食費等の経費については一切支給なし。
- 昨年まではAグループ、Bグループの2班に分かれ、各5名ずつのリーダーを中心にして活動していた。現在は全体を9班に再編成し、5班ずつで業務をローテーションさせて活動している。

#### ◎目黒区美術館の場合

- 目黒区美術館では1987年10月に開館した際に区の広報誌でボランティアを募集した。施設を“都市型地方美術館”という位置づけと捉えていたため、地域

住民の参加を促す目的があった。約 80 名の応募があり、全員登録をすることになった。

- 当初は、美術館の開館に伴う様々な業務のうちポスターや開館式典に伴う郵便物の発送、会場監視等をボランティアに依頼した。しかし、特に会場監視に関して、開館後ひと月もしないうちに午前 10 時から午後 6 時の時間帯の計 11 カ所のポストを、80 名のボランティアでうめることができなくなってしまった。急遽アルバイトを補充したが、同じ業務に対して有償のアルバイトと無償のボランティアが同居することになり、開館後 3 ヶ月で会場監視はボランティアの業務から外される結果となった。以降、ボランティアの定期的な活動が無くなり、80 名の登録者のうちの数名が随時来館するのみ、名簿だけが存在する状態になってしまった。
- 1989 年 6 月から館内にあるコーヒーラウンジの営業にボランティアが携わることになり、40 名ほど（当初の登録者 80 名の中からは 35 名ほど）が午後 1 時から 4 時の時間帯に営業担当を開始した。開館当初の経験から、時間帯はボランティアの人が来やすい時間で、無理をしないようにした。
- 2〜3 年後からはワークショップを中心とした展覧会も始まり、その際に申込み（予約）をしないで当日参加した人でも簡単にできる“どなたでもワークショップ”の手伝いにもボランティア・スタッフが携わるようになる。その過程で、子供向け、大人向けなどボランティア自ら工夫して行うようになった。
- ポスターの発送等の業務は随時ボランティア登録者の中から募集する。また、積極的な人 2 人には事前に説明を充分にした上で、他館からのニューズレターの仕訳等学芸の事務補助的な業務を定期的に依頼している。
- 登録者数はほぼ 40 名前後で、30 名を下回った場合には区の広報誌で募集している。
- 交通費については、会場監視を依頼していた頃には 1 回 1500 円を支払っていたが、ラウンジの担当になってからは支払っていなかった（3 時間で 1500 円ということになると、安い時給との切り分けが困難）。2 年目くらいに実費は支給して欲しいという要望があり、現在は交通費として 1 回 500 円を支給。確実に手渡せる方法として半年分を銀行振り込みにしている。
- 美術館のコレクションの中に世界の珍しい玩具があるが、2 年程前にその整理をボランティアに依頼した。それを契機に、ボランティア主導の事業として、コレクションの玩具を児童館、障害者学級、病院の小児病棟など館の外へ持ち出し、それで遊んでもらうようになった。
- 様々な考えを持った人たちが一緒に活動していることが目黒区美術館のボランティアの特徴でもあると言えるが、経験を重ねるに従って意識・考え方の違いや差が歴然としてくる。

## 2 討議内容

### (1) ボランティア導入の目的・位置づけ～何のためにボランティアを導入するのか～

#### 施設側の視点

- ボランティアを依頼する施設側の理由は、①公共性の担保のために市民参加を促す必要があること、②財政的な理由から十分なスタッフ体制を整えられないことのふたつが主であろう。①の点では、劇場のファンを育成する、アウトリ

一ちの一環など好意的な見方もできる一方で、公共施設としてのアリバイ的な性格も感じられる。

- ボランティア制度を導入すること自体が目的になってしまう傾向も見られるが、そのこと自体がハヤリで終わってしまう可能性もある。
- 近年、各地で劇場・ホールが建設されたが、稼働率の低さが問題になっており、それに対応するための招致活動的な理由でボランティア導入に至った部分もあると思う。また、地方の小規模な施設の場合には、スタッフに来てもらうのも大変で、その不足分を補うために住民が講座を受けて対応している面もある。
- ボランティア組織の性格は、立地都市の人口規模によっても大きく左右されるだろう。また、館の運営組織全体の職員数とも関連がある。施設の稼働率、あるいは自主事業と貸館事業の割合も無視できない要素だろう。
- 劇場運営の目的が、芸術作品の公開ということに限られているのであれば、ボランティアは直接的には必要ない。海外でも大都市型のものにはボランティアを置いていないところも多い。地方都市型の施設では、地域性、公共性の担保のためにもボランティアが必要になってくる。
- 「公共ホール」という意味あいも、日本では公民館的、地域の交流の場の性格が強いが、海外ではアートセンターとして、芸術という専門性を通して地域に根ざすという性格が強い。
- 扶桑文化会館では、既にボランティアに様々なサービスの提供を任せているので、彼等なしでの運営は考えにくい。ボランティアのエネルギーに館側が牽引されているところもある。
- ボランティアの活動に対して“地域とのつながり”までを期待する場合、目に見えた変化や効果はなかなか得られない。
- 目黒区美術館の場合、ボランティア活動に対する「若い世代」の参加については、開館前から実施していたワークショップの参加者で当時小学生だった子どもが高校生になり、現在のワークショップのボランティアとして活動している例がある。ワークショップの担当学芸員がボランティア導入に対して興味を持ってくれたことが良かった。ただ、彼等と主婦層との交流はほとんど無い。
- 施設側から見れば、ボランティアは市民にいろいろな楽しみ方を提供していると捉えることもできる。
- ボランティアの問題は、市民側の発想よりもむしろ、ホールを如何にして地域に根付かせるかという館側の発想が重要で、そういう意味では、ホールや劇場の目的そのものと関連づけて考える必要がある。

#### 参加する側の視点

- ボランティアに参加する側の動機・契機としては芝居や音楽など芸術文化が好きであるということがどこかにあるはず。扶桑文化会館の場合は、①生きがいを求めて、②芸術文化が好き、③社会の役に立ちたいの順になっている。美術館のボランティアに関する調査でもほぼ同様の結果が出ている。
- 劇場・ホール系では、特に裏方の仕事で男性の占める割合が大きいのでは、という気がする。
- 日本で希なケースであるが、海外では劇場・ホールにはレジデント・カンパニーがいて、“施設に対して”というよりもむしろカンパニー自体に対してボランティアをする、という動機の方が強いのではないか。リージョナル・シアター系もボランティアに依存している部分は少なくない。
- 同じボランティアでも、顔が見える組織に対しては応援したいが、機構だけに

対しては興味を持ちにくいのではないか。

- 日本独自のものとして、ホール・劇場という“器”に対するボランティア、ということに絞ってしまえば逆に明確になるかもしれない。
- 一般的なボランティアとは別に、海外では「インターン（実習生）」の制度もある。この場合、基本的にはその分野での専門家を目指しているものであり、専門的なスタッフに近い仕事をしているが、多くの市民が一般的に関わっているものとは一線を画している。
- 日本でも劇団などカンパニーには“お手伝い”としてのボランティアがいる。この場合は、金銭的余裕がないので無償で手伝ってもらおうという劇団側の理由と、ボランティアのファンクラブ的な動機が同時に存在している。このような場合、ボランティアからは金銭的報酬以外のサービスに対する期待が生まれ、打ち上げへの参加や稽古時の対応などボランティアをマネジメントする段階で問題になることも少なくない。実際ある程度の規模になった劇団では、ボランティアを廃止し全て有償にしてしまうケースも見られる。

## (2) ボランティアの活動・業務内容

### ～公共ホール・劇場におけるボランティアの役割は～

- 美術館や博物館の場合、業務の内容や運営方法にあまり差がないため、ボランティアの位置づけや活動内容が整理しやすいが、劇場・ホール系の場合はそれが非常に多様で、ボランティアの位置づけもまちまちである。
- 劇場・ホールの職員とボランティアの業務内容の区別が難しい。美術館の場合には、学芸員という専門職がいて、例えばボランティアが展覧会の企画に携わるということは考えにくい。劇場系施設の場合には、ボランティアが企画に携わっている事例も見られるようで、専門性を分けにくい点が特徴であると思う。
- 劇場・ホール系施設のボランティアを以前調査した美術館系のものと類似していると仮定した場合、参加の形式は①形式的サポート（委員会形式の会合など市民代表として参加している場合）、②ガバナンス的参加（財団方式の理事・評議員など施設運営の方向性に対してある決定権を有する場合）、③ファンクラブ型（アーティストの側で活動できることなどを目的に参加している場合）に分類できる。
- また、実質的な形式については、①代替型（施設側の職員がいない部分をそっくりまとめて請け負う形）、②補完型（受付・案内、展示解説など職員の足りない部分を補完する形）、③補充型（職員はいるが、あくまでも補佐的な業務を行う場合）に分類できる。米国では②をコンプリメント、③をサブプリメントとして区別している。劇場・ホール系施設の場合、特に舞台・照明などの技術系の部分では代替型が多いように思われる。
- NPO（非営利団体）の形態についても、欧米では互選型（組織に所属する人達が相互に役割を分担しあう、民主的な運営）と専門家型（学校、病院、美術館など訓練を受けた専門家が運営を担っている）に分類される。日本のホールでは互選型の場合が多いため、ボランティアなのかスタッフなのかが不明確になりやすい。
- 基本的に海外では、経費処理など実質的なホール運営に関する部分はほとんどボランティアにやらせない。それを肯定的にとらえれば、施設にとっては“どちらでも良いこと”だがボランティアにとっては“意味のあること”を模索し

ているとも言える。

- 海外のボランティアの場合は、地域に対する普及活動としてのアウトリーチや資金調達（ファンドレイジング）が主な活動で、彼等の存在は大きい。イギリスの大きな美術館などでは受付と事務補助がほとんどというケースもある。また地方の小規模な施設では人材不足のためにボランティアに依存している部分が多いが、そのかわりガバナンス的な部分までを担っている場合も少なくない。
- サンフランシスコ交響楽団のボランティアは当初は別組織で存在していたが、1980年にオーケストラの資金調達部門の一部として統合された。ここでは、ボランティア組織が7名の有給スタッフを雇用している。ボランティアの主な業務は①事務補助、物品販売、ドーナツと、②ファンドレイジングである。年間10数億円規模の資金をボランティアが集めている。その方法としては、地元のワインメーカーなどからの寄付を受ける、オークションを実施する（ベンツなどの高級車が提供されることもある）、舞踏会を開催するなど米国らしいものが見られる。
- ボランティアに対してオーケストラが期待するのは、①金集め、②地域性・公共性の担保である。ボランティアは観客集めにも一役かっている。特に米国の西海岸では文化や人種が多様化してきており、WASPとは別の多様な人種・年齢の層を確保するために、ボランティアの声が参考になる。

### (3) ボランティアの運営方法～ボランティアと施設側の望ましい関係は～

#### 施設側の責任／ボランティア側の責任

- 劇場・ホール系ボランティアで特に舞台・照明など技術系業務を行う際の事故に対する保障の問題は実態が明らかになっていない。
- 劇場・ホール系の場合、ほとんどがスタッフ保険に加入しているが、誰でも加入できる低額の保険では実際に事故が起こった場合の保障にはならない。
- 補助的な業務は依頼しても、基本的には「綱もと」は渡すべきではない。
- ボランティアの責任範囲も重要な問題。例えば、劇団の経理的な部分にまで関与するようになった場合、4～5000万円規模の予算の中で500万円の違いが出た時の影響は無視できない。また、名簿のメンテナンスに関わるデータの管理についても、間違いが起こった場合の責任範囲が明確になりにくい。

#### 募集・採用、ボランティアの育成

- ボランティアは経験を重ねることで必ず成長する。そのことを肯定的に考えないと、“結局は使い捨て”という意識にもつながりかねない。
- 扶桑文化会館では、リーダー中心に活動をしている。90名いるので追加の募集は現在のところ行っていない。ただ、ボランティアあるいは友の会の活動が活発になるのは喜ばしいことであるが、逆に“ボランティアだけ、友の会だけの施設”という印象を他の住民に与える可能性もあり、難しいところ。
- ボランティアは40～50代の女性を中心になる場合が多いが、その組織が固定化し、閉鎖的になってしまうと、逆にネットワークを拡げることが難しくなる。
- 福祉関係のボランティアでは、ボランティア・センターのような機関が統括することで、随時活動を開始できる。美術館系のボランティアでは、多人数を登録する場合と少数精鋭の場合に分かれる。

#### ボランティア組織の運営

- ボランティアは参加した喜びや成果が報酬。それが担保されていないようでは継続しえない。ボランティアに対する投資として、ボランティアを育成しコーディネートする専門家としてのスタッフが必要。継続的な活動にならず、短期間でボランティアが交替してしまうようだと、極めて責任の少ない業務しか依頼できず、館の運営に関わるガバナンス的な部分まではとても期待できない。
- ボランティア内部のコーディネーター的な役割はボランティア・スタッフから出てきても良いと思うが、その組織のマネジメントはプロフェッショナルが責任を担う必要がある。
- ボランティアをしている人たちというのは、特に時間的に余裕があるということではなく、極めて活動的な市民、アクティブ・シティズン的な層である。実際、美術館のボランティアだけでなく、社会福祉系など他のボランティアも併せて行っている人も少なくない。
- 美術館のボランティアに関する調査結果では、自己負担は平均して年間一万円程度。交通費など費用負担の問題も整理する必要があるだろう。
- ボランティア活動による収入がある場合、それを“公益”と見るか“共益”と見るか、つまボランティア活動を公益活動と捉え、その活動を拡大するための投資とするか、あるいはボランティア参加者の共同の利益として捉えるかについても検討する必要がある。その場合、会計の自主性についても議論されなければならない。

以上



## 第2回「公共ホール・劇場とボランティアに関する研究会」記録

日時：平成8年12月16日(月)1:30PM

場所：財団法人地域創造会議室

事務局：蓼沼朗寿（財団法人地域創造）

委員：伊藤裕夫（電通総研研究部部長）

加川 香（ ” ）

今枝達雄（扶桑文化会館館長）

杉田 敏（ ” ）

衛 紀生（演劇評論家）

調査機関：吉本光宏（ニッセイ基礎研究所）

佐藤郁哉（一橋大学商学部助教授）

片岡真実（ ” ）

松浦桂子（目黒区総務部国際室）

### 1 事例調査報告

国内の代表的事例の調査結果として、7カ所（①喜多方プラザ文化センター、②中島町文化センター・能登演劇堂、③武生市文化センター／武生国際音楽祭、④いまだて芸術館、⑤大阪府立青少年会館／プラネット・ステーション、⑥たんば田園交響ホール、⑦春日市ふれあい文化センター）の概要を報告。その後、各々の事例について対象事業と業務内容を整理し、立地条件および運営主体からみた留意事項および将来的な方向性についての分析を原案として提示。

また、米国調査の結果として、6カ所（①シンフォニー・スペース、②スナッグ・ハーバー・文化センター、③ケネディ舞台芸術センター、④オータム・ステージ、⑤パブリック・シアター、⑥メイヤーズ・ボランティア活動センター（MVAC））の概要を報告。

### 2 討議内容

#### ◎ボランティアの位置づけと権限

佐藤 | ホールという場所を成り立たせるのが人・カネ・モノだとすると、何か足りないからボランティアを導入するというのはインプット側が不足している場合に補填するという意味合いが強いが、それが地元文化団体の活動や街づくりにまで発展していくと、それ自体がアウトプットになってくる。

米国の場合、何か欲求があってハコ（劇場）をつくる。劇場をつくってから中身を思い悩む日本とは出発点が違う。

衛 | ボランティアにどこまで権限を移譲するかの議論が求められてくる。不足しているからではなく、そこに充分ありながらボランティアの組織を活用する。「イレモノはあるんだけど、その中身をつくるのはみんなの活動だ。」というスタンスに移していくということ。資金調達にしても、全部行政が出すのではなく、自分たちで集めて足りない分を行政が出すという活動にまで結びつけていく理念のようなものが重要ではないか。

仙台市青年文化センターでは、全事業が市民参加型になっていて、大変な数のボランティアが活動している。活動するためのフリー・スペースもある。また、アンテナショップ型事業としてライブハウスを一時的にホー

ル内につくり、その企画を市民から募集しており、館側の担当者がやるよりヴィヴィッドな事業企画案がでてくる。施設側は使用料を無料にするほかボランティアを手配する、一方、主催者は仕込み代を負担するものの入場料収入が得られる仕組みになっている。良い結果ができればホール自主事業に格上げされる。仙台演劇祭も同様の仕組みが採られていたが、大都市型のボランティアでもう一步進んだ形になるように思う。青年文化センターとは言え10代半ばから退職者まで年齢層も幅広い。今後どこまで発展していくかは未知数だが、ボランティアが資金調達などにも関与するようになるし、関係した劇団の他施設での公演にも手伝いに行ってしまうなど、街全体に広がる可能性が感じられる。

今枝 | その場合、企画を募集して行政が選択する段階で、政治的な理由によって問題になったりする心配がある。

蓼沼 | 現段階では“制度”として確立されていないので、個人の資質に依存している部分が多い。施設側としては何らかのチェックはあるはず。施設の持ち主を現実の（法律上の）所有者とするのか、住民とするのかでボランティアに対する対応に大きな違いが出てくる。

衛 | 市民参加型とは言うものの、実際は限られた層だったりすることも事実。ボランティアをやっている人たちもそのことに気づき始めている。自分がサービスの受益者であるという感覚ではなく、自分がサービスを提供する側だという視点も必要。“自分達の施設”にしてもらうためのプロセスが必要。

蓼沼 | アメリカの事例でも何のためにボランティアをするのかという問いに対して“これは自分たちのものだから”という答えがあった。これが本来あるべき姿だと思う。館側が“ボランティアを使ってやっている”という意識を捨てないと育たない。

### ◎館とボランティアの関係

吉本 | 市民団体が日常の劇場運営にまで入り込んでやっている代表的な例は、能登演劇堂。武生国際音楽祭のボランティアは、基本的には音楽祭に限ったもので日常のホール運営とは関係ない。厳密に言うと音楽祭は館の自主事業ではないが、逆に理事会などが組織され今回調査した中で最もNPOに近い形だと思う。

今枝 | 館とボランティアの関係については、行政主体でスタートしているものの、担当者個人の資質に依存しているのは事実。担当者の異動でシステムが変わってしまうようなことではいけない。ボランティアと館側が連携をとり良い形で結びついていないと、せつかくの自主性・自発性が継続できなくなる。

衛 | 最終的には民間と行政のパートナーシップの問題。行政主導でスタートしようと民間から発生してしようと、民間も単なるわがままを言う団体ではなくて、ある程度の責任参加であるという認識と館の事情を自分たちなりに解釈するという姿勢が必要。芸術文化だけでなく社会全体のニーズとして、パートナーになるためのストーリーづくりができればと思う。

蓼沼 | 文化振興と地域振興は類似した点があり、初期段階は熱意を持った個人のリーダーシップによるところが大きいですが、ある程度進行した段階では個人の力に限界が出てくる。組織化の必要性が出てきたりするが、組織化する

と沈滞するという逆の面もある。個人の判断にあまりに依存していると、先程の権限の移譲という場面ではその基準が人によって異なってくる。

### ◎地域の活動拠点としての公共ホール、有償性と非営利会社、ボランティア・

#### コーディネータ

伊藤 | 事例調査の報告を聞いて、アメリカ型に近いものが発生して来ていることに興味を持った。文化ホールは地域での活動の拠点にすぎない。JCの活動などを見ても面白い事例はいくつかあるが、どこを活動の拠点にするかという問題で、たまたま文化的な人間がいて公共ホールが彼等を受け入れることができれば、そこを中心に活動が展開される。国際交流会館、女性会館なども活動の拠点になりうる。たまたま市民活動が活発になり始めているところに公共ホールが受皿として機能しているという例が調査結果にみられたことはある種おどろきだった。

ボランティアの活動内容についても、資料では事業内容により深く関与する企画・制作方面のベクトルが強くなっている。海外において三つのレベルのボランティアがある。施設側のお手伝いをするサポート的なもの、運営全体の方向性にまで関与するガバナンス的なもの、そして専門知識を持った人がその知識を提供するスペシャリスト的なもの。断言はできないが徐々にその方向に近づいているという印象を受ける。

作業系ボランティアについては、ボランティア・コーディネーターのような担当者があるか、あるいは担当者が制度化されているかという問題は大きい。二番目には、ある程度の危険をともなう作業には専門性もともなうため教育トレーニングが必要。また、芸術教育だけでなくボランティアに対する意識の問題としてボランティア教育も必要となってくると思う。三番目の問題として有償性の問題がある。この部分は分化していくひとつのメルクマールとなる可能性もある。

企画制作系のボランティアについては、ボランティアなのかガバナンスなのか、つまりガバナンス性がどのくらい出てきているかという点で、能登演劇振興協会や武生国際音楽祭推進会議では、望ましい形であるか否かは別として、責任と権限が両立されている事例がみられる。あと、アウトリーチ的な性格として、単にその会に付随する団体に広報するだけでなく、文化施設に来ない人や企業になど地域社会に対してどのくらい広く活動できているかは興味深い。

ボランティアの分化というよりもNPOの形成がどのくらい進んでいるのかという視点が必要。NPOの第一の傾向としては、館の管理の問題がある。館からある程度の委託を受けて事業をとり行っている民間の組織が形成されつつあり、形式上からいえば行政との間で契約関係がある。一定程度の委託金が行政から出るものの、それを越えた部分については自ら資金調達をしている。これからこのような形態は発展するのか、あるいは障害は何かなどについて議論する必要があると思う。二番目には裏方ボランティアに関する傾向としては、有償性ということをもって、地域においては裏方会社をつくることは不可能だが、非営利の裏方会社であれば不可能ではない。アメリカのNPOを見ていると営利会社で成り立たない場合には、半分ボランティア、半分有償スタッフというケースもある。“非営利型舞台芸術裏方会社”が成立しうるのかという議論もしてみたい。三番目

には、以上を除いた形での純粋なボランティアが存在しうるかどうかという問題があるが、これについてはアウトリーチを中心としたもので、アメリカで言えば各館にいるサービス・ボランティア的なもの。権限はないものの地域との接点、あるいは自己実現という意味で存在しうる。このような傾向を見てくると、ボランティアの今後の動きも予測できる部分はある。

吉本 | ボランティアのコーディネーターについては、今回の調査対象では唯一大阪のプラネット・ステーションが外部の人材を雇用している他は、館側の担当が他の業務と兼任している。アメリカの場合には有給スタッフの中にボランティア・コーディネーターというある種、職能として確立されたプロフェッショナルがいる場合と、ボランティア団体の中で世話好きな人がやっている場合がある。日本でこの部分が確立されていないことが、システムとして確立されておらず個人に依存していることの現れで、リスクのある部分だろう。

教育トレーニングについては、特に裏方のボランティアを採用しているところでは何らかの研修事業が行われているし、表方ではたんば田園交響ホールで受付や挨拶に関するマニュアルなどを配布している例が見られた。有償かどうかという点については、全くの無償というのはむしろ少ない。交通費実費ということで時給を支給している例が多数派で、特に裏方の人には1回5000円程度が支払われている。但し、お金のためにやっているのではないという人がほとんどなので、伊藤さんの言うところの非営利裏方会社に近い形であろう。

アウトリーチについては、いわゆるワークショップ等を行っている事例は特に見られなかったが、中島町の演劇振興協会では友の会を組織しており、チケット販売につながっている。

片岡 | 喜多方の“うらかた”は任意団体になっており、行政本体とは契約関係になっている。有償性については、個人の収入の5%を組織に戻入する形をとっており、伊藤さんの言う非営利裏方会社の形態に近づきつつあると言えるかもしれない。

衛 | 仙台の青年文化センターでは、“非営利裏方会社”はアリか、ということが随分議論された。喜多方や今立のような規模の街では、それに類する会社がないが、仙台には存在する。一種独占的にやっており、ボランティアによる会社は認められないという意見があった。さらには、実際に営利会社として運営している彼等が実は個人の意志によるボランティア的な経営になっているという現状もある。但し、仙台で育って舞台の裏方に関わる仕事がしたいと思った時に、その会社しか可能性がないという話はない。そうでない活動の仕方が選択できるような受け皿はあって良いのではないか。その民間企業と競合するのではないかと行政は懸念するが、共存する方法もあるのではないかとということで結論が出た。

吉本 | 喜多方の場合には近隣の町村での公演からも依頼が来ていて、喜多方市以外でも活動している。

衛 | ボランティア自身が“ステージ・ラボ”というのを開催していて、他町村に出かけて行って技術指導をしている例もあり、地元の人も感心している。

今枝 | 有償性の問題では、裏方業務が有償である例が多いが、表は少ない。

片岡 | 中島町はオモテ方のボランティアも1000円程度の自給を支払っている。

衛 | 私が関わっているところは全て表方もすべて有償にしている。

吉本 | 春日市で聞いた話では、公演が大きくなるとアルバイトを雇わざるを得なくなり、同様の業務をボランティアが手伝う場合には区別ができなくなるので、そのような手伝いの仕事には報酬を支払うこととし、企画・制作等を行う場合には無償（実費のみ）ということにしているようだ。

#### ◎ボランティア保険

衛 | ボランティア保険のことがあるので、仙台ではこの秋から事業団と行政本体が支払うことになったが、ボランティア保険の対象には“芸術文化”が入っていない。“地域振興”は入っている。裏方ボランティアの場合には、危険は付き物。プロのみで撤収する場合には2人で見事に片づけてしまう場面でも、研修という意味も含めてボランティアを入れて5人でとりかかったりすることで、逆に危険度が増しているということもある。ボランティア保険の対象としてきちんと“芸術文化”も含めるべきであろう。

片岡 | 喜多方では適当な保険がなかったので地元の損害保険会社に新規に商品をつくってもらったそうだ。他の事例でも裏方の場合はほとんどが保険に加入している。

衛 | 職員共済と一緒に入っている場合がある。

吉本 | 一回の事業で20人以内の事故に対応できるなど、各館とも実情に合った保険内容を検討しているようだ。

#### ◎福祉ボランティアとの連携

衛 | 北海道のシアター・ボランティア・ハンズは視覚障害者のためのボランティアをやっているが、自己資金で活動のマニュアルを作成している。このような事業をホールがコーディネートできると良いのではないかな。文化を街に広げていくときに、福祉団体とのネットワークを形成するのはかなり難しい。そこにシアター・ボランティア・ハンズのような団体がインターフェイスの役割を果たしてそのようなネットワークをつくり、地域内ネットワークを確立していくことは重要なこと。そうすると活動の幅が広がる。

伊藤 | ボランティア活動をしている人口は限られており、公共施設がボランティアの取り合い状態になっているような気もする。どちらが地域のために貢献しているかという話になる。ともすると芸術文化は好きでやっているという印象をもたれがちという意味でも、福祉団体を対象にしたマニュアルなどを作成することは貴重なこと。

衛 | セゾン劇場で上演される“ヒアリング・エイド”はもともと地域で生まれたものを東京に持ってきている。ホールの中にさまざまな人が出入りをして地域内ネットワークを拡充するその手段として芸術文化が存在するという流れのほうがむしろ重要ではないか。行政は“地域間ネットワーク”の方を重視しがちだし、民間の劇団にしてもすぐに“地域間交流”という言葉を使う。“地域内ネットワーク”が形成されていないのに、すぐに“世界へ”に発想が行ってしまう。福祉団体やNPO団体などいろいろなところにサービスを提供し、地域内交流をまず構築すべきだ。

今枝 | 福祉と文化がまったくべつのもので活動している。予算が厳しくなってくると文化がすぐに切られてしまうが、福祉と文化がきちんと混ざり合っていればそのような発想にはならない。

衛 | 行政がその二つを混ぜることは非常に難しいので、文化団体がそれをまとめてしまっても良いのではないかな。

伊藤 | イギリスのNPOに“アート・リンク”という組織がある。アート・カウ  
ンシルによって高齢者対象に芸術に触れる機会を提供するためにつくられ  
た。民間の団体としてスタートしている。文化予算が大幅に削減され、文  
化団体の活動が困難になったという背景もあると思うが、社会全体として  
コミュニティ・ケア等施策が変化してきたこともある。そこに目を付けて  
資金力としての福祉の予算をもらおうというもので、高齢者・障害者に芸  
術鑑賞の機会を与えるだけでなく、自ら行う活動なども含め芸術文化に対  
するどのようなニーズがあるかを調査し、それを実現する段階で文化施設  
と連携をする。その時に文化施設が経費を負担するのではなく、福祉予算  
から経費を出す仕組みになっている。このような考え方はNPOの中には  
見られるが、あくまでボランティアの団体というのはまだまだ文化施設の  
側に主体性があるので、アートリンクのような段階にまで発展することは  
難しいところはある。

松浦 | 美術館のボランティアと劇場のボランティアでは異なる点もあるし、特に  
私に関わっていたのが官主導のものであったこともあるが、これまでの議  
論の中でのガバナンス的な部分とは距離があった。ボランティアが裏方的  
な部分でどれくらい自己実現できるかということで動いていた。その中で  
ホールと比較すれば非常に狭い範囲ではあるものの、ボランティアの責任  
と権限の狭間が問題になった。行政側には責任がとれるのであれば権限も  
という意見もあったが、組織がつくられて日が浅かったこともあり、ボラ  
ンティアの側で負える責任というのも限定されていた。ただ徐々に活動の  
範囲を拡げていくなかで、特におもちゃのコレクションを美術館の外部に  
持ち出す段階になってからは、極めて主体性に動くようになったので、責  
任も付いてくる。

いずれにしても、まちづくりがベースになっている。なので、地域内の  
ネットワークということで、行政の縦割りでは美術館とは分野が違うとい  
っていた障害児学級や児童館の幼児クラスに方向性を見いだしているとい  
う現状もあるので、美術館なら美術館、ホールならホールという建物・施  
設だけに活動を限定して考えているとすぐに壁にぶつかってしまう。そう  
すると“使うだけつかって”という意識がなかなか払拭できない。“地域  
内のネットワーク”が今後まちづくりというベースの中で市民の活動を考  
えていく上でのキーポイントになると思う。

吉本 | ボランティアには段階があって、館の運営のをサポートする非常に狭い意  
味でのボランティア活動からガバナンス的なことまでを行うように発展し、  
伊藤さんの問題提起にもあったようにそのガバナンス的なことをやる市民  
団体が自分たちの活動も目的は何かということに目を向けるようになり、  
ホールを拠点にしてまちづくりにまで関与していくというような状況があ  
る。

そのことと、劇場・ホール自体の目的が何かという問題があって、その  
ことと両方がリンクしていないと上手くいかないが、それは大都市か地方  
都市かで異なってくるように思う。

施設の立地と施設の目的によるボランティアの活動内容を上手く整理で  
きることはないかと思う。

佐藤 | 抽象的な議論になるかもしれないが、組織論の基本的な概念に“ルース・  
カップリング（緩やかな連結）”というのがあるが、組織というのはもと

もと何か合理的なものごとを進めるためにできているが、手段と目的は必ずしもマッチしていない。手段が先行して後で目的を付けていくというケースが芸術文化では往々にしてあるが、そういう形でなくても芸術文化はありうるという広い視野があっても良い。公共ホールは一つの拠点であって、他で活動しても良いのだが、たまたまそこにホールがあるので使おうという市民活動のベースがあって、というのが市民社会の健全な姿なのかもしれない。

◎ ボランティア制度導入のきっかけ、参加の動機

吉本 | 現実のきっかけは、喜多方でもたんばでもそうだが、一言でいうと“お金と人がない”ということ。苦し紛れにやったら結果うまく行ったという例。春日の近隣の事例ではボランティア制度を導入し100人以上を登録したが、うまく機能させることができていないという話を聞いた。これ等はまさしく手段が先行して目的が曖昧であった例と言える。

伊藤 | 美術館と比較した場合には、一般論として公共ホールでは良いか悪いかは別として目的が先行しているような気がする。美術館の方では海外の美術館ではボランティア制度を導入しているらしい、ということで制度を導入したものの、実際何をしたらよいかわからないという状況も見られた。文化の普及とは関係なく、“予算がない”部分を補完するという意味では目的は明確。

そのような状況の時に広義の目的を考えた場合、“行政主導型”と一言でまとめても良いかという疑問がある。今回の調査ではいわゆるソフトやコンテンツを持った劇場やホールが多かったように思うが、コンテンツを国が契約等の形、準国家公務員的な形で芸術監督なりさまざまな資格のプロ集団として入れ込む形での行政主導も充分ありえる。

民間のプロ集団と行政が一つ屋根の下に二つ入っている事例としては、イギリスのナショナル・シアターがある。ナショナル・シアターのあるサウスバンク自体はロンドン市が中心になって出資した文化施設だが、その管理責任者、芸術監督というのはいる。その中にロイヤル・ナショナル・シアターが入っていて、これは行政が予算の半分以上を支援している民間団体で、芸術監督もいる。芸術監督が二人いるが、店子の方が力を持っているためにサウスバンクよりもナショナル・シアターの方が看板を出してしまっている。このような関係が行政主導としてもあり得る。

このような話を前提にしてボランティアの位置づけというのを考えてみても良いのではないか。

衛 | 能登の演劇振興協会も、代表の瀬口さんはいわば“文化面での町長”のようなもの。この場合は“演劇が好きだから”ではない。過疎問題に対応するために“この街をどうしたいか”という発想。滞在型の公演のために舞台セットのための会社をつくるという話も出ている。東京の半額で制作できる。だんだんボランティアという意識から離れ、専門的な集団の周囲に専門的な知識・経験を持った集団が新たに形成される。

伊藤 | “ボランティア”を卒業していくプロセスだが、これは“進歩”ではなく“分化”だと考えたい。すべてが“脱ボランティア”という段階を経るわけではない。いくつかの形に分化して行って、最終的に最適状況を見いだしていくというのが最も良い形。そういう意味では先程述べた“純粋ボラ

ンティア” 的なものは残っていく。

公共ホールのボランティアは財政的な理由から本来ならば営利会社がやる部分をボランティアが担っていたりするなど非常にさまざまな要因が混在している。その状況が少し今までよりは分化され整理されてきているような印象を受ける。

また立地条件の問題では、米国の例ではそうとも言えないが、大都市においてはボランティアは存在しにくい。大きな背景としては、日本の公共ホールの場合、地域においては舞台の裏方業務を行う会社がないために本来営利会社がやるべき部分をボランティアが担当しているが、大都市ではその必要はない。企画やマネジメントにしても同様。その中に市民グループを使う必要性を発見できないうちは難しい。そのような状況で社会教育施設の伝統をもつ公共ホールで一番つなぎやすいのが“青少年の育成”という部分。

佐藤 | ボランティアというと“素人”であり、“奉仕ないし無償”であり、“自発的”であるということになる。これが一般のイメージ。

衛 | やっているうちに非常に専門的な知識とノウハウを持ってくる。ボランティアの中からある種の専門性が生まれてくるが、プロではない。

伊藤 | 厚生白書などを見ると社会に対する貢献、自発性、無償性がステレオタイプと言える。

蓼沼 | 理解できるが今の時代においては純粋系すぎる。確かに歴史的にはボランティアの定義はそうかもしれないが。

#### ◎ボランティアの継続と費用負担

衛 | 交通費程度はもらわないと継続できなくなる。

伊藤 | 交通費を出しても返上してしまうグループもある。交通費支給の有無はメルクマールにはならないと思う。

蓼沼 | 実費支給は要求しないが、チケットの優先予約など何らかのメリットを求めている。

伊藤 | 個人個人で見ると何らかの目的がある。中で最も多いのは“有名な人に会える”というもの。

今枝 | いろいろな人に会えるというのはある。金銭面でのメリットについては、ボランティアをやっている人が“恵まれている”とか“イイコトをやっている”と周囲に言われるので、チケット購入などについても一般の人と同様に並んで買ってもらうなど特別な特典はない。ときどき開く座談会や終わったあとの打ち上げがせいぜい。閉鎖的な印象を持たれたくない。有償性の問題については、我々の場合リーダーと呼ばれる人が10名程度を取りまとめている、その電話連絡代だけでも相当になるが、何の措置もしていない。何かすべきなのか考えている。

吉本 | アメリカの事例では、電話をする担当のボランティアがいるが、電話は必ず館からするということがあった。メリットの話で“有名な人に会える”というのを目的にボランティアを始めた人は今回ヒアリングをした中にも随分いたが、実際に会えた人はほとんどいないというのが現実のよう。“会えないことが良くわかった”という感想があった。表方のモギリなどをすると空席がある場合にはその公演を鑑賞できるケースもあった。

衛 | ボランティアのコーディネーターをしていた人に話を聞いた時には、ボラ



ンティア内の問題等について自宅から電話をし、説得をするので数時間話したりして、電話代が6万もかかっているのに対し、経費としては5万円程度しか支給されないということだった。

伊藤 | ボランティアの調査をするとその手のケースは非常に多い。何がボランティアの目標なのか不明確になっている。ボランティアが広報マンの役割を担っていてチケットの販売も行っているケースもある。

衛 | 電話代や当日の昼食代程度の支給はあることが一般的になっても良いと思う。つまり、継続することが絶対に条件。継続しないと何にもならない。ホールによっては今年度ボランティアをした人は次年度は受け付けないというところもあるが、それではいわゆる“お手伝い”になってしまう。何年も継続することが何よりも重要だと思うし、スタッフとの交流・コミュニケーションも必要。

蓼沼 | 誰でも入ってこれるシステムの構築も必要。犠牲を払える人しか入れないというのでは新しい人は入りにくい。

今枝 | ボランティアの自主的な活動が増え、コーヒーマシンのサービスや活動記録の展示などを彼等の負担で行ったりしているの、継続性の問題を考えるとそれに対しては何らかの補助を考えている。

衛 | 活動に喜びがある間は大丈夫だが、それにも限界がある。

伊藤 | 数年間は大丈夫だが、小さな負担がたまって来てある時爆発するというケースもある。

衛 | 金沢の演劇祭のディレクターをしている人は、10月から3月はほとんど演劇祭にかかりきりで、本業の仕事ができないでいる。無償であるが、日々アート・マネージャーとしてのノウハウを蓄積しているのでそれが現在は喜びであるが、あれでは持続できないと思う。ある日突然燃焼しきってしまう可能性がある。そして、その人がいなくなったら演劇祭全体がダメになってしまう。先程の電話代をたくさんかけていた人は、公演が終わった段階で“誰もありがとうを言ってくれない。”ということだけでバーンアウトしてしまった。

片岡 | 有償であるか否かは直接的な要因にはならないが、何かがあった時にそれが結果を左右する二次的な要因にはなり得る。

伊藤 | 少ない額の有償性でボランティアの活動を支えるというのは福祉の分野でも見られるケースだが、微妙な問題を含んでいる。ボランティアが実際に何を求めているのか、そして自己負担額の規模がどれくらいなのか。月額で10,000円を越える負担をしている人が全体の三分の一以上になると危険な状態だと思う。年間で数千円では問題は起こらないと思う。

衛 | 実際に支給できるか否かは別として、負担額がどの程度であるかを心配して聞いてみるという行為が重要。とりあえず選択肢を与える、あるいは負担していることを館側に認識されていると思えること。

#### ◎館側とボランティアのコミュニケーション

吉本 | 館側が感謝をすることが重要。アメリカでは年に何回か“ボランティアの皆さんありがとう”というパーティをしている事例があった。永年活動を継続した人に対する表彰もある。勤続年数に応じてバッジがもらえる。

蓼沼 | 感謝する気持ちをあらわす一つの方策として有償にしたり、パーティを開くなど、何らかの方法で相手の立場を認める仕掛けが必要なのではないか。

衛 | 神戸の仮設住宅でも“ボランティアさせ上手”という人がいる。小さなことでも“ありがとう”を忘れない。“ありがとう”や“おはようございます”の一言で解消される部分は非常に大きい。

蓼沼 | ボランティア参加者に対するアンケートを見ても“生き甲斐をもとめて”とか“社会の役に立ちたい”という項目があり、そういうことで自己確認をしている。そこで確認をしてあげる人が必要。

松浦 | 目黒区美術館では館長が声をかけることが一番きいた。「お疲れさまです。どうもありがとうございます。」と館長が言うことで感謝された。礼状を出したり交流会をすることも大切だが、キーパーソンがそれなりの自覚を持った行動してくれることが何より。それプラス実費弁償があれば尚良い。

蓼沼 | やはりコミュニケーションが重要。通常の活動から館側とボランティアでコミュニケーションを密にしておかなければならない。

#### ◎ボランティア制度のあり方

佐藤 | 人と制度については、行政側の異動の話がある。制度とは何かと考えた時、まずそれは「仕掛け」でそれを支える「根拠」が何らかの形で法制度化されていること。それから充分なお金の手当があること、それと人材養成システムがあること。人がかわるとダメになってしまうのではなく、ポストがあることで権限と責任が両方うまく動くというのが、行政側にもボランティア側にもあると良い。制度化すべきことをヒトに負っているのは危険がある。

伊藤 | 館のスタッフの数とボランティアの数との関係性が見られる資料があると良い。地方都市がボランティアを導入した理由ももう少し深く掘り下げてみたい。また、行政主導の事例で、ホールが行政直営か財団運営かで何らかの違いが出てくるかも見てみたい。

蓼沼 | 先程話のあったシステムの話だが、いくらシステムによって責任範囲を明確にしてもヒトによって全く機能しなくなることもある。そこに来る人によって力関係は決まってしまう。館の運営が行政直営か財団運営かの問題では、予算の付け方によって状況が異なる。予算を付ける時に事業毎につける場合と年度毎の事業費枠で与える場合があるが、後者の方が動きやすい。予算の付け方は各自治体の永年の習慣のようなもの。財政状況が困窮してくると事業一本ずつ内容を審査したりする。

佐藤 | どれだけ“文化”ということに行政側は関与すべきなのか。文化を理解している人材がいるのかという問題もある。欧米で行政が“文化”をあっかってうまくいってきたのは階級社会があって、エリートつまり文化的な素養を持った人達の層が日本より遥かに厚いから。それが民間にも行政にもいる。日本ではホールを中心にして民間からニーズが持ち上がってきた時、それを引き上げるルールができていない。

#### ◎公共ホールの運営状況とボランティア

蓼沼 | 大抵のケースは、町に文化ホールをつくったは良いがソフトがない。誰を呼んだらよいかもわからないので、たまたま誰かの紹介だったり講演で会ったりした人を呼んでその人の言う“文化”の言うなりになる。実際に活動が始まって“何か違う”と思ってもやめる契約をしていないのでやめてもらうこともできない…。今地方自治体で困っているケース。呼んできても良いが契約だけはした方が良く書いたことがあるが、もともと芸能

界・芸術界では口約束で業務が始まることが多いらしい。

衛 | ホールのランニングコストが自治体の行政を圧迫するという論理がある。そこにボランティア活動の根拠をつくる。あれは先端的ではなく基礎的なサービスであって、その容れ物であるという考え方。福祉のボランティアと芸術文化のボランティアも同様に地域に対する社会サービスを提供するものだという考え方を広める必要がある。

片岡 | 調査をすると上手く機能している事例ばかりが紹介されがちだが、実際にはこれから始めたいと思っているホールや始めたものの上手くいっていないところもある。“ボランティア”に対する意識として、先程の感謝の気持ちにもつながるが、館側がイコールパートナーとしてボランティアを考えるという意識そのものをどのように広めていけるかを考えたい。

衛 | 館側がボランティアが館の認知度を高めるアンカーである、行動部隊である、という認識を高める必要がある。ボランティアがどのように地域に根を降ろすか、来ない人も観客だという考え方に立つと、彼等の可能性は強いと思う。

#### ◎大都市におけるボランティア

松浦 | “大都市におけるボランティアはそれほど増えないだろう”という意見に対して、現状を分析すればその通りだろうと思うが、地方都市で建てられたものとは明らかに性格は異なるものの都立であれ区立であれ住民を対象にして、それを支えてくれる人々を必要としていることは間違いない。それを単に行政の運営側の利便性のためだけでなく、今後は市民社会が成熟していくであろうことを考えると大都市のボランティアも放置してはられない。

伊藤 | 大都市においては、それぞれ地域や職場など複数の社会に所属している中でボランティアに入っていくことを考えた場合、果たして文化施設がそれだけの“顔”を持っているかという問題もある。福祉分野でも問題はあるものの、企業の社会貢献部や環境への配慮などへの意識が高まる中で、ボランティアに対する意識も高まっている。そのような状況に文化施設は至っていないという現実は否めない。そのような意味で大都市における文化施設がどのような方法でボランティアに関する情報を市民に広め、システムを用意していくかは難しい課題。

松浦 | 今は公共ホールを前提に話が進んでいるが、大都市は確かに活動の場が多くあり、ホールも小劇団や民間のホールもたくさんある。そのため地方で公共ホールが主要な活動拠点になるようには単純ではない。その中で行政が行政のホールを中心に何ができるかではなく、既にある市民の活動をソフトとして行政がどのようにサポートできるかという問題もあると思う。むしろ大都市ではそのような役割のほうが大きいように思う。

伊藤 | ボランティアに支えられている民間のNPOは多くある。神戸の震災の時にも市や区よりもNGOにボランティアが集まったという例もあったが、大都市の場合には行政との間にクッションが入るボランティアの受け入れ的な考え方があるという状況を考慮すると、ある事業に対してはそうであっても良いと思う。NPO法人のさまざまな仕組みづくりが必要。

佐藤 | ロジックがかけているから、たまたま会った有名人を呼んで持て余すような状況になる。外から持ってきた文化を発信しても仕方ない。海外からモ

ノをもってきてスタッフだけを日本人にして“演劇の街”と言っている。言葉やロジック、土壌がないところで発信している。

衛 | 基礎的なサービスの拠点であるという考え方の中で考えると、地元団体の公演と営利団体の公演で施設使用料を差別化することはできないか。社会教育施設ということだけでなく、“住民”のための施設であるというロジックを明確に打ち出し、文化とは実はそういうものだという考え方を広める。今まで市民に説明できなかったのは、しなかったのではなく、そういうロジックがなかったから。

蓼沼 | 変わってきたのは、自分達で何かをつくるのが出てきていること。今までは外部のプロダクションが制作したものを持ってきていただけだったのが、自分たちの地域に関わるテーマのものを公演する例も見られるようになった。ただ数としては“西洋音楽しか芸術がない”という考えが圧倒的に多いことも事実。

衛 | 大都市の例で言えば、仙台の青年文化センターだけはボランティアの数は非常に多い。立地している旭が丘というエリアは住民がほとんどいない。イズミティには和泉市の住民がいて、仙台市の中心部にもいろいろホールはある。山の中にあって住民がほとんどいないホールでいかに“賑わい”をつくるかという問題を抱え、質の高い公演をするということではなく、とにかく全てを住民参加型に特化してしまった。そのために逆に人をセーブしきれないほどに来ている。大都市型でも東京や大阪は別格だと思うが、仙台程度の規模の都市であれば、どのようなモチベーションかは別として、人が形のないものを受けるために集まるという可能性はある。但し、担当者に大きく依存している。最後は制度があっても人。

佐藤 | 人をつくることを含めた制度。代替わりしても継続していけるような人材育成システムを含んだ制度をつくる必要がある。

衛 | 担当者はもともと芸術分野の人ではないが、それまでのネットワークを活用する方法には秀でている。

蓼沼 | あまりにある分野に入り込んでしまっていることによるデメリットもある。

衛 | アートの知識がないことに対してあまりコンプレックスを持たない方が良いという話はよくしている。

#### ◎ボランティアの発想と行政のしくみ

今枝 | ボランティアからは自由な発想が生まれてくるものの、行政の側にはどうしても管理的・維持的な視点が含まれているため、実態としてはそここのところの折り合いは容易ではない。誰かが間に入らざるをえなくて私が担当しているが、若い職員ではつぶされてしまう。

衛 | 違うことが豊かさになるところもある。民間の人も行政の仕組みをある程度学んできている部分もある。単なる要求・要望から“提案”へと変わり、お互いが違うことがプラスになるためには相当な蓄積が必要だろう。ボランティアの側にも行政の側にも。行政も事情を説明しなければならない。事情と情報の共有が求められる。だから小さい町の方がうまくいったりする。

伊藤 | 制度よりもマネージメントが重要だと思う。制度はどうしても固定化する傾向があるが、マネージメントは組織の目的とする活動のためのもの。担当する人の文化に対する意識よりも館の役割が何であるかを理解している

ことが重要。人的資源と財政的資源をどのように活用するかという問題。知りすぎていても他に相談しなかったりするし、逆に知らないことを隠すために行政の権威を振りかざしてしまったりする。

蓼沼 | 行政は基本的なラインはあるものの、もっとフレキシブルであることは不可能ではない。自分がやりたくない“管理”という言葉に依存してしまう。

衛 | 小さな町では問題にならないことでも、ある程度の大きさの町になると競合する施設が存在するなどの理由で活動に制限が出てきたりする。

今枝 | “できない”という考え方ではなくて“どうしたら可能になるか”という方向に考えるよう心がけている。もうひとつボランティアの人達の背景がさまざまなので、ある部分で助け合うことができるという利点もある。

吉本 | いろいろな意見が出たが、一つにはボランティアの位置づけが純粋ボランティアからNPOにまで発展しつつあるものまでさまざま、それは伊藤さんの言葉では“進化”ではなく“分化”ということ。それに仕事の内容が付いてくる。もう一つ運営面では、“最後は人だ”という言葉にも表れているとおりにキーパーソンの存在の重要性。これらを報告書に盛り込んでいきたい。

以上

ボランティア活動の対象事業と業務内容

凡例	喜多方プラザ文化センター	中島町文化センター・能登演劇堂	武生市文化センター／武生国際音楽祭
<p><b>縦軸：ボランティアの対象事業</b></p> <p>館の主催する(プロの)芸術団体の公演事業に対するサポート・運営</p> <p>自主事業(招聘事業)</p> <p>公演当日の舞台・音響・照明・もぎり・客席案内等におけるボランティア活動</p> <p>公演の運営(オモテ・ウラ)</p> <p>企画・制作(広報)</p> <p>横軸：ボランティアの業務内容</p> <p>企画・制作や広報、あるいは資金調達等におけるボランティア活動</p> <p>地元文化団体の活動</p> <p>地元(アマチュア)の文化団体の公演活動に対するサポート</p>	<p>自主事業(招聘事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● あぐだもぐだ</li> <li>● 音を楽しむ会</li> <li>● 演劇鑑賞会</li> </ul> <p>公演運営(オモテ・ウラ)</p> <p>企画・制作(広報)</p> <p>● 舞台研究会 うらかた</p> <p>地元文化団体の活動</p> <p>ウラ方に特化したボランティアとしては草分け的存在。複数のジャンルの市民鑑賞団体も組織され企画面で協力している。</p>	<p>自主事業(招聘事業)</p> <p>能登演劇堂友の会 ・資金調達</p> <p>● 能登演劇堂 振興協会</p> <p>● 客席案内 ボランティア</p> <p>● 舞台芸術 アカデミー</p> <p>公演運営(オモテ・ウラ)</p> <p>企画・制作(広報)</p> <p>地元文化団体の活動</p> <p>「無名塾」との密接な関係をベースに、市民主導で劇場を設置、その自主事業の企画、広報、協賛金調達を担う。オモテ・ウラは別途ボランティア対応。</p>	<p>自主事業(招聘事業)</p> <p>● 武生国際音楽祭 推進会議</p> <p>・資金調達</p> <p>公演運営(オモテ・ウラ)</p> <p>企画・制作(広報)</p> <p>地元文化団体の活動</p> <p>市民主導で組織された任意団体が、国際音楽祭の企画から運営までを行うほか、理事会が資金調達と協賛によって事業収支の責任も持つ。</p>
いまだて芸術館	大阪府立青少年会館・プラネットステーション	たんば田園交響ホール	春日市ふれあい文化センター
<p>自主事業(招聘事業)</p> <p>公演運営(オモテ・ウラ)</p> <p>企画・制作(広報)</p> <p>● AEアシスタント・エンジニア</p> <p>● 企画プロデューサー委嘱システム</p> <p>地元文化団体の活動</p> <p>企画プロデューサー委嘱システムにより、館の運営全体に幅広い市民参加の方法を採用。技術スタッフのアシスタントもボランティアが担う。</p>	<p>自主事業(招聘事業)</p> <p>公演運営(オモテ・ウラ)</p> <p>企画・制作(広報)</p> <p>● イベントすたっふ (チーフすたっふ)</p> <p>地元文化団体の活動</p> <p>青少年の健全育成という観点から、館の自主事業として青少年の企画を採用し、企画から運営までを若者のボランティアで行う。</p>	<p>自主事業(招聘事業)</p> <p>● レディース21</p> <p>● ステージ・オペレータークラブ</p> <p>● レディースi</p> <p>公演運営(オモテ・ウラ)</p> <p>企画・制作(広報)</p> <p>地元文化団体の活動</p> <p>舞台・照明・音響のウラ方、客席案内等のオモテ方、女性の企画集団など、それぞれ役割を特化した複数のボランティア制度を導入。</p>	<p>自主事業(招聘事業)</p> <p>● K's Crew</p> <p>・公演サポート</p> <p>・企画協力</p> <p>公演運営(オモテ・ウラ)</p> <p>企画・制作(広報)</p> <p>地元文化団体の活動</p> <p>若者のボランティアグループを組織し、公演のサポート業務と企画制作業務の両方を別々の業務として実施している。</p>

公共ホール・劇場におけるボランティアの現状と留意事項（案）

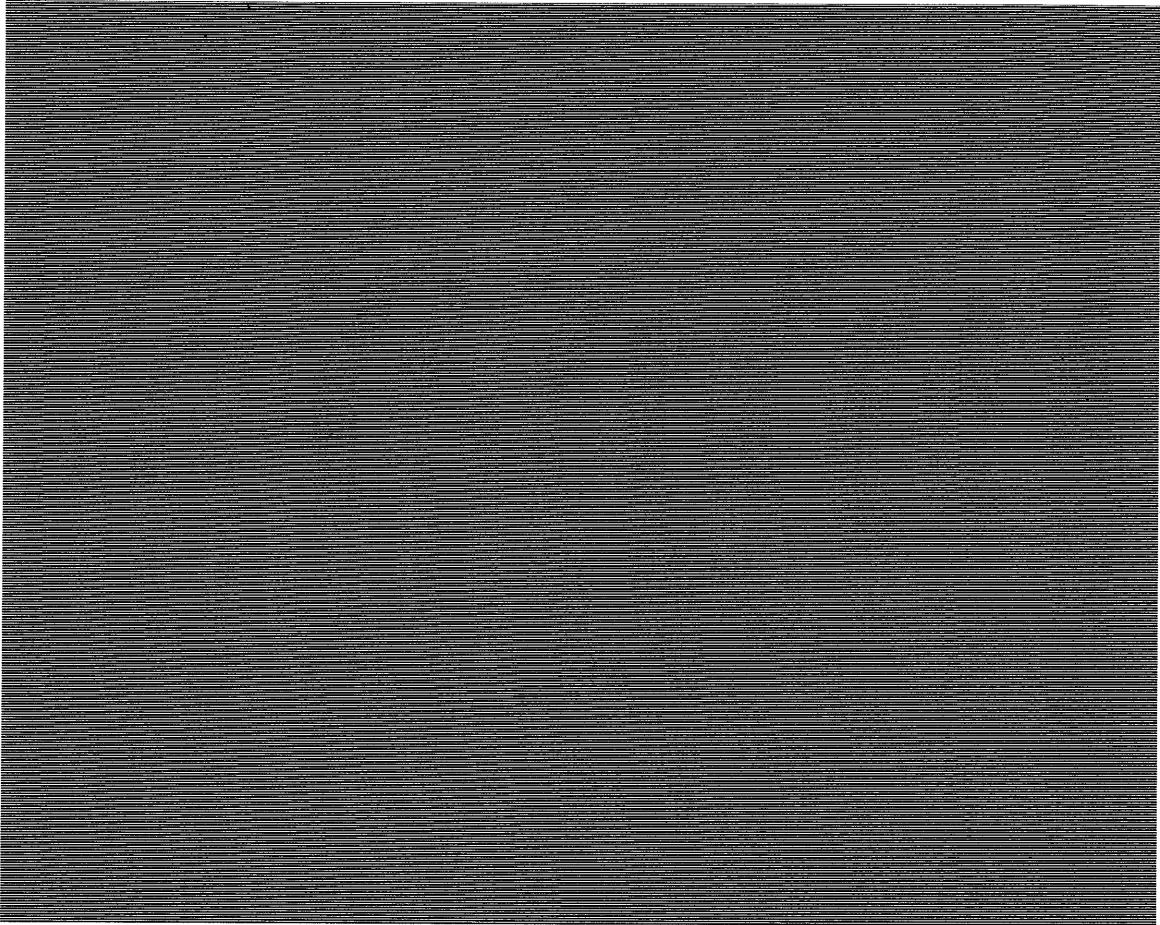
		行政主導型			民間主導型	
		運営全体に関与			独自運営	
業務内容		業務補助				
立地条件		受付・案内 (表方サポート)	舞台・音響・照明等 (裏方サポート)	企画・制作	企画・制作から運営まで	資金調達
大都市		大阪府立青少年会館／プラネットステーション ●イベントすたっふ				
地方都市		春日市ふれあい文化センター ●K's Crew			武生市文化センター／武生国際音楽祭 ●武生国際音楽祭推進会議	
		いまだて芸術館 ●技術スタッフ委嘱システム ●企画プロデューサー委嘱システム				
		たんば田園交響ホール ●レディース i ●ステージオペレータークラブ ●レディース 21				
		喜多方プラザ文化センター ●舞台研究会「うらかた」			中島町文化センター／能登演劇堂 ●舞台芸術アカデミー ●能登演劇堂振興協会	

立地条件からみた留意事項
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 大都市では不特定多数の観客を対象とした事業が多くなり、個人の姿が見えにくい。</li> <li>● ホール・劇場と地域住民との密着度が低く、ボランティアの働きが対外的に認識されにくい。</li> <li>● 住民参加事業よりも鑑賞事業が重視される傾向が強い。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地方都市では、都市部から表方、裏方、企画制作などの専門スタッフを呼ぶ予算的・人的制限があり、それを補うためにボランティアを採用したケースも多い。</li> <li>● 鑑賞事業そのものよりも住民参加のプロセスが重視される傾向が強い。</li> <li>● ボランティアを通してホール・劇場が生活に浸透している住民とそうでない住民との格差が生まれやすい。</li> </ul>

運営主体からみた留意事項		将来的な方向性	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 行政主導型の場合、担当者の個人的な資質に依存している部分が大。</li> <li>● 劇場・ホール側スタッフの異動サイクル長期化の検討。</li> <li>● ボランティア・コーディネーターの必要性。</li> <li>● 裏方サポートボランティアにみられる費用弁償のあり方の検討。</li> <li>● ボランティア活動を通じた人材育成の可能性の検討。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 民間主導型の場合、運営組織が任意団体である場合が多く、長期的な運営のためには法人格の取得が望まれる。</li> <li>● 財源の確保が地元の有志等の個人に依存している割合が高く、安定した運営のためには、財政面も含め行政との関係を検討する必要あり。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 市民個々人の自己実現</li> <li>● 劇場・ホール側の運営の方向性の明確化（芸術性の重視か、住民参加の重視か）</li> <li>● ボランティアから派生する市民活動育成（市民活動団体から住民参加の街づくりへ）</li> </ul>	







資料編 **6** :

地域に開かれた公共ホール・劇場—市民ボランティアの可能性をめぐって  
シンポジウム記録



芸術見本市 | 「地域創造塾」シンポジウム

「地域に開かれた公共ホール・劇場～市民ボランティアの可能性をめぐって」

記 録

日時:平成9年2月26日(水) 1:00PM

場所:東京国際フォーラム ホールD

■■■■■ パネラー ■■■■■

伊藤裕夫((株)電通総研研究部部長/チーフプロデューサー)

衛 紀生(演劇評論家/舞台芸術環境フォーラム代表)

菅沼優一(「舞台研究会うらかた」会長)

向井祥隆(たんば田園交響ホール チーフプロデューサー)

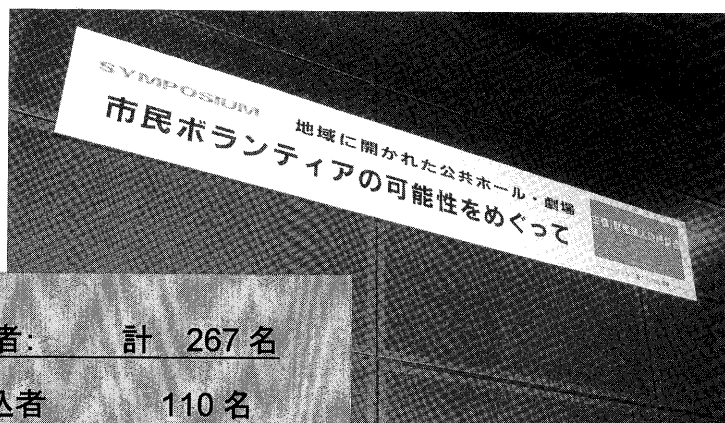
山本有一郎(武生国際音楽祭推進会議事務局長)

■■■■■ コーディネーター ■■■■■

吉本光宏(ニッセイ基礎研究所主任研究員)

■■■■■ 調査報告 ■■■■■

片岡真実(ニッセイ基礎研究所研究員)



シンポジウム参加者:	計	267名
一般 事前申込者		110名
当日受付		73名
フォローアップ参加者		62名
招待者		4名
関係者		18名

パネラー・プロフィール

◎伊藤裕夫(いとう・やすお) | (株)電通総研研究部部長/チーフプロデューサー

1972年東京大学文学部卒、(株)電通入社。プランニング室、PR局企画部を経て、1988年より電通総研へ出向中。文化政策、文化行政および民間非営利活動を主な研究テーマとして取り組んでいる。

文化経済学会理事。桐朋学園短期大学非常勤講師(芸術環境論)。『文化のパトローネージュ』(編著)、『企業の社会貢献』(共著)等著書、論文多数。

◎衛 紀生(えい・きせい) | 演劇評論家/舞台芸術環境フォーラム代表

1947年東京生まれ。大学中退後、虫プロダクション勤務を経て、1971年より演劇評論家。小劇場ブームの契機となった“第三世代”のネーミング・マスターとなる。1986年NHK衛星放送「エンターテイメント・ニュース」演劇キャスター。以降、札幌の演劇財団および金沢芸術村のアドバイザーなど各地の演劇・劇場づくり活動に関わる。著書『これからの芸術文化行政』、『芸術文化行政と地域社会—レジデントシアターへのデザイン』ほか。

◎菅沼優一(すがぬま・ゆういち) | 舞台研究会「うらかた」会長/自営業

1955年喜多方市生まれ。喜多方プラザ文化センターの技術スタッフをサポートするボランティアの市民グループ舞台研究会「うらかた」には1982年の設立当初から事務局長としてかかわり、1991年より第三代会長。

現在、(株)レクタカノハ代表取締役社長、喜多方プラザ自主文化推進協議会委員、福島県中小企業団体中央会会津交流会会長。

◎向井祥隆(むかい・よしたか) | たんば田園交響ホール チーフ・プロデューサー

1948年生まれ。篠山町中央公民館、篠山町福祉課勤務を経て、1988年たんば田園交響ホール建設に携わる。チーフ・プロデューサーとして住民参加のホール運営を目指し、「ステージ・オペレーター(裏方)」、女性プロデューサー「レディース21」、受付・案内業務「レディース」などの市民ボランティア活動を育成する一方、市民オペラ、丹波の森国際音楽祭シューベルティアード等のプロデュース、公共文化施設プロデューサーネットワークの組織化など積極的な取り組みを続けている。

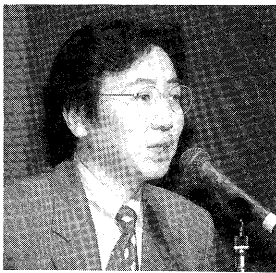
◎山本有一郎(やまもと・ゆういちろう) | 武生国際音楽祭推進会議事務局長/歯科医師

第1回目の音楽祭(フィンランド音楽祭'90in 武生)実行委員会に青年会議所代表として参加。第2回目の音楽祭以降、「武生国際音楽祭推進会議」事務局長。音楽祭の原動力である市民ボランティアのまとめ役として活躍している。

現在、武生市青年センター運営委員長、武生市公会堂運営委員。

●開会挨拶・パネラー紹介

津村 | シンポジウムを開催させていただきます。本日の地域創造主催のシンポジウムは、この看板に出ているとおり「地域に開かれた公共ホール・劇場～市民ボランティアの可能性をめぐって」というテーマで進めていきたいと思っております。今、全国で、市民の方々がボランティアという形でホールに参加することが多くなってきております。また公共ホールの方も、それを受け入れるという方向性がかなり強くなってきています。ボランティアという言葉だけで言うと、美しい音で聞こえがちなところもありますが、さまざまな問題点、課題もまだまだ多く含まれております。



美術館はいままでかなり多くのボランティアの方々が参加しておりますが、公共ホールのボランティアについてはまだ多くを明らかにされていません。そこで地域創造といたしましては、今年度の調査事業で、公共ホールのボランティアが今いったいどういう課題を持っているのかを、この1年間調査してまいりました。その中で、いろいろなホールの方にもご協力をいただきました。今日はその調査の報告も少しさせていただきますが、それをもとにシンポジウムという形で皆さんにお話をいただこうと思っております。皆さんもぜひ参加意識を持って進めていただければと思います。

それではさっそくパネラー、コーディネーターの皆様にご登場いただきたいと思っております。皆さんどうぞステージのほうにお上がりください。これより先は、今年1年かけてこの調査を共同で進めていただいたニッセイ基礎研究所の吉本さんにお渡しして、始めていただきたいと思っております。吉本さん、よろしく願います。

吉本 | 今日は皆さん、このシンポジウムにお集まりいただきましてありがとうございます。このシンポジウム開催の趣旨は、地域創造の津村さんからご紹介がありましたので、さっそく本題に入っていきたいと思っております。最初にパネリストの方をご紹介させていただきます。皆さまのほうからご覧になって、いちばん右手にお座りの方が電通総研の伊藤さんです(拍手)。皆さんご存じの方も多いと思っておりますが、伊藤さんは電通総研で文化行政、文化政策の研究をずっとなさっています。最近では文化だけではなくて、もっと研究領域を広げてNPOの問題にもずいぶんとかかわっておられます。



そのお隣が演劇評論家の衛さんです(拍手)。衛さんも改めてご紹介するまでもないと思いますが、演劇評論を続けるかたわら、最近はいろいろな地方自治体の公共ホール、地方の文化おこしのようなことにもずいぶん深くかかわっておられます。パネラーの方々のホール以外にも各地の事例をいろいろとご存じということで、今日のシンポジウムへの出席をお願いしました。

そのお隣が喜多方プラザ文化センターの「舞台研究会うらかた」の会長をされている菅沼さんです(拍手)。今度の調査でウラ方のボランティアを導入している事例はずいぶんとあったんですが、菅沼さんが会長をされている「舞台研究会うらかた」は設立して13年ということで、最も歴史の古いウラ方のボランティア団体になります。

そのお隣がたんば田園交響ホールの向井さんです(拍手)。向井さんはホールの運営者サイドの立場で、たんば田園交響ホールの運営に当初からずっとかかわられております。言ってみればボランティア・コーディネーターといえますが、館側のボランティアの窓口として、ボランティアのよき相談相手になり、なおかつボランティアを通じて公共ホールの新しい運営のあり方を模索されています。

最後になりましたけれども、私の隣にいらっしゃるのが武生市の武生国際音楽祭の事務局長をなさっている山本さんです(拍手)。山本さんは歯医者さんをされていますが、その職業のかたわら、第1回目の音楽祭から運営に参加されています。音楽祭を通して武生の町をどうにかよくしていきたいということで、ある種のNPO的な活動をされている方です。

今回の調査では国内7事例、海外6事例の調査のほかに、ボランティアの方々に対するアンケート調査等も実施して、ボランティアの参加の意識なども探っておりますので、シンポジウムのディスカッションに入る前に、ずっと一緒に調査をしている片岡さんから、20~30分間、調査の概要報告をしてもらおうと思っています。今日は皆さまのお手元に資料が配布されていると思いますが、その中の事例調査の概要に基づいた話になると思います。では片岡さん、お願いします。

### ● 調査報告

片岡 | それではお配りしている資料の1ページ目から順に説明をさせていただきます。まず、今年度1年間調査をした結果、どんな方が公共ホールでボランティアをされているかということですが、まずいちばん上のグラフを見ていただきますと、皆さんもご承知のとおり80年代後半から公共ホール・劇場が非常に増え、それに伴って、ほとんどの場合は90年以降にボランティアが導入されているのが実情のようです。



これは国内7事例を調査した中での調査結果なので、データが限られているということをご承知いただきたいんですが、ボランティアの性別については、グラフにあるとおり男性、女性ほぼ半々という結果が出ております。東京都が94年に実施をした美術館におけるボランティア調査の結果では女性が91%ということで、ほぼ女性によって支えられているという状況ですが、それと比べると興味深いと思います。

同じようにボランティアの年齢構成については、18歳以下から60歳以上まで年齢層はほぼバラバラということで、非常におもしろい結果が出ています。これも先ほどの美術館におけるボランティア調査と比較すると、そちらは40~60歳代が約8割ということで、ずいぶん違いがあるようです。

続いて2ページのボランティアの職業ですが、会社員、公務員、団体職員等とされている方が50%です。それに自営業、パートの方などを含めた有職者の率が73.5%で、4分の3は仕事を持ちながらボランティア活動をしているという結果が出ています。こちらも先ほどの美術館の調査では有職者が27%で、ボランティア像がずいぶん違うことがわかっていただけたかと思えます。

ボランティアの業務内容については企画制作、広報、舞台、音響、照明、もぎり、客席案内、教育普及等ある中で、数値として多いのはいわゆるオモテ方と言われているもぎり、客席案内です。その次がウラ方と言われている舞台、音響、照明の仕事です。ざっと見て、劇場ホールで考えられる業務のほとんどにボランティアの方が携わっているという結果が出ています。これも美術館の例と比較すると、美術館では企画展の企画の内容にまでボランティアがかかわることはまずないので、その点でも役割が違ってきている気がします。

今回事例調査を実施したのは、国内では7カ所です。北から順番にご紹介しますと、喜多方プラザ文化センター、能登の中島町文化センター・能登演劇堂、武生市の武生国際音楽祭、今立芸術館、大阪府立青少年会館のプラネットステーション、たんば田園交響ホール、そして春日市ふれあい文化センターです。

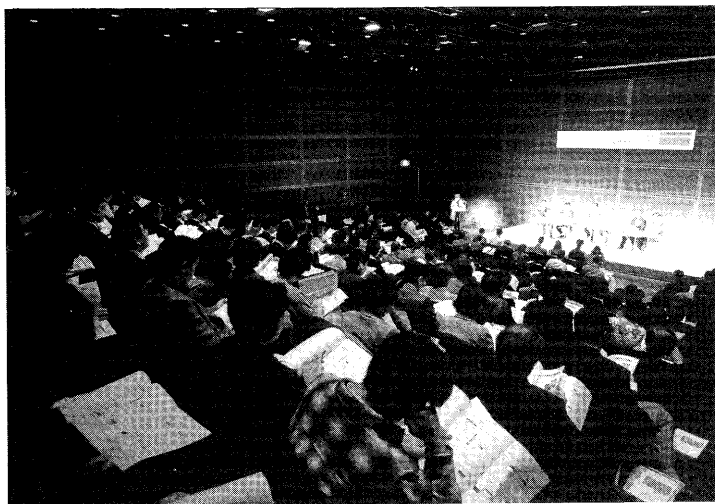
それぞれの概要を、資料10ページのA3横の一覧表で簡単にご説明したいと思います。先ほど紹介したボランティア活動の業務内容について縦軸と横軸で整理をしたものがこの一覧表になっています。横軸がボランティアの業務内容です。左方向に行くにしたがってオモテ方、ウラ方中心の、いわゆる公共ホール・劇場のサポート的な活動、逆に右方向に行くにしたがってボランティアによる企画制作などの主体的なかかわり方が強まるというかたちになっています。

上下方向のベクトルは、上が自主事業(招聘事業)となっていますが、プロの芸術団体の公演事業に対するサポートです。下に行くにしたがって、地元の方々への文化活動に対するサポートが主ということを示してあります。

喜多方から順番に紹介をさせていただきたいと思えます。先ほども少しご紹介がありましたが、喜多方プラザ文化センターは1983年に、ホールが開館する以前から「うらかた」という舞台研究会が組織をされていて、今年で13年目です。その活動を通して、ウラ方ボランティアの全国的ネットワーク「日本舞台研究者連絡会」というものが組織されているそうですが、喜多方はその事務局も務められています。ウラ方の活動としては非常に歴史が長く、その活動に特化している点でも特徴的です。活動内容は地元の出演者による催しがほとんどということで、30～40代の男性が中心に活動されているようです。

中島町文化センター・能登演劇堂は、まず最初に仲代達也さんの無名塾との関係がありまして、無名塾の夏の拠点として95年5月に開館しています。そのウラ方の活動を舞台芸術アカデミーがサポートしており、客席案内もボランティアでサポートしています。それとは別に能登演劇堂の活動自体を自主的にサポートする能登演劇堂振興協会という市民組織ができています。これはホール側とは別の運営体で、任意団体として活動しているものですが、そこの方々も友の会組織からチケット販売、資金調達までを手掛けているということで、市民組織としてのボランティア活動の可能性が見られる気がします。

同じく武生国際音楽祭についてですが、こちらもホール主体ではなくて、任意団体として活動している武生国際音楽祭推進会議というところが運営をしています。今日は事務局長の山本さんにもいらしていただいています。こちらも企画



から芸術監督の選定、資金調達まで市民主導で組織された団体でやっています。武生市文化センターは音楽祭の会場および団体の事務局になっています。1990年にボランティア活動を始められて、いまは60名ほどの組織になっています。国際音楽祭の予算はだいたい4,500～5,000万ですが、その規模を市民団体に運営しているという非常に興味深い事例の一つかと思います。また、音楽祭ということで、年間を通した活動ではなく音楽祭の

期間に限られた集中した活動になるところも、他のホールの事例とは少し違うという気がします。

次に今立芸術館ですが、ここは二つのチームがあります。一つがアシスタントエンジニア、もう一つが企画プロデューサー委嘱システムです。アシスタントエンジニアは、91年に今立芸術館が開館したときに町民劇団綺羅星座の技術スタッフとして町民から募集をされたものが、いまでも継続的に活動しているそうです。現在15名程度の方が活動しています。

企画プロデューサー委嘱システムのほうは、町民から企画を募集して、それが採用されれば今立芸術館の自主事業として位置づけられて、具体的な運営までもボランティアの方でやるかたちになっています。

大阪府立青少年会館のプラネットステーションについては、青少年会館なので対象が青少年に限定されているところが少し違いますけれども、これも今立の企画プロデューサー委嘱システムと少し似ています。主催事業の企画を青少年から募集して、企画が採用された人がそのイベントのチーフスタッフになって、その企画を実現するためのイベントスタッフをさらに募集して、学生中心のチームで運営をしているというものです。現在168名ということでしたが、われわれが行ったときもちょうどプラネットフェスティバルの期間中で、若者がわんさかいるホールというイメージを持ちました。

たんば田園交響ホールは歴史としてはかなり古いほうで、88年のホール開館以前、1987年10月に組織されています。こちらは3種類のボランティアグループが相互に絡み合いながら活動しています。ウラ方の業務をしているステージオペレータークラブ、オモテ方の業務を行うレディースアイ、女性に企画プロデューサー的な業務をお願いしているレディース21の三つです。それぞれにかかわっている方を合わせると、だいたい150名から200名弱という方がホールを中心に活動しています。

兵庫県篠山町は2万2,000～3,000人ぐらいの人口規模なので、その中でずいぶんの方がこのホールにかかわっているという印象を受けました。ステージオペレータークラブについては随時養成講座を開いているので、その卒業生が順にステージオペレータークラブに入ってくることになっているようです。三つのシステムがそれぞれ連携されて活動しているという点では、ボランティアのシステムとしてかなり組織化された事例と言えらると思います。

最後が春日市のふれあい文化センターです。春日市は福岡市のベッドタウン



で、新しく作られた町ということもありましたから、そこに劇場・ホールができたときに、その町の将来を考えて青少年を積極的に活動に参加させようという意図のもとで作られた K's Crew というボランティアチームがあります。そういう意図で作られたので対象は 30 歳未満になっています。最初は公演サポートから始まって、いまは地元で活躍をしているアマチュアのミュージシャンのコンサートをボランティアが企画をするアコースティックトークライブという企画をやっているそうです。

ご覧になっていただくとわかるように、活動の範囲が非常に多岐にわたっていることと、活動の仕方にしろ運営のされ方にしろ、それぞれの事例によって非常にさまざまなので、分析するのはなかなか難しいという感じでしたが、その中で見られる留意事項、課題等を整理したものがその次の 11 ページになります。

一つは運営主体から見た留意事項で、下のほうの四角に囲ってあります。基本的には公共ホール主導で行っているボランティアのシステムを調査対象として考えていたのですが、結果として、武生の国際音楽祭推進会議あるいは能登演劇堂振興協会などはむしろ民間が主導になって活動していて、逆にホール・劇場を巻き込んでいるというかたちが見られました。

何件かインタビュー調査をして非常に強く感じたことですが、運営主体から見た留意事項としては、まずホール・劇場主導で行われているものはそれぞれにキーパーソンとなる非常に強いキャラクターを持った方がいらっしゃることです。今日パネラーとしていらしている方も皆さんそうですが、現在はその担当者の個人的な資質に依存している部分がまだ非常に大きくて、制度としての確立には至っていないという気がしました。その中で、ボランティアコーディネーターという館側とボランティアの中間的な位置に存在する方がいるところといないところがあって、この必要性も議論の必要があると思われれます。

費用弁償のあり方の検討という点で、特にウラ方のボランティアについては、有償ボランティアのかたちが主流でした。これをどのように考えるかは館によってそれぞれ考え方が分かれているようではすけれども、議論の必要性を感じました。あとは青少年を対象にしたものがいくつか見られて、ボランティア活動を通じた人材育成の可能性も今後議論されるべきかなという気がします。

民間主導型のほうは、今回調べたケースが二つとも任意団体というかたちで運営されていて、運営組織の形態が不安定だという印象を受けました。地元の有志の方が中心になって、皆さん特に財源的なサポートをしていらっしゃるんですけども、それが継続されるためには何か制度としてのサポートが必要だという気がしました。

右側は立地条件から見た留意事項です。今回の調査対象は大阪府立青少年会館を除いて、ほとんど地方都市におけるボランティア活動でしたが、それを少し一般化したかたちで留意事項を挙げてみました。大都市では観客が不特定多数になるので、個人の顔が見えにくいという特徴があると思います。それに関連して、ホールや劇場と地域の住民との密着度ということからすると、ボランティアの活動内容が対外的にはなかなか認識されにくい点があるのではないかと思います。これはある意味で大都市の文化施設の役割と言えるかもしれないけれども、住民参加型事業がむしろ難しく、芸術性を優先するというか、鑑賞型の事業が重視される傾向が強いのではないかと思います。

逆に地方都市に行きますと、ウラ方スタッフ、企画制作などをボランティアにお願いする経緯は、たとえばその町にウラ方会社がなく、そういう技術や経験を持った地元の方に頼んでいるということがありました。都市部からそういう会社の

方を呼ぶにしても予算的・人的制限があって、その人材不足を補うためにボランティアを採用したケースが多かったように思います。

大都市とは逆の事例で、鑑賞事業そのものよりも、いかに住民に参加してもらうかというプロセスが重視される傾向が強いということが言えると思います。個人の顔が見えやすいことはあるんですが、一方で劇場・ホールの活動にボランティアとして参加をする人とそうでない人の格差が少しずつ生まれてきているような感じも受けました。

立地条件と運営主体から見た留意事項の双方から見て、今後検討されるべき課題、将来的な方向性をいくつか挙げてみました。これは、このあとのディスカッションにつなげていければという気がしています。

まず重要なのは、劇場・ホール側の目的で、そこをどういう劇場、ホールにしたか、ゴールをどのように考えるかということからボランティア活動の方向性も変わってくるという点があります。

それから何度か申し上げましたけれども、ボランティアの制度としての確立という点があると思います。制度論に入ってしまうとなかなか難しいところがありますが、継続した活動のためにもある程度、システムとして成り立たせる必要があるという気がします。

ボランティアの育成については、ウラ方を中心にした技術的、継続的な研修制度が必要であると同時に、芸術的な教育、ボランティアとはいかなるものかというボランティア教育についても、幅広く検討される必要があるという気がします。

また、今回の調査の趣旨の一つでもありましたが、ボランティア活動を中心にして劇場・ホールを核にした市民活動がどのように育成されていくかということも、将来的な可能性、希望として議論を深めていければと思います。たとえば民間非営利団体というかたちで市民活動が育成されていく中で、逆に行政側とはどのようなパートナーシップで活動を深めていけばいいのかということもすくめ、議論していただければと思います。

では、事例調査報告は、このくらいで終わらせていただきます。

### ●ディスカッション①

吉本 | いま片岡さんから報告いただいた資料の後ろに、5施設と1機関についてアメリカの事例も調べています。これについても、これからのディスカッションの中で取り上げていきたいです。私も、いま片岡さんから報告のあった調査を一緒にさせていただきました。最初は、劇場やホールのボランティアは劇場やホールのいろいろな仕事をボランティアの方が手伝っているんだという見方で行ったんですが、実はそこで出会ったボランティアの方々はボランティアをやっているという意識は全然なくて、むしろこんなに楽しいことはない、新しい人にいろいろ出会うという意見が非常に多かったように思います。その中で実に印象に残っているのは、どこにもそれぞれ名物の人がいることです。それはボランティアの側の人でもそうですし、ホールの運営者サイドでも、この人がいるからここがうまくいっているという事例がたいへん多くありました。



名物人間がいろいろいる中で、このシンポジウムに一体どの名物を呼べばいいかいろいろ考えて、悩んで、今日は名物中の名物の方3人に来ていただいています。最初に、喜多方の菅沼さんにお話ししたいです。喜多方にお伺いした時は、最初にホールの薄(うすき)さんという方がご説明して下さいました。この方は舞台技術、特に音響のご専門の方で話を聞いたのですが、

事前に「ボランティアの方の話を聞きたい」ということでお願いしていたのに、ボランティアの方がいらっしやらないんです。どこで話を聞くんだろうと思ったら、「違う場所に皆さんお集まりです」と言うので車で移動すると、何か怪しい民家の路地に入って、普通の民家風の建物にたどり着きました。実はそこは料亭というか、食事を食べられるところになっていて、2階に行くと皆さんおそろいで「いきなり話も何ですから、ビールからどうぞ」と言われ、地域創造の方も横にいるのにビールを飲んでしまったら調査はできないのではないかと思います。そんな感じで始まりました。

菅沼さんは十数年もボランティアをやられているいわば先輩だと思いますので、実際にボランティアとして十数年活動されてどうだったかというあたりのことを、最初にお話しいただきたいと思います。ではお願いします。

菅沼 | 1983年7月に「舞台研究会うらかた」という組織が設立されました。その当時は事務局長ということで務めていましたけれども、現在は第3代の会長をしています。私は技術的なものよりは、こういう場など表に出るほうが多いんですが、現在の「うらかた」のメンバーは人数的には当初とだいたい変わらずに、40名前後が登録しております。



喜多方市は最近ラーメンで有名ですが、それまではあまり有名ではなく、けっこう田舎の方なので音響や舞台に関する専門の会社もありませんでした。その当時、仙台の方にはそういう会社もあったんですけど、先ほどの報告にもありましたように、いま思えば喜多方プラザの場合は、地元の人たちができる部分をボランティアでという形で始まったのではないかと考えております。

その当時、プラザの職員も専門でやってきた方は一人だけで、あとは市の職員と電力関係の会社から入られた方と3人で、専門の音と明かりと舞台を担当していましたので、開館する前からその職員の方々といろいろな研修をしながら活動を始めました。13年前ですから私もずいぶん若かったんですけど、その当時はいろいろな団体の活動が活発で、興味本位で入ってきた人もずいぶんいて、けっこう人も集まってやっていました。

ただ13年くらい経つと考えると、社会的に多種多様な仕事の内容になってきたのも原因の一つかとは思いますが、なかなか若い、新しい人が入らない。ということで、現在半分近くが設立当時のメンバーです。新しく何人かは入っていますが、いまはその辺が一つの問題になっていると考えております。喜多方の場合はり割強がウラの方のお手伝いをしています。オモテのもぎりなどは、今のところプラザの職員の方が手配してやっております。

10年以上やってきた実績という、喜多方の場合は10年前と比べて地元の方の文化事業がずいぶん育ってきたと考えております。最近では民謡など、主催する団体の方から「これは、こうやってくれ」と注文がありまして、われわれよりも明るくなってきた部分があるのではないかと考えております。

喜多方の場合、文化センターの大きな目的としては、地元の人たちがそのプラザを使ってどういう文化的な自分たちの事業をできるかということを中心としてやっておりますので、そういう意味では非常に成果が出てきているのではないかと考えております。

あとは「うらかた」が作ったわけではないですけども、プラザの事業の中では何年か前にNLC(ニューライフサークル)というものが企画されました。これは全く素人の方というか、喜多方の広域圏の中でいろいろな活動をしている人たちが応募して、審査を受けて、会場費などは無料でプラザを使っただけのものです。

NLC の発展したものが「じもとぷらざ」ということで、現在は「じもとぷらざ」と NLC と 2 本で、プロではなく、地元の人たちが自分たちで企画する催しとしてやっております。これにおいては「うらかた」のメンバーが企画の方にも少し入っていきながら、一から十まで全部やっている状態です。

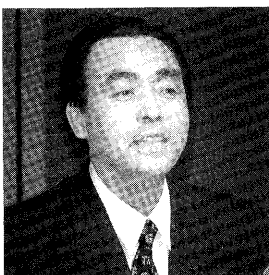
先ほどもお話に出ましたけれども、金額的には変わっても、うちの方は最初から有償のボランティアということで今までやっております。以上です。

吉本 | 今お話があった中では、企画などにもかかわっているということですが、私が聞いた話ですごく印象的だったのは結婚式です。今はやっていらっしゃらないようですが、昔はセンターで結婚式もやったそうです。ボランティアの方がウラ方をやっているものですから、結婚する人が結婚式の演出をこうして欲しい、ああして欲しいと言って、どんどん演出がエスカレートしていったということも聞いています。

それはやはり地元の人がウラ方のボランティアをやっているからで、自分たちが舞台を使う時も、こういうふうにして欲しいという要望を伝えやすいといえますか、同じ地元の人が作る側であり出る側でもあって、一緒に作っているという印象を強く受けました。

では次に、たんばの向井さんにお話ししたいかと思います。向井さんのところはいまの菅沼さんと同じくウラ方のスタッフもそうですし、オモテ方もマニュアルのようなものができていて、企画もボランティアがやっているということです。片岡さんの報告にもありましたけれども、2 万人市民のうち 150 人ぐらいの人がボランティアとして登録し、その他に卒業した方もいらっしゃるということですから、住民の 100 人に一人ぐらいはボランティアでホールにかかわったことがあるという計算になります。ホールの運営そのもののあり方が、ボランティアによってかなり変わってきているのではないかという気がしますので、その辺の活動の広がりを中心にお話しただけたらと思います。

向井 | おはようございます。初めに、先ほどの報告の中の訂正だけさせていただきます。たんば田園交響ホールは篠山町が管理運営をしていますが、実は兵庫県立の施設です。兵庫県が建てて、多紀郡という広域行政の中に管理委託が下りてきて、篠山町がその管理委託を受けていて、いま運営費は篠山町が一般財源の中でやり繰りをしながら捻出をするという状況になっています。



県立の施設という位置づけもありまして、ボランティアのスタッフに関しては篠山町民だけを対象にして活動してもらっているのではなくて、広域行政圏の範囲の中の人たちもかなりご参加をいただいています。そして関心を持っている地域外の方、たとえば阪神間から来ているスタッフもあり、非常に広域的なところからのボランティア参加をしてくれています。本当にホールが対象にしている地域の人口は 4 万 5,000 弱とご理解いただきたいと思います。

4 万 5,000 というのは多紀郡という地域を指して言っております。ここには 4 町がありますが、どの町で聞いても「あなたはどこの人ですか」と言われると、「丹波篠山です」と答えるものですから、多紀郡が篠山というような表現をします。昔から青山家一藩の、一つの地域人として暮らした住民の方々ばかりですので、4 町あっても篠山という一つの文化圏の中で暮らしている仲間です。ですから音楽協会も、篠山町音楽協会という名前はつけておりません。あえて篠山音楽協会という表現の仕方です、4 町の人たちが一つの活動の輪の中に入っております。篠山の中にはもう 30 年を超える歴史を持つ文化協会、音楽協会があります。音楽協会の中にはメロマン室内管弦楽団という 50 人編成のオーケストラもあります。

4万5,000弱の人口の中、それもかなりローカルなところでオーケストラがあるというのも少し珍しいと思っていますが、メロマンも昨年30年記念の演奏会をしました。そうした文化活動の歴史がある中で、10年前にこの交響ホールが建ったということです。

そのいきさつの中で、実は建つ10年ほど前から文化協会なり音楽協会の団体が中心になってホールの建設運動を始めました。それはどのような運動かといいますと、各団体が発表会をした時に、参加をしたお客さんから100円ずつ建設の募金をしたわけです。文化ホールを建てましょう、一人100円くださいという呼びかけの運動を10年ほど続けておりました。

そうした運動のある中で、兵庫県知事から「非常に自然環境のいい中に、いいホールがあればいいですね」というごあいさつがあつて、それを聞いた運動をやっていた人たちが「じゃあ、ひとつ造ってください」という要望運動をして篠山にこの文化ホールができたといういきさつがあります。したがってこのホールができた時には、ずいぶん多くの方々の篠山に文化ホールが欲しいという思いがあつたので、そのホールに対する思い入れは、行政が要求のない中に先んじて造ったかたちではないということです。

このような背景もありましたので、私どものほうでボランティアのシステムを導入しても、かなり反応がよかったという状況です。私はホールのソフトを作る段階からかかわってきておりますが、時代的にタイミングもよかったのでしょうか、その中でカラオケがずいぶんとブームになりました。それまでのカラオケはスナックでお父ちゃんが酒を飲んで歌うものだったのが、カラオケボックスができて、子どもたちからじいちゃん、ばあちゃんまでもがマイクを持って歌うようになりました。昔だったら、マイクを持って歌うなんてたいへん怖いことでしたが、だれもが恐ろしげらずにマイクを手にして歌が歌えるという時代がそのころから始まっていたと思います。

そういう時代的な状況の中で、これからは住民がみんな舞台上に上がる時代になるだろう。そうなった時に、それを支えるためにはどうやればいいだろう。上がるにしても、高い使用料では上がれない。

篠山にはたくさん文化サークルがありますが、600人ぐらいの音楽協会会員のサークルであっても、年間に50~60万という使用料を捻出してホールを使うことは当然できません。そんな中で、実は私の私的な活動で田舎に帰ってきてフォークグループをやっておまして、その仲間が何人かおりました。その仲間は自分たちで金を出してPAを買って、各小学校を回ってフォークコンサートをやったり、地域の音楽活動をやっていました。文化祭になりますと、そのメンバーたちが公民館のホールを使って、住民の皆さんの文化祭のウラ方としてやっていたわけで、そういった活動もありました。

もう一つは、それより10年ほど前から篠山の労音があり、10人ほどのメンバーだと思いますが、そこが活動する中でウラ方をするボランティアなグループができていました。完璧なボランティアではなく、ホールが建つ時点では解散していたんですが、そうした背景があつて、私の仲間にも「もう少し自分たちで勉強しようじゃないか。何とか地域の団体の応援ができないだろうか」という呼びかけをしました。

みんなが快くそれを受けてくれるものですから、私も図に乗って10人、20人と肩たたきをして仲間を集めました。だけど行政のする仕事ですから仲間だけでスタートさせるわけにもいかないし、勉強会もするのだからということで、ステージオ



ペレーターの養成講座を一般の新聞、広報等で呼びかけました。

当初、1期生の養成講座に60の方が応募してくれました。これは予想外でした。私の肩をたたける限度が20人ぐらいでしたから、そのぐらい集まったらという予測でしたが、現実的には60人でした。いろいろ聞きますと、ちょうどテレビのADさんなどウラ方の人たちが、画面に出て出演者と一緒におもしろくやり取りをする姿がチラチラと見えていたころだったんです。

それまでは舞台にしてもテレビ画面のウラにしても、ウラ方が姿を見せないというかたちでず

と来ていましたが、10年ほど前からウラ方の姿がチラチラ表に出るようになっていたということもあって、60人の応募がありました。その人たちを中心に、オープンに間に合わせるようにということで、ホールが建っていくのに合わせて隣の市民会館で週1回6カ月の研修会をしたわけです。

60人いたのがやはり途中で挫折をして、最終的には38名が第1期生として残ってくれました。あとは2年に1回ぐらいのペースで養成講座を行っています。ここに98名と書いてありますが、中で入れ替わりをしておりますから150人を超える方々がオペレータークラブにかかわり、また退部をするという状況になっています。私たちのエリアの中で150人の方が、少なくともオペレーターとしてこの活動にかかわって、またいくぶんかの知識を持った人たちが住民の方々の中に存在しているということを意識しながらやっています。その人たちの存在がたいへん心強いという状況です。

そんなオペレーターの活動が始まりましたが、うちの場合はそれに合わせて自主公演を年に11~12回やっております。当初は、17回ほどした年もありました。その自主事業のおモテとしてやってもらう女性たちをということで、これも公募いたしました。ここには36人と書いてありますが、いまは30名ほどの方がいます。これは「笑顔のすてきな人たちお集まりください」という呼びかけをしておりますが、とりあえずは独身の女性たちです。篠山にこんなたくさんの女性たちがいたのかなと思うぐらいで、この人たちが自主公演の時には8~10人ぐらいのペースで、入れ替わり立ち替わり参加をしてくれております。

この方々に対しても養成講座というか研修会をいたします。もぎりのチケットを受け取って流して渡す渡し方、あいさつの仕方、モデル立ちの立ち方、指の手の指し方とひとつおりの講習をした上で現場についていただいています。彼女たちはけっこうそういう研修の機会がないので、これに参加をして接客の勉強になったと言ってくれております。そういった意味で、かかわっていく中で少しは自己研鑽できる部分があることも魅力ではないかと思っております。

皆さんもそうだと思いますが、私どものホールもお客さんの顔を見ると4分の3ぐらいは女性です。ですから、もっと女性にターゲットを絞って魅力を感じてもらえるような企画をするにはどうしたらいいだろう、女性のことだからやはり女性に企画してもらうのがいちばんいいのではないかという非常に短絡的な発想で企画集団を募集しました。

それがちょうど1990年だったので、2000年までの10年間にこれぞ女性の企画といういいものを何かみんなで作りましょうと、21世紀までということからレディース

21 という名前をつけました。レディース21 とつけたからには人数も21人に限定しようということで、21人の女性たちに集まっていただいています。非常に21にこだわりまして、毎月21日が例会日ということでやっております。

丹波は多紀郡、氷上郡を合わせて10町ありますが、それぞれの町から応募がありました。レディースのメンバー一人ひとりをよく見ると、地域でも顔役さんといえますか、婦人会をやった経験があったり、親子劇場をやった経験があったり、いろいろな文化活動の経験者が多くございます。そういった経験があるので、活発に意見がでて、私もけっこうおしゃべりですが、私もたじたじするほど吹っかけてきます。

私も遠慮なく言うほうですからけんか腰に、その人たちが何カ月もかかって積んだり崩したりしたものをいとも簡単に「それは、あかんで」、「そんなもの、客入るか」、「やり直し」とけっ飛ばしています。そんないきさつがあつて、ずいぶん取っ組み合いの議論もしながら来ましたが、その企画集団レディース21の中で力をつけてきた人がいまホールを出て、このイベントにはこの人がというかたちで、地域のいろいろなイベントに首を突っ込んでいます。

そんな人たちがばかり集まっていますから、ホールではニコニコ笑いながら会議をしているんですが、その一人ひとりが町に帰りますと、今度はみんなを先導していろいろな音楽会のイベントをやってくれています。そんなことでレディースの人たちは、地域をプロデュースする力もつけてきています。これはオペレータークラブのメンバーもあわせて言えますけれども、ホールだけがボランティアのスタッフの活動の場所ではなくて、地域の中でその人の顔が作られるようになったことが、ボランティアスタッフのいちばんいいところだと感じています。

専門用語も含めた舞台知識のノウハウは、地域の中でいろいろなステージを作る時にも役立ちます。私の一つのキャッチフレーズ的な言葉として、「街はみんなの夢舞台」という言葉を使っています。お宮さんやお寺で音楽会をやってもいいのではないかと、ホールだけが音楽発信の場所ではないだろうということから、街角コンサートという設定をして、街角のいろいろなところでコンサートを企画する人たちを作りたい、またそれをやって欲しいということで、一昨年からの仕掛けもやってきました。

これにもうちのスタッフがいろいろなかたちでかかわっています。今までステージがなかったところにステージを作り、そこに出演者を乗せるという舞台を作る時には、その制り方のノウハウが必要です。交響ホールの活動の中で、150人のスタッフそれぞれの中に、それが身につけてきたという状況になっています。

スタッフに入るかかわりにもずいぶんいろいろなかたちがあります。たとえば70人ほどの生徒を持っているジャズダンスの先生がいます。彼女がいちばん初めにうちのホールを使って発表会をした時、ダンスはよく教えられるけれども、演出ノウハウを全然持っていませんでした。皆さんご存じのように、この曲の時には赤い色、この曲の時には青い色という抽象的な注文をしても、赤い色といってもピンクから紫までありますから、番号で指定したり、具体的な色を要求しないと聞いたスタッフも困ります。

そんな状況の中で、1回目にやった時に自分の思いがうまく伝わらなかったということで、これはもっと舞台のことを勉強しなければいけないという気持ちで、彼女は養成講座に飛び込んできました。いまはうちの照明の部長をやっていて、今度は副会長をやってくれますが、いまは自分で照明の仕込み図を描くし、当然2級の照明の資格も持っていますから、今度はプロよりも細かい要求を出すわ

けです。この曲の 30 秒後にはこの色に変えて、このタイミングでと、楽譜を見ながらオペレートしないとできないような注文をどんどんしてきて、いろいろな機械をフル活用して舞台を作ります。

そんな彼女の舞台を見て、今度は他の人たちから、あの子に照明の絵を描いてもらおうではないかという要求が出てきます。彼女はホールのスタッフとして活動して、片方ではジャズダンスの先生をしていますが、いろいろな他の団体の照明のアドバイザーとしての顔もできてきました。

それから混声合唱団の一団員でやっていた男の子ですけども、おもしろいからとやってきて、舞台のノウハウを身につけて、発表会のいろいろな話し合いの中で「この曲の時には、こんな装置を使ってほしい」という提案をどんどんしていきました。そのうち、他のメンバーたちがその子に舞台の演出を頼むかたちになって、頼まれたその子が一つの合唱団の舞台を作ると、それが非常に他の合唱団から好評を得て「うちの合唱団の舞台監督も頼む」と、シルバーコーラス、少年少女合唱団などいろいろな音楽団体が彼に依頼をしていきます。こんな様にホールスタッフが舞台演出をリードする、指導する立場に変わっていきます。

それと同時に、地域の中で自分の顔の広がりみたいなものもあって、どんどん知り合いが増えていきます。全部が全部ではないですけども、いま多くのスタッフが、ホール外でも地域の中で自分の顔を見つけて活動し始めています。そして今度は、ボランティアスタッフが地域の文化を持ち上げるような力になっていきます。ホールから飛び出したボランティアスタッフが、今度は本当の地域文化を進めていく力になるということが見えてきました。時間ですので、また後から申し上げます。

吉本 | ありがとうございました。いまの向井さんのお話で、ボランティアがどんどん広がっていることがよくわかりいただけたと思います。お伺いした時に、ボランティアの方に何人もお目にかかりましたが、お一人、毎日必ずホールに顔を出すという方がいました。「毎日来て、何かボランティアの仕事をしているんですか」と聞くと、「いや、別に用があるわけじゃないんだけど、仕事で通りかかったら必ずホールに寄ってお茶を飲んでいく」ということで、ボランティアというよりは、ホールが寄り合いの場所になっているような印象を強く受けました。

では次に、3 人目の山本さんのお話を伺いたいと思います。山本さんは武生の国際音楽祭の事務局長をされていますが、芸術フェスティバルの場合は一時期に集中的にいろいろな仕事が発生するので、他にも PMF や松本のサイトウ・キネン・フェスティバルなど、いろいろなところでボランティアが採用されています。われわれも最初にお伺いする前はそういうスタイルかと思っていたら、実は全然そうではなくて、ボランティアではなくむしろ主体的にやっていたらしくいしました。

理事の方が音楽祭の収支が合わなくなるとポケットマネーをポンと出すというように、想像していたのを超えたぐらいの活動をされていました。私が山本さんの言葉で印象的だったのは、「たまたま音楽祭をやっているけれども、音楽祭で武生の町をどうにかしたいんだよね」とおっしゃったことです。それが非常に印象に残っているので、町づくりも含めてお話しいただけたらと思います。

山本 | 個人的に言いますと、少しイントネーションが違うので、都会の方とおしゃべりすると「東北ですか、それとも九州ですか」といろいろなことを言われます。「実は福井県は日本の真ん中なんですよ。武生はこういうところなんですよ」というお話をさせていただくんですけども、この活字にも書いてあるように、私たちは武生と



いうのをそのまま漢字で出しています。というのは、これがタケフと皆さんに読んでいただけるようになるまで漢字で武生と書こうということで、少しこだわってやっております。



どうして武生にこだわっているかといいますと、地方都市ではどこでもあるんでしょうけれども、うちの場合は1300年前に国府が置かれた町ということで、その当時から政治、経済、文化、教育の中心でした。今日はたぶん石川県、富山県、新潟県の方々もお見えになっていると思いますけれども、たぶんその当時は福井県武生が、越の国の入り口として京都の文化を引き入れた中心地だったと思います。

その1300年の歴史を、細々ながらわれわれの先輩方に何とか引き継いでいただいて、たぶん自分たちはこういう生活ができるのだらうと思います。だとしたら、そういう生活を次の世代に引き継いでいけるのかどうか、私たちがいちばん不安なことでした。もちろん、これから日本の国がどうなるのかという不安もあります。だけど私たちが見える範囲はやはり自分たちの住んでいる地域ですから、そこがこれからどうなるのかということが非常に不安でした。

そういう中で、たまたま1989年に東京で第1回のフィンランド音楽祭が開かれて、1990年に第2回の音楽祭を開く予定がありました。第1回のフィンランド音楽祭をされた時に、その維持運営に非常に困ったので、その負担を軽減しようと思ったので、期間の途中で、どこか地方で手を挙げる受け皿がないかということを知った私たちの仲間が、「では武生でやりましょう」と言いました。その当時、武生の市長さんもやれやれということでした。第1回目は行政指導型のワンパターンで、上から命令があって、各種団体から代表者を選んで一つの実行委員会を作って音楽祭をやるというかこうだったわけです。

いまはもう40を過ぎたのでクビになりましたけれども、たまたま私は青年会議所という団体に所属しておりましたので、その代表としてとにかくいっぺん行って来いということから始まりました。私たちは第1回という言い方ではなく、たまたま90年に始まったので「フィンランド音楽祭武生'90」という言い方をしましたが、音楽祭に関しては今回で終わるんだらうといういいかげんなつもりで参加しました。

ところがその根底には、この町をどうしたらいいのかということがありました。ひょっとしたら文化、音楽祭で、その地域の経済、政治、教育のリーダーシップを取れるのではないかと。戦後いままで経済主導型で来た日本で、文化とか人間が生きるとは何かという話をしたら、ひょっとしたらみんなが理解してやっていけるのではないかと。そういう中から、地方から中央に発信できるキラリと光るものをしていこうということで、1回目が終わったあと91を企画しようと盛り上がってきました。

いわゆる官主導型ではなくて、そういう意識を持った人間が何十人が集まってやり始めたのは91年の音楽祭からです。そういうかたちで始まったので、ある意味では、今日のお二人の方と私の立場は全然正反対のかたちです。

ところで、どうして呼ばれたかという、この命題にあるように地域に開かれた公共ホールということからです。私たちは武生文化センターを拠点として音楽祭活動をしています。普通、いままでの文化センターは自主事業の運営管理をいかにうまくやるかというためにボランティアの利用が始まったと思うんですけれども、逆に私たちは、私たちの言葉で言えば文化センターを占拠しているというつもりでやっております。

だからたぶん文化センターの館長さんはそれだけ太っ腹で、若い連中がガタガタ言うのを利用して、うまく踊らせているんだらうと思います。私たちがやる音

楽祭が武生の中で認知されていくことで、少しでもよその県から人に来ていただいたり、少しは武生の商品も売れるのかなと思います。音楽祭は10日間ほどやりますけれども、演奏家には1週間以上滞在していただきます。普通は舞台上で演奏するとそのまま帰ってしまいますが、その日の演奏が済んだ後も何かコミュニケーションを取っていただきます。

そういう人たちの中で、小学校の1年生に入った子どもが9年間やって中学校を卒業する時には、もっと感性豊かな子になって、そこからまた新しい街を作ってくれるのではないかと、そういう教育効果もあると思います。そういう中から人間を形成していけば、政治不信などいろいろなことが払拭されていくのではないかと、ということで一生懸命活動を始めたわけです。

音楽祭について、先ほどの片岡さんの説明にもう少し追加させていただくと、いま言ったように音楽祭では演奏家は滞在型で、演奏以外にもいろいろなかたちでボランティアをしていただきます。先ほどの丹波篠山のお話にもありましたけれども、街角での演奏もやっていただきます。小学校や中学校でも演奏をしていただきます。文化センターのホールでないところでも、いろいろな演奏をやっていただくという人たちです。しかもその演奏内容も、東京から見てもキラリと光るものをしたいと自負してやっております。

それと同時に、それに参加する一般市民約150名の合唱団があります。もう一つ、武生はブラスバンドが盛んなところ。普通、ブラスバンドは高校単位で出てくるんですけども、その日のために1年間かけて選抜のブラスバンドを出します。そういうかたちで市民が参加しています。

もう一つは夢ですけども、残念ながら私たちには自前のオーケストラがありません。オーケストラを呼んでくると最低でも何千万もかかります。これは営業成績で言うと非常に赤字になるので、これを何とか解消したい。私たちのこういうやり方を理解していただけるそれぞれのアーティストに、全国各地に散らばって演奏活動をされている一流の方に、6月になったら武生の音楽祭があるということで集まっていたら一つのオーケストラを編成する。それができたらいいと思うのでここ3年ぐらい計画を立ててきましたが、今年はそれをやります。

私たちは自前ではオーケストラを持っていませんけれども、10回までには、胸を張って武生国際音楽祭専属のオーケストラだと言えるようなものを作りたいと思います。そのように、音楽祭をやるとだんだん夢が広がっていきます。ボランティアとして無償で何が楽しいんだと言われると、こういうところでおしゃべりもさせていただけるし、いろいろなことも教えていただけるし、私個人にとっては、自分の仕事だけをしているのではなくて非常によかったと、いまのところは感謝しております。

もう一つ、私たちは音楽祭が文化センターを占拠したと思っておりますけれども、たぶん文化センターのほうは、音楽祭のボランティアのやつをうまく使っていると思っております。それと同時に、地方自治体が地方分権で権限を委譲されて何をやるかという時には、地方の市民をいかに使うかが地方自治体の役目だと思います。

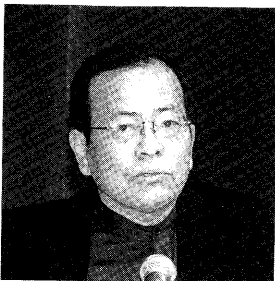
そういう時、たしかにボランティアは一時情熱を持って燃えるんですけども、どうも継続性がない。逆に行政の方はあまり燃えてくれないけれども、毎年同じことを繰り返すのは上手です(笑)。だから、粘り強い行政と一気に燃えるボランティアの若いあんなちゃんがうまくコミュニケーションを取れたら、すばらしい町ができるのではないかと思います。これからは音楽祭のボランティアの枠をはずして、

地方自治体の中で町づくりをしていく市民として、行政と一緒にどんなことをやっていけるかということを楽しみに考えています。以上です。

吉本 | ありがとうございます。私も、武生という漢字をタケフと読めるようになったのはこの音楽祭がきっかけですから、まんまと術中にはまりました。いま山本さんから文化センターを占拠しているというお話がありましたが、お話を伺って驚いたのは、音楽祭の準備時期になると打ち合わせ、打ち合わせでボランティアの方が集まって、10人ぐらい座れるセンターの応接の部屋で夜中の2時、3時までワイワイガヤガヤやっているということです。いまの山本さんみたいな調子の方が他にも何人もいらっちゃって、「武生はこうしなければいけない」とやっているというのは、まさしく占拠しているという印象を持ちました。

今3人から、それぞれ少し詳しい話がありました。みんなタイプが違うと思いますが、次に衛さんから、今の公共ホールの現状、課題を踏まえながら少しコメントをいただけますか。

衛 | 今お三方のお話を聞いていて非常に頼もしく思っておりますし、私も評論活動以外の現場で実際にそういう仕事をしておりますので、たいへん励まされました。ボランティア、あるいはアーツ・マネージメント、アーツ・アドミニストレーションという言葉がなぜこういうふう盛んに言われるようになってきたのか。ボランティアは阪神大震災以降と言われてはいますが、それと同時に、社会的なニーズがあるからその活動にかたちを与えるために言葉が必要となってきたのです。



ボランティアという言葉はもともとあって、前々からやっている方はたくさんいらしたわけだし、アーツ・マネージメントも、アーツ・マネージメントという言葉はなくても実際にやっていた人間はいるわけです。ならばどうしてこんなにあらためて今、そのような言葉が必要となってきたのかというと、いま山本さんがおっしゃったような地方分権、あるいは分権型社会もそのひとつです。特に財政事情、あるいは非常に硬直化した行政の事情の中では、さまざまな団体の自治意識の問題が浮上してきます。そのような時代にあって文化会館あるいは文化施設が非常に重要な役割を果たしてくるのではないかというのが私の立場です。いま、こういうシンポジウムが盛んに開かれていますけれども、それはある健全な方向を見つけようとして動き出した文化会館の模索ではないかと思っています。

従来、ほとんどの文化会館の枠組みは自主文化事業で鑑賞と創造、あるいは創造団体と観客という二分化された事業でした。その中で要求されるのは、ほとんどの場合経済的な効率でしかありません。つまり客席稼働率やホールの稼働率です。あとはアーティストの側や市民団体から言われる芸術的な評価です。評価の高いものが見たい、ハイアートが見たいということが言われてきました。

しかしそれでは当然行き詰まってくるので、公共ホールの根拠が求められてきます。地方の公共ホールは、東京の「市場」での劇場とは意味合いが違いますから、そのプロセスが非常に重視されてきます。つまり私は公共ホールには評価点が三つあって、どれ一つ欠けてもいけないと思います。

たとえば舞台の芸術的な評価があります。これは成果物の芸術的な評価です。それからもちろん事業の経済的な評価、あるいは経済的な効率があります。最後に、いま求められているのは活動の社会的な効率、あるいは社会的な評価です。活動と言ってもプロセスと言ってもいいけれども、ここが求められています。この三つの評価は、プロジェクトによっては社会的な評価ばかりが膨らんでいくケースもあるだろうし、芸術的な評価が非常に膨らんでいく場合もあるし、事業の組立によって違うと思います。

ここで大事なのは、過程、プロセスに対する社会的な効率を問題にしていくという発想が出てきたことです。だからこそ、ホールから出て町に広がっていかうとか、地域づくりにホールあるいは文化をどう活用するのかという論点が出てきたのだと思います。

ですから私は、方向としては非常に頼もしい方向であると思っています。ただ、そのためのノウハウがない。みんな探りかねているという状態です。どこに行ってもということはないですけれども、今立に行こうが能登に行こうが、ここにいらっしゃる皆さんのところもそうですが、成功しているところはだいたい先に文化会館ありきではないんです。この町をどうしようということから始まっています。この会館の活動を町づくりにどう位置づけていこうかと考えていらっしゃいます。

それは場所によってさまざまだと思います。たとえば能登の場合は過疎で若者が定住しないことに対して、若者が定住できる産業を興し、雇用の受け皿を興すために能登演劇堂、あるいは10年滞在した仲代達也さんの無名塾のノウハウを生かしていこうという発想が出てくるわけです。あそこは産業化まで考えていると思います。

この町をどうしようというところから始まりますから、皆さんボランティアという意識はまずありません。私たちから見るとボランティアですけれども、その意識が全くなくて、非常に生き生きと、自分たちの夢を実現するための活動としてホールを活用しています。ホールを使用しているという意味ではなくて、そのための理屈として活用しているという感じがします。

では、だめなのはどういうところか。以前はホールの友の会が非常に多かったんですが、先ほども報告があったように、最近はボランティア組織がずいぶん作られています。しかし、だいたいの場合は指示待ち集団、お手伝い組織になっています。もちろんボランティアの方にも責任はあるんですけれども、大半は、ボランティアをマネジメントするノウハウがないことと、したがって専門的な人間がそこにいないことが大きな原因だろうと思っています。

行政の側から、あるいは町の人にとっても、ある人物の何かしたいという気持ちは町の資源です。その気持ちにかたちを与えていく、あるいは自分で自覚してもらうための対話をしていくという個々のニーズに辛抱強く付き合っていくマネジメントがスポンと抜けているために、このグループは舞台の搬入を手伝ってくださいというマズで考えて、一人ひとりの自己実現に対してはほとんど関知しない対応をしてしまう。私は、お手伝い組織になるのはそれが大きな原因だろうと思います。

では何が必要なのかというと、いわばリレーションシップ・マネジメントだと思います。ボランティア・マネジメントは関係づくりのマネジメントだと思います。何かしたいという人が、こういうことをしたいと思い始める。このホールはこういうふうがいいよという広告塔になってくれる。それから、自分たちはこのホールのこういう仕事ができますという責任参加になっていく。そこで初めてパートナーとして協働の立場に立てるようになる。

私は、ボランティアはだんだん進化していくものだと思います。最後の段階のパートナーまで行けば、この方たちがボランティア・コーディネーターとして専門的な技術を持つ大切なソースとなります。そういう長いスパンで考えていかないと、いきなり「あなたが責任者」と言われてもなかなかできません。

札幌や仙台でやっているのを実際に見ると、そんなに大人数ではなくても、ボランティアの方と双方向のコミュニケーションを密にしていくのはたいへんなこと

です。ボランティアの方たちから何かが出てくるのをじっと待つという仕事はたいへんな技術を必要とします。引き出すという意味では、私は技術だと思いますけれども、そのことを専門的にやれる人材を育てなければいけないのではないかと思います。

仙台のホールでは、以前はボランティアをやると翌年度は同じ人が参加してはいけない、継続させないという変な決まりがありました。これはおかしい。なるべく継続して、その中でリーダーを作っていくべきです。「進化」を担保すべきです。それからボランティアの有償性の問題ですけれども、継続を担保するためには実費支給はすべきだろうと思います。非常に頭の固い方は、ボランティアは無償の行為だと言うけれども、私はそう思いません。やはり実費程度の支給は当然されるべきです。そんなものはたいした額ではありません。それよりも、わずかな額でも実費支給することによって獲得する蓄積は非常に大きなものだと思います。そのことを考えたら、やはり私は有償性であるべきだと考えます。

行政の平等性、画一性はどうしても仕方がないんです。そういう人が行政マンになっているのではなくて、行政マンになるとそうせざるを得ないわけです。しかしボランティアのマネジメントは、実はここから抜けないとだめです。平等性、画一性で人をマスで考えたり、ボランティアというひとかたまりで考えたら、ボランティアはどんどんやせ細っていきます。指示がないと動けない集団になってしまいます。

そうではなくてもっと柔軟な姿勢で、まず多様性を前提として、どんなことでも、とにかく町のことからしゃべり始めようという姿勢で始めないと、ボランティアの方たちの自発性は出てこないだろうと思います。ですから、とても時間のかかる仕事です。皆さんのように成功していらっしゃる場所も、初めはたいへんな議論があって、おそらくいろいろないさかいもあって、お互いに理解を進めて、何か一つ自分たちの中の共有する制度を作っていた経過があると思います。初めにボーンと人から制度を与えられて動くのではなくて、自分たちが先に何かを作っていくという活動をしていかないと無理だろうと思っています。

行政の立場もそうですし、住民のほうも実際に付き合ってみると、なんだこいつというボランティアの方もいらっしゃいます(笑)。つまり、「何かしたいんです」と来るけれども、約束した時間に来ないとか、行政の方の言うようにあてにならない部分もあるんです。たしかに、そういう無責任さはあります。

しかし逆に言うと私は、その「事件」はそういう人と話す機会だと思います。つまりそういうことはどういう意味があるのか、どういう弊害が起きてくるのかということをお話する機会だととらえないと、結局いつまでたっても「当てにならない」と言って、ボランティアも行政に対する不信感を募らせて「もう二度と来てやるか」とホールに来なくなる状況が起きてきます。その辺のところは、あくまでも個別的な辛抱強い対応をしていかなければいけません。ボランティアはボランティア・マネージャーが育てるのではなくて、ボランティア自身が育って、進化していきます。ボランティア自身の育つ環境を作るのが、ボランティア・マネージャーの仕事であると思います。

私はいつも、ホールは一つの森を作ることだと思います。それも切っただけで金になるヒノキやスギの森ではなくて、一人ひとりの人間がブナだったり、ミズナラだったり、名前もわからないけれども根をずっとはった木だったり、さまざまな木が集まった森を作ることです。すぐにはお金にならない木だけれども、その中で水をゆっくり蓄えて、文化施設から、公共ホールから町にさまざまな恵みをもたらす

ていく。これが公共ホールのあり方であり、分権型の社会の中で、町を育て、支えるための一つのセクターとして、自治能力をもった市民を涵養し、育てていく。

この後伊藤さんが、おそらくそのようなことをお話しになると思いますが、実はそれが文化ホールの役割であり、ボランティアはそこを目指すといいますが、ボランティアの自治能力をどこまで涵養していくのかということだと思っています。

先ほど申し上げたように、皆さん成功しているところは「自分たちの町をどうしたい」から始まっています。「何がしたい」からは始まっていないんです。この町をどうしたい。だから何かをもってこよう。これはツールです。アーティストに言うと怒られますけれども道具です。おれたちはこうしたいという町を作るための道具として何かを呼んでくるのです。その辺のところを履き違えないようにすることです。

今のところ、まだ多くの場合は文化の愛好者たちの集まりです。それはそれでいいんです。しかし、文化ホールが必要だという人たちの集まりにどう進化させるかです。それがボランティアの進化であり、実はホールの進化であり、施設の進化でもあると考えています。

吉本 | どうもありがとうございました。いまの衛さんの問題提起は後半の議論につながる種がいろいろあったと思います。町をどうしようかということでボランティアが始まるということであれば、ボランティアの位置づけそのものがホールや劇場の運営と切り離されたかたちで育っていくという視点が一つです。

もう一つ重要なのはボランティア・マネージメントの話です。今度調査したところは、皆さんうまく行っている事例だったと思います。向井さんのように、ホール側の窓口になっている方と、山本さんや菅沼さんのようにボランティア側のまとめ役になっている方と、それぞれにこの人がいるからうまく行っているというところがあります。逆に言えば、ホール側のこの人が異動してしまったらその後はどうなるんだろうという危険性も裏腹にあると思います。そのマネージメントの話も、後半で議論したいと思います。

次に伊藤さんから、NPOまで含めた視点でお話しいただけますか。

伊藤 | 先ほどの片岡さんの報告、お三方の実際の活動のお話等々を聞いていて、私が今まで美術館のボランティア、福祉関係のボランティア、後で説明する海外のNPOと言われている団体等々の調査をしている中で、今回のホールのボランティアはいろいろなボランティアの中ではかなりユニークな、可能性を持ったものだと感じました。



それはどういうことかといいますが、一つの特徴として、たとえば片岡さんの報告にあったプロフィールの紹介があります。男女が約半々であり、年齢的に見て25～40歳という人が4割も占めている。そして会社員、公務員という人たちが半分ぐらいを占めている。これはたとえば美術館や福祉関係のボランティアなど、他の分野と比べると全く違います。美術館もそうですが、特に福祉関係ではボランティアの約8～9割が女性で、年齢的にも40歳以上の人が圧倒的に高い。したがって主婦が多いというのがボランティア像の平均です。一つは、その違いがあります。

それからアメリカのボランティアと近いのかというと、これもまた少し違います。お手元の資料で先ほど片岡さんが説明されなかったところをチラッと見ていただければわかると思いますが、アメリカの文化施設のボランティアを見ると、たとえば日本のようにウラ方さんをやっているところはどこもありません。基本的には何をやっているかということ、いわゆるオモテ方の部分です。その中ではショップでの販売もけっこう多いです。

それからアメリカで非常に多いのは、アウトリーチという言葉を使いますが、いままでも劇場等々に来たことがない人を引っ張ってくる勧誘員のボランティアです。それからもう一つはお金集め(ファンド・レイジング)です。日本でも武生等で結果的にそうなっている話がありますけれども、そういうものが非常に多くてウラ方さんはありません。

しかしアメリカのボランティアをもう少し見ていきますと、日本ではボランティアの役割と思われていない部分がボランティアによって支えられています。あるいはボランティアという言い方自体、少し言葉を変えなければいけないような事態があります。少し理屈っぽい話になりますが、文化だけに限らず、アメリカのボランティアを見ていくと大きく三つのタイプがあります。

一つは、実際の現場のさまざまな活動を支えているボランティアです。これが、いま私たちが言っているボランティアの多くの姿で、実際に活動のお手伝いをしています。たとえばホールであれば、ホールの活動の補充あるいは補完的な仕事をやるボランティアの人たちがおります。次に、日本ではあまり意識されないボランティアです。アメリカの文化施設には、あとで説明する民間の非営利組織が圧倒的に多いです。それは行政が作ったものではありません。その運営母体には有給で働いているスタッフもいますが、日本の会社で言うと重役にあたる、理事と言っている、運営や予算を決定する役員はほとんどボランティアです。

実は、この人たちが非常に重要な働きをしております。これは、なぜ今日の話がおもしろいかという一つの答えになりますけれども、まさに武生の音楽祭の実行委員会には理事会があって、金が足りなければポケットマネーで補てんしなければいけない。そこでは責任をもって協議し、プログラムを決めてやっていきます。まさに理事ボランティアが日本にもできたということで非常におもしろかったわけですが、アメリカではこういうものがボランティアの重要な役割としてあります。しかしアメリカの文化施設にボランティアの話聞きに行っても、そんなことは当たり前ですからだれも説明しません。

3番目のタイプに、私たちが専門ボランティアという言い方をしているものがあります。これは基本的に常にいるわけではないんですが、たとえばある活動をしている時に法律的な問題が起こった場合は、弁護士さんが無料で相談に乗ってくれます。あるいは公認会計士が、毎年税金を収めるときには無料で手伝ってくれますし、コンピューターで観客のリストを作るときにはプログラマーが無料で手伝ってくれるというように、専門の技術をもった人たちが必要に応じて手伝ってくれるということです。

さまざまな活動の中で、特に技術的なスタッフの中にこういう専門ボランティアが出てくるケースもあります。あえて言いますと、ウラ方ボランティアはこの専門ボランティアに当たるのかなという感じを持ちつつ、もう少し分析してみたいと思います。

実際にアメリカの文化施設は非営利団体だという話をしました。民間非営利組織(NPO)については、皆さまも最近新聞等々で耳にされることも多いと思います。むしろ NGO と言ったほうが耳慣れた言葉ではないかと思いますが、いったいNPOとは何かというと、日本ではボランティア団体だと誤解されているところがあります。

ボランティア団体もNPOの一つですが、アメリカ等においてNPOと言う場合にはもっと広い人たちです。日本では学校法人、社会福祉法人と言われているものも向こうではNPOです。学校、病院、社会福祉施設など、さまざまなものがあ



ります。美術館や文化施設なども NPO が担っています。会社のように利益を追求するものではなく、たとえば学校は、教育という社会的な活動を推し進めていくためにやっている団体です。あるいは病院では、医療という社会的な活動を目的としてやっています。

活動するためには当然お金が必要ですから、もちろんお金も扱いますが、もし活動を行って儲かったとしても、株主等々がいるわけではないので、そのお金は全く配分されません。働いている有給スタッフには適正な給料が支払われますけれども、役員は無給であり、

儲かったお金は常にその活動の向上のために再投資されることが義務づけられている団体です。これが NPO の定義です。

ヨーロッパは少し違いますけれども、アメリカの場合はこういう民間非営利組織が文化施設を運営しています。武生の音楽祭の話を知ると、まさに NPO が生まれていくケースを示されているのではないかと思います。町づくりがしたいということも一つかもしれません。あるいは本当にフェスティバルをやりたいという動機でもかまわないと思います。金儲けをするために集まろうというのではなくて、演奏を楽しみたい、あるいは地域をよくしたい、さまざまな人々のコミュニケーション、親子の愛を取り戻したい、語り合いを作りたいと、さまざまな目的に共感する人たちが、何をやるかというかたちで、まず集まってまいります。

そして最初は自分たちでお金を出し合って事業を興します。そのうちに、自分たちのお金だけでは足りなくなってくると、「会員になりませんか」というかたちで、より多くの市民の人たちから寄付を集めます。あるいは地域の行政に対して、こういった活動に対して理解を示して支援してくれと訴えます。結果的には地域にとって役に立つし、税金を払っているんだから、私は権利として「こういう活動に対して金を出すのは当然だ」という言い方をすべきだと思いますが、日本の状況ではなかなかそうはいきませんから、とりあえず「支援してください。補助金を出してください」という言い方でいいのではないかと思います。

そういったかたちでさまざまな資金を集めますが、その時にお金を集めるだけではなくて、ボランティアで参加する市民の人たちを取り込むこともあります。そうすると、ボランティアの団体がボランティアを使うという構図が生まれてきます。こういうかたちで生まれてくるのが NPO です。文化ホールのボランティアの調査の中で、今日は武生のお話を聞かせていただきましたけれども、たぶん能登の場合もそうではないかと思います。あるいは包括的なものは、たとえば企画ボランティアというかたちで、他のところにもいくつか生まれてきているのではないかと思います。

ウラ方の問題に関してですが、アメリカにおいては専門ボランティアは別の職業をもっています。たとえばふだんはビジネスでやっている弁護士さんが、年に何回か芸術活動に対して応援をしようと思うと、ボランティア・ロイヤーズ・フォー・ジ・アート(VLA)という団体に登録をします。これはニューヨーク州をはじめいくつかのところにありますけれども、多くの弁護士さんが登録をしています。芸術団



体や芸術家に困ったことがあるときは、その事務局に電話すれば、その芸術団体が非常に貧しければ無料で、多少お金をもっている団体だったら正規よりはかなり安いお金で弁護士さんを派遣してくれます。これは外部から専門家を派遣する形です。

ウラ方ボランティアという問題を考えていくと、日本の場合、先ほどの片岡さんの説明にもありましたようにウラ方会社、つまり舞台技術の会社は東京や大阪では存在できるけれども、地方都市では商売にならないので存在しません。ですから、大きなイベントをやる時には東京や大阪から呼ばなければいけません。でも、呼ぶとお金がかかります。したがって、自分たちでそれを作らなければいけないんですけれども、会社にしてしまうと維持できないので、そういう時には多少の有償というかたちでボランティアを組織するわけです。

有償のボランティアということは、逆に言うならば利益を目的としないで、地域の芸術、会館のために一肌脱ごうかと思っている人たちが作っている一つの非営利の会社、……そこまで行かなくても非営利事業を行う集団だという言い方もできるかもしれません。このように見てまいりますと、ある意味で日本特有のウラ方ボランティアは、地域における非営利のウラ方会社の初期的な形態だという気がします。

今日はあまり触れられませんでしたけれども、たんばのケースではウラ方のグループは非常に広域圏で活動をしているということがあります。先ほどのお話の中にも地域の街角のコンサート、学校等々の公演を手伝うという話がありましたが、それだけではなくて兵庫県あるいは近畿地方一帯と提携し合って、ネットワークを広げて活動して、時には応援にも行くという話も聞いています。こうなってくると、ある面ではボランティアグループでありながら、他方でNPO的な活動をしているという動きもあります。

何が言いたいかといいますと、日本のボランティア活動は従来は下働きのボランティアを中心にイメージされてきましたが、文化施設のボランティアを見ると、理事会としてさまざまなガバナンスを行い、責任を負っていくボランティアが生まれかけてきていると思います。あるいはウラ方ボランティアというかたちで、研修を受けてきちんと技術を身につけて専門技術を持った人たちが、非営利の一つの事業体に近いような形態で働いてきています。このように、大きくボランティアがNPOに脱皮している、あるいは分化しつつあるという感じがします。これは非常に面白い傾向ではないかと思います。

衛さんが出された町づくりの問題等々とは直接結び付きませんが、その基礎的なものとして底辺でどういう動きがあるかということで、これはぜひ注目していただければと思っております。

吉本 | どうもありがとうございました。いまの伊藤さんの話にあったNPOでのウラ方の実費弁償というんですか、多少支給は出るけれどもノンプロフィットだというのは、たしか喜多方の菅沼さんのところの方にお伺いすると1日5000円ぐらいでしたか。

菅沼 | 午前中は5000円、日中は7000円、朝から閉館までだと1万円です。

吉本 | ということですけれども、皆さんにお伺いすると、決してそのお金のためにやっているのではないという共通した意識があります。なおかつそのお金は、「うらかた」という研究会でプールをして、ある程度会の運営のために使われているということですから、NPOというかたちになりつつあるのかなという気がします。

このシンポジウムは4時までの予定ですが、ここで1回休憩を挟みたいと思います。後半は、前半でいろいろ問題提起されたことを中心に、一つはNPOへの広

がりも含めたボランティアの位置づけ、それからボランティア・マネジメント、つまり実際にボランティアを運営していくにはどうやったらうまくいくのかというあたりを中心にディスカッションをしたいと思っています。

皆さんにお配りした資料の中に小さなペーパーが入っていると思います。後半の議論の中でぜひ加えて欲しい項目、質問事項などがありましたら、これに記入いただいて6階の受付にお出してください。いまは2時45分ですので、後半は3時に始めたいと思います。その間、6階の受付の前でコーヒーのサービスカウンターがオープンして飲めるようになっています。もう1枚、アンケート用紙も入っています。これは休憩時間にお書きいただいても、帰られる時に書いていただいてもけっこうです。では休憩にしたいと思います。

—休憩—

●ディスカッション②

吉本 | それでは3時になりましたので、後半のディスカッションを始めたいと思います。ディスカッションに入る前に、今回米国の調査と一緒にやっていただいた塩谷さんが会場の方にお見えになっていますので、前半の議論を踏まえうえて米国の状況などとも比較しながらコメントをいただきたけなかないかと思っています。それが、後半のディスカッションにとってもいいきっかけになるとと思いますので。それでは塩谷さん、コメントお願いできますか。

塩谷 | 今ご紹介いただきました塩谷陽子と申します。前半のお話をうかがっていると、やはり名物の方のいらっしゃるところがたいへんボランティア活動がうまくいっているということで、それは、ある意味で理想的な形だと思いました。その目で見れば米国の事例におけるボランティアというのは、劇場施設や音楽堂自体が、そもそも古くなってきていてそれを取り壊すといっている民間業者がいるが、それを文化遺産としての残さなければならぬのではないかと、ついでにわれわれの文化遺産を残す活動をしようというようなボランティアの人が集まって、それが音楽堂に生まれ変わったり、劇場に生まれ変わったり、あるいはノンプロフィットのギャラリーという経緯をたどったりして、ボランティア活動がそのまま非営利ということで法人登録されていくというのがほとんどですから、そういう意味では、町のことを真剣に考える人たち、しかもそのリーダーシップを取れる人たちが集まってボランティアを形成していく。そういう施設を運営していく大切なファンクションとしてボランティアがその中に組み込まれていくというのは、とても理想的な姿です。当たり前前を言えば当たり前ですけれども、やはりボランティアを考える限り、自分の住んでいる場所に対する問題意識が根本的にボランティア成功のかぎを握っているというのは日米に共通したことだと思いました。



ただ、アメリカでは自然にしている非営利団体にボランティアが存在し、日本では自然にしていればボランティアは存在してこない、という目で日本を見た場合に、名物の人たちがいない地域というか、少なくとも目の前に顕在化してこないところで公共ホール・劇場を運営なさっている方は、おれのところはいいのだという疑問も持たれているのではないかと思います。これが、私が前半の理想的なボランティアの報告の中であまのじゃく的に受け取った印象です。

そこで、アイデアになるかどうかわかりませんが、少しアメリカの話させ

ていただければと思います。文化事業うんぬんの話とはそれですけれども、昨年ある関係で日本側から依頼を受けて、アメリカにおける高齢者住宅問題の調査をしたことがございますが、やはり高齢者問題でも同じようにボランティアという課題が出てきます。

そこで思ったのは、高齢者を助けるボランティアという課題を扱う時に、調べていく先では必ずしも高齢者問題の人たちだけが巻き込まれているのではないということです。どういうことがあるかといえば、高齢者の人たちが毎日の暮らしの中であまり夢がない、おもしろい暮らしをしていない場合、その人たちをボランティアとしてリクルートして語り部のようなことをさせる。たとえば、そのボランティアの語り部を小学校に連れて行って自分の昔話をさせることを、学校の授業の中に組み込む。それは、教育問題や情操教育の人たちも一緒に巻き込まれて初めて実現する話です。

あるいは、バリアフリーで段差のない家が高齢者には望まれているという話が日本でもよくありますけれども、そういった問題を考えていく時にどうするかというと、歴史的建築を残そうと言っているボランティアあるいは非営利団体の人たちから、古い、使われていない施設をバリアフリーの家をデザインするためのショーケースとしてショールーム的に使ってみたらどうだろう、高齢者の人たちにそれを使ってもらって意見を採取しようという話も出ます。

高齢者問題を扱う時に、たとえば教育問題とくっつけて考える。文化遺産としての建築保存の問題と高齢者問題をくっつけて考える。あるいは、養老院など高齢者用の施設の楽しいリクリエーションの場として、月1回これこれの劇場にでかけて行って高齢者の方が楽しめるようなプログラムを、劇場の定番プログラムとして作っていく。こういう議論が起きるとか、高齢者の問題を語るときにいろいろなボランティアの組織や社会問題と一緒にインボルブされていくという社会問題の扱い方の広がりを感じました。

根本的に市民ボランティアは、市民自体が自分の町をどうしていくかということ、逆に言えば自分の暮らす町の問題をどうとらえるかということと切り離せないわけです。たとえば劇場のボランティアという時にも、劇場をどう応援するか、劇場にどうボランティアを導入するかという視点だけでものをとらえるのではないということです。そうやってとらえている限りは、たとえば名物男が見つからないという問題に突き当たるとそこで終わってしまいます。

たとえば高齢者の人たちが語り部とかたちで劇場を利用できるのではないかという発想をした時に、行政の高齢者問題課の人とそういうプログラムが組めないだろうかということで、高齢者、あるいはリタイアメントした人のボランティアプログラムを設定していく。働いている女性は5時には子どもを迎えに行かなくてはいけないけれども、5時に迎えに行くと働けない。働く女性と託児問題をどう扱うかという問題を考えた時に、たとえば高齢者が子どもと一緒に劇場鑑賞に行くという仕組みもあるのではないかと。

これはいま思いつきでしゃべっていますが、あくまでもボランティアは自分の住んでいる地域をどう向上させていくか、自分の地域の日々のいろいろな問題をどう自分たちの手で解決できるかということと表裏一体です。前半の議論で、劇場だけにとらわれたものの考え方ではないところから新しいボランティアプログラムのアイデアが生まれてくるのではないかという気がいたしました。

吉本 | どうもありがとうございます。前半の議論でも福祉の問題が出ましたが、今の塩谷さんのお話では高齢者問題が出てきて、ちょっと公共ホール・劇場からどんど

ん離れていくような議論になってきているような気がします。しかし、今の塩谷さんの発言にもありましたように、おそらく劇場の運営のためにボランティアを入れるという発想からは、今日の事例に出てきているような活発な、いい意味での自主的なボランティアはなかなか生まれてこないのではないかというご意見は、私もそのとおりだと思います。

それは結局、公共ホールや劇場にとってボランティアの位置づけがどういうものなのかというところがポイントのような気がします。今度調査した中でもいくつかに分かれますけれども、本当にホールの運営の業務をサポートするためのボランティアといえますか、お手伝い型のボランティアに始まって、企画まで入って、ある意味で運営の中核までお手伝いするようなボランティアもあります。武生の例がいちばんいいと思いますけれども、それがもっと発展するとホールの事業を手伝うのではなくて、逆にホールは器、パートナーだということによってやっけていこうになります。

そのところで進化というか、分化というプロセスがあると思いますが、公共ホールや劇場におけるボランティアの位置づけというあたりをディスカッションの取っ掛かりにしたいと思います。向井さんは将来の位置づけといえますか、もっとこういふふうにしていきたいということをお話されたと思いますけれども、その辺を取っ掛かりにしていだけますか。

向井 | その前に、塩谷さんの話を聞きながら大事なことを忘れていたと思ったので、それを言わせてください。実は、うちのオペレーターの舞台をやっている一人に聾者のハンディを持っている子がいます。一般的にはできるのかと思われるような状況もあるかもしれませんが、彼はちゃんとオペレーターをやっています。

ここへ来る前の日に、彼から「オペレータークラブの中で手話教室をやれないだろうか」という相談がありました。今日はうちの係長も一人来ていますが、彼やうちの職員が全部相談に乗っていたんですが、「手話教室という堅いものを取り入れてやると抵抗もあるかもしれないから、きみが自然に一人ひとり仲間、理解者を作っていくようなかわり方をしたらどうだろう。きみは一生うちのホールでボランティアをするんだろう」という話をして、彼も「そのとおりだ」と。「じゃあ、きみが一生かかって全部のボランティアのメンバーを仲間に、理解者にしたらいいじゃないか」という話も出しながら、どうやって彼の理解者を育てていくかという話をしてきました。

彼が参加をしてから、うちのスタッフのボランティアの人たちの雰囲気はずいぶん優しくなってきました。これは大事なことです。というのは、89人のボランティアには20代から60代の70に近い人までいます。当然、女性も男性もいます。ところがボランティアの作業の内容は非常にハードで、重たい荷物も持たなければなりませんし、たいへん危険なこともあります。そういったところをうちの職員が割り振りをするのではなくて、「今日は、おれがこれをやろう」というかたちで自然に分担がされます。

それと同じように彼を迎えた時も、当然まだ手話ができませんから筆記で通訳をしながらですけれども、通訳をする人が自然に彼の横で作業をサポートしていました。そんな活動が続いてきて、みんながだんだん優しくなっていくという気がします。

よく考えればホールだけではなくて、われわれの日常生活の中のありよう、生き方もそのとおりです。そういう一つのあり方みたいなものがそこでちゃんとできている、そこに生活の場ができているという部分があります。芸術文化は非日常的

だと言われてしまうと、そういう立場の人たちはどんどんそこからのけていくような状況になっていきますが、逆に日常的な部分とホールが意識されることによって、日常生活そのものが舞台の裏にもちゃんと組み込まれて仕上がっていくのではないかと。彼が一人かかわることによって、そんなことが少し見えてきた部分があります。

ですからウラ方のありようを特別な技術と考えずに、舞台の技術なりノウハウをを日常化していくという方向で考えることによって、ホール、施設の中であっても、もっともっと地域に出ると、ボランティア活動のこれからのありようが見えてくるような気がします。

吉本 | いま豊の方のお話から、ボランティアの位置づけはホールの運営そのものからもっと生活の中へという話が出てきました。衛さん、その辺の広がりということについてはいかがでしょうか。

衛 | 塩谷さんのおっしゃっていることは、意識的ではないにしろ、いくつかの地域で起こってきていると思います。先日札幌で演劇財団が作った公演をやった時に、スタッフボランティアと同時にステージボランティアというものがありましたが、この人たちが視覚障害の方と聴覚障害の方に芝居を見ていただきたいと考えました。

つまり劇場、アートという環境の中では健常者も、視覚障害を持っている方も、聴覚障害の方も対等で、全く同じである。そういう意味で彼らがやった活動は、地元の福祉団体、保健医療の団体と地域内ネットワークを作ること、お互いに学び合い、情報を交換し合い、技術を提供し合うということで、とても豊かなものになっていきました。私は、客席も非常に豊かなものにしたと思っています。それから私のようにアドバイザーとしてかかわっている人間も、とても豊かな思いをさせていただきました。

あるお年寄りが受付に来て、お孫さんだと思いますけれども、アンケートを書いてももらっていません。その方とお話しをしたら「劇場に来るといことは考えられなかった」と言っていました。たしかに、最近公共施設はみんなバリアフリーになっていますけれども、本当の意味でバリアフリーになっているのだろうかということをつくづく感じました。私には、そのおばあちゃんとお話しただけでこのプロジェクトの意味があったと思えました。

私がかかっている、演劇で神戸の被災した子どもたちや仮設の高齢者の方たちをケアしようという試みも、1年ぐらいかけていろいろネットワークを作ってきたけれども、実は演劇人だけではないんです。つまり地元のいろいろな団体の方、ボランティアの方からさまざまな情報をいただいて、さまざまな人とのネットワークの中で、どこにニーズがあるのかを発見しあいます。私たちが持っている演劇という力が、どういうふうにもそのニーズに対して対応できるのか。先ほど塩谷さんがかかっていたように、自分たちの持っている技術がどう対応して、どうサービスとして成立していくのかを学び合う、失敗も学習のうちだという感じで、失敗を恐れずやっています。

文化ホールとか文化会館というと、すぐに地域間ネットワークということをやっていますが、それよりもむしろ地域内ネットワークを作ることが事業の発想の種になります。自分たちの町をどういう町にしたいのか。行政の仕事もそうでしょうが、おそらくこれからは社会全体が、人間的な共感をベースにしたサービスを非常に強く求めていく時代になると思います。つまり建物があればいいとか、お金があればいいということではなくて、人間的な共感をベースにした医療、福祉、



文化というサービスが非常に強く求められていきます。そういう中ではやはりネットワークを作って、お互いに自分が持っているネットワークや技術を提供し合う必要があります。

もう一つは位置づけからいいますと、いまボランティアが失敗しているところは、ボランティアの機会というサービスを館の側が供給しているという意識があるからです。ボランティアはそれを受益していて、「何かしたいんです」と行くと「何かやってもらうことあるよ」と、それだけで終わって自己完結してしまいます。

最終的にはそこから始まりますけれども、そうではなくて、先ほど申し上げたリレーションシップ・マネージメントを辛抱強くやっていく。そういうかたちでは、向井さんはそうとう辛抱強い活動をなさってきたのだと思います。そういうプロセスで、受益者ではなくてサービスの供給者に進化させていくことです。地域内ネットワークはそのための発見の機会としてありますが、技術集積だけではなくて自己発見でもあります。自分が何をしたかったのかということを発見していく機会も提供していくと思います。

ですから位置づけとしては、最終的にホールは器であり、その中で受益者から供給者になっていく。その過程で行政の側は、権限をどう委譲していくかということが求められていきます。いつまでもヨチヨチ歩き扱いではなくて、できるところは権限を委譲する。やはり、それを大胆にやっているところがだいたい成功しています。それだけのモチベーションがあってやっつけらっしゃるから、権限を委譲するだけの内容を持ってきていえるとは言えますけれども、行政側のテーマとしては権限の委譲が非常に重要な役割です。それから、地域内ネットワークをどう作るかということも大切な仕事です。

たとえば 30 年も演劇に携わっている私も、神戸シアターワークスをやっている時に演劇にこんな力があるのかと発見をします。これは、東京でいい芝居を作るだけの仕事をしている人にはわからない発見です。そういう発見をする機会をたくさん作っていくことによってモチベーションを作るのが大事なことではないかと思います。

吉本 | いまの衛さんの話には権限を委譲してこととか、地域内のネットワークというお話があったと思います。たしか山本さんのところにお伺いした時に、ボランティアをなさっている方で、音楽祭のこともやっているけれども他の市民活動のボランティアもやっている、あっちではこんなことをやっているという人もいらっしゃいました。国際音楽祭のボランティアが、そういう地域の活動団体のネットワークになっているような印象を受けたんですけれども、その辺の話を少ししていただけませんか。

山本 | 国際音楽祭が地域のネットワークになっているという少しおこがましい話ですけども、たとえば私自身も、音楽祭の事務局長の他にもいろいろなことをやります。選挙運動も一生懸命やります(笑)。

それはなぜかという、先生方もおっしゃるように、私たちの住んでいる町をどう

するのか、このままでいいのかというところから発想するからです。いまネットワークをどうして作るかという非常に問題ですけれども、たとえば文化センターが町を作るということがキーポイントではないかと思います。戦後の経済成長の中で、行政の分野でいちばん片隅に押しやられたところが、これから日の目を見ていくのだと思います。

そういう中でもう一つ気をつけていただきたいのは、行政の方が考えているよりも、民間人のほうがもっと真剣に町をどうするかと考えています。もっと広いネットワークを持っていますから、ひょっとしたら民間人のほうが行政の方よりも一歩ぐらい先に進んでいると思います。だから私たちは、文化センターの方に対して一生懸命突き上げるわけです。

文化センターの方は、たとえばこういう講習会に来たりいろいろなことをしていますし、比較的そういうことのわかる方が文化センターに見えるんです。ところかもう一つ上の行政を束ねる方は、はっきり言ってまだ古い頭があります。申し訳ないけれどもその中間の方は、上からは旧態依然のやり方でやられ、下からはもっと新しい話でどんどんいろいろなことを要求されます。だから、ここにお見えの方はたぶんたいへんな役をされています。

では、これからどちらを選んでいくのか。市民のいろいろなことを聞きながら、そこをうまく取り上げていくのか。それとも行政のトップが言ったことをちゃんと定期的にやっていけばいいのか。どちらを取っていくかはたいへんな選択だと思いますけれども、私たち市民から言えば、どうか市民の意見を聞く耳を持って、文化センターなりそういう施設がネットワークの中心基地としてやっていただきたい。

私たちがやる音楽祭だけではなくて、福祉も何もかも含めて私たちの町をどうしていくんだという中のキーステーションとして、文化センターが生き残れる道があるのではないかと思います。たぶんそれが行政の主導権を得るのではないかと思いますし、そういうふうには指示をしています。どうか、その辺をわかっていただきたいと思います。

吉本 | 名簿を拝見すると、今日お見えになっている方はむしろ行政サイドの方の方が多かったような気がします。いまの山本さんのわりと挑発的というか、市民の方がどんどん変えていくんだというご意見に関連してどなたかご発言いただけませんか。伊藤さん、どうですか。

伊藤 | 直接関連するかどうかわかりませんが、いまの山本さんのお話の中に、文化センターが町をつくるということがありました。あるいはいままでの議論の中でも、ボランティアが地域をつくるという意見がかなり強いわけです。私自身もその立場に近いんですが、文化施設の場合、そこで行われている芸術活動自体の意義は無視してはいけません。

つまり私たちがボランティアを強調し過ぎると、文化センターであろうが、国際交流センターであろうが何であろうが、いい町をつくらうとそこに多くのボランティアの集まりができればいい町ができるかもしれないという方向に話が行ってしまうわけですけれども、これではあまりにも一般論ではないかと思います。私は、その中に芸術というものをきちんと介在させるべきではないだろうかという気がいたします。

つまり芸術が私たちの地域、町をつくるのに役立つんだということを実証していく活動の中に、本当はボランティアあるいはさまざまな市民の参加があるのではないかと思います。そうでないと文化センターの独自性というんですか、「それだったら、文化センターなんて要らない」という話にもなりかねないと思います。

その時のボランティアの役割はどういうことかという、アートあるいは文化活動と地域、社会をつないでいく一つのインターフェースとしてボランティアが機能しているのではないかと思います。そういう考え方に立った時に一つおもしろいと思ったことがあります。塩谷さんの話とも関連しますけれども、アメリカのボランティアのマネジメントをやっている人たちと会って話を聞いた時にこういう話をしていました。

たとえば自分たちの文化施設に、さまざまな人に来てもらいたい。日本では観客といえば女性が非常に多いんですけども、向こうでは実際に来るのはお年寄りが多く、若い人たちが来なくなっています。あるいはアメリカらしい問題としては、白人が多くて、有色人種が少ないという悩みを持っています。彼らは行政ではなくて民間の NPO であってもちゃんと「町の」という言い方をするんですけども、これから先自分たちの町の文化施設としてやっていくためには、全員が来るわけにはいかないけれども、自分たちの町の人口構成に比例するような人たちに来て欲しいと考えています。

観客を選ぶのは難しいですが、ボランティアの人をそういうかたちの構成にすることはある程度可能です。したがって、自分たちの文化施設で働いてもらっているボランティアの人たちの構成を、たとえば男女比、年齢、人種、職業、住んでいる地域がある程度現実の町に近いかたちになるようにボランティアの人たちを選ぶ、そうなるように努力をしている、そうすることによって、町の多様な人たちにボランティアの人たちが働きかけていくことも可能になると言うわけです。

さっき言いましたように、アメリカのボランティアはお客を引っ張ってくるのが非常に大きい仕事であるということもあって、そういう考え方を取ることによって地域とのつながりを考えていく。スタッフは、そういう人たちの力によっていい芸術を作ることには専念できるのではないかという言い方をしています。

つまり、文化施設であれば文化に対する信念があると同時に、もう一方で市民の参加、ボランティアとのつながりがあります。そういう二つの柱が必要ではないかということを感じてきましたので、途中で挟まさせていただきたいと思いました。

衛 | いま伊藤さんがおっしゃったことにかかわりますけれども、そういう意味ではアーティストの側にも相当問題があると思います。これは控室でも話題になったんですけども、ボランティアの人間を館にしているスタッフ、専門家が排除する。つまり「危なっかしくてそんなものできない。時間ばかりかかる」と言うわけです。むしろ時間がかかることが大切で、そのことで学習しているのに、そういう事を言います。

この前シーズンでヒアリグエイドですか、ロイヤル・シェイクスピア・シアターが来たときに、手話でシェイクスピアを見ていただくということをやりました。そうとう大人数の方の申し込みがあったようですけども、私は非常に反省しました。「シェイクスピア・シアターの俳優さんたちはどうですか。ここで照明が落ちて手話通訳するわけですから」と聞くと、「むしろ喜びに感じている」とセゾンの方はおっしゃっていました。つまり、自分たちの仕事がそういうことに参加できて、そういうかたちで社会に寄与できるということを俳優たちは喜びとして感じていると言っています。

日本のアーティストは経済環境が貧しかったということもあるし、唯一守るのが自分たちの成果物であって、そこでしか誇りが維持できなかったという環境には当然同情すべきところはありますけれども、時代が変わっていく中で、アーティスト自身がボランティアの活動に対してむしろ喜びを感じるというか、自分たちの仕事



が無数の喜びを生んでいるんだ、見せるだけではなくてその活動にかかわっていただくことでこういう喜びを生んでいるんだという認識、意識を持っていただきたい。

たとえば皆さんが自分の館に戻って、どこからか文化事業で呼んだ劇団に「手伝わしてください」と言ったら、むげに「とんでもない」と断られると思います。その辺はそうとう大きな問題です。これは自然に変わっていくのかもしれないけれども、これもだいぶ大きな問題としてあるような気がします。

吉本 | いまの衛さんのお話は、ボランティアがきっかけになって、ホールの運営だけではなくてアーティスト側の意識といえますか、アーツカンパニー、劇団にしても演奏団体にしても、基本的には演奏なり芝居を見せることが目的であり、存在意義だと思いますが、それが社会的にどういう意義を持っているかというところまで広がって、アーティスト側の意識も変えるきっかけにもなってくるという話ですね。

衛 | 伊藤さんがおっしゃったように、ボランティアの方たちが支えてくれるから自分たちのアートが成立するという関係にアーティストがどう立てるかということですね。そうすると、やはりいろいろな気遣いがあると思います。簡単なことだけでも、「ありがとう」の一言が言えないやつが多いです(笑)。

「ありがとう」と言われるだけで、どれだけボランティアが喜びに感じるかということだと思います。

吉本 | いろいろ議論が出てきていますけれども、さっきの伊藤さんのお話の中に、アートが町をつくる力になっていけるかどうかということが、文化ホールの場合特にボランティアのキーワードになっていくということがあったと思います。菅沼さんのところでは10年以上やっていたらっしゃるということですが、喜多方プラザで行われていることはある種の文化活動だと思います。それが町の中にどう広がって行くかというあたりで、十何年間かで実体験されていることがあれば、それを少しお話いただけますか。

菅沼 | 私の「舞台研究会うらかた」は、基本的にはあくまでも裏の世界というか、舞台のウラの仕事をしているボランティアです。いまのところは、「舞台研究会うらかた」そのものがいろいろなところに市民ボランティアとして広がっていくかという、それは少し難しいのではないかと考えております。ただ、うらかたの影響かどうかはわかりませんが、喜多方でもそれこそ非営利というか金のほとんどない民間の演劇集団がずいぶん生まれてきました。

あとは、当初クラシック関係の催しをプラザの自主事業でやっていたんですが、予算的な問題で、定期的にやっていくことがなかなか厳しい時もあるわけです。実際にそれをやってきた人たちが「音をたのしむ会」などを作って、定期的にクラシックのコンサートを開いているということを見れば、「うらかた」そのものが広がっているわけではないですが、周りで、プラザを介してそういう広がりにはなっているように思います。

吉本 | いま菅沼さんの話を聞いていて喜多方で聞いたおもしろい話を思い出しました。ボランティアの方は十何年やっていたらっしゃるわけですが、ホールには当然行政サイドの方がいらっちゃって、その方は異動で何年かのサイクルでかわられます。喜多方プラザに来る方は3年ぐらい、行政の本体から派遣されて行政職で来るんですが、喜多方プラザショックみたいなものがあって、喜多方プラザがボランティアですごく熱気があるものですからショックを受けて、改造されて行政本体に戻ります。たぶん喜多方の市長さんがそういう戦略だと思いますけれども、それが必ず出世コースだそうです(笑)。

元に戻ると必ず課長さんになるとういことです。差し障りがあるといけないんですけれども、私がいろいろなところで聞くと、文化ホールに行かれた方はいわゆる出世コースではないところに行ってしまったという意識の方もいるのではないかと思います。そうではないということを知って、それはまさしくボランティアが町を変えていくというか、役所そのものも変えていっているという印象を強く受けました。

向井さんのところもボランティアが育って、町の中でいろいろなことをやり始めていると言っていましたね。

向井 | うちの場合は、ボランティアの人たちが今あちこちの仕掛け人に入っているのがおもしろいと思っています。ホールでボランティアの制度を取り入れる時に、都市部のホールの監事をしたある運営委員の方が断固として反対されたんです。「向井さん、あんた舞台をなめていると違うか。素人さんに舞台を任せてできるはずがない。ケガされたらどうするんですか」とずいぶん脅されました。

私もヨタヨタとしましたけれども、ここでめげたらいけないと思いながら、その人を説き伏せるのに一生懸命になりました。それがあったから今日やっているんです。いまその館は、県のボランティア養成講座の委嘱を受けてやっていますから、おもしろいと思いますが、たしかにその怖さはずいぶんありました。本当にボランティアの人たちの力でちゃんとしたステージが支えられるのかどうかということはありませんが、9年という月日は偉いものです。資格を持つだけが本当のステージ・オペレーターの方ではないけれども、うちの照明のスタッフは十何人も資格を持っています。喜多方もそうですが、当然、2級、1級を持っているスタッフがそろうようになりました。

講習会も日本音響協会の八板会長に来てもらって、去年、一昨年と2回続けて音響技術者ビギナーズトレーニングをやり、周辺のボランティアの人たちに声をかけて集まってもらいました。東は喜多方がやっていますが、そんな講習会もサークルの中で自主的に、こんな計画をしようということで音響は音響、照明は照明でやっています。

この前も国家試験の音響の資格試験がありました。これは少し難しくて、うちのスタッフですらなかなか通らないんですが、それにも挑戦しています。今年は5、6人行って挑戦して来て「結果が楽しみや」と言っています。どうなることやらわかりませんが、そんなふうにして自分たちの技術を高めることも一生懸命やります。その一生懸命さはボランティアだからだと思われたくないという気持ちがあって、むしろ本職さんよりも技術を吸収することに熱心ではないかという思いもあります。

だから、われわれが初めに感じていた恐怖感みたいなものは、いまは全くありません。といって、みんながみんなちゃんとした技術を持っているかというと、あえてそうは言い切れない部分があります。ですからよほど大きなものとか、プロが来る時には、うちで対応できるような現地照明と言われた時はうちが対応しますけれども、そうでない場合はあっさりと「大阪、神戸からプロに来てもらってください。それはうちから国際ステージに話をし、何人かよこしてもらいます」という感じで、自分のところの力をちゃんと理解して見切った上で対応をしています。

だからそういうふうにして伸びてもきていますし、ボランティアでしか対応できないところはそれなりの対応をします。うちはボランティアだからボランティアだけだと意地を張ってやるのではなくて、使う人のいい舞台を支えていこうという気持ちの中で対応していています。あまり怖がらずに、ぜひ皆さんもボランティアのスタッフを抱え込まれたらどうかと思っています。

また資格等に挑戦し始めると目的が出てきて、けっこうみんなそれに向かっての頑張り、勉強も一生懸命していきます。そういうかたちでいっぱい知識を身につけた人が地域にわんさかできてきます。今年も第6期の養成講座をやるんですが、どんどん膨れ上がって、町民全部が養成講座を受けてくれたらおもしろいと思っています。これから先を考えても、20代の子が60歳のボランティアスタッフを見て、あと40年私はこのホールでボランティアができると思うような先に見える活動が、いろいろな年代と一緒に参加して活動するボランティアスタッフのよさではないかと思います。

70に近いおじいさんがスタッフで一生懸命やっていますが、その人の喜びの顔を見ながら20代の若い青年が活動した時に、おれはあと40年ここでこんなに生き生きと活動できるんだという生活実感があれば、この地域にこれからも住んでいこうと思いたくなります。これからのありようとして、その辺が少し見えてきたということです。

吉本 | いま、わりと夢や広がりのある話を中心に来ていますけれども、実際に劇場やホールの運営にボランティアを導入していくとなると、前半の議論で衛さんから提起があったようにマネージメントの部分で、実際にうまく運営できるのかどうかということが次の大きな課題になってくると思います。会場からいただいた質問の中にもいくつかあります。

一つは、ボランティアの保険です。事故があった場合にどう対応しているのか。それから有償の支給について、ボランティアの場合無償が原則ということだと思うけれども、その辺の考え方をどう整理しているのかという質問もあります。それから、普通ボランティアは公募でやっていると思いますけれども、その定員というんですか、何かで選択方法はあるのかという質問もきています。

この辺がいちばん難しいのではないかと思いますけれども、最初に施設があって始まった場合、館側の限られたスタッフがいて、そこにボランティアをやりたいというニーズが来たら、それをどう受け止めていくのかということも質問で寄せられています。次に、その辺のボランティア・マネージメントの話をしたと思います。

衛さんは他の事例もわりとご覧になって、さっきも名物の人がいるという話が出ていましたけれども、アメリカの事例ではボランティア・マネージメントが専門的な職能として確立されていて、ボランティア・マネージャーあるいはボランティア・コーディネーターという有給のスタッフがいる例もあります。日本は、まだそこまで行っていないと思います。ボランティア・マネージメントは結局最後は人だということで、それがキーポイントになってくると思いますけれども、取っ掛かりでその辺の話をお願いできますか。

衛 | 私も、実際のマネージメントの手法がどういうものであるのかは手探りの状態です。キーマンがいると同時に、それを普遍化していても最終的には人間性の問題があるだろう、だれにでもできる問題ではないだろうという気がしています。つまり役務というか、役割として行政に任されたのでやるというのでは、ボランティアの方たち一人ひとりに付き合っていくのはたいへん難しいことです。

だから私は、簡単に言うとまさしく関係づくりのマネージメントだろうと思っています。その中で、先ほど申し上げた何かしたいというモチベーションを高度化していくというか、進化させていく。そして協働者として、非常に自発性のある自分の仕事を自分で作っていくボランティアにしていこうと思います。

その時に、何も行政の方がボランティア・マネージャーをやらなくてもいいので

はないかという気がします。むしろ民間の中の若干専門的な知識を持った、もっと平べったく言えば世話焼きですね。つまり、相手の話をまめに聞くことができる人です。その中で、話していることに形を与え、ちょっとしたヒントを出すことができる。これを仕事として行政の方がやるのはちょっと難しいのではないかという気がします。

むしろ今の段階では、民間の中にいらっしゃるそういう方たちをリクルートするなり、協働者(パートナー)としてお願いしていくことが大事ではないかと思います。そういう方が3年でいなくなるのは困ります。ボランティア・マネージャーを中心にいい人間関係が作られていくのですから、ずっといることが大事です。とりあえずその方がいなくなるないようにして、次の人が育つまでやらなければいけないのですから、やはり民間の方がやっていかなければいけないと思っています。

吉本 | 今、民間の方がボランティア・マネージャーをということでしたけれども、山本さんのところには推進会議があって、山本さんが事務局長をされています。他のメンバーの方にお伺いしたら、山本さんが最後にうまく取りまとめをしてくださるとおっしゃっていました。何せ武生の場合は超民主主義らしくて、チランのデザインを決めることまで、とにかく全員が「うん」と言うまで喧々囂々やって決まらないそうです(笑)。

問題点は何かとお聞きしたら、とにかく決まらないことだとおっしゃっていましたけれども、最後は山本さんが事務局長として皆さんの意見を聞きながらうまくやっていたらいいのではないかと推測しています。山本さんご自身は、もうやめたいということも言いながらやめられないで、さっきの世話焼きをやっていたらいいと思います。ご自身でボランティアのまとめ役をされて感じられていることはありますか。

山本 | いまのご質問はよくわかります。たとえば有償、無償をどうするのかという話はよくわかりますけれども、私たちはこの町のために音楽祭がいいんじゃないかと思っただけでした。文化センターにはその場所を提供していただいたわけです。そういうメンバーが集まってきているから、当然みんなが会費制で出しますよということになります。最初はお金がなかったから、1万5,000円する10日間の通し券をみんなに買ってもらったんです。会員が60人ぐらいいると、それでけっこうなお金になります。とにかくそういう発想ですから、有償か無償かというのは全然ないわけです。

ところが、たとえば文化センターがこんな事業をしたいから集まってくださいという、それを納得させてうんぬんとなると、少し日当を出さなければいけないんじゃないかと非常に難しいところがあります。私たちの場合はそういうところから始まらなかったのが非常に楽だったんです。

たとえば外国から演奏家があると、その演奏家とのコンタクトもエージェントを使うのではなくて私たちが直接するわけです。それはどういうことかという、向こうは東京の空港までは来てくれますけれども、こちらがそこまで迎えに行かなければなりません。そういう間に、もし事故が起きたらどうするのか。たとえば関西空港なら車で迎えに行きますが、その間に事故が起きたらどうするのか。そうするとたいへんなことになりますから、ボランティア保険をかけなければいけない。

私たちはみんな仕事を持っているので四六時中やっているわけではありせんから、だれか事務局が要ります。やはり専属のスタッフが要るのではないかと、そういう費用が要るのではないかと、逆にあとからいろいろな問題が出てきた時に一つひとつ消化してきたという状況です。有償か無償かということに対しては

無償です。たとえばいままでは交通費も無償でしたが、東京まで行く人に「仕方ないで、おまえ自腹で行けよ」といっても、往復3万円なのでこれはたいへんだ、やはり会を出してあげなければいけないのではないかと、実費負担はするという形で変化してきました。

文化センターの主催事業でも、お金のことで言えば実費負担、危険手当、保険などはきちんとすべきではないかと思えますけれども、その問題については、それ以上のことはお考えになる必要はないと思っています。

吉本 | いまは有償、無償のお話でしたけれども、武生は何人いらっしゃるんですか。

山本 | 68人です。

吉本 | みんなから「こういうことをやりたい」といろいろ出ますね。芸術監督も、本当にこのままでいいのかという議論が出るそうですが、その辺をうまくコーディネートされる苦労話のようなことはありませんか。

山本 | とにかく一つの問題が出ると朝方まで、皆さん納得するまで帰らないので、じっと黙って聞いているしかないんです。私たちは、1年間通して活動があります。今年の場合は5月30日から6月10日ぐらいまでやるんですけども、そのためには6月が終わるともう次の予定に行きます。音楽祭ですから、先生方が言われたように質的なものを求めようとすると、2年でも3年でも先に話をしていかないと、キラリと光るものはできません。来年のため、再来年のためとやっているの、とにかく準備期間が1年間あります。

だからそういう意味では、1年間のうちの半年ぐらいは話し合いです。とにかく、とことん納得するまで話し合います。その時間が非常にあるからいいんですけども、だいたい年が明けると少しあせり出して、ポスターも作らなければいけない、チケットも作らなければいけないとなってきます。1年間のうち半分ぐらいはほとんど話しているばかりですから、それでかなりコンセンサスが取れてきます。

もう一つは、仕事分担をそれぞれのパートに分けますから、その分担の10人のグループでしっかり話をしてくださいと言って、その結果を60人ぐらい集まった全体会に持ってくるわけです。普通はそこで決まるんですけども、そこでまた皆さんから批判が出て、また持って帰る。半年ぐらいそういう繰り返しをして、だいたい納得して出てくるという人たちですから、やはりまず話し合うということでしょう。

吉本 | 朝までじっと話を聞くというのがボランティア・コーディネーターの奥義のようですね。

伊藤 | 日本とは若干違うところがあるので、アメリカの話を紹介します。アメリカのボランティア・コーディネーターやマネジメントのやり方を見ていると、ある面で日本の企業のマネジメントにけっこう似ています。つまり日本の企業は、若い社員が入ってきたらやる気を持たせて、やりがいを与えていくというやり方がよく使われますけれども、そういう部分がけっこう強いわけです。

さっきボランティアのタイプを言いましたけれども、もう少し細かく見て違った言い方をすると、かなり具体的な仕事を与えられてやっていくボランティアと、かなり自由に任されているボランティアとに分かれているのではないかと思います。具体的な仕事というのはここで言うウラ方等々ですけども、ホールなりの運営をするにあたって人手や機能が足りないということがあって、いい悪いは別として、ボランティアを活用せざるを得ないという状況の中から生まれたものがあると思います。

そういうボランティアの人たちに対してはやはりきちんとした研修、トレーニング

を行い、また責任を負っていただくためのミッションを持ってもらうために、マネージャー、コーディネーターは綿密なかたちでその人と付き合っていきます。ボランティアの人をお願いしないとやっていけないということがありますので、担当する人間はボランティア・コーディネーターというよりは、その事業の責任者等々が真剣になって話し合い、彼らと一緒に進めていきます。

アメリカではあまりやらないんですけれども、その時には当然有償という問題も出てまいります。私はボランティアは無償でなければいけないとは思っていませんが、有償には基本的な問題があります。それは使う側の方にある一種のリスク回避です。これはよく、福祉の関係で言われます。たとえば福祉の場合、一人暮らしのおじいさんに対しボランティアを派遣する時に、その人が急に「今日、子どもが風邪をひいたから行けなくなった」と言ったりすると困りますから、やはりプロ意識を持ってもらうためには多少でも契約関係にして縛りたいという使用者側の意図が出てきます。ボランティアの人にお金を払うことによって、お金をもらっているからやらなければいけないという義務感を負ってもらうやり方を取ります。

でもこれは、客観的に見ると非常に安いお金で使っているという意味で、極めて危険な要素を持ちます。また、そういう状態が続くとボランティアの人も、自分はボランティアではなくてひよっとしたら安く使われているのではないかという反発に陥るケースもあります。

だからといって、本当にプロがやった場合には非常に費用がかかるものをボランティアにやってもらっている以上、何らかの意味では有償性が必要になってくるということがあります。したがってこの問題を解決するには、先ほど言ったウラ方NPOみたいなものがきちんと契約をして、お金をとって、しかし営利を目的としないで活動していく。そのような団体に分化していかざるを得ないのではないかという気がします。そういう管理の問題が出てまいります。

もう一つの自由なボランティアは特に日本において重要だと思いますが、アメリカにおいても、ボランティアの主流はどちらかというとボランティアの人たちに参加してもらい、企画してもらい、文化施設でできない新しいことを考えてもらうことです。それから新しい客を引っ張ってきてもらったり、ファンド・レイジングですけれども、これに関してはボランティア・コーディネーターのほうはあまり訓練をするのではなくて、自分たちの館の目的、ミッションだけを共有してもらう努力をすればいいと思います。あとは彼ら自身が自発的に議論をして、アイデアを思いついて上げてくれば、それを積極的に採用して実現していくように努力をする。そういうかたちでやりがいといいますか、ボランティアの人たちが自分で提案したことが採用されて実現されていく喜びを発揮させる場としてコーディネートしていくのが仕事になります。

したがってタイプがはっきりしておりますから、どういう仕事をするかによってボランティア・コーディネーターの対応の仕方が変わってくるということが重要ではないかと思えます。この辺があいまいなかたちになって、ボランティアの言うことはすべて正しいのでその実現に向けてやらなければいけないと思込むのも、ある面では危険なところがあります。しかし他方で、ボランティアの考えたことを実現させること自体が広い意味でその館の活動、つまり地域との密着とかさまざまな交流を図っていくことにおいてプラスになるケースもあります。

ボランティアに何を期待するかを最初に明確にして、いくつかのタイプのボランティアを置くならば、違うコーディネーションを行っていく努力が必要ではないか

と思います。アメリカの場合は、ボランティアのマネジメントの教科書やマニュアル等を見るとそれが事細かく書いてあります。

衛 | いまおっしゃったように断る勇気ですね。山本さんがおっしゃった朝まで延々と話すということは、結果的には、その中で一人ひとりのニーズをお互いが知り合って、共有していく段階だと思います。ボランティア・マネジメントが一人の人間が多くの人間と1対1でとにかく話し合っていて、その人のニーズを探り当てる、あるいはその人に何がしたいのか、どうしたいのか、どう変わりたいのかを気づいていただくことです。

その人にとってこの事業に参加するためのゴールは何なのか、このことをやると自分がどう変わるのかを自覚していただく。その中で「今回の事業に関しては参加する場所がありません。次回そういうことがあったら、私のほうから声をかけます」ということですね。つまりゴールを見てもらい、その人の自己実現がどこで果たせるのか、一人ひとりときちんと対応することです。だからボランティア・マネージャーがやる仕事は、山本さんのように朝まで話すという感じではないですけども、それに近い労力をそうとう使うのではないかと思います。

それから、館の側がボランティアをやりたいというモチベーションを持った方たちをどう見るかです。変な言葉ですけども、私は資源として見るべきだと思います。これは地域の資源だから大事にしなければいけません。つまり、摩耗するようなボランティアのさせ方をしてはいけないと思います。やはり気をつかって、心を配る。有償性、実費支給ということも、心を遣う、気を配るという中に入らないかと思っています。

神戸の場合もそうですけれども、ボランティアは基本的に1年ぐらいたつと摩耗し切ってしまいます。それでも足が抜けなくなっている。もう苦海に身を沈めるみたいな感じのボランティアがいるんです。それはおかしいんです。ボランティアには遊びがなければおかしいし、元気になるためにやるわけです。だとすると、いろいろな意味で磨耗しないために私は実費が支給されるのが基本だと思います。有償性の内容としてはその辺ではないかという気がします。

吉本 | ボランティア・マネジメントの話を突き詰めていくと、どんどんいろいろな問題になります。これからという感じもするので残念ですけども、時間が定刻の4時を回ってしまいました。ボランティア・マネジメントでもう一つだけふれたいと思うことがあります。喜多方の場合は菅沼さんがまとめ役をされていますが、館のほうに薄(うすき)さんという方がいらっしゃって、技術でもすごい水準を持っていてボランティアの方みんなに尊敬されているということ、ボランティアの皆さんのお話から感じました。

ですから喜多方の場合、館側のコーディネートをする方と「うらかた」のメンバーの関係がどういう感じでやられているのかをお伺いしたいんです。

菅沼 | 先ほど、プラザに来ると出世するという話もありましたけれども、実際にわれわれとコミュニケーションを図っている職員は現在は専門職です。舞台、音響、照明と3人いまして、その他に何でもできるというか、だれの補充でもしなければならぬ職員がいます。その中で音響を担当しているのが薄さんです。

薄さんは技術的にはわれわれの先生というか、基本的なことは全部薄さんに習ったようなものです。その他に皆川さんという照明の職員と、鈴木さんという舞台の職員がいます。技術は技術で別ですけども、この二人は技術以外の付き合いも非常に多いので、どちらが「うらかた」だかわからないという感じで付き合っています。

そういう意味ではうちの館長も、われわれからしても行政の人だという感覚が全然ありません。うちの職員体制を一度見てもらうとわかりますけれども、そういう意味ではわれわれも非常に助かっています。それがいい意味でプラザの成功している部分ではないかと思っております。

吉本 | マネージメントの話は、結局最後は人ということに行き着くと思います。本当に時間が押してきてしまったので、最後に一言ずつ言っていたきたいと思います。今日お見えの方の中にもこれからボランティアを導入したいと考えている方なりホールがあると思いますけれども、私がこの調査をやってすごく感じたのは、ホール側から見るとボランティアには無償でいろいろホールの業務を手伝ってもらえるので「人手もないし、予算もないし、ちょうどいいぞ」と始めると、いちばん失敗する典型的なケースになりそうだと思います。

ボランティアを入れると、ボランティアの人に手伝ってもらうのでその業務は軽減されるかもしれませんが、朝まで話を聞くではないですが、ボランティアを入れることで逆に館側の負担がすごく増えるんです。しかし、そのことで市民とのつながりは増えるし、ネットワークは広がるし、ボランティアがもっと町の中に入っていき可能性が非常にあると思います。すでに導入されているところも含めて、これからそういう観点でやっていったらいいのではないかという気がします。

では最後に伊藤さんから一言ずつお願いできますか。

伊藤 | いま吉本さんがおっしゃったこととほぼ同じですが、ボランティアを導入する時には、何のために導入するかをはっきりさせておかないと、こんなはずではなかったということが起こります。館の運営の中で何か機能として足りないところ、具体的には人材面で足りない面があるならば、その面に関してのボランティアを導入することは十分考えられますが、そのためにはどうしたらいいかということをごきちんと考えなければいけません。あるいはそうではなくて、もっと地域とのさまざまな広いつながりを作っていきたいということが目的であるならば、それに合った考え方があると思います。

また、武生のように市民のほうで実行委員会を作っているような組織がいっぱいあります。たぶん気づかないところで地域文化活動をして、実際にプロデュースを行っている団体もかなりありますから、ボランティアを個人個人バラバラで集めるのではなくて、むしろそういう団体と手を取り合っていく。日本語で言えばボランティア団体かもしれませんが、個々のボランティアというよりもボランティアの集合体という意味での、将来 NPO の予備軍の人たちと手を取り合ってやったほうが、より合理的なケースもあるかもしれない。このように目的をはっきりさせることによって、どういふボランティアをどのように取り込んでいくのかということをごきちんと考えていただきたいと思っております。

衛 | もちろんマネージメントも大事ですけど、私は地域内ネットワークを非常に強調したいと思います。音更という北海道の町に、朝まで一斗酒を飲む町づくりの会があります。かなり野蛮な会で、3 人でも一斗飲むという変なところですけども、そこと文化事業協会という文化に携わっているところが、同じ町に住んでいながら出会っていないんです。なぜ出会わないのか。

文化事業協会の方は、一斗酒を飲む会など本当に野蛮な人たちだと思っているでしょうし、彼ら町づくりの人たちは文化なんか軟弱なという考えがあるんです。そこをつなぐことでさうとう大きな力になってきます。なぜつなげないのかよくわからない。それがすごく気になります。

そういうことは、おそらく皆さんの町でもたくさんあるのではないかと思います。



文化は鑑賞したり作るだけではなくて、もっと多様に果実が実るものだと考えていけば、どんなネットワークでも豊かになれるので、まずそこから手をつけていただきたいという気がします。

菅沼 | 高齢者に対する取り組み方もしていったらいいのではないかと思います。うちでもメンバーがなかなか入らないという問題があるので、その辺を少し考えていくといいと思うし、私もそうしていきたいと思っています。

向井 | 1日でも早く、行政は金だけ出して口を出さないようになりたいと思っています。

山本 | 二つあります。まず、市民の意識を改革しなければいけません。自分でできる負担を行政に頼まないようにしなければいけないことがボランティアの鉄則だと思います。もう一つは、行政の方が文化センターの事業をやる時に、市民のニーズが何もないのに高いお金を出して何かもってきて、その結果お客さんも来ないしチケットも売れないというのはおかしい話です。やはり市民の声を聞く耳もっていただきたい。そういうことであれば、官民一体となって町づくりの中でいろいろなことができていくのではないかと思います。

最後に、武生という字をぜひ覚えてください。どうもありがとうございます。

吉本 | どうもありがとうございました。このボランティアの問題は、まだまだ今日が取っ掛かりぐらいだと思います。地域創造で調査した報告書も3月下旬か4月の頭ぐらいには出るということです。質問をいただいてお答えできなかった部分もありますが、それも今後の課題ということで、またこういうシンポジウムになるかもしれませんし、地域のホールで朝までボランティアのあり方を話し合ってもらってもいいと思います。そういう形で、皆さんの地域でボランティアが盛んに育っていけばと思います。

最後に、今日お忙しい中をお越しいただいた5人のパネリストの方に拍手をよろしく願います。どうもありがとうございました(拍手)。

津村 | どうもありがとうございました。これでシンポジウムを終わらせていただきます。皆さん、地域でいろいろな状況があると思いますが、ぜひ頑張ってやっていってください。これにて終わらせていただきます。どうもありがとうございました(拍手)。



---

公共ホール・劇場とボランティアに関する調査  
資料編

調査・発行:財団法人地域創造

〒107 東京都港区赤坂 6-1-20

国際新赤坂ビル西館 13 階

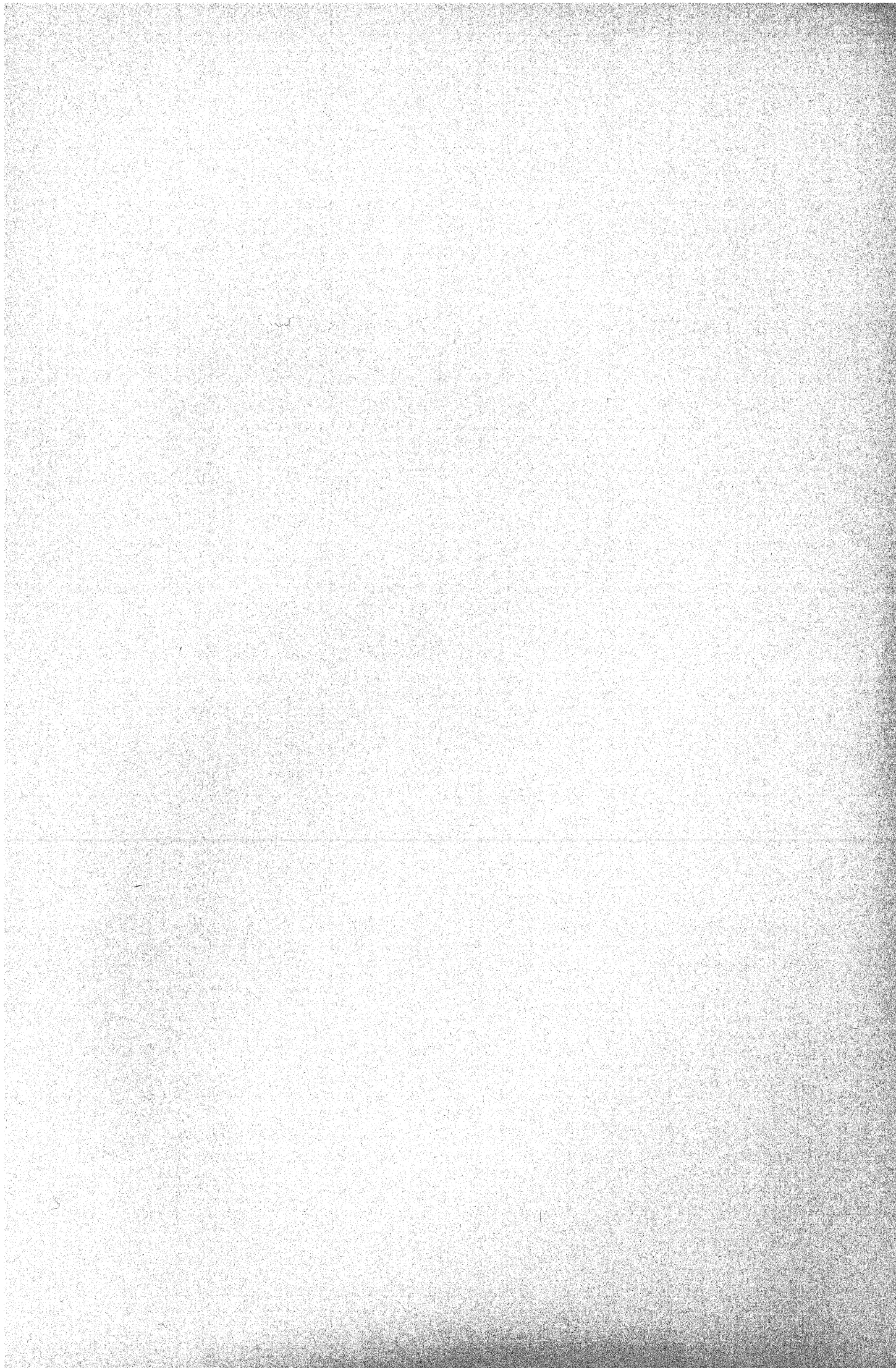
電話 03-5573-4050

FAX 03-5573-4060

調査委託:株式会社ニッセイ基礎研究所

発行日:1997年3月

---





この調査研究はジャンボ宝くじの売上金から助成を受けて実施したものです。